

事項六 国民政府との交渉

事項6 国民政府との交渉

1 昭和6年9月19日 在上海重光公使
幣原外務大臣宛(電報)

柳条溝事件善後処理方策に関する宋行政院副
院長の提案について

上海 9月19日後発
本省 9月19日後着

十九七四号(極秘、大至急)

十九日前宋子文ヨリ特ニ会見ヲ求メラレ滿州ニ於ケル両國軍隊ノ衝突事件ニ付可ナリ長ク会談セリ本事件ハ出来得ル丈ヶ拡大セスシテ大局ヲ救ヒタシトノ熱心ナル宋子文ノ意見アリテ宋ハ結局双方ヨリ本事件ニ対シ三名位ノ有力ナル委員ヲ選定シ調査及処理ニ当ラシムルコトトシ本問題ヨリ延ヒテ起ルヘキ重大ナル日民両国及両国民間ノ禍害ヲ少クスルコトニ努力スルコトトシテハ如何トノコトナリ右ハ無論宋個人トシテノ思付トシテ申出タルモノナルカ本使ハ熟考ノ結果右ハ適當ノ処置トモ思ハルニ付大至急政府ノ内意ヲ聴キ何分ノ返事ヲ為スヘシ民国側ニ於テハ右案ノ

コト致シタシ

一、外部ニ対シテハ今回ノ事件ハ中國側軍隊カ滿鉄線路ヲ破壊シ我駐屯軍ヲ襲撃セルカ為ニ突發セル地方的事件トシテ之ニ依リ両国国交全体ニ悪影響ヲ及ホササル様努力スルコト

二、中國側地方官憲ニ対シ在留民ノ保護ニ付有効ナル措置ヲ執ラシムル為之ト密接ナル連絡ヲ取リ其他在留民保護ノ為万遺憾ナキヲ期スルコト

三、在留民ニ対シテハ其行動ヲ慎ミ徒ニ民国人ヲ挑発スルカ如キ行動ニ出テサル様充分注意ヲ与フルコト

奉天ヨリ吉林、哈爾賓及在滿各領事ヘ、間島ヨリ管下分館ヘ、北平ヨリ張家口及赤峰ヘ、青島ヨリ坊子ヘ、濟南ヨリ張店、博山ヘ、漢口ヨリ長沙、宜昌、沙市、重慶、九江、成都、鄭州ヘ夫々転電アリタシ

3 昭和6年9月(19)日 在上海重光公使
幣原外務大臣宛(電報)

柳条溝事件に関する宋子文への説明ぶりにつ
いて

上海

実現性アリヤト尋ネタルニ宋ハ本使ノ返事次第ニ依リテハ直ニ南京ニ飛行機ニテ赴キ政府筋ノ諒解ヲ求ムヘク自分モ

(宋)委員ノ一人タルコトヲ辞セスト答ヘタリ

宋トノ会見ノ模様ハ別ニ電報スヘキモ結論ハ以上ノ通ナルニ付右ニ對スル政府ノ御内意並ニ本件ノ処置ニ付本使ノ心得フヘキコト等大至急御回電アリタシ

奉天、南京、北平ヘ転電セリ

2 昭和6年9月19日 在上海重光公使
幣原外務大臣宛(電報)

柳条溝事件に対する善後方針について
上海 9月19日後発
本省 9月19日後着

第九七六号

本使発在支各領事宛電報
合第一一八三号(大至急)

今回ノ奉天事件ニ關シテハ差當リ左ノ方針ニ依リ善處スル

本省 9月19日後着

第九七七号(至急)

往電(文書)
第九七四号ニ關シ

十九日宋子文ニ会見ノ際宋ハ先ツ本事件ノ真相ニ付尋ネタルヲ以テ左ノ如ク答ヘ置ケリ不敢

「未タ公電ニ接シ居ラス從テ的確ノコトハ承知セサルモノ新聞情報ヲ綜合シ且自分ノ想像ヲモ加ヘ判断スルニ次ノ如シ最近日民両国人ノ間ノ感情益々尖鋭化シ來リタルハ事實ニシテ民國側ニテハ或ハ党部又ハ政府部内ノ人サヘモ其言論演説等ニ於テ又新聞其他並ニ學校ノ教科書ニ於テスラ恰モ日本ヲ敵國ノ如ク取扱ヒテ議論スルモノ多ク右カ漸次日本ニ反映シ日本人ノ神經ヲ刺戟シ居タル處種々ノ具体的事実ニ伴ヒテ益々其感情昂マリ特ニ滿州ニ於テハ中村事件ノ發生等モアリテ双方ノ感情殆ント最高潮ニ達セリ而シテ最近ノ右ノ結果ハ甚々頻繁ニ民國側ニ於テ滿鉄ノ交通妨害ノ行為トナリテ現ハレ交通妨害ノ事故甚々多ク日本ノ鐵道守備隊ハ之ヲ防遏スルニ忙殺セラレタリ然ルニ十八日ノ夜ハ民國兵士カ相當ノ數ヲ以テ鐵道ノ破壊トモ疑ハル妨害行為ヲナシタル為茲ニ守備隊トノ間ニ衝突起り大事ニ到リシモ

ル問題ヨリ双方ノ利害ヲ調節スルニ努メ来レリ最近特ニ日本国民ノ感情ヲ刺戟シタル一例ヲ言へハ王外交部長カ本年ノ初ヨリ治外法権問題ニ関連シテ閑東州ヲ租界ト同様ニ還付スルトカ滿州ノ鉄道守備隊ノ撤退ノ要求ヲ公然ト新聞ニ発表シタル事アリ之カ如何ニ日本国民ノ感情ヲ刺戟シタルカハ貴下等ニハ想像以上ノ事ナリサレド之ニ対シテハ日本政府ノ方針ニ従ヒ自分トシテモ日民両国ノ全体ノ関係ニ故障ナカラシムル様全力ヲ尽シ來レリ今回ノ事件モ成ルヘク地方的ノ事トシテ處理シタシト考フル次第ナリ

二、⁽³⁾宋子文ハ今回ノ問題ニ依リテ日支国交ノ收拾スヘカラサルニ至ルコトハ是非之ヲ防止シタン之カ為ニハ直ニ両國カ其處理ニ着手シタルコトヲ速ニ世間ニ知ラセ空氣ノ緩和ヲ計ルコト必要ナルヘク朝鮮事件等ハ国民政府ノ努力ニ依リ漸ク輿論ノ激發ヲ抑へ来レル次第ニテ今回ノ事件ハ速ニ處理方法ヲ講セサレハ其結果ハ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ知レス自分ノ當座ノ思付トシテハ國際間ノ紛争問題ノ普通ノ處理方法トシテ両国間ヨリ適當ナル有力者ヲ選定シテ委員会ヲ組織シ調查及解決ニ当ラシメ

ル次第ナリ

三、宋子文ハ今日差迫リタル滿州ノ事態ニハ適合セサルヤモ知レサルモ我方ノ事件ニ對スル全體ノ立場ヲ強ムルコトトナルヘク且將來之ヲ有利ニ利用スルコトモ出来ルコトト思ハルルノミナラス中國側空氣ノ激變ニ對スル備ヘトモナル訳ナレハ先ツ主義トシテ贊成ヲ表セラレテ然ルヘシト存セラル何分ノ御趣意折返シ御回示ヲ請フ右委員ノ構成ノ如キハ更ニ考量ヲ尽サルモ可ナリト存ス

奉天、南京、北平ヘ転電セリ

第九八六号（至急 極秘）
往電第九七四号ニ關シ

宋子文ノ提案ハ今日差迫リタル滿州ノ事態ニハ適合セサルヤモ知レサルモ我方ノ事件ニ對スル全體ノ立場ヲ強ムルコトトナルヘク且將來之ヲ有利ニ利用スルコトモ出来ルコトト思ハルルノミナラス中國側空氣ノ激變ニ對スル備ヘトモナル訳ナレハ先ツ主義トシテ贊成ヲ表セラレテ然ルヘシト存セラル何分ノ御趣意折返シ御回示ヲ請フ右委員ノ構成ノ如キハ更ニ考量ヲ尽サルモ可ナリト存ス

奉天、南京、北平ヘ転電セリ

9 昭和6年9月19日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

居留民保護につき国民政府ならびに張上海市
長へ申入れについて

上海 9月19日 発
本省 9月20日前着

第九八七号

往電第九八五号申入ノ際貴電第三六五号及合第五五六号ヲ英文ニ訳シタルモノヲ示シ政府ノ意向ハ本件ヲ成ル可ク拡大シ居ル理ニテ自分等ノ諒解ニ苦シム處ナリト述ヘタルニ付本官ハ日本政府ノ意思ハ出來タル事ハ別トシ此上事件

處理ニ着手セルコトヲ一般ニ知ラシメテ第一次的ニ空氣ノ緩和ヲ計リ國交ヲ收拾スルコトトシタキモ貴見如何右委員会ニハ自分モ加入シテ努力スルモ差支ナク貴公使モ参加セラレタシト述ヘタリ

三、本使ハ談話ノ間ニモ之ヲ熟考シ右宋子文ノ提案ハ事件ノ處理上ニモ亦引続キ滿州ノ種々ノ問題ヲ處理シ且支那側ニ諒解セシメツツ之ヲ解決ニ導ク上ニモ遣方ニ依リテハ好都合ナリト考ヘタルニ依リ右委員会組織ハ日本側ニ於テ異存ナクハ支那側ニ於テハ可能ナリヤ又適當ナル人物ヲ選定加入セシムルコト可能ナリヤト反問シタルニ宋ハ自分トシテハ充分ニ可能ナリト思考スル旨答ヘタルニ付本使ハ然ラハ自分ハ至急日本政府ノ内意ヲ問合セ何分ノ返事ヲ為スヘシト答ヘ置キタリ

奉天、南京、北平ヘ転電セリ

8 昭和6年9月19日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）
宋提案に関する回訓督促について

上海 9月19日後発
本省 9月20日前着

大セサル方針ニテ既ニ当面ノ局ニ当リ居ル陸軍大臣モ同様ノ意見ニテ其ノ趣旨ヲ以テ閑東軍司令官ニ訓令ヲ發シタル次第ナル旨ヲ説明シ居留民ノ保護ニ付相互ニ充分ノ措置ヲ執ラレ度キ旨申入レタル處宋子文ハ充分諒解シ居留民ノ保護ニ付テハ自分ヨリモ日本政府ト同様ノ措置ヲ執ルヘキ旨南京ニ電報スヘシト述ヘタリ

右會見ノ際偶々張群市長同席セル故同市長ニ對シテハ本件ハ村井總領事ヲシテ申入置カシメタルカ本官ヨリモ申入ル次第ナリト述ヘタル處張群ハ上海居留民ノ保護ニ付テハ自分ハ充分ニ責任ヲ以テ手配スヘケレハ日本側陸戰隊其他ノ行動ヲ慎ム様取計ハレ度シト答ヘタルニ付本官ハ無論右ハ既ニ取計済ミナレハ御心配無キ様ニト答ヘタリ

尚張群ハ非常ニ興奮シタル口吻ニテ自分カ天津ヨリ得タル電報ニ依レハ日本軍ハ既ニ奉天全市ヲ占領シ且當口ヲモ占領シタル趣ナリ即チ事件拡大セスト云ハルルモ事件大イニ拡大シ居ル理ニテ自分等ノ諒解ニ苦シム處ナリト述ヘタルニ付本官ハ日本政府ノ意思ハ出來タル事ハ別トシ此上事件ニ対シ善處シ度キ意向ナリト述ヘ置キタリ

事項6 国民政府との交渉

前提シ大臣來訓ノ次第ヲ説明シタルニ徐謨ハ日本政府カ日

本ニ於ケル中国在留民保護ニ関シ速ニ執ラレタル配慮ヲ感
謝ス国民政府トシテモ報復行動ノ如キ事件ニ依リ此ノ上事

態ヲ糾セシムルコトハ最希望セサル所ナルニ依リ南京及

付近ニ於テハ既ニ不祥事件突發ノ予防並ニ日本在留民ノ保

護ニ関スル必要ナル手配ヲシタリ早速各地方官憲ニモ訓

令スル様致スヘキ旨答ヘタリ右不取敢

奉天ヨリ在満各領事ニ転電アリタシ

北平ヨリ張家口ヘ転報アリタシ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

大臣、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、

閩東長官、朝鮮總督ヘ転電セリ

14 昭和6年9月19日 在南京上村領事より

幣原外務大臣宛（電報）

徐亞洲司長日本軍の即時撤退を要求について

第五五三号（至急）

南京 9月19日後発

本省 9月20日前着

本官發在支公使宛電報第五一九号

第五五三号（至急）

南京 9月19日後発

本省 9月20日前着

本官發在支公使宛電報第五一九号

加ヘタルニアルコト等然ルヘク弁駁シ尚先方希望ノ点ハ政
府ニ伝達シ置クヘキ旨答ヘ置キタリ

大臣、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ転電セリ

15 昭和6年9月19日 在南京上村領事より

幣原外務大臣宛（電報）

南京における政府・党部緊急會議の開催につ

いて

国民政府に各地在留邦人の保護申入れについて

第三六五号 大至急

奉天ニ於ケル日支兵衝突ニ関スル件

奉天發本大臣宛電報第六一六号（文書）

本件ニ付テハ極力事態ノ拡大防止方ニ付直チニ關係出先ニ

対シ必要ノ手配ヲ執ラシムルコトトスヘキモ此際両国国内

ニ於テ相手方ニ在留民ニ対スル報復行動起ル様ノコトアリテ

ハ事態ハ全國的トナリ遂ニ收拾スヘカラサルニ至ル虞アル

ニ鑑ミ當方ニテハ不取敢内地在留中国人ノ身辺保護方ニ付

遺漏ナキ様夫々關係官庁ニ対シ手配済ナルニ付テハ貴官ハ

國民政府當局ニ對シ同様ノ趣旨ニテ中國各地在留邦人ニ危

害ヲ及ホスカ如キ行動ノ嚴重取締方速カニ各地方官憲ニ發

訓セシムル様申入レラルルト同時ニ我カ出先公館全部ニ対

シ（當方ヨリ直接訓令済ミノ分ヲ省ク）夫々當該中國地方

官憲ト接洽シ在留民保護ノ手配方至急訓令セラレタシ

訓令トシテ在満各領事、北平、天津、青島、濟南、芝罘、

張家口ニ転電セリ

往電（三文書）
（二三文書）
（一文書）

徐謨ト会見ノ際徐ハ言葉ヲ改メ国民政府ノ要人ハ何レモ日

本軍ノ奉天占領ノ報ヲ聞キ痛ク驚愕セリ国民政府ニ達シタ

ル情報ニ依レハ今回ノ事件ニ於テハ中國側ハ当初ヨリ一切

手出シヲシタルコトナキニ拘ラス日本軍ハ恣ニ攻撃ヲ加へ

奉天ヲ占領セリ斯ノ如キハ世界稀有ノ事件ニシテ中日ノ國

交ニ及ホス害惡之ヨリ甚タシキハナカルヘシ自分等ハ重光

公使カ幣原外務大臣宛（電報）

本ノ陸軍カ好戦的ニシテ常ニ事端ヲ釀サント機会ヲ狙ヒツ

ツアルコトヲ知ルカ故ニ今回ノ事件モ陸軍ノミノ勝手ナル

行動ナルコトヲ知ル然レトモ日本政府トシテノ責任ハ免カ

レ得サルヘク王部長トシテモ日本軍隊カ奉天占領ヲ継続シ

居ル限り国民ノ憤激ニ対シ慰撫スルノ方法ナキニ付先ツ速

ニ日本軍隊ノ撤退ヲ求メ然ル後善後措置ヲ講シタキ意向ナ

リトテ即時撤兵ノ要ヲ強調セリ

依テ本官ハ自分ノ有スル情報ニ依レハ本件ノ發端カ中國軍

隊ノ鐵道破壊ノ為進出シ来レルニ依リ日本側ニ於テ反撃ヲ

リトテ即時撤兵ノ要ヲ強調セリ

朝鮮総督、関東長官ニ転電セリ

17 昭和6年9月19日

幣原外務大臣より
在上海重光公使宛（電報）

揚子江および華南方面の日本人保護手配方に

ついて

本省 9月19日後6時43分発

第三六八号

奉天ニ於ケル日支衝突事件
（六文書）

往電第三六五号ニ閑シ

本事件ノ影響長江及南支方面ニ波及スヘキ場合ヲ慮リ同地
方ノ居留民保護ノ為情勢ニ応シ海軍力ニ依ル警備ニ一層力

ヲ注クコトニ海軍省ト打合セ置キタルニ付貴官ハ冒頭往電
ノ趣旨ニ依リ中國側ヲシテ極力取締ヲ為サシムル様措置セ

ラルルト共ニ遣外艦隊側トモ充分連絡セラレ保護手配方遺

漏ナキヨ期セラレタク滿州方面居留民保護ノ手配ニ閑シテ

ハ奉天發本大臣宛電報第六四二号ノ次第モアリ別ニ考究ノ

上追電スヘシ

長江及南支各領事ニ転電アリタシ

青島、奉天、北平、天津ニ転電セリ

第九九〇号

20 昭和6年9月20日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

居留民保護に関する国民政府側への申入れに

ついて

上海 9月20日後発
本省 9月20日後着

第九九二号

本官発在支各領事及香港宛電報

合第一二〇四号
（六文書）

往電合第一一八三号ニ閑シ

大臣ヨリ中央ニ対シテモ在留邦人保護方申入ルヘキ旨訓令

アリタルニ付（大臣発本使宛電報第三六五号）本使ハ十九

日宋子文ニ会見シ日本政府ノ意向ハ本件ヲ成ル可ク拡大セ

ニ漸次具体化シ我方ニ対シ益々困難ヲ增加スヘク我方トシ

テハ大局小局ノ注意ヲ払ヒ之カ対策ニ遺漏ナキヨ要スル次

第ナリ

在支各領事北平及香港ヘ転電セリ

奉天ヨリ在満各領事ヘ、漢口ヨリ長沙、宜昌、沙市、重慶、

九江、成都、鄭州ヘ、北平ヨリ張家口、赤峯ヘ転電アリタシ

18 昭和6年9月19日 在上海重光公使より
宇垣朝鮮総督、塚本閩東長官宛（電報）

朝鮮・関東州管下の中国人保護について

本省 9月19日後1時1分発

合第五五四号

奉天ニ於ケル日支衝突事件

十八日奉天付近北大營ニ發生セル日支兵衝突事件ニ閑シテ
ハ不敢別電合第五五五号ノ通り在支各出先官憲ニ対シ訓
令シ置キタルニ付テハ貴管下ニ於テモ中国人ニ対スル保護

ニ付遺漏ナキ様充分御措置アル様致シ度右ハ既ニ御手配済
トハ存スルモ為念

（編注）本別電合第五五五号は九月一九日重光公使宛往電第
三六五号（六文書）全文である。

19 昭和6年9月20日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

国民政府および党部の柳条溝事件にたいする

対応について

上海 9月20日後発
本省 9月20日後着

第九九二号

本官発在支各領事及香港宛電報

合第一二〇四号
（六文書）

往電合第一一八三号ニ閑シ

大臣ヨリ中央ニ対シテモ在留邦人保護方申入ルヘキ旨訓令

アリタルニ付（大臣発本使宛電報第三六五号）本使ハ十九

日宋子文ニ会見シ日本政府ノ意向ハ本件ヲ成ル可ク拡大セ

ニアル方針ニテ既ニ当面ノ局ニ当リ居ル陸軍大臣モ同様ノ趣

旨ヲ閩東軍司令官ニ訓令ヲ発シタルコトヲ説明シ尚我方ニ

於テハ早速内地在留中国人ノ身辺保護方ニ付遺漏ナキ様夫

夫関係官序ニ手配済ミナルニ付テハ国民政府当局ニ於テモ

同様ノ趣旨ニテ在留邦人ノ保護ニ付充分ノ措置ヲ執ラレタ

キ旨申入レタル處宋子文ハ之ヲ了承シ居留民ノ保護ニ付テ

ニ電報スヘシト述ヘタリ

尚上村領事ヨリ外交部ニ対シ同様申入レシメタル結果国民政府ニ於テモ保護ノ措置ヲ執ルヘキコトトナレリ（南京發本使宛電報第五一八号）

大臣、奉天、北平、南京へ転電セリ
大臣ヨリ在満各領事へ転電アリタシ

（関係電報ト共ニ各地分館へ通報アリタシ）

如何ナル程度迄承認セラレ居ル次第ナリヤ又今後更ニ如何ナル行動ヲ執ラシムルコトトナルヤ政府ノ御意向本使内密心得迄御回電ヲ請フ

南京、奉天、北平へ転電セリ

22 昭和6年9月20日 在広東須磨（弥吉郎）（總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

日中両国関係の根本義に関する汪兆銘の談話

21 昭和6年9月20日 在上海重光公使より

幣原外務大臣宛（電報）

満州各地における日本軍の行動に関する政府の意向問合せについて

上海 9月20日後発
本省 9月20日後着

第九九三号（極秘）

満州各地ヨリノ情報ニ依レハ日本軍ノ行動ハ頗ル廣汎ニシテ満鉄沿線ノ要地及營口ニ於テハ税關等ヲモ差抑フル意向ノ如シ右ノ如キハ非常ノ決心及準備ヲ要スル次第ナルカ政府ハ奉天宛貴電第一九九号ニ依リ本事件ヲ成ル可ク縮小セラル御意向ト承知スル處右陸軍ノ行動ハ政府ニ於テ之ヲ

第四二八号
本官発支宛電報第一八九号
貴電合第一一八三号ニ關シ

本事件ハ直接我方居留民ニ累ヲ及ホス懸念アルハ勿論當方面政局ニモ影響スル所甚大ナリト存シ時ヲ移サス十九日深更汪精衛ヲ私邸ニ往訪シ御電訓ノ趣旨ニ基キ抑モ事件ハ奉天軍ノ満鉄鐵道破壊等ニ起因スルモ東三省關係ノ最近事態ノ推移ニモ鑑ミ今次ノ小衝突ハ或ハ意外ノ辺ニ波及スルヤモ計ラレス旁本国政府ニ於テハ極力事件ノ拡大化ヲ防止ス

ルコトニ努力シ居ルニ付テハ當方面ニ於テモ万カ一二モ排日等ノ不祥事件ヲ惹起セシメサル様注意致サレタキ旨申入レタルニ對シ汪ハ當国民政府ノ勢力範囲ニ閱スル限り責任ヲ以テ排日的輕挙妄動ヲ戒メ民衆ヲシテ益々日本ヲ正解セシムル様努力スヘキニ付安心アリタキ旨回答シ更ニ日華両國關係ノ根本義ニ關シ時余ニ亘リ左ノ如ク其抱負ヲ申述ヘタリ

二、抑モ国民党同志カ日華両国提携ノ必要ヲ最モ痛切ニ感得セルハ大正十二年大震災ノ報ニ接シタル時ニシテ心アル同志ハ悉ク恰モ自國ノ滅亡ニ遭遇セルカ如ク声涙ヲ下シテ痛嘆セルヲ目擊シテ非常ナル「ショック」ヲ受ケ両國ハ畢竟万難ヲ排シテモ結ハサル因縁アルニ想到シ爾來日華両国ハ不可分ノモノト確信セリ

蓋シ日本ハ中国ナクシテハ存在シ能ハサルト同時ニ中国

モ亦日本無クンハ存立シ得ス若シ日本ヲ歐州戦争以前ノ独逸ト仮定センカ中国ハ恰モ奧太利ニシテ両国ノ生命ハ同一軌道ニ在リ故ニ将来万一日米戦争等勃発センカ余等ハ全力ヲ尽シテ日本ヲ援助シ仮令共ニ慘敗スルトモ之ヲ甘受スル決心ヲ有ス

一、余等国民党ノ同志ハ孫總理ノ外交政策ハ實ニ東亜ノ大局ヨリ保全スル根本方針ナリト存シ日華両国親善ノ為ニハ目前ノ小利益ヲ犠牲ニ供シ大同ニ就ク決心ヲ有ス
然ルニ国民党以外ノ分子中ニハ往々眼前ノ利益ニノミ拘泥シ大局ノ利害ヲ認識シ得サル所謂「小利口」ナル輩少カラサルカ故ニ余等ハ之等ノ輩ニ対シテハ東亜ノ大局ヨリ見テ日華両国ハ飽迄提携スヘキ所以ヲ説キ聞カセ居レリ現ニ過般四川ノ劉文輝ヨリ代表ヲ派シ当政府ト日本トノ関係ヲ詰問シ余等ヲ目シテ堯國奴ニ非スマト極言セルカ余等ハ二日間ニ亘リ懇篤ニ日華両国ノ根本義ヲ説明シ聞カセタル結果同代表ハ翻然納得シ爾來悉ク余等ノ主張ニ賛同スルニ至レリ

三、然ルニ現今国民党ノ同志以外ニハ前述ノ通目前ノ利益ノ為以上ノ大義ヲ忘却シ甚シキハ日本ニ抵抗スルコトヲ爱国ト考ヘ居ルモノ少カラサルハ遺憾トスル所ナルカ余等ハ之等ノ手合ヲ説得シ死ニ至ル迄両国親善ノ為メニ努力スル積リナリ從テ十月十日ノ四全大会ニハ予定ノ通孫文ノ大亜細亜主義ニ基キ外交方針ヲ決定スル方針ニテ準備ヲ進メ居ル一方今後若シ時局カ急転直下シテ和平解決

等ニ至ル場合アリトスルモ此方針ニ基キテ日華両国ノ関係ヲ改善シ益々両国ノ親善ヲ確保スル決心ナリ云々

23 昭和6年9月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

国民党の柳条溝事件にたいする反応について

南京 9月20日後発
本省 9月20日後着

第五五九号

(五文書)

往電第五五六号二閑シ

十九日夜ノ臨時常務會議ハ戴天仇主席ノ下ニ長時間ニ亘リ
本件ヲ討議セルカ結局(一)二十日更ニ會議ヲ開クコト(二)全国

一致シテ外患ニ当ル様通電スル事(三)黨員及民衆ニ対スル声
明ヲ発スル事(四)海岸ニ沿フ各省ノ軍隊ニ対シ警備上注意方
通電スル事ニ決定セル趣ナリ

尚中央執行委員会ハ各省市党部海外各級党部各特別党部ニ
対シ日本ハ中国ノ内憂天災ニ乘シ突如大軍ヲ以テ奉天、長
春、安東、營口各地ヲ占領セルカ此種野蛮暴虐ノ行動ハ世
界ノ歴史ニ殆ト先例ナシ本党ノ同志ハ(一)共匪ヲ勦滅シテ國
家政府ヲ強固ニシ(二)水災救済ト侮辱防禦ニ努力シ(三)一切ノ

行懸ヲ捨て大同団結シ全國民ノ奮起ヲ促シ救國ニ努ムヘシ
トノ趣旨ヲ通電セリ委細公信
支、北平、奉天へ転電セリ
支ヨリ上海へ転報アリタシ

24 昭和6年9月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

ニューヨーク・タイムズ記者アーベントの柳
条溝事件への反応について

南京 9月20日後発
本省 9月20日後着

第五六〇号

「ニューヨーク・タイムズ」ノ「アーベント」等「リンド
バーク」飛行ニ閲スル通信ノ為來京中ノ外人記者ハ奉天事
件勃発以来再三來訪シ情報ヲ求メタルニ依リ差支ナキ限り
情報ヲ与フルト共ニ今回ノ事件ノ原因トシテハ貴電合第五
五六号及重光公使ノ宋部長ニ対スル説明ト大体同様ノ説明
ヲ与ヘ置キタルカ「アーベント」外一名ハ最近滿州ヲ旅行
シ日華間ノ険悪ナル感情ニ顧ミ何時如何ナル切懸ケヨリ大
事件勃発セストモ限ラストノ印象ヲ得其旨本社ニ電報シ置

キタルカ日本ノ軍隊カ遂ニ隱忍シ切レス攻勢ニ出テタル心
理ハ自分ニモ良ク了解シ得ト述ヘ尚「ア」ハ至急再ヒ滿州

ニ赴ク意向ニテ目下本社ニ電照中ナル旨語レリ尚当地独逸
參事官「プラックロウ」及英國總領事モ來訪情報ヲ求メタ
ルニ依リ右ト同様ノ説明ヲ与ヘタルカ日本軍行動ニハ充分
駄然タラサルモノアル様見受ケラレタリ

支、北平、奉天へ転電セリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

25 昭和6年9月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

南京における対日空氣漸次陰惡化の状況につ
いて

南京 9月20日後発
本省 9月21日前着

本官發支宛電報

第五二八号

(三文書)

往電第五二八号ニ閑シ

本二十日外交部係官來訪我方ノ要求ニ係ル日本在留民ノ保

護方ニ閑スル訓令ハ本日各地方官憲宛發電済ナル旨申述ヘ
タリ

尚当地ニ於テハ今朝ヨリ日本人ノ住宅毎ニ巡警ヲ配置シ當
館ニハ特ニ巡警十余人ヲ増派シ万一ヲ警戒シ居レリ

中國側ノ空氣ハ漸次惡化ノ兆アリ排日伝單ノ撒布反日游行
等弗々現ハレ來レル外中國新聞記者ハ大会ヲ開キ日本記者
团トノ絶交ヲ宣言シ之ニ違反シタル場合ニ壳國奴トシテ其
姓名ヲ直ニ新聞ニ掲載スヘキ旨決議セル趣ナリ

右状勢ニ鑑ミ在留民ニ対シテハ本官ヨリ必要ナル注意ヲ与
ヘ置キタリ

奉天ヨリ在満各領事ニ転電アリタシ

大臣、北平、奉天、天津、青島、芝罘、濟南、漢口、廣東、
福州、朝鮮總督へ転電セリ

26 昭和6年9月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍の即時撤兵を要求する戴天仇の談話に

ついて

南京 9月20日後発
本省 9月21日前着

往電第五二八号ニ閑シ

本二十日外交部係官來訪我方ノ要求ニ係ル日本在留民ノ保

303

第五六三号

電通岩崎ノ談ニ依レハ同人ハ二十日戴天仇ト会見セル處戴
ハ日本ニ対シ即刻日本軍ノ撤退ヲ要求シ置キタルカ若シ日
本カ三日以内ニ撤兵セサルトキハ国民政府ニハ断乎タル覺
悟アリト云ヒタルニ付岩崎ニ於テ追究シタルニ戴ハ断乎タ
ル覺悟トハ滿蒙ニ関スル日本トノ一切ノ条約ヲ廢棄スルニ
アリト氣焰ヲ上ケタル趣ナリ右何等御参考迄

支、北平、奉天、廣東へ転電セリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

27 昭和6年9月20日 在本邦江(洪杰)中国臨時代理公使より
幣原外務大臣宛

日本軍隊の奉天、長春等における軍事行動の

即時停止、原駐地への帰還について

九月二十日付未字第二三二号訳文

拝啓陳者本国外交部ヨリ

報告ニ拠レハ本月十八日午後日本軍隊ハ長春、寬城子等
ノ地ニ於テ中国軍隊ノ武装ヲ解除シ奉天中国軍隊ト衝突
シ午後十二時奉天城内ヲ攻撃シ十九日朝奉天ヲ占領セル
趣ナル處日本軍隊ノ此ノ種行動ハ実ニ不戦条約ニ違背シ

東亞ノ平和ヲ阻礙スルモノナルニ付テハ正式ニ日本政府
ニ緊急嚴重抗議ヲ提出シ速ニ叙上日本軍隊ノ一切攻撃ヲ
停止セシメ直ニ原駐地点ニ撤退セシム様申入ルヘシ
トノ電報ニ接シタルニ付茲ニ正式ニ緊急抗議及提出候條御
諒悉ノ上右様御取計相成度尚結果何分ノ儀御回示相成度此
段得貴意候

敬 具

28 昭和6年9月20日 在本邦江(洪杰)中国臨時代理公使より
幣原外務大臣宛

日本軍の占領地撤退、日本在留中国人の保護

について

九月二十日付未字第二三四号訳文

拝啓陳者先刻差上ケタル書面ハ既ニ御高覽済ノ事ト被存候

処更ニ唯今本国外交部ヨリ

確実ナル報告ニ拠レハ安東及營口モ亦日本軍隊ニ占領セ
ラレ同時ニ我軍ハ奉天ニ於テ毫モ抵抗モ為サス決シテ日
本軍隊ト衝突シタルコト無キニ不拘日本軍隊ハ竟ニ攻撃
ヲ為シ奉天城全部ヲ占領セルコト判明セルヲ以テ更ニ特
ノ種事実ニ基キ日本政府ニ緊急抗議シ奉天及安東等ノ地

ニ於ケル日本軍隊ノ即時撤退ヲ要求シ同時ニ日本内地及
朝鮮ニ居住スル民国人ニ対シ完全ニ保護ノ責任ヲ負フ様
請求スヘキモノナリ本国政府ハ又適當方法ニ依リ居留日
本人ノ保護ニ尽力スヘシ
トノ電報ニ接シタルニ付茲ニ重ネテ正式ニ緊急抗議ヲ提出
スルニ付テハ前信申進メタル所ト一併御處理相成度
尚結果何分ノ儀御回示相煩度此段得貴意候

敬 具

29 昭和6年9月21日 幣原外務大臣より
在上海重光公使宛 (電報)

日中共同委員会設置提案承諾について

本省 9月21日後11時8分発

第三七二号(極秘 至急)

滿州事件解決方針

貴電(七文書)第九八四号ニ閲シ

南京ニ転電アリタシ

貴官ハ至急宋子文ニ対シ今回ノ問題ニ依リ日支国交ノ收拾
スヘカラサル如キ事態ニ立到ルヲ防止スル為メ両國力直ニ
之カ處理ニ着手シタルコトヲ速カニ世間ニ知ラシメ以テ空

氣ノ緩和ヲ計ルコト肝要ナリトスル宋ノ意見ハ帝国政府ノ

日中共同委員会設置に関する政府意向を宋に

30 昭和6年9月22日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

伝達方について

第一〇〇五号

上海 9月22日前發
本省 9月22日後着

第一〇〇二号（大至急極秘）

本使発南京宛電報

第一八八号

大臣発本使宛電報第三七二号ニ閲シ
(一九文書)

右ハ至急ヲ要スルニ付貴官ニ於テ宋ニ内密面会シ右來電帝
國政府ノ意向ヲ充分伝へラレ結果大臣及當方ニ電報アリタ
シ尚宋ハ何時帰滬スルヤ御確メアリタク又右話ノ模様ニ依
リテハ本使ハ至急南京へ出張スヘシ但本使南京ニ赴ケハ外
交部長訪問ノコトモアルニ付宋ニハ出來得ル丈ヶ上海ニテ
協議シ話ノ結末ヲ付ケタシト思フ旨ヲモ併セ伝ヘラレタシ
大臣へ転電セリ

31 昭和6年9月22日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

満州事件局限化の政府方針伝達について

上海 9月22日後發
本省 9月22日後着

上不慮ノ事件ヲ起ササル様注意スルコト致シタシ為念
本電宛先、滿州ヲ除ク在華各公館及香港
大臣、奉天へ転電セリ

32 昭和6年9月22日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

滿州事件の早期解決に關する殷汝耕との會談
について

上海 9月22日後發
本省 9月22日後着

第一〇〇八号
二十二日殷汝耕本使ヲ來訪

一、時局ニ付談話セル際張群ノ伝言トシテ張市長ハ上海ノ
治安維持日本人ノ保護ニ付全力ヲ挙ケ問題ノ起ラサル様
努力シツツアリ貴公使ニ於テモ日本側ニ對シ同様ノ手段
ヲ此上トモ執ラレタシト述ヘタルニ付本使ハ右趣旨ハ從
来モ今モ變リナク總領事ヲシテ充分ニ勵行セシメツツア
ルコト又我政府ノ方針ハ問題ヲ成ルヘク局限シタシトス
ルニアリ自分ハ陸海軍トモ連絡ヲ計リ右趣旨ノ徹底ヲ計
リツツアルコトヲ答へ置キタルカ

本使発在華各領事香港宛電報合第一二二二一号

満州事件ニ對シテハ政府ニ於テハ成ルヘク之ヲ局限シテ解
決ニ導カントノ方針ニシテ特ニ満州以外ニ波及スルカ如キ

ハ極力避ケタキ意向ナリ民國側モ上海始メ各地ニ於テ輿論
ノ激昂ニ伴フ突發事件ノ發生ヲ特ニ注意シツツアリ本使ニ

於テハ海軍側及陸軍側ト連絡シ又居留民ニ對シテモ慎重ナ
ル態度ヲ執リテ事端ヲ釀ササル様注意シツツアルハ既ニ御
承知ノ通リナルカ満州ニ於ケル我軍ノ行動ハ漸次吉林省間
島方面ニ拡大セラレ居ル模様ニテ又北滿ニ於テモ相當不穩
ノ事態アル様認メラル他方民國中央政府及黨部ハ連日會議
ヲ催シ居リ開戦説若ハ国交斷絶説モ相當議論セラレツツア
ル模様ナルカ最後ノ決定的態度ハ未タ執ラレ居ラサルモノ
ノ如シ或ハ軍事行動ニ對スルト同シク無抵抗的ノ態度ヲ執
リテ直接戦争手段ニ非サル宣伝等凡ユル悪辣手段ヲ以テ事
実国交斷絶ト同様ノ事態ニ導キ以テ世界ノ輿論ヲ自己ニ有
利ニ展開セントスルニ非スマトモ思ハル何レニスルモ貴官
ハ前記政府ノ方針ヲ体シ最惡ノ場合ニ處スル準備ハ内密ニ
整へ置クト共ニ冷静ナル態度ヲ以テ居留民ノ保護ニ任シ此

二、其際殷ハ今回ノ事件ハ日支ノ關係ヲ極端ニ悪化スヘク
之迄ノ如ク党部其他ノ無責任ナル排日運動者ノ策動ニ留
マラス從來冷靜ナリシ一般民國人モ非常ニ激昂シツツア
リテ日本ニ對スル開戦説又ハ国交斷絶説ヲ唱フルモノア
ルハ事実ナリ但シ党部カ之等ノ決議ヲ為シタルコト日本
新聞ニ伝ヘラレツツアルモ之ハ事実ニ非スト思ハル現在
ノ状況ニ於テ直ニ外交交渉ノ端緒ヲ開クコト然ルヘキヤ
又ハ此事件ノ成行ヲ半年一年見タル上ニテ外交手段ニ訴
フルカ良キヤハ判断困難ナリサレト何レニスルモ民國側
ハ先ツ日本ノ撤兵ヲ要求スヘシト思ハルト述ヘタリ

三、殷汝耕ハ斯カル事件ノ場合ニハ必ス民國側要部ノ意ヲ
受ケテ活動スル人物ナレハ本使ハ左ノ通意見ヲ述ヘ置キ
タリ

今回ノ事件ハ日本政府トシテ少クトモ之ヲ満州ニ局限シ
タシト考ヘツツアルハ前述ノ通ナリ而シテ事件ヲ解決ス
ルニハ民國側トシテハ暫ク之ヲ成行ノ儘ニ放任シ置キ例
へハ山東問題濟南事件ノ如ク双方空氣カ極端迄悪化セル
後會議ニ之ヲ解決スル方法モ考ヘラルヘシサレト本使ノ
考フル所ニ依レハ満州問題ハ山東問題又ハ濟南事件トハ

日本人ノ見ル所ハ勿論外国人ノ見ル所モ大イニ其趣ヲ異ニス或ハ更ニ民国人ノ見ル所モ大イニ趣ヲ異ニスルヤモ知レス滿州問題ニ付テハ日本ハ死活問題トシテ如何ナル場合ニ於テモ第三者ノ介入ヲ許サルニ依リ結局之ハ日置ケハ置ク程双方ノ感情ハ深刻トナリ来タリ之カ穏当ナル解決ノ望薄クナルヘン從テ政治家トシテハ与フ限り速ニ解決方努力スヘキナリト考へ滿州事件カ支那本土ノ問題トハ異ナルモノナルヲ民国側ハ充分ニ考ヘル必要アリト思ハル

四、尚殷ハ早速張群トモ意見ヲ交換シ何レ張群モ中央ノ指揮ヲ仰クコトトナルヘク自分モ亦南京ニ行キ中央ノ意見ヲ確カメタル上必要アラハ更ニ來訪スヘシト述ヘ辭去セリ

奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電シ、北平、南京、上海へ轉報セリ

33 昭和6年9月22日

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

宋の委員会設置案撤回について

大臣、米ヘ転電セリ

壽府全權ヨリ在歐州各大使、公使ヘ転電アリタシ

34 昭和6年9月22日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

日本の対滿政策に関する陳廣東政府外交部長の觀察について

広東 9月22日後発
本省 9月22日後着

第四三二号

二十一日陳友仁ノ求メニ依リ面会シタルニ今次滿州事件ニ關シ閣下ニ伝達アリタシトテ時余ニ亘リ左ノ通り申入レタリ

一、二十日諸新聞カ一齊ニ今次事件ヲ伝フルヤ同日朝並ニ

二十一日ニ亘リ二回國務研究會議ヲ開催シタル處同會議ニ於テ汪精衛ヨリ十九日貴官ヨリノ申入レ(在支公使宛)

往電第一八九号)ヲ披露シタル次第モアリ内実差シテ興奮ハセザリシカ何シロ南滿重要都市拳ヶテ日本軍ノ占領スル處トナリタル次第ナレハ當方面ニ於ケル國民ト雖モ

國家的ノ屈辱トシテ相当憤慨スヘク旁新聞等ニハ何レ事

態ノ推移ヲ見テ日本政府ニ嚴重抗議スヘキ旨ヲ發表シテ体裁ヲ繕フ一方貴官ト会食ノ約アリタル要人ヲシテ一時差控ヘシムルコトトナリタル訳ナルカ(往電第四三〇号末段参照)右ハ決シテ日本側ニ對スル「デスカーテシー」ニハ非ス只此際國民ノ感情ヲ刺戟セサランカ為メノ弁法ナルカ兎モ角相當重大ニシテ困難ナル事件勃發シタル次第付当政府要人モ拳ヶテ之ヲ重視スルニ至リタリ

二、本官ハ茲ニ陳ノ語ヲ遮キリ滿州事件ノ経緯ヲ奉天總領事來電ノ趣旨ニ依リ納得ノ行ク様説明シタル處陳ハ自分ハ先般渡日ノ際封建時代的思想ニ支配セラレ居ル日本陸軍カ若シ滿州當局ニ於テ從來ノ如ク中央政府ニ馳付ケ日本側ノ主張ハ凡テ之ヲ退ケ尚機会アル毎ニ反日行動ヲ統クルニ於テハ必スヤ近ク不祥事件ヲ見ル事アルヘキヲ懸念シ又幣原大臣ニ於カレテモ此種陸軍側ノ心理状態ノ為相當御苦慮中ナル次第ハ良ク諒察シ居リタル矢先果然今次ノ容易ナラサル事態ヲ發生シタル訳ナルカ今貴官ノ説明ニ依リ日本ハ其權益ヲ保障スル為正当防衛ノ手段ヲ執リツツアルカ如ク從テ在京中幣原大臣ヨリ得タル印象ト何

上海 9月22日後発
本省 9月23日前着

第一〇一二号(大至急極秘)

本官發三全權宛電報

第一号 大臣來電(第三七二号ニ関シ)

宋子文ハ委員會組織ヲ提案セル當時ニ於テハ事件ハ單ニ地方的騒キニ過キスト信シ单ニ私案トシテ委員會組織ヲ提議セル次第ナルモ現在ニ於テハ滿州全体ニ亘リ戰時狀態ヲ現出シ日本政府カ逸早ク事件ヲ拡大セシメサル様軍司令官ニ命令セルニモ拘ラス事實日本軍ハ更ニ進テ長春ヨリ吉林迄モ占領セリ右ノ如キ狀況ニテハ果シテ日本ノ内閣力良ク陸軍ヲ制御シ得ルヤ否ヤ危惧ノ念ナキヲ得ス此際仮令委員會ヲ組織スルモ日本軍力現駐地ヲ撤退セサル限り委員會ハ安心シテ仕事ヲ為シ得サルノミナラス日本軍ノ撤退前ニ委員會ヲ組織スルコトハ現在ノ空氣ニテハ到底實行シ得サルコトヲ發見セル旨ヲ述ヘテ委員會設置案ヲ撤回セリ

尚國政府ハ國際連盟ニ於テ日本軍ノ現駐地撤退ヲ力説セシコトヲ代表者ニ對シ訓令セル趣ナリ

事項6 国民政府との交渉

等異ナラサル政策ヲ実行セントセラルカ如キモ満州重要都市占領ト言フカ如キ由々敷事態既ニ発生シ為ニ陸軍側トシテハ計画的ナリトシカ見ヘサル非常手段ニ訴ヘツツアル実情ナレハ幣原大臣ニ於テ何トカ此事態ヲ善導スルノ方策ナカルヘカラス

三、当政府ハ既ニ蔣介石トノ話合モ遂ケ近ク南京ニ赴キ中央統一政府トシテノ実ヲ挙クル手筈ナルガ（南京広東間ノ和平運動ニ関シ往電第四二三号所報ノ汪精衛等内談ノ要旨ヲ詳述セリ）俄然満州事件ノ勃發ヲ見タルカ故ニ本日中蔣ニ密電ヲ以テ今次事件ノ逃カルヘカラサル責任ハ蔣ノ負フ処ナル旨ヲ告ケ其下野ヲ促進スルト同時ニ本月二十二日通電ヲ以テ此間ノ経緯ヲ著ハシ和平解決ヲ促進スル手筈ニシテ結局近ク南京ニ赴クヘク当政府ハ事實上東三省政府ヲモ「コントロール」スルコトトナリ從来王正廷カ表面強カリヲ以テ張学良ノ利用スル処トナリタルトハ全然趣ヲ異ニスヘク又一方東三省ニ於テハ予テ在京中數次幣原大臣ニ申入レタル根本精神ニ基キ一切ノ措置ニ出ツヘキ所存ナレハ自然當政府ハ今次事件ノ解決方ニハ非常ナル関心ヲ有スル次第ナリ

35 昭和6年9月22日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満州事変に対する国民党の反応について

第五六六号 本省 9月22日後着

往電第五五九号ニ關シ
臨時中央常務会議ハ二十日午後三時ヨリ六時迄開催（）本月二十三日ハ半旗ヲ掲ケ娛樂宴会ヲ停止スル様全國ニ通電スルコト（）廣東政府ニ対シ日本軍ノ侵入ニ対シ一致國難ニ当ランコトヲ申送ルコト等ヲ決定セル趣ニテ中央執行委員会ハ同日古應芬等ニ対シ日本陸軍ハ突如奉天長春安東牛莊溝帮子寬城子遼陽等ヲ占領シ又日本海軍ハ連山灣ヲ占領セル説アリトテ冒頭往電後段各級党部ニ対スル通電ト大体同様ノ趣旨ヲ述ヘタル通電ヲ發セリ

尚王正廷ハ二十日中國記者團ニ対シ事件ノ経過ヲ説明シタル後外交部ハ事件ノ経過ヲ國際連盟ニ詳細電報スルト同時ニ連盟出席中國代表ヲシテ更ニ連盟ニ報告セシメ一面不戦條約国ニ対シテモ電報セル旨語リタル趣ナリ

支、北平、奉天、漢口ニ転電セリ

支ヨリ上海ニ転報アリタシ

36 昭和6年9月22日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍の満洲占領に関する戴考試院院長等の演説要領について

四、幣原大臣ニ於テハ其近代的経緯ヲ以テ満州問題ヲ正解シ妥当ナル解決ヲ与ヘラルヘキハ疑ハサルモ事態茲ニ至リ結局場合ニ依リテハ東三省ヲ支配スヘキ政府ノ麥改ヲ來スコトナキヲ保セサルニ至リタル訳合ナルカ若シ本事件解決ノ為南滿ノ現状維持カ破壊セラルカ少クトモ現在ノ為政者ニ或ル種ノ麥改ヲ見ルコトアル場合ニ於テハ事甚タ重大ニシテ自然當政府カ数回ニ亘リ日本政府ニ申入レタル滿蒙ニ閑スル対日政策ニ相當影響ヲ來スヘク旁自分ニ於テハ特ニ予メ此間ノ消息ヲ明カニシ以テ第四全會議ニ提出スヘキ対日外交政策ノ「オリエンティジョン」ヲ考究スルノ要アル次第ナレハ幣原大臣ニ於テ篤ト此点御考慮相成リ右ニ閑スル何分ノ御意見至急承リ度シ云々就テハ右等ニ閑スル貴見成ルヘク早目ニ御回示相成度シ

第五六九号 南京 本省 9月22日前着

二十一日中央党部紀念週ニ於ケル戴天仇ノ演説要領左ノ通り

今回日本ハ突然東北ニ出兵シ一夜ノ内ニ北ハ長春西ハ牛莊南ハ安東迄占領シ錦州ニ向テモ行動スル所アリ遼寧省城ノ主要区域政府教育産業各機關ヲ始メ兵工廠学校等モ尽ク日本兵ノ為占領セラレタリ此種狂暴野蛮ノ行為ハ世界ニ殆ト先例ナク弱肉強食ハ歴史上有リ勝ノコトナレドモ今回ノ日本人ノ行動ノ如ク横暴ナルモノハ絶無ナリ日本人ハ大震災當時受ケタル同情ヲ忘レ且ツ衣食住行上民国数千年來ノ教化ヲ受ケ乍ラ遂ニ斯ノ如キ残虐行動ニ出ツルハ不仁不義不忠不孝ノ獸的行為ニシテ絶対ニ世界ニ之ヲ存在セシムルコト能ハス云々

尚同日ノ国民政府紀念週ニ於テ邵元冲ハ日本軍カ短時間内ニ奉天始メ満鉄沿線主要都市ヲ占領セルハ明カニ計画的行動ニシテ其ノ殘虐ナルコト有史以來稀ニ見ル所ナリ本件ハ東北ニ發生セルモノナルモ其意義ハ實ニ全國的ナルコトヲ

思ヒ一致団結有効ナル方法ヲ以テ共ニ国難ニ当リ正義ノ為ニ争ヒ野蛮民族ニ峻敵ナル教訓ヲ与ヘサルヘカラサル旨述ヘタル趣ナリ

委細郵報

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平、奉天へ転電セリ

37 昭和6年9月(22)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

考試院副島顧問の一時帰国について

南京 本省 9月22日前着

第五七〇号

本二十一日副島顧問ハ館員ニ対シ左ノ通語レル趣ナリ

今朝考試院沈觀鼎自分ヲ來訪シ考試院ニ於テハ時局ニ鑑ミ副島顧問ノ身辺ヲ保護警戒シ居ル処万ノコトアリテハ誠ニ申訳ナキ次第ナレハ此際一時帰國ヲ御勧メスルコト然ルヘシトノ意見ナリト語レルニ付自分ハ數日來戴天仇等力自分ノ身辺保護ノ為種々心配シ居ルヲ見誠ニ心苦シク感シ居タル次第ナレハ一時帰國ノ上時局ノ収マルヲ見テ帰任スル

38 昭和6年9月22日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍の撤退前日中共同委員会の組織は実行 困難との宋談話について

南京 本省 9月22日後着

第五七二号(極秘大至急)

本官発公使宛電報

第五三八号

大臣發貴公使宛電報第三七二号(一九文書)及貴公使發本官宛電報第一八八号ニ閲シ

一、二十二日本官宋子文ト會見シ貴公使ノ訓令ニ依ル趣ヲ

以テ大臣來電ノ次第ヲ説明シタル處宋ハ重光公使ト自分トノ間ニ於テ本件ニ付話合ヒタル當時ニ於テハ自分モ重光公使モ単ナル地方的騒キニ過キスト信シタルヲ以テ自分ハ私案トシテ委員会組織ヲ提議シ見タル次第ナリ然ルニ現在ニ於テハ満州全般ニ亘リ戰時狀態ヲ提出シ日本政府カ逸早ク事態ヲ拡大セシメサル様軍司令官ニ訓令セル旨声明セルニモ拘ラス事実ハ日本軍ハ更ニ進テ長春ヨリ吉林迄モ占領セリ右ノ如キ狀態ニテハ果シテ日本ノ内閣カ陸軍ヲヨク制御シ得ルヤ否ヤ疑惧ノ念ナキヲ得ス依テ此際仮令委員会ヲ組織スルモ日本軍カ原駐地ニ撤退セサル限り委員会ハ到底安心シテ充分其仕事ヲ進メ得サルノミナラス日本軍ノ撤退前委員会ヲ組織シ話ヲ進ムルコトハ現在ノ中国側ノ空氣ニテハ到底實行シ得サルコトヲ見セリト述ヘタリ

依テ本官ハ若シ貴方ニ於テ日本軍ノ撤退ヲ先決要件ナリト主張セラルレハ或ハ日本ハ先ツ解決条件ヲ話合ヒ然ル後軍ヲ撤退スヘシト主張スルヤモ知レスクテハ折角貴部長カ今日迄中日關係ノ大局ニ鑑ミ苦心セラレシ努力モ無効トナリ両國ノ關係ハ愈々紛糾スヘキニ付此際何ト考

モ可ナリト回答シ置キタルカ自分ハ本件ノ居留民等ニ及ボス影響ヲモ考へ未タ誰ニモ洩ラササル次第ナリ尚又沈ハ自分極秘ノ含トシテ帰國ノ上ハ両國ノ空氣改善ヲ計ラレタキ旨ノ戴院長ノ内意ヲ伝ヘタリト語レリ

本件ハ連合其他ニ依リ誇大ニ報道セラレタル模様ニ付為念支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平、奉天、漢口へ転電セリ

支、北平、奉天、漢口へ転電セリ

(1) 国際連盟ニ於テ日本軍ノ現駐地撤退ヲ力説スル様訓令セラレタリ

(2) 自分カ委員会組織ヲ提案セル當時ニ於テハ自分モ重光公使モ更ニ日本内閣モ本件カ単ニ地方的騒キ(local crash)ニ過キスト信シタルカ其後事態ハ戰時狀態ニ迄拡大セリ

依テ本官ハ右ハ曩ニ貴部長ノ提議セラレタル委員会案ヲ「ドロップ」ストノ意味ナリヤト反問セルニ宋ハ然リ、右案ハ単ニ自分ト重光公使トノ間ニ「プライベイト」ニ話シタル丈ナルカ事態變化セリトテ弁解セリ依テ本官ハ更ニ只今御話ノ撤兵ヲ先決要件トスルコトハ撤回セルモ

ノト了解シ差支ナキヤト反問セルニ宋ハ撤兵ノ点ハ貴官トノ「プライベイト、トウク」ニテ重光公使ニハ右ノ如キ話ナカリシモノトシテ報告アリタント述ヘタルニ付前記「タイプ」ハ遂ニ受取ラス辞去セリ

三、右宋ノ慌シキ態度ヨリシテ或ハ室外ニ在ル間ニ於テ外交部長ト電話ニテ打合セタルニ非スヤトノ疑ナキニアラサルカ或ハ单ニ自ラ熟考ノ結果撤兵ノ点ハ述ヘサルコトニ決心シタルモノナルヤモ知レス尚宋ハ多分今週中ハ上海ニ参リ得サルヘク将又此際本件ノ為貴公使ノ来京ヲ煩ト述ヘタリ

ハスコトハ新聞等ニ書キ立テラレ却テ面白カラサルヘシ大臣ヘ転電セリ

39 昭和6年9月23日 在上海重光公使より

幣原外務大臣宛(電報)

事件解決策として軍の行動を満鉄沿線に局限することならびに満州問題に対する決意表明について

上海 9月23日後発
本省 9月24日前着

充分注意アランコトヲ請フ)若シ万ー我軍北満ニ進出スルニ到ランカ直ニ露国トノ衝突ヲ予想セシメ事態ハ益々重大化スヘシ(右ハ軍部ノ計画カトモ認メラル)
三、民国政府ハ急遽内争ヲ片付ケ(廣東側トノ妥協ハ急ニ真面目トナリ愈実現ノ模様ナリ)統一シタル力ヲ以テ夷ヲ以テ夷ヲ制スルノ伝統的政策ヲ以テ事件ヲ先ツ國際連盟(最近宋子文ノ連絡ニ依リ其關係密接トナリタリ)及不戦条約ノ筋ヲ迫リテ米国ニ縋リ内外宣伝ノ力ト相待チテ日本軍ノ撤退ヲ強請スルノ方策ニ出ツルコト山東還付ノ場合ト同様ナルヘシ如何ナル場合ニ於テモ今後満州問題ニ関シテ我国ト適當ノ取極ヲナシ又ハ其目的ノ為ニ交渉ニ入り得ル当局者ハ民国ニ出現セサルヘシ從テ今回ノ事件ハ日民両国ヲシテ事實國交断絶ノ状態ノ下ニ永ク放任セラレ民国側ノ策動ニ依リ世界ノ輿論ニ曝サルモノナルヲ覺悟セサルヘカラス

四、現在ニ於テハ在支外国人等第三者ノ論調ハ日本ニ必スシモ不利ナラス恐ラク世界ノ輿論モ同様ナルヘシ右ハ偏

ニ從來ノ我外交方針及其努力ノ賜物ナリ然シ時ヲ経ルニ従ツテ右ハ必シモ樂觀ヲ許サス之ニ対スル方策トシテ

第一〇二二号(極秘)

一、(1)、此次軍部ノ行動ハ所謂統帥権ノ觀念ニ基キ政府ヲ無視セルモノノ如ク折角築キ上ケ來レル對外的努力モ一朝ニシテ破壊セラルノ感アリ國家ノ将来ヲ案シテ悲痛ノ感ヲ禁シ難シ

此ノ上ハ一日モ速ニ軍部ノ独断ヲ禁止シ國家ノ意思ヲシテ政府ノ一途ニ出ツルコトトシ軍部方面ノ無責任ニシテ不利益ナル宣伝ヲ差止メ旗幟ヲ鮮明ニシテ政府ノ指導ヲ確立セラレンコトヲ切望ニ耐ヘス

二、民国側ハ事態ノ重大ヲ知ルト共ニ例ニ依リテ軍事的ニハ無抵抗主義ヲ以テ押進ムト共ニ軍事行動ニ非サル凡ユル他ノ方法ヲ以テ対抗手段ニ移レリ党部政府ノ一致ノ指導ハ勿論從来訓練ヲ經居ル排日ノ總テノ機關ハ活動ヲ始メツツアリ經濟絶交ノ如キハ未タシモ朝鮮事件ノ際ニ動搖セサリシ全国学生ノ活動ハ最影響多ク反日感情ノ悪化ハ所謂二十一箇条問題ノ影響ヨリモ甚シク今後益々悪化スルモノト認メラル(2)今日ノ状況ヲ以テセハ何時満州以外ノ地ニ於テ不祥事ノ勃發ヲ見ルヤ測ラレサル状況ナリ(此点ニ付テハ我海軍ニ於テ特ニ自重スル様政府ニ於テ

ハ此際技巧ヲ用フルノ余地ナキニ付我カ軍事行動ハ之ヲ我カ鐵道沿線ニ局限スルニ努ムルト共ニ満州問題ニ闘スル我方ノ断乎タル決意ヲ表明スルニ在リト信ス即チ満州ニ於ケル適法及歴史的地位ヲ擁護スルハ日本ノ死活問題ニシテ若シ右ニ付國際連盟等他國ノ了解(ヲ得ス)ンハ連盟脱退ヲモ辞セサル態度ヲ持スルコト適當ナルヘシ右ノ決意ヲ示スコトニ依リテ第三者ノ介入ヲモ避ケ得ヘク且民国政府ヲシテ或ハ態度ヲ変シテ我方ト妥協的交渉ニ入ル已ムナキニ至ラシムルヤモ知レス今日ノ場合躊躇スルノ時機ニ非サルヲ信ス

奉天、米、寿府ヘ転電セリ

40 昭和6年9月23日 在南京上村領事より

幣原外務大臣宛(電報)

国民政府傭聘日本軍人の一時休暇について

南京
本省 9月23日前着

二十二日原田中佐ノ談ニ依レハ軍政部係官ヨリ同中佐ニ対シ時局ノ関係上傭聘日本武官全部ニ一先ツ一ヶ月ノ休暇ヲ

近ニハ一切我方トノ連絡ニ応セス南京ノ空氣ノ悪化ハ更ニ甚タシキモノアリ民國政府ハ問題ヲ第三者（國際連盟）ノ手ニ渡シ自己ニ有利ノ立場ヲ作り世界輿論ノ力ヲ以テ問題ヲ自己ニ有利ニ展開セントシツアリ日本トノ間ニハ中央地方トモ如何ナル交渉ニモ日本軍ノ原地ニ撤兵ナクシテハ之ヲ受付ケサルノ態度ヲ持シ居レリ滿州問題カ國際連盟等第三者ノ手ニ依リテ處理セラルルカ如キハ如何ナル場合ニ於テモ固ヨリ之ヲ避ケルヲ要スヘシ

奉天、南京、北平、壽府、米ヘ転電セリ

43 昭和6年9月(24日) 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

日本共同調査委員会提議に関する中央日報報道について

第五八二号（暗、至急）

二十四日ノ中央日報ハ外交部ヨリ出テタル消息トシテ東京発連合通信ハ中国政府ヨリ滿州事件ニ関スル中日共同調査委員会ノ組織方提議アリタル旨ヲ報シ又芳沢全權ハ連盟理事会ニ於テ右ハ某中國高官ヨリ提議アリタル旨述ヘタル趣

(一)日本对中国ノ大災難ニ際シ突然満州各地ヲ占領セル其横暴振リハ実ニ國際間ニ始メテノ事ナリ斯ノ如キ重大ナル侵略侮辱ヲ受ケル以上國民ハ之ヲ骨髓ニ銘シ政府ト一致協力共ニ國難ヲ救ハサルヘカラススクナル以上胡漢民モ当然休暇ヲ取消シ又總理ノ信徒ハ積極的ニ此ノ大難ニ當ルヲ要ス云々

41 昭和6年9月(23)日 在南京上村領事より
日本の侵略非難の蔣主席談話について
幣原外務大臣宛(電報)
南京 本省 9月23日後着

与へ時局ノ鎮静ヲ待ツコトシ度キ旨申出テタルニ依リ之ヲ承知シタルカ其間俸給ハ支払フコトトナリ居ル趣ナリ尚中国憲兵学生ノ日本訪問モ此際延期スルコトトナレル趣ナリ

ナルカ之等ハ全然事実ニアラス中国政府ハ絶対ニ本件提議ヲ為シタルコト無ク現ニ事件ヲ連盟理事会ニ提出済ナルヲ以テ連盟ニ於テ公平ニ処理セラルヘシト特筆報道セリ
公使、北平、奉天へ転電セリ

44 昭和6年9月24日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本の侵略非難の国民政府声明について

南京 9月24日後発
本省 9月24日後着

第五八八号

国民政府ハ二十三日付ヲ以テ国民ニ告クルノ書ナルモノヲ
惨殺シ軍政官吏ヲ凌辱シテ止マサルハ全世界ノ文明國家ニ
對スル脅威ナルニ付政府ハ右日本ノ暴戾ヲ連盟ニ報告スル
ト共ニ不取敢日本軍ノ即時撤退方要求セル處二十二日連盟
理事会ハ軍事行動ノ停止及軍隊ノ撤退等ニ關シ決議スル所
アリ依テ政府ハ理事会ニ對シ日本軍ノ撤退ヲ待ツテ直ニ法
ヲ設ケ此種野蛮事件ニ對シ正当ナル解決ヲ図ル要アル旨電

リ我方ニ対シ非難ヲナスモノ急ニ増加シツツアリ國際連盟
理事会ノ決定及其討議ノ模様ハ詳細ニ民國側ニ有利ニ報道
セラレ民衆ハ益々力ヲ得反日感情昂マルト共ニ露骨ニ其態
度ヲ表示スルニ至レリ杭州居留民一同ハ二十三日當地ニ引
揚ヶ来リ其他ノ地ヨリモ引揚ヶ来ルモノ多シ長江一帶ヲ始
メ一般居留民ノ安全ニ付一層ノ注意ヲ要スル狀況ナリ當地
方ニ於テハ水災救助事業ノ為最好感ヲ有シ居リシモノモ最

4.
昭和6年9月24日
満州事変の国際連盟による処理回避に関する
意見について
幣原外務大臣宛（電報）

日本の伝統美術の第三回

支、北平、奉天ニ転電セリ
昭和6年9月(23)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)
日本の侵略非難の蔣主席談話について

烹食法

支、北平、奉天ニ転電セリ
昭和6年9月(23)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)
日本の侵略非難の蔣主席談話について

公園ニテ蔣介石ヲ中心ニ対日方針ニ付重要ナル會議ヲ催シタル趣ナルカ其概要ハ未タ判明セス
支、北平、奉天へ転電セリ

報セルニ付公平ナル調査ヲ為スニ於テハ必スヤ充分ナル行動及合理的匡正ヲ受クヘク從テ政府ハ全國軍隊ニ對シ日本

軍トハ衝突ヲ避クル様嚴格ナル命令ヲ發シタリ國民モ亦一致嚴肅神妙ナル態度ヲ執ルヲ要ス在華日本人ニ對シテハ政

府ハ嚴重保護方各地方官吏ニ對シ嚴命セルハ右ハ文明國家当然ノ責任ニシテ吾人ハ文明ヲ以テ野蛮ニ對シ合理的態度ヲ以テ無理暴行ノ罪惡ヲ明ニシ以テ正義ノ伸張ヲ期セサル

ヘカラス然カモ政府ハ國家ノ獨立ヲ維持スル為既ニ最後ノ決心ヲ有スルニ付自衛ノ準備ノ為決シテ國民ノ期待ニ背カ

サルヘシ全國同胞ハ一切ノ私見ヲ去リ一致團結政府ヲ信任シ中央ノ指導ニ從ヒ救國雪辱ヲ期セサルヘカラス云々

尚國民政府ハ近ク世界民衆ニ告クルノ書ヲ發表スヘク目下訳文作製中ノ由ナリ

委細郵報
公使、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州
ヘ転電セリ

45 昭和6年9月24日 在本邦江中國臨時代理公使より
幣原外務大臣宛

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

46 昭和6年9月25日 在上海重光公使より
(在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報))

宋副院長の日共同委員会設置提議に関する
國民政府の公表文について
上海
本省 9月25日前着
第一〇三〇号
二十四日「チャイナプレス」ハ日本政府ハ宋子文カ十九日
重光公使ニ非公式ニ提議セル共同委員会設立方ニ關シ國民
政府ハ事變其後ノ發展ニ依リ本件提議ハ事實不可能トナレ
リトテ其提議ヲ拒否セル旨ヲ公表セリトノ南京電報ヲ掲ケ
「斯ル非公式ノ談話ノ公表ノ場合宋子文ノ名前迄發表セラ
ルルハ将来ノ為モアリ差控ヘラレタシ」同時ニ右ニ關スル
國民政府ノ公表ヲ左ノ通報道セリ

事項6 国民政府との交渉
宋副院長ハ十九日朝重光公使トノ私的會談ニ際シ當時日本

日本軍の軍事行動の一切かつ即時停止要求について

九月二十四日付泰字第五号訳文

挙げ陳者今般本国外交部ヨリ

日本軍隊ハ奉天及安東ヲ占領シ又引続キ長春、寬城子、吉長鐵道及其他ノ各地ヲ占領シ吉林省城モ亦二十日午後

六時占領セラレタルカ日本軍隊ハ各地ニ於テ放火破壊ヲ擅ニシテ多數ノ人民ヲ傷害シ軍政職員ヲ拘禁シ朝鮮方面ノ軍隊亦既ニ出動シ其他ノ各地ニ於テモ頻々トシテ日本

陸海軍人ノ示威又ハ上陸等ノ行動アリ右状態ハ全ク日本外務省ノ本件事態ヲ拡大セシメサルヘシトノ声明ニ背馳セリモノニシテ是レ同國政府カ啻ニ當部前後二回ノ照会ニ照シ即時ニ日本軍隊ヲ撤退セサリシノミナラス却テ引

続キ其他ノ都市ヲ占領セシメ愈々事態ヲ重大ナラシメタルモノニシテ其ノ國際條約ヲ蔑視シ平和ヲ破壊スル責任益々重キヲ加ヘタル次第ナルカ右ニ三關シ既ニ日本公使ニ對シ抗議ヲ申入置キタルモ叙上事実及愈々逼迫シ來レル情勢ニ基キ再ヒ日本政府ニ緊急抗議ヲ提出シ即時日本軍隊ニ對シ一切ノ行動停止シ即刻全部ヲ撤退シ且ツ各区域

軍ノ通信機關占領ノ為事件ハ純然タル地方的衝突ト思ハルルカ如キ情報ノミニ接シ居タルヲ以テ両國間ノ友好關係ノ悪化ヲ防ク為遲滯ナク事件ノ事實ヲ調査スヘキ共同委員會ノ設置可能ナル旨ヲ述ヘタリ然ルニ日本軍軍事行動ノ戰争的性質カ明白トナリ侵略繼續セルヲ以テ國民政府ハ連盟ニ訴ヘ連盟ハ二十二日午後五時(南京時間)之ヲ審議スルコトトセル処同日正午在南京日本領事ハ宋子文ヲ訪問シ日本政府ハ前記委員會ノ設立ニ賛成ナル旨通告セリ之ニ對シ宋子文ハ日本軍ノ民國領土侵入ノ為一切ノ直接交渉ハ絶対不可能トナレル旨政府ヲ代表シテ通告セリ
北平、奉天、南京へ転電シ上海へ転報セリ

47 昭和6年9月25日 在上海重光公使より
(在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報))

事件解決策に関する殷汝耕の談話について

上海 9月25日後着
本省 9月26日後着
第一〇三六号
(三文書)
往電第一〇〇八号ニ關シ

二十四日殷汝耕來訪張市長ハ上海方面ノ治安維持ニ全力ヲ

事項6 国民政府との交渉

尽シ居リ未タ南京ニハ赴カサル處何レニスルモ今回ノ事件ニ付テハ從来穩健思想ヲ有シ又政治關係ナキ者迄非常ニ激昂シ居ルヲ以テ當分之カ鎮マルヲ待チテ手段ヲ講スル外途ナカルヘシト思ハルモ免モ角日本政府ノ方針カ何処ニ在ルヤヲ承(知)シ得レハ幸ナリトノコトナリシヲ以テ貴電合第五九五号ノ方針ヲ読ミ聞カセ置キタリ(其際殷ハ日本軍隊ノ銀行封鎖行政妨害等三付テ非常ニ一般ノ激昂セル旨述ヘ居リタリ)其際殷ハ蔣公使日本ニ出発前自分等ニ対シ意見ヲ求メタルヲ以テ自分(殷)ハ日民ノ關係ニ於テハ満蒙ニ關スル根本問題ノ如キハ他ノ問題ヲ全部片付ケ空氣ノ改善スルヲ俟チテ然ル後解決ニ着手スルコト委員会ニシテ差当リ交渉懸案解決ノ為兩國ヨリ委員ヲ任命スルコトシリ条約改正ハ別ニ進行セシメ差支ナシト思フ旨答ヘ置キタルカ右ハ蔣公使モ全然贊成ニシテ實ハ自分ニ對シ日本ニ赴クコトヲ獎メタル位ナリ尚右ニ関シ同公使ハ南京ニ於テハ蔣主席宋子文トモ大体意見ノ交換ヲナシ更ニ北平ニ於テハ張學良ト意見ヲ交換シタル筈ナリ新聞ノ報道スル宋子文ノ委員会設置案ハ或ハ右ヨリ浮ヒタルコトナルヤモ知レス何レニスルモ今回ノ事件ニ依リ自分等ノ考案ハ全ク破壊セラレ

本省 9月25日後着

第七五三号

三井大村ト同行セル上海中國銀行經理張公權二十四日當館ニ來訪一時間余懇談セル處張ハ今回ノ事件ヲ南方ニ波及セシメス出來得ル丈早ク解決セシムル方法ニ関シ本官ノ意見ヲ尋ねタルニ依リ本官ハ單ニ私見トシテ數日前宋子文ヨリ重光公使ニ申出テアリ夫ニ対シ同公使ヨリ日本側ノ回答ヲ与ヘタルニ宋ハ右談話ノ繼續ヲ中止セリ日本側回答ノ要旨ハ満蒙ニ於ケル日支ノ關係ヲ此ノ際根本的ニ調査解決セシムル委員会ノ設立ニアリテ日支兩國ノ國交ヲ顧念スル以上

最モ必要ナル処置ト考ヘラルニ付支那側ニ於テモ感情ニ馳ルヲ避ケ冷靜ニ本件ノ交渉處理ニ當ル様希望ニ堪ヘスト語リ聞カセタルニ張ハ本官所説ノ趣旨ニハ大体ニ於テ共鳴シ其精神ニ依リ事ヲ運フ様上海方面貴官友人ニ電報スル積リナルモ右ノ如キ交渉ヲ開始スルニ先タチ日本軍ヲシテ先ツ吉林鄭家屯等ノ各占領地帶ヨリ撤退セシムルコト能ハサルヤト尋ねタルヲ以テ右ハ居留民保護ノ為ニ出兵セシメタルモノナルニ依リ何等カノ完全ナル保障アレハ不可能ニ非

スト考ヘラルモ本件ノ解決ハ全般的ニ考慮スルヲ必要ト

タリト述ヘタリ

本官ハ之ニ對シ事件鎮靜後ハ右様ノ考案ヲ更ニ考慮研究スルモ必シモ不可ニ非サル旨ヲ告ケ置キタリ

尚殷ハ右ノ外不可侵條約案ヲ交換ノ点ヲモ蔣公使ノ頭ニ入

レ置キタリト述ヘタルカ本使ハ不可侵條約案ノ如キハ張繼

カ日本ニ於テ持チ出シタリトノコトヲ耳ニシタルコトアリ

右様ノ取極ヲナセハ日本ニ對スル侵略ノ疑念去ルヘシトノ

コトナルモ侵略行為ハ独リ武力ノミニ止マラス例へ朝鮮

人圧迫不法「ボイコット」等モ之ニ含マルヘシ又露國トノ

關係モアリ一ノ理想トシテ之ヲ擧クルハ差支ヘナキモ此際

ノ實際問題トシテ研究ノ価値アルハ今回ノ事件其他滿州問題一般ノ解決ノ為ニスル委員会設置案ナル旨述ヘ置キタリ

北平、奉天、天津、濟南、青島、漢口、廣東、南京へ転電シ上海へ転報セリ

48 昭和6年9月25日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

事件の早期解決策に關する張上海中國銀行經理との談話について

奉天 9月25日後發

シ部分的ノ問題ヲ避クル方可ナルヘシ尚我ガ政府ハ現状以上ニ軍事行動ヲ拡大スルカ如キコトナキ様軍ニ對シ命令シアルヲ以テ其点ハ安心シテ可ナル旨語リ置ケリ御参考迄支、南京、北平ニ転電セリ

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍の軍事行動に関する中國新聞紙の報道について

南京 9月25日後發
本省 9月26日前着

第五九四号

滿州事件發生以來當地新聞ハ極力日本軍ノ行動ヲ誇大惡辣ニ宣伝シ居タルカ本件カ連盟ノ問題トナルヤ列國ノ同情力中國ニ集マレルカ如ク宣伝シ連盟ハ日本ニ對シ即時撤兵方要求セリトカ米國國務卿ハ駐米日本大使ニ對シ日本ハ滿州事件ニ關シ全責任ヲ負フヘキモノナル旨通告セリトカ或ハ又蘇連邦ハ日本軍ノ行動ヲ傍観スル能ハストテ十万ノ大軍ヲ動員スルコトナレリ等書立テ列國ノ圧迫ニ依リ日本ハ撤兵ノ止ムナキニ至ルヘシトノ印象ヲ與フルニ努メ居レリ

事項6 国民政府との交渉

公使、北平、奉天、天津、濟南、青島、漢口、廣東へ転電セリ

50 昭和6年9月26日 在南京上村領事より
整原外務大臣宛(電報)

日本軍の満州占領非難の外交部声明について

南京 9月26日後発
本省 9月26日後着

第五九七号

二十六日ノ新聞ハ外交部ノ正式声明トシテ大要左ノ如ク掲載セリ

満州事件発生前日本陸軍大臣ハ新聞記者トノ会見ニ於テ日本ハ條約上滿鐵沿線ニ一糸ニ付十五名即チ總數一万六千五百人ノ軍隊ヲ駐屯セシメ得ルモ現在ノ駐屯兵ハ僅ニ一万五千人ニ過キサル旨述ヘタルカ日本ハスル手段ニ依リ世界ノ視聽ヲ惑ハシ自國ニ有利ナル好機ヲ作ラントスルモノナラシモ事実ハ明カニシテ其目的ハ達シ難カルヘシ今回満州占領ニ使用セル日本ノ兵力ハ二個師団以上ノ軍隊ニ朝鮮ヨリ出兵セル分及在郷軍人等ヲ加ヘ少クトモ五万余人ニ達ス出兵ノ経費ハ日本内閣ハ毎月二百二十万円ト説明セルモ此外

ニ臨時緊急ノ支出アリ我幾多ノ都市ヲ占領シ幾多ノ人民ヲ殺戮シ幾多ノ財産ヲ掠奪シテ尚条約ニ基ク行動ナリト称ス世界ニ此ノ如キ道理アランヤ日本陸相ノ言ハ一九〇五年ノ日露講和条約追加款第一ニ藉口セントスルモノナランモ右ハ中日両国条約中ニ今日迄明文ヲ以テ承認セルコトナク且ツ光緒三十一年ノ満州ニ関スル條約付屬協定第二条ニハ「日本政府ハ清中国政府ノ希望ニ応センコトヲ欲シ若シ露国ニ於テ其鉄道守備兵ノ撤退ヲ承認シタルトキハ日本モ同様ニ承認スヘキコトヲ承諾ス」ト規定シアリ中東鉄道ノ露国兵ハ既ニ早ク撤退シ有ユル鉄道守備ノ事宜ハ完全ニ中國軍隊ニ於テ担任シ居レリ之レ日本軍力引続キ満州ニ駐屯スル條約上ノ根拠ヲ根本ヨリ失ヒタル次第ナリ要スルニ日本力南滿ニ駐屯軍ヲ維持スルニ付如何ナル理由ニ藉口スルヲ問ハス決シテ任意ニ中国ノ領土ヲ占領シ財産ヲ掠奪シ人民ヲ殺害スルコト能ハサルハ極メテ明瞭ナリ云々委細公信支、北平、奉天へ転電セリ

51 昭和6年9月28日 在上海村井總領事より
整原外務大臣宛(電報)

王外交部長重傷の報道について

第五五八号(至急)

上海
本省 9月28日後着

支、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ転電シ、奉天へ暗送セリ

53 昭和6年9月29日 在本邦江中國臨時代理公使より
整原外務大臣宛(電報)

東北地方に独立政権建設の企図について

口 上 書

泰字第二五号(訳文)

本二十八日正午英國總領事ヨリ「ルーター」ノ入電ニ依レハ王外交部長ハ今朝十時南京ニ於テ暴徒ニ襲撃サレ重傷ヲ負ヒタル趣電話通報アリ其後三井ヨリ右報道「ゴーレードパードニモ伝ハリ居ル旨入聞セリ

公使ヘ転報シ南京、北平、奉天、廣東へ転電セリ

52 昭和6年9月29日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長の容態について

南京
本省 9月29日前着

第六〇五号

往電第六〇一号ニ閻シ

二十八日午後外交部長ノ談ニ依レハ王部長ハ目下中央医院ニアリ相当重傷ナル趣ナルニ依リ不取敢本官ヨリ見舞ヲ述

ヘ置キタリ

54 昭和6年9月30日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府外交部長更迭の情報について

上海
本省 9月30日後着

尚王部長辞職ノ説アルモ外交部ハ之ヲ打消シ居レリ

第一〇七八号(至急)

事項6 国民政府との交渉

三十日国民政府ハ王正廷ノ辞職ヲ聽許シ後任ハ施肇基任命ニ決定セリトノ情報アリ不取敢奉天、北平、廣東、南京、全權へ転電シ
上海へ転報セリ

55 昭和6年9月30日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府の邦人保護発令に関する新聞報道について

第六〇八号
本省 9月30日後着

本官發在支公使宛電報第五六八号ニ閲シ

三十日ノ新聞ハ大要左ノ通在留邦人保護方發令セル旨報道シ居レリ国民政府ハ災患未タ治ラス外毎日ニ迫レル際国民党ハ飽ク迄隱忍冷却ナル態度ヲ持シ軌外行動ヲ避ケ反動派ニ乘セラレロ実ヲ与ヘ大局ヲ誤マルコトナキ様助ムル要アリト認メ既ニ各地方政府ニ対シ日本人保護ニ注意方命令セル外軍政部ニ命シ各軍師旅ニ転飭シ所属ヲシテ厳密注意シ日本ノ保護セシムルト共ニ人民ニ対シ秩序ヲ守リ政府ノ正

当ナル解決ヲ俟ツ様切実ニ勧諭セシム
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、蘇州、杭州、九江、重慶、廈門、香港、汕頭へ転電セリ

56 昭和6年9月30日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本は滿蒙に独立国設立画策中との新聞報道について

第六一二号(暗)
奉天發閣下宛電報第七八五号ニ閲シ

三十日ノ各新聞ハ日本側ニテハ東北四省及内外蒙古ヲ領域トル中和國設立ノ陰謀ヲ以テ宣統帝ヲ推戴シテ立憲君主國タラシムヘク其ノ憲法ハ日本側ニ於テ起草中ナル旨報道セラレタリ

奉天ヨリ吉林ニ転電アリタシ
支、北平、奉天、天津へ転電セリ

57 昭和6年10月1日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

王正廷外交部長の辞職許可について

南京 10月1日前発
本省 10月1日前着

第六一四号(至急)

三十日ノ中央政治會議ハ(一)王正廷ノ外交部長辭職ヲ許可シ

後任ニ施肇基ヲ特任ス(二)張學良ノ稟請ニ基キ閻錫山ノ逮捕令ヲ取消ス旨決議セリ

支、北平、青島、濟南、奉天、天津、廣東へ転電セリ
漢口へ暗送セリ

58 昭和6年10月1日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

張學良の南京到着について

南京 10月1日後着
本省

第六一五号
張學良ハ本一日午後飛行機ニテ來京セリ

在支公使、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ
転電セリ

59 昭和6年10月1日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

李政務次長の外交部長代行について
南京 10月1日前後発
本省 10月2日前着

第六一八号(五七文書)

往電第六一四号ニ閲シ

徐謨ノ談ニ拠レハ施肇基ノ帰國スル迄外交部長ノ職ハ現政務次長李錦綸代理スル由

尚王正廷ハ近ク上海へ赴キ療養スルコトトナリタル趣ナリ
冒頭往電ノ通転電セリ

60 昭和6年10月1日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

張學良南京到着の情報について

南京 10月1日後着
本省

第六一二号(至急)

張學良ハ本一日午後飛行機ニテ來京セリ

アラストノコトナリ
アラストノコトナリ

事項6 国民政府との交渉

冒頭電報ノ通転電セリ

61 昭和6年10月1日
在本邦江中國臨時代理公使宛
幣原外務大臣より

占領地における政権樹立への日本人参加取締

リについて

口上書

帝国外務省ハ在本邦中華民国公使館節略泰字第二五号ヲ受領セリ

今次日本軍ハ自衛措置トシテ一時満州地方ニ於テ日本鉄道付属地外ノ若干ノ地点ヲ占拠シタルカ最近中国側ノ地方的治安維持機關備ハルニ伴ヒ逐次鉄道付属地内ニ集結シツツアルノミナラス此等地点ニ於テハ当初ヨリ軍政ヲ施行シタルコトナク又帝国政府ハ現下ノ時局ニ鑑ミ夙ニ満州ニ於ケル中国人ノ政権樹立ノ策動ニ對シ帝国文武官力何等ノ獎励又ハ支持ヲ与フルコトヲ嚴禁スルト共ニ一切適法ノ手段ヲ尽シテ本邦人力此ノ種ノ策動ニ關与スルコトヲ取締リ居ル次第ナルヲ以テ帝国政府ハ何レノ意味ニ於テモ右中国人ノ策動ニ付何等責任ヲ取ルヘキ地位ニアラス若シ夫レ局地的治安維持機關ノ成立ニ至リテハ満州地方ニ於テ匪賊等跳梁

62 昭和6年10月2日
在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)
北平より南京入りの顧維鈞の満州事変に関する談話要領について

南京 10月2日後発
本省 10月2日後着

第六二二号

顧維鈞ハ一日飛行機ニテ北平ヨリ來京セルカ其新聞記者ニ對スル談話要領左ノ通
世界和平ヲ唱ヘ居ルトキニ當リ日本カ中國ノ天災内乱ニ乘シ我領土ヲ侵シ國際條約ト世界ノ和平ヲ破壊セルニ對シテハ挙国憤激ニ堪ヘス余來京ノ目的ハ個人ノ意見ヲ政府ニ建議シ外交ノ勝利ヲ期セントスルニアリ張副司令ハ満州事件ヲ以テ國家の大問題ナリトシ總テ中央ノ交渉ニ俟ツ意向ニテ中央トハ毎日電報ヲ往復シ居レルカ余ハ二日蔣主席ニ面会一切ヲ報告スル考ナリ日本軍ハ満州各地ニ於テ中国人

63 昭和6年10月(3日) 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

64 昭和6年10月4日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

ヲ煽動シ中和共和獨立國ノ建設ヲ計リ又占領地ノ電信ヲ差押ヘツツアルヲ以テ詳細ナル実情ヲ知リ難シ連盟ハ日本軍ノ撤退ヲ要求セル趣ナルカ其効果ハ今後ノ成行キヲ見サルヘカラス云々

支、北平、奉天、廣東へ転電セリ

63 昭和6年10月(3日) 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

64 昭和6年10月4日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

顧維鈞帰平の事情に關する丁士源の内話について

第三七二号

天津 10月4日後発
本省 10月4日後着

蔣介石ノ召電ニ依リ一日南京ニ赴キタル顧維鈞ハ三日帰平

シタルカ丁士源ノ内話ニ依レハ顧ハ蔣介石及南京側ニ於テ東北問題ニ關シ連俄容共ヲ以テ日本ニ対抗スルコトニ決シタル内情ヲ探知シタル為急遽引揚ケタル次第ナリト
公使ヨリ上海、南京、漢口ニ転電アリタシ
公使、北平、奉天、青島、廣東ニ転電セリ

65 昭和6年10月5日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

満州事変に關する陳友仁の談話について

三十日東京發連合及電通ハ蔣介石ノ特使トシテ齊世英入京シ閣下並朝野名士ト會見セル旨報道シタル處二日南京發中央通信ハ蔣介石及中央政治會議秘書陳立夫ノ談トシテ政府及中央黨部共斯ル代表ヲ派遣シタル事ナク右ハ日本側ノ謠言ナリト否認シタル旨又時事新報ハ張群ノ談トシテ蔣主席ハ齊世英ヲ熟知セザルベシ同人ハ党務観察ノ為九月十八日出發シタルモノニシテ近ク帰國ノ筈ナル旨報セリ

ノ現状ニ際シ同地方ノ治安ノ回復ヲ図リ内外住民ノ安全ヲ加ヘ日本軍ノ付属地集結ヲ容易ナラシムル見地ヨリ帝国政府ノ歓迎シ居ル所ナリ

66 昭和6年10月5日
在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)
満州事変に關する陳友仁の談話について

本省 10月5日後発
廣東 10月6日後着

第四九二号（暗）

往電第四八四号ニ関シ

五日陳友仁本官ニ対シ和平交渉停頓ニ付テモ此際広東政府
カ從来執リ來レル日本トノ親善政策ヲ何トカ物ニスルト同
時ニ之ヲ以テ蔣介石ヲ牽制シタキ存念ニテ汪孫及自分等ニ
於テ折角画策中ナルカ何シロ満州ニ於ケル日本陸軍ノ其後
ノ行動ニモ面白カラサル節鮮カラス為ニ當政府ノ一部ニ相
当自分等ノ方針ニ疑惑ヲ抱ク者ヲ見ルニ至レリトテ左ノ通
内話セリ

一、実ハ一週間前當政府ヨリ滿州ニ於ケル實況視察ノ為派
遣シタルモノカ奉天及各地ヲ調査ノ上天津ニ帰リ同地ヨリ
電報越シタル処ニ依レハ（電報文ヲ談シ聴カセタリ）

〔イ〕奉天ニ於テハ支那側ヨリ九名ノ行政委員ヲ任命シテ市政
ヲ運行シ居ルモ依然日本陸軍監視ノ下ニ行ハレ居ル処日
本軍ハ百五十名ヲ商埠地ニ残シタル外ハ鉄道付属地内ニ
引揚ケ居リ外面平靜ナリ

〔ロ〕吉林モ同様平靜ナルカ日本官憲指導ノ下ニ独立運動行ハ
レ居リ又黒龍江方面ニ於テハ張景惠カ一万四千ノ兵ヲ擁
シテ（六千ハ山間ニ分散セリ）独立政府ヲ宣言シタルカ

66 昭和6年10月5日

在日本邦蔵（作賓）中国公使より
幣原外務大臣宛

日本軍の撤退地域引継について

（訳文）

以書翰啓上致候陳者本月四日本国外交部ヨリ

日本政府代表ハ國際連盟ニ於テ現在各地ニ占拠スル總テ

ノ日本軍隊ハ当ニ速ニ撤退シテ九月十八日以前ノ状態ヲ

回復スヘキコトヲ正式ニ声明シ理事会ノ最終決議ニ於テ

モ亦本月十四日會議再開前ニ於テ日本軍ハ応ニ悉ク撤退

スヘシト称セリ本国政府ハ已ニ本月二日張副司令ニ対シ

東三省ニ於テ各地軍隊ヲ統率スル長官ヲ選任シ日本軍撤

退後ノ各地ノ引継ヲ受ケ且切実ニ責ヲ負ヒテ日本軍ノ破

壊シタル各地ノ治安ヲ回復スヘシト電命シタル處張副司

令ハ既ニ張作相、王樹常ヲ選任シ出向引継カシムルコト

トセリ就テハ出先軍隊ヲシテ我方ノ派遣スル引継長官ト

打合セ必ス本月十四日以前ニ完全ニ処理ヲ了セシムル様

転令方即時日本政府ニ通知シ其ノ結果電報アリタシ

トノ電報接到致候就テハ貴大臣ニ於テ右御了承ノ上転達処

理方御取計相成度尚右ニ対シ一応何分ノ儀御回示相煩度此

之亦全然日本陸軍官憲ノ支持ニ依ルコト明カナリ

二、之ヲ要スルニ東三省ニ於ケル独立運動ノ背後ニハ日本
陸軍ノ策動アルコト否定シ難キコトト存セラル蓋シ國際連
盟理事会ハ本月十四日更ニ満州事件ヲ討議スル筈ナレハ夫
迄ニハ日本兵ヲ全部鉄道付属地内ニ退去シテ國際間ノ疑惑
ヲ払フ必要アル處陸軍カ此儘引下ルニ於テハ自然国民ニ對
シテ面目ヲ失シ其将来ニ於ケル地位全ク失墜スヘキヲ慮リ
無理ナル独立運動ヲ捏上ケタルモノト思考セラル自分カ先
般渡日ノ際得タル印象ニ依ルモ之ヲ想像スルニ難カラス
(右ニ対シテハ更ニ冒頭往電ノ趣旨ヲ繰返シ申聞ケ置キタ
リ)

三、以上ノ事態ハ畢竟スルニ蔣張ノ無策ニシテ漫然満州ノ
原状ヲ回復セントスル淺見ヨリ來ル当然ノ結果ナル處予テ
御話申上ケタル當政府ノ方針即チ近代的基礎ニ依ル模範政
府ヲ新設セントスル自分等ノ考ニ執リテハ寔ニ心苦シキ事
実ニシテ之力為當政府部内ニ迄漸次日本ニ対シテ疑惑ヲ増
スコトナキヤヲ惧ルル次第ナリ

支ヨリ上海ヘ奉天ヨリ吉林ヘ轉報アリタシ
支、北平、奉天、天津、南京、哈爾賓ヘ轉電セリ

段照会得貴意候

中華民国二十年十月五日

敬具

67 昭和6年10月6日

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

張公權の排日運動取締に関する船津への内話

について

上海 10月6日後發
本省 10月7日前着

第一〇九六号（極秘）

（部外絶対秘）

予テ満州視察中ナリシ張公權ハ數日前当地ニ帰来シタルカ
上海ヲ中心トスル日民両國側ノ險惡ナル空氣ヲ見此儘ニ放
任スル時ハ遂ニハ由々シキ結果ヲ生スヘシト考ヘ私カニ張
群李石曾其他當地在住ノ最主ナル人々ヲ會合シ先ツ第一ニ
政府及党部ヲシテ排日運動ヲ取締ラシメテ空氣ヲ緩和スル
ノ必要ヲ説キ結局政府側ハ張群党部側ハ李石曾ニ於テ之カ
斡旋ニ当ルコトナレリ右ハ張公權力船（津）ニ内話シタ
ル處ニシテ時局柄本使以外ニハ何人ニモ洩ササル様伝言シ

68 昭和6年10月6日

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)満州事変および中国内政問題等に関する袁良
との会談について

第一〇九七号(暗)

六日袁良本使ヲ來訪シ(袁良ハ共匪討伐ノ為蔣介石ニ招かれ江西ニ赴キ江西全省ノ警察権ヲ担任シ居リ五日南昌ヨリ飛行機ニテ上海ニ帰来セリ其目的ハ親ノ葬儀ニ列席スル為ナリト称シ居レリ本使來訪前五日杭州ヨリ帰来セル黃郛及張群トモ會見セル模様ナリ)種々内部ノ事情ヲ説明シ特ニ廣東トノ妥協困難ナルコトヲ述ヘタル後満州事件ニ關シテハ如何ニ处置スヘキヤ見込立タサル模様ナルカ自分トシテハ此際日民双方ノ為役立チ得レハ幸ナリト語リ本使ノ意向ヲ知リタシトノコトナリシニ付(同人ハ日本側ノ態度ヲ探ルカ目的ナリシカト思考セラル)

本使ヨリ当面ノ問題タル満州事件ニ關シテハ日本政府ニ於

上海 10月6日後発
本省 10月7日前着

六日袁良本使ヲ來訪シ(袁良ハ共匪討伐ノ為蔣介石ニ招かれ江西ニ赴キ江西全省ノ警察権ヲ担任シ居リ五日南昌ヨリ飛行機ニテ上海ニ帰来セリ其目的ハ親ノ葬儀ニ列席スル為ナリト称シ居レリ本使來訪前五日杭州ヨリ帰来セル黃郛及張群トモ會見セル模様ナリ)種々内部ノ事情ヲ説明シ特ニ廣東トノ妥協困難ナルコトヲ述ヘタル後満州事件ニ關シテハ如何ニ处置スヘキヤ見込立タサル模様ナルカ自分トシテハ此際日民双方ノ為役立チ得レハ幸ナリト語リ本使ノ意向ヲ知リタシトノコトナリシニ付(同人ハ日本側ノ態度ヲ探ルカ目的ナリシカト思考セラル)

更ニ全国排日運動ニ對シテハ日本ノ上下挙ツテ激昂シ之ニ對シテハ我方トシテハ飽迄其取締ヲ要求セサルヘカラサル立場ニアルコトヲ敷衍説明シ置ケリ尚日本側ハ何人カ民国中央地方ノ政権ヲ握ルモ常ニ傍観ノ態度ヲ執ルヘキカ無論

蔣主席宋部長ノ如キハ支那當代一流ノ人物トシテ日本側ニ於テモ素ヨリ好感ヲ有スル者鮮カラサル次第ヲモ付言セリ尚袁ハ南京ニ赴キ一両日中三帰滬本使ヲ來訪ノ筈ナリ上海へ転報シ奉天、北平、南京へ転電セリ

69 昭和6年10月6日

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)中國の政治情勢ならびに満州問題に関して日
本の採るべき態度について上海 10月6日後発
本省 10月7日前着

第一〇九八号(暗、極秘)

(1) 広東トノ妥協ハ蔣介石ノ主席辭退、財政部長ノ地位等ノ問題ヲ繞リテ容易ニ解決シ難キ模様ナリ蔣介石ハ仮令主席ノ地位ハ退クトモ軍ノ実權丈ハ把握シ事實上政府ヲ左右

スルノ地位ニ立タントシ居ル一方浙江財閥ノ中心トナリ居ル宋子文ヲ手放スコトモ出來難キノミナラス之ニ代ルヘキ

人物モナキ關係上結局蔣介石及浙江閥カ全然政府ヲ退キテ之ヲ明渡スカ(此場合ハ中心勢力ハ左傾ス)又ハ妥協出来スシテ現状ノ儘推移スルコトナルカ又仮リニ妥協成立シ

合体政府ヲ形造ル場合ニ於テモ廣東浙江兩派ノ政治上經濟上ノ対立ハ到底之カ永続ヲ許ササル狀態ナルヤニ認メラル加之北方ニ於テハ満州事件ノ為張學良カ殆ト致命的ノ打撃ヲ受ケ其将来モ危マレ居ル狀態ニテ旁民国側諸方面ニ於テ

テモ成ルヘク事件ヲ局限シテ取扱ハントシ目下治安ノ許ス限リ鐵道付屬地ニ軍隊ヲ引揚ケ居レル次第ナルカ數年前ノ日本政府声明ノ通日本ハ満州ノ治安ニ付重大ナル責任ヲ有シ居ル訳ナレハ治安ヲ欠ク狀態ニ放任スルコト能ハサルコト次ニ今回ノ事件ヲ導キタル満州問題多年ノ懸案ヲ一掃スル為日本ハ何時ニテモ民國側ト交渉スル用意アリヤ否ヤノ見定メ付カス日本カ如何ニ満州問題ヲ重視シ居ルヤハ民國側ニ於テモ充分承知ノ筈ナルヲ以テ日本ノ立場ヲ尊重シ交渉ニ応スルコト肝要ナルヘキコト

更ニ全國排日運動ニ對シテハ日本ノ上下挙ツテ激昂シ之ニ對シテハ我方トシテハ飽迄其取締ヲ要求セサルヘカラサル立場ニアルコトヲ敷衍説明シ置ケリ尚日本側ハ何人カ民国中央地方ノ政権ヲ握ルモ常ニ傍観ノ態度ヲ執ルヘキカ無論蔣主席宋部長ノ如キハ支那當代一流ノ人物トシテ日本側ニ於テモ素ヨリ好感ヲ有スル者鮮カラサル次第ヲモ付言セリ尚袁ハ南京ニ赴キ一両日中三帰滬本使ヲ來訪ノ筈ナリ上海へ転報シ奉天、北平、南京へ転電セリ

モ時局ノ将来ニ對スル見極メハ容易ニ付カサル模様ナリ右ノ状勢ニ加ヘ民國側トシテハ日本側ノ強硬ナル輿論及其外部ニ現ハレタル軍艦増派等ノ態度ニ依リ非常ニ不安ニ滿チ居ル有様ニテ現在ノ處実力ヲ以テ満州事件處理ノ責任ヲ執ランツルモノハ無キ模様ニテ民國側ハ日本軍ノ撤兵等ニ付テ更ニ連盟及米國ニ訴へ例ニ依リ宣伝ノ力ヲ以テ何トカシテ世界ノ輿論ヲ動かサンコトニ全力ヲ注キ居レリ(若シ国際連盟等第三國ニシテ賴ムニ足ラサルコト明カトナリタル場合ハ或ハ左傾的分子ノ勢力増大シ露國トノ連絡及利用ヲ策スルモノヲ増加スヘシ)

二、右ノ形勢ニ顧ミルモ我方トシテハ世界ニ對シ我立場ヲ確立スル点ニ主力ヲ注クヲ要スヘク満州問題ニ對スル民國側ノ抗議ニ對シ又排日運動ニ對シ我方ノ明瞭且確乎タル意思表示ヲ以テ事態ヲ詳細明確ニシ民國側ノ宣伝ニ對抗スルト共ニ漸次增加セントスル列国会議開催ノ空氣ヲ排シ第三者ヲシテ容喙ノ余地ナカラシムルコトニ努ムルヲ要スヘシ尚満州ニ對スル日本ノ態度ニ付テハ我方ニ領土の野心ナキコトカ消極的ニ明カトナリ居ル以外同方面ニ對シ如何ナル要求ヲ有スルヤノ点ハ未タ一般ニ明瞭トナリ居ラス我方ハ

国際事件ニ関スル法則及理論ノ規則ニ従フヘキヤ又ハ結果ヲ顧ミスシテ過激ナル方法ニ出ツヘキヤノ岐路ニ立テリ民國カ其何レニ従フヘキヤノ決定及其決定ニ對スル責任ハ主トシテ平和維持ヲ目的トスル規約ニ對スル軍事的侵害ニ依リ其理想及利益カ甚シク脅カサルル各國ノ態度及報道ノ如何ニ拘ハラス軍備縮小モ奮力ヲ獎励セラレテハ幻影ニ帰スヘク商業ノ繁榮ヲ回復セントスルモ亞細亞ニ紛争アル限り困難ナルヘン現在ノ問題ハ單ニ日本及民國ニ閏スルノミニアラス右ハ軍事的封建思想ト「デモクラシー」トノ争ナリ國際紛争ノ平和的處理ヲ支援スルモノハ嚴肅ナル國際規約ノ遵守ヲ主張シ之ヲ守ラサル場合ハ制裁ヲ適用シ以テ日本民衆ヲ覺醒セシメ軍部ノ專横ヲ止メシムルノ義務アリ云々」委細郵報

在米大使ニ転電アリタシ
北平、奉天ニ転電シ上海、南京ニ郵報セリ

73 昭和6年10月8日 懿原外務大臣より
在上海重光公使宛（電報）
軍艦天竜および常磐の上海派遣について
第四一九号 至急

74 昭和6年10月9日 閱議決定
日本軍の撤兵前に根本的大綱の協議を先決とする方針決定について
昭和六年十月九日閣議決定
同日上奏済

一、九月十八日夜半奉天付近ニ於ケル日華両國軍隊ノ衝突以来日本軍隊カ満鉄全線ニ亘ツテ行動ヲ開始シタルハ其四辺ニ優勢ナル中國軍隊ノ駐屯セルニ顧ミ機先ヲ制シテ脅威ヲ除カムトセルカ為ニ外ナラス當時中國軍隊ハ無抵護ニ遺憾ナキヲ期スル為メニシテ何等支那側ヲ刺戟スル如キ意図ナキコト勿論ニシテ從テ支那側ニシテ排日取締ヲ勵行スルニ於テハ之カ揚陸ノ必要モ生セサル次第ナルニ付右ノ次第篤ト国民政府側ニ説明シ排日取締方御督励アリタシ普通情報通り転電アリ度

抗主義ヲ声明セルニ拘ラス事實ニ於テハ隨所ニ抵抗ヲ試ミ日本軍隊ニ多數ノ死傷者ヲ生スルニ至レリ

二、今回中国政府ハ張作相、王樹常二將軍ニ命シ帝國軍事官憲ト会同接洽ノ上現ニ満鉄付屬地外數ヶ所ノ地点ニ出動スル日本軍隊ノ右地点撤退後各地ニ於ケル治安維持ノ任務ヲ引繼カシメムコトヲ提議セラレタルモ今直ニ中国軍隊カ各地ニ武装集結セラルルニ於テハ仮令其目的カ單ニ地方治安ノ維持ニ在リトルモ日本軍隊トシテハ過般事件ノ突発セル当初ノ情態ニ於ケルト同様再ヒ重大ナル脅威ヲ感セサルヲ得ス殊ニ最近日華両國間ノ国民的感情ノ著シク興奮セルニ際シ両國軍隊衝突ノ危険更ニ大ナルモノアルヘシ

三、帝国政府ノ所見ヲ以テスレハ目下最先ノ急務ハ日華双方協力シテ国民的感情ノ緩和ヲ圖ルニ在リ之カ為ニハ速ニ両國間ニ於テ平常關係確立ノ基礎タルヘキ數点ノ大綱ヲ協定スルコトヲ要ス右大綱ノ協定ヲ了シ従テ国民的感情ノ緩和ヲ見ルニ至ラハ日本軍隊ハ茲ニ安ンシテ全部満鉄付屬地内ニ帰還スルコトヲ得ヘク同時ニ各地ニ於ケル治安維持ノ任務引繼ハ容易ニ且円滑ニ行ハルヘシ

四、中国政府ハ東北諸省内ノ何地ニ於ケルヲ問ハス居住又ハ旅行シテ商業、工業、農業其他ノ平和的業務ニ從事ス

ル日本國臣民ニ対シ其活動力公ノ秩序及安寧ヲ害スルカ如キ性質ヲ有セサル限り適當且有効ナル保護ヲフルコトヲ約ス

五、日本国政府及中国政府ハ兩国鉄道系統相互ノ關係ニ於テ友好的協力ヲ増進シ且破壊的競争ヲ防止セムカ為メ並ニ東北諸省内ノ鉄道ニ關シテ日本国及中国間ニ現存スル条約ノ規定ヲ実行セムカ為必要ナル協定ヲ南滿州鉄道会社ト東北諸省ノ関係官庁トノ間ニ遲滞ナク締結セシム

ヘシ

75 昭和6年10月9日 在上海村井總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

中央政治會議特殊外交委員会の満州事変に關する宣言書について

第六一八号

上海 10月9日後發
本省 10月9日後着

八日南京電報ニ依レハ中央政治會議特殊外交委員会ハ特ニ顏惠慶、羅文幹、劉哲、陳紹寬等ヲ委員ニ加へ満州事件ニ對スル対日交渉方針ヲ協議セル結果近日中ニ世界各国ニ告

地ニ於ケル反日会ハ日本商品ノ売買及運輸禁止ハ勿論既存契約ノ破棄其ノ他日本人トノ各種取引ノ禁止、日本人トノ雇傭關係ノ禁止等所謂対日経済絶交ヲ決定シ且検査、抑留、脅迫、暴行等種々ノ手段ヲ以テ之カ実行ヲ強制シ右実行ヲ肯セサル者ニ対シテハ厳峻ナル制裁ヲ課スルノミナラス甚タシキハ銃殺ニ処スヘキコトヲ決議セルモノアリ尚本邦人所有貨物ニ付テモ掠奪抑留ノ挙ニ出テ本邦人ノ生命財産ニ対スル暴行迫害ハ到ル處ニ続出シ中國ノ各地方ニ亘リテ本邦居留民ハ全部又ハ一部撤退ノ已ムナキニ至レリ

二、抑モ中国ニ於ケル排日運動ハ同国特有ノ政治組織ニ顧ミ政府ト其ノ職能ヲ分ツコト困難ナル党部ノ直接間接ノ指導ノ下ニ国策遂行ノ手段トシテ行ハルモノニシテ統制ナキ個人ノ自由意思ニ基クモノト同一視スヘキニアラ

スルニ如キ行動ハ日華間現存条約ノ規定及精神ニ背馳スルノミナラス正義友好ノ觀念ニ反シ武力ニ依ラサル敵対行為ヲ意味スルコト明瞭ニシテ中国政府力直ニ之ヲ控制重大ナルヲ信ス殊ニ私的團体タルニ過キサル反日会カ

クルノ宣言書ヲ發表スルニ決シタルカ右宣言書ノ内容ハ中國カ連盟ノ議決セル日本軍ノ撤退期間中ニ即チ十四日ノ會議再開期迄如何ニ隱忍自重シテ連盟ノ決議ヲ忠実ニ守リ來リタルカヲ世界ニ宣示シ且ツ連盟ニ対シ會議再開ノ際日本軍ノ中国ニ於ケル軍事行動ノ拡大及中国主權ノ侵害ニ対シ最後的処置ヲ決定セラレンコトヲ望メルモノナル趣ナリ

公使ヘ転電シ奉天、南京、北平ヘ転電セリ

76 昭和6年10月9日 在中国重光公使より

国民政府李(錦綸)外交部代理部務宛

中国各地における組織的排日運動と国民政府の責任について

一、今次ノ満州事件ハ中国ニ於ケル多年ノ排日思想力我軍隊ニ対スル挑発的態度トナリ我軍ニ於テ自衛措置ヲ執リタルモノナルコト帝国政府ノ夙ニ声明セル所ニシテ中国政府カ此ノ事態ニ付当然其ノ責ニ任スヘキモノナルコト疑フ容レス帝国政府ハ從来中国各地ニ於ケル組織的排日運動ニ關シ累次之力取締ヲ中国政府ニ要求セルト共ニ常ニ両国ノ親交ヲ念トシ隱忍自制以テ事態ノ改善ヲ期待シ来リタル處今ヤ右運動ハ益激甚ヲ加ヘ現ニ上海其ノ他各

人ニ対シ刑罰ヲ課スルカ如キハ明カニ自國國家ノ權力ヲ否認スルモノト云ハサルヘカラス

三、將又過般連盟理事会ニ於テ中国代表ハ帝国代表ト共ニ事態拡大防止ニ關スル保障ヲ与ヘタリ今排日團體カ中國各地ニ於テ帝国臣民ノ通商ノ自由及生命財產ノ安固ヲ脅威シ中央政府亦之ヲ控制スルノ誠意ヲ示サス少クトモ事実ニ於テ有効ノ取締手段ヲ執ラサルハ右ノ保障ニ反シ事態ヲ拡大スルモノト認メサルヲ得ス

四、仍テ帝国政府ハ茲ニ改メテ前頭排日團體ノ行動ニ付中國政府ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルト共ニ中国政府ニ於テ日貨排斥運動ノ取締並本邦人生命財產及利益保護ノ義務ヲ全ウセサルニ於テハ之ニ基ク一切ノ責任ハ同政府自身ニ於テ之ヲ負担スヘキモノナルコトヲ声明ス

77 昭和6年10月9日 在本邦蔣中國公使宛

日本軍の原駐地域への撤退と大綱協定成立との関連について

以書翰啓上致候陳者本年十月五日付貴翰泰字第五一号ヲ以テ御申越ノ趣閲悉致候然ル處右貴翰前段中『日本政府代表

ハ國際連盟ニ於テ現在各地ニ占拠スル總テノ日本軍隊ハ当ニ速ニ撤退シテ九月十八日以前ノ状態ニ回復スヘキコトヲ正式ニ声明シ理事会ノ最終決議ニ於テモ亦本月十四日會議再開前ニ於テ日本軍ハ応ニ悉ク撤退スヘシト称セリ』トノ趣旨記述シアル處日本軍ノ付属地内復帰カ我力鉄道ノ安全及ヒ満州ニ於ケル帝国臣民ノ生命財産ノ安固確保ヲ前提トスルモノナルコト連盟ニ於ケル帝国代表ノ累次声明シタル所ニ有之又九月三十日理事会決議中ニハ前記ノ如ク本月十

四日理事会再開以前ニ日本軍ヲ撤退スヘキコトヲ定メ居ラサル次第ニ有之候将又貴翰後段記述ノ事項ニ関連シ帝国政府ノ所見左ノ通り開示致候条御了承相成度候

一、九月十八日夜半奉天付近ニ於ケル日華両国軍隊ノ衝突以来日本軍隊カ満鉄全線ニ亘ツテ行動ヲ開始シタルハ其ノ四辺ニ優勢ナル中国軍隊ノ駐屯セルニ顧ミ機先ヲ制シテ脅威ヲ除カムトセルカ為ニ外ナラス當時中国軍隊ハ無抵抗主義ヲ声明セルニ拘ハラス事実ニ於テハ隨所ニ抵抗ヲ試ミ日本軍隊ニ多數ノ死傷者ヲ生スルニ至レリ

二、今回中国政府ハ張作相、王樹常二將軍ニ命シ帝国軍事官憲ト会同接洽ノ上現ニ満鉄付属地外數ヶ所ノ地点ニ出

動スル日本軍隊ノ右地点撤退後各地ニ於ケル治安維持ノ任務ヲ引継カシメムコトヲ提議セラレタルモ今直ニ中国軍隊カ各地ニ武装集結セラルニ於テハ仮令其ノ目的力單ニ地方治安ノ維持ニ在リタルモ日本軍隊トシテハ過般事件ノ突発セル当初ノ情態ニ於ケルト同様再ヒ重大ナル脅威ヲ感セサルヲ得ス殊ニ最近日華両国間ノ国民的情ノ著シク興奮セルニ際シ両國軍衝突ノ危険更ニ大ナルモノアルヘシ

三、帝国政府ノ所見ヲ以テスレハ目下最先ノ急務ハ日華双方協力シテ国民的感情ノ緩和ヲ図ルニ在リ之カ為ニハ速ニ両国間ニ於テ平常關係確立ノ基礎タルヘキ数点ノ大綱ヲ協定スルコトヲ要ス右大綱ノ協定ヲ了シ從テ国民的感情ノ緩和ヲ見ルニ至ラハ日本軍隊ハ茲ニ安ンシテ全部満鉄付属地内ニ帰還スルコトヲ得ヘク同時ニ各地ニ於ケル治安維持ノ任務引継ハ容易ニ且円滑ニ行ハルヘシ

四、帝国政府ハ前頭根本の大綱ノ協定ニ付責任アル中国代表者ト直ニ会商ヲ開始スルノ用意ヲ有ス

昭和六年十月九日

78 昭和6年10月10日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

在留外国人保護に関する国民政府命令について

第六二八号 上海 10月10日後発 本省 10月10日後着

第六四一号(略)

国民政府ハ八日付ヲ以テ大要左ノ通布告セリ

日本軍ノ満州各地占領後政府ハ連盟規約及不戦条約ヲ尊重スル為事件ヲ連盟ニ提出シ其決議ニ基キ東北辺防軍司令長官ニ対シ至急責任者ヲ派シ日本兵撤退後ノ各地ヲ接收シ切実ニ治安ヲ恢復シ人民ヲ慰撫スルト共ニ在留外人生命財産ノ保護ニ當ルヘキ旨命令ヲ發シ又總司令部ハ中央軍官学校ニ対シ首都衛戍司令部及警察(署)長ハ南京市民ニ対シ夫々同趣旨ノ命令ヲ發出セル趣報道シ居レリ

支、奉天、南京へ転報セリ

79 昭和6年10月10日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍撤兵後の満州各地に於ける治安回復等

に關する国民政府布告について

南京 10月10日後発

支、奉天、南京へ転報セリ
支ヨリ上海へ転報アリタシ
支ヨリ吉林へ転電ヲ請フ
支、北平、奉天、天津、哈爾賓、吉林へ転電セリ

80 昭和6年10月(10)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)
双十節における南京各団体の抗日決意表明について

シ

第六四四号 本省 南京 10月10日後着

双十節ニ際シ發表セラレタル重ナル団体ノ「国民ニ告クルノ書」ノ要領左ノ通

一、中央宣伝部

中国ノ天災赤化ニ乘シ東北ヲ占領シ同胞ヲ殺戮セル日本帝国主義者ニ対抗セサレハ国家民族ノ独立生存ヲ期シ難

シ二、首都各界抗日救国会

亞細亞ヲ併呑シ中國民族ヲ滅亡セシメムトスル日本ニ対シ(一)消極的ニハ日貨ノ永久抵制日本人ノ為ニ仕事ヲセス日本人ヲ傭ハス日本銀行ニ預金セス日本人ニ食料ヲ供給セサル事(二)積極的ニハ全國民衆ハ速ニ義勇軍ニ参加シ一挙ニ決戦スヘシ

三、留日同学抗日救国会

日本ハ満蒙ヲ第一ノ朝鮮トシ中國全部ヲ併呑セントス国民ハ一致團結日本ト決戦シ永久經濟絶交ヲナシ國貨ヲ提唱シ最後ノ勝利ヲ期セサルヘカラス

支へ転報セリ

上海、北平、奉天、天津、濟南、青島、漢口、廣東へ転電セリ

81 昭和6年10月(11)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)
在留外国人保護に関する国民政府の通達について

シ

第六四五号 本省 南京 10月11日前着

新聞報道ニ依レハ国民政府ハ九日各機關ニ対シ大要左ノ如ク通電セル趣ナリ

外患突然起リ政府ハ全責任ヲ以テ外交ヲ処理スヘシ國際連盟ハ期間ヲ限り撤兵スル案ヲ議決シ今尚其期間中ナルヲ以テ凡ソ國民ハ特ニ冷静ニ秩序ヲ守リ在留外人ノ生命財産ヲ保護シ嚴重反動ヲ防キ同時ニ水災(救護)ニ一段ト努力ス

ヘキナリ云々

在支公使ヘ転報シ奉天、上海、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ転電セリ

82 昭和6年10月11日 裁原外務大臣より
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

日本軍の撤退地域引継に關する中國側の申出

について

別電 同日幣原外相より沢田連盟事務局長宛合第八六

六号一〇月一日付中国政府外交部公文

合第八六五号(暗)

往電第一二三号ニ関シ

在本邦中國公使ヨリ重ネテ本十一日付公文ヲ以テ別電合第

八六六号要領ノ通申越アリタルカ右ニ対シテハ我方態度ハ

九日付回答(往電第一二五号)ニテ承知アリタキ旨回答ノ

筈ナリ

別電ト共ニ在米大使ニ転電アリタ

シ

別電ト共ニ在米大使ニ転電セリ

83 昭和6年10月12日 在漢口須賀(彦次郎)武官より
小林海軍次官他宛(電報)
蔣介石の対日方針に關する何成瀬の内話について

10月12日後3時50分着

10月12日後5時30分着

左記ハ信スベキ要人談ニシテ現状ニ照シ疑ハシキモ或ハ排日取締ハ日支交渉ノ交換条件ノ意味ナランカ

蔣介石ノ秘密會議ニ参加シ九日帰漢セシ何成濬談

一、此ノ會議ニテ対日方針ハ

「日本ノ滿蒙既得権一切承認、張學良ノ地位ヲ犠牲ニシ

北平天津ヲ閻錫山ニ譲リ、日貨排斥運動ヲ嚴重取締ル」

事ニ確定ス若尚妥協成ラザレバ更ニ一步ヲ譲リ唯蔣ノ位

置確保ニ勉ム

二、(不明)ニ際シ東支鐵道ヲ犠牲ニシ米國又ハ露國ト提

携スヘシト主張スルモノアリシモ前者ハ時機切迫成功ヲ

期シ難ク後者ハ必ズ國際ノ同情ト人民ノ輿論ヲ失フベ

シ、徹夜討議上記ノ結論ニ達セリ

三、現在ノ反日運動ハ共產党混入ヲ保シ難ク萬一事端發生

セバ上海南京ハ奉天ノ二ノ舞トナルニ過キザル故一方連

日各省當局宛極力日本人ヲ保護セヨト電命シ他方同地方

ニアル軍用品全部ヲ洛陽、鞏県ニ郵送シ万一二備フ

(編注) 本電報は、小林海軍次官のほかに「次長、馬要、二

遣司令官、嵯峨艦長」に発電された。

84 昭和6年10月13日 在南京重光公使より

幣原外務大臣宛(電報)

孔祥熙日中直接交渉に言及について

第一一三四号(暗)

十三日朝孔祥熙來訪私的訪問トノ建前ナリシカ彼ハ其際日本軍人ノ行動ヲ非難シ錦州爆弾投下ノ如ク日本政府ハ軍部ニ対シ「コントロール」ナキ様ナリト云ヒ又

85 昭和6年10月13日 在南京重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

孔祥熙の日本軍人非難について

第一一三四号(暗)

十三日朝孔祥熙來訪私的訪問トノ建前ナリシカ彼ハ其際日本軍人ノ行動ヲ非難シ錦州爆弾投下ノ如ク日本政府ハ軍部ニ対シ「コントロール」ナキ様ナリト云ヒ又

排日運動ニ對シテハ民国政府ハ非常ノ努力ヲ以テ之ヲ制シ居ル次第ナルカ右ハ原因タル滿州事件ノ解決ニ依リテ平靜ニ復スヘキモノナリ

等ノ意見ヲ洩シタリ

本官ハ右ニ對シ

出先キ軍人力其職務ノ範囲ニテ行フコトニ對シ政府ニ於テ

一々「コントロール」ナキハ當然ナルモ凡テノ軍ノ行動ニ付キテハ當然政府トシテ責ニ任シ又完全ナル「コントロー

ル」ヲ有スル次第ニテ今回ノ事件モ其因ツテ來ルヘキ複雜

ナル背景及日本國民ノ感情ヲ充分ニ觀察スルヲ要ス自分ハ

今日ノ實際ニ處スル方法トシテハ将来ニ向ツテ突發事件ノ

起ラサル様ニシ空氣ノ改善ヲ計リツツ過去ノ事件ノ處理ニ

努力スルノ方針ニ依ルヲ適當ト信ス此上支那本部特ニ長江

筋ニ事件ノ發生スル時ハ取返シノ付カサルコトトナルヘキ

ニ付此上トモ排日運動ノ取締リヲ嚴重ニスルコトノ急務ナ

ルヲ説キ排日運動ノ不取締ニ依リテ日本政府ノ忍耐ヲ破ラ

サル様勸説シ置キタリ

連盟事務局長、米、北平、奉天ニ転電シ南京、上海ニ転報セリ

南京 10月13日前發
本省 10月13日後着

第一一三三号(暗、至急)

十三日孔祥熙本使ヲ來訪シタルカ其際ノ談話中滿州事件ニ付テハ日民両國間ニ交渉ヲ開始シ纏マラサルニ於テハ「アービトレイション」又ハ國際裁判所ニ依リテ決スル方法モアリ

トノ一節アリ右ハ連盟理事会ニ對スル民國代表ノ提案若ハ日本側ニ對スル作戰ナルヘキ印象ヲ得タリ

転電先、北平、奉天、在米大使、連盟(巴里)
ト

トノ一節アリ右ハ連盟理事會ニ對スル民國代表ノ提案若ハ日本側ニ對スル作戰ナルヘキ印象ヲ得タリ

ト付テハ日民両國間ニ交渉ヲ開始シ纏マラサルニ於テハ「アービトレイション」又ハ國際裁判所ニ依リテ決スル方法モアリ

トノ一節アリ右ハ連盟理事會ニ對スル民國代表ノ提案若ハ日本側ニ對スル作戰ナルヘキ印象ヲ得タリ

ト付テハ日民両國間ニ交渉ヲ開始シ纏マラサルニ於テハ「アービトレイション」又ハ國際裁判所ニ依リテ決スル方法モアリ

本使ハ排日ヲ取締リテ空氣ヲ緩和セサレハ満州問題ノ如キハ交渉ニ入りテモ実績ヲ挙ケ得サルヘシ撤兵ノ如キハ治安維持ノ方法ノ講セラレテ始メテ行ハルヘキモノニシテ济南事件ノ時ハ撤兵延期ヲ民国側ヨリ要求セルニ非スヤトノ趣旨ヲ述ヘ置キタリ

齊世英氏ハ張學良ハ軍部ニ於テ絶対反対ナリトノコトナル
カ如何トノコトナリシニ付日本ハ主義トシテ内政不干渉ナ
リト答ヘ置キタリ齊ハ政府ヨリ我方ノ態度ヲ探ル目的ヲ有
シタルコト明カナリ

連盟及在米大使ヨリ適當ニ夫々転電ヲ請フ

87 昭和6年10月13日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

拂田抗議にたいする國政府の回答を容に

二
上
海
省
本
部

十二日南京發路透ハ十二日夕政府發表ニ依レハ日本ノ排日
第六四九号⁽¹⁾

六、国民政府ハ極力国民ノ感情抑制ニ努メ居ルニ拘ラス日
本飛行機ハ錦州爆撃ヲ行ヒ事態ハ日本ノ挑戦的行為ニ依
リ拡大セラレタリ国民政府ハ日本自身ノ誤マレル政策ノ
結果ニ対シ責任ヲ負フヲ得ス

七、日本ノ挑戦的行為ニモ拘ラズ中国ハ在華日本人ノ生命財産保護ヲ継続スヘシ然レ共若シ日本カ戰争ヲ國策遂行ノ手段トシテ使用スル事ヲ継続スルニ於テハ日本ハ右政策ノ結果ニ対シ責任ヲ負フヘキナリ

公使へ転報シ、北平、奉天、南京へ転電セリ

昭和6年10月13日 在漢口坂根(準三)総領事より

南京時局対策会議の討議内容に関する何成濬の談話について

第七一六号 漢口 本省 10月13日前着

確カナル筋ヨリ聞ク處ニ依レハ九日朝南京ヨリ帰漢セル何成濬ハ昵懇者ニ左記要領ノ内話ヲナセル趣ナリ

透ノ某要人ヨリ聞知スル所ニ依レハ其ノ内容ハ左記七点ヨリナリ右ハ頗惠慶ノ提案ニ懸リ外交委員会ノ修正ヲ經タル上十二日ノ中央政治會議ヲ通過シタル旨報道シ居リ

一、日本ノ満州侵略ハ國際義務ノ違反ニシテ日本軍隊ノ行動ハ戰争狀態ヲ構成シ又日本軍ハ戰時ニ於テスラ為サレスル暴行ヲ敢テセリ

二、日支兩國共ニ國際連盟ノ一員ニシテ且ツ不戰條約調印國タルヲ以て平和的手段ニ依リ紛争解決ノ義務アルニ日本ハ連盟ノ撤兵要求ニ從ハス

三、国民政府ハ日本ニ武力抵抗ヲ行ハス常ニ國民ノ感情ヲ抑制シ在支日本人ノ生命財產保護ニ全力ヲ尽シ以テ連盟ニ對スル声明ヲ守レリ

四、国民政府ハ連盟ノ決定ニ基キ占領地域接收ノ為代表者ヲ任命シタルモ日本ハ連盟ニ於ケル声明通リニ撤兵ヲ行ハス

五、中國ニ於ケル日貨ノ不評ハ日本政府ノ非友好的行為ニ原因スルモノニシテ中国政府ハ國民ノ物品購買ニ對スル自由ニ干涉スルヲ得ス

ニ列席ノ為ニシテ同會議ニ於テ対日方針ニ付テハ一二ノ者ヨリ日本ヲ牽制スル為東支鐵道ヲ米國ニ譲渡シテ同國ト連繫ヲ計ルコト又ハ同鐵道ヲ犠牲トシ「ソ」連ト連繫シ容共政策ヲ執ルコト等ノ意見モ出テシカ前者ハ時局切迫セル此際ノ間ニ合ハス後者ハ各國ノ同情ヲ失シ民意ニモ反スルモノナリトテ何レモ決議ニ至ラス結局日本ノ満蒙ニ於ケル一切ノ既得権ヲ承認シ日貨排斥運動ヲ取締リ尚張學良ノ地位ヲ犠牲ニシテ京津地方ヲ閻ニ明ヶ渡サシムルコトトシ右ニテ日本ト妥協ヲ計リ尚困難ナル場合ハ更ニ讓歩シテモ此ノ際ハ蔣介石ノ地位ヲ維持スルコトニ決定シ之ト共ニ目下各地ニ於ケル反日運動ハ共產党其他ノ反動分子ノ乗スル処トナル虞アルノミナラス萬一事端ヲ惹起スル時ハ上海、南京等ニ於テモ直ニ満州ノ二ノ舞ヲ演スルニ至ルハ必然ナルヲ以テ速ニ各省當局ニ対シ在留邦人ノ嚴重保護方ヲ電命スルコトトナリ（武漢行營ハ十日夜總司令部ヨリ此趣旨ノ密電ニ接セリ）又万ノ場合ヲ顧慮シ南京上海ノ軍用品ハ成ルヘク速ニ洛陽方面ニ移送スルコトセリ右聞込ノ儘御参考迄公使ヨリ上海、南京へ轉報シ北平、奉天、天津、廣東、濟南へ転電ヲ請フ

支へ転電セリ

昭和6年10月14日

在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛(電報)

蒋介石・張學良の日中直接交渉意図に関する

情報について

第五五〇号(暗)

十四日廖楚洲ノ情報

滿州事件ノ善後措置ニ関シ蔣介石及張學良ハ当初國際連盟ノ調停ヲ予期シ居タルモ最近漸ク其頼ムヘカラサルヲ感知シ又相互ニ自己ノ将来ニ於ケル地位保存ノ為ニモ直接交渉ノ有利ナルヲ覺リタルモノ如ク過般中央ニ於テモ張ニ命シ張作相王樹常二人ヲ接收委員ニ任命(往電第五一八号參照)セル程ニテ只管日本側カ之ト直接交渉ノ端緒ヲ開クカ又ハ駐日蔣公使ヲ直接交渉ノ任ニ當ラシメタキ希望ヲ有シ居リ其何レニスルモ支那側ヨリ交渉ノ口ヲ切ルコト無ク何等力日本側ヨリノ意思表示ヲ待チテ交渉ニ応セントシツツアル模様ナリ

公使、南京、廣東、天津、奉天へ転電セリ

昭和6年10月14日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府紀念週における蔣主席の演説要旨について

第六四八号

十二日国民政府紀念週ニ於ケル蔣介石ノ演説要領左ノ通九月三十日連盟ハ日本ニ對シ二週間内ニ撤兵方決議通告セルカ日本ハ今尚撤兵ノ準備ヲ為ササル而已ナラス其軍事行動ハ益々積極的トナリ本月八日ニハ遼寧臨時省政府ノ所在地タル錦州ヲ爆撃シ我人民ノ生命財産ニ非常ナル損害ヲ与ヘタリ此ノ種日本軍ノ行動ハ連盟ヲシテ形勢重大ナリトシ一日繰上ヶ十三日ニ開会セシムル事トナリタルカ吾人ハ今回ノ會議ハ必スヤ正義ニ從ヒ平和的手段ヲ案出スヘク日本一国ヲシテ東亞乃至世界ノ平和ヲ破壊セシメサルヘキヲ信ス最近數日來ノ形勢ニ依レハ日本ハ至ル所ヲ騒ガシ日々軍事行動ヲ拡大シツツアル而已ナラス南部沿岸及長江一帯ニ

国民政府の時局対策に関する郭同の内話について

第六五一号(暗)

南京
本省
10月14日前發

十三日郭同來訪ノ際本官ニ對シ滿州事件ニ付テハ張學良ハ之ヲ解決ヲ焦リ南京ニ對シ地方的ニ解決センコトヲ提議シタルカ南京ハ恐ラク之ニ同意セサルヘク尚南京カ本件ヲ連盟ニ持出シタルハ連盟ノ力ニ依リ本件ノ解決ヲ計ラントシタルモノナルコト勿論ナルカ蔣介石カ廣東トノ妥協ノ交渉ノ見極付ク迄ハ自ラ本件ニ手ヲ触ルルコトヲ避ケントシタル事情モアル次第ナリト述ヘ居タリ

支、北平、奉天へ転電セリ

92 昭和6年10月(14)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

排日運動抗議に対する中国政府回答文について

転電セリ

(^①在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

91 昭和6年10月14日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

(別電)

本月九日付日本政府ノ覺書ニ対シ中国政府ハ茲ニ特ニ意見ヲ申述フルコト下ノ如シ

日本軍隊ハ國際公法ヲ顧ミ斯國際連盟規約並巴里不戰條約及華府九國條約ノ規定ニ違反シ未タ相手方ノ挑発ヲ受ケサルニ突然中國領土ニ侵入シ並ニ中國ノ遼寧及吉林省各地方ヲ占領シ省及縣ノ合法ナル行政機關ヲ覆ヘシ且ツ侵入ニ当リ幾多ノ戰爭行為及其他戰時ニ於テモ國際公法ノ許ササル行為ヲ為セリ即チ無辜ノ人民ヲ殺戮シ防禦セサル都市ヲ砲撃シ客車ヲ射擊シ公衆及市民ノ財産ヲ持去リ又ハ沒收セル等ノ如シ

中日両国ハ既ニ同様ニ前記各國際條約ノ拘束ヲ受ケ各該条約ハ調印諸國ヲシテ一切ノ紛擾解決ニ關シ平和的方法ヲ用フヘキ義務ヲ負ハシム茲ニ於テ中国政府ハ直ニ國際連盟理事会ノ處理ヲ要請シ理事会ハ日本政府ニ對シ同國軍隊ヲシテ速ニ九月十八日以来占領セル区域ヲ撤退セシムル様申入ルルコトヲ決議シ且ツ理事会ノ請求ヲ遵守スヘシトノ日本政府ノ嚴肅ナル保証ヲ承認シ若シ期日ニ至リ前記ノ保証ヲ

履行シ能ハサル時ハ十月十四日ヲ會議再開ノ期日トスルコトヲ決定セリ
中国政府ハ事變最初ニ發生セル以來何等ノ敵對行為ヲ為サス日本軍隊ノ挑發行動ハ日ヲ追フテ激烈トナリ益々廣ク蔓延セルモ尚能フ限リ各軍隊ニ日本軍隊カ引続キ進出スルニ對シ如何ナル形式ノ抵抗モ為ササル様嚴重命令セリ同時ニ全國ニ對シ一種嚴格ナル規律ヲ以テ其ノ方法ヲ尽シ中國行政權下ノ中國領土内ニ於ケル日本在留民ノ生命財產ヲ保護セリ中國ノ管轄スル幅員広大ナル地域ヲ見ルニ何處ニ論ナク等シク不幸ナル事變ノ發生セルモノナシ右ハ中國カ連盟理事会ニ對シ為セル保障ヲ充分遵守セルコトヲ確実ニ證明スルニ足ルヘシ政府ハ累次ノ声明布告ヲ以テ我國人民ノ正当ナル憤激ヲ抑制シ法律ノ範囲ヲ逸脱セシメス十月七日政府ハ重ネテ地方官吏ニ對シ「凡ユル外人ノ生命財產ノ保護ノ責ヲ負ヒ且反動分子ノ機ニ乘シテ煽動シ越軌行動ヲ為スコトヲ嚴重取締ルヘシ」トノ命令ヲ發セリ政府ノ警告益々強クシテ優カナルヲ見ルニ足ラン此種ノ命令ハ折柄日本政府カ其撤退ノ約言ヲ履行セサルコト非常ニ明白ナル際ニ頒布セラレタリ

中國政府ハ連盟理事会ノ決議ニ從ヒ大官二人ヲ派遣シ撤退地方ヲ接收セシムルコトトシ且右ハ正式ニ日本政府及連盟理事会ニ通告セルカ日本政府ハ未タ其表示セル意思ヲ實行シ占領地方ヲ中国政府ニ引渡スニ至ラス而シテ中立國視察者ノ報告ニ依レハ瀋陽吉林敦化巨流河新民田庄台等ハ現ニ尚日本軍ノ占領ノ下ニアリ他方此種軍隊ハ依然トシテ故ナク無辜ノ民ヲ殺傷シ財產ヲ毀損スルコトヲ繼續シ居レリ故⁽³⁾ニ中國人民ノ憤激ハ僅カニ日本貨物ヲ購入セサルコトニ限ラレ居リ之レ實ニ全世界ノ驚異トスル處ナリ夫レ個人ノ購入物品ノ選択ノ自由ハ即チ個人ノ権利ニシテ如何ナル政府モ干涉ヲ加フルコト能ハス政府ハ素ヨリ外國人民ノ生命財產保護ノ責任ヲ有スルモ而モ如何ナル公認ノ規則ニ論無ク將又如何ナル國際法ノ原則ヲ問ハス未タ政府カ公民ノ初步ノ權利ノ行使ヲ禁止シ又ハ懲罰スル必要ナシ此点ニ關シ果シテ責任アリトセハ責任ハ正ニ完全ニ日本ニ於テ之ヲ負フヘキナリ蓋シ万宝山事件發生以來日本政府ハ幾多非友誼ノ行為ヲ以テ日本貨物ニ対スル一般厭忌ノ心理ヲ醸成シタレハナリ

中國政府ハ最モ嚴格ナル方式ヲ以テ連盟理事会ノ決議ヲ遵

守シ綿密ニ日本人ノ生命財產ヲ保護シ並ニ各種形勢ヲ益々重大ナラシムルニ足ル行為ヲ制止セリ其結果如何ナル日本住民ヲ問ハス未タ不幸ナル事態ニ遭遇シタルコトナキハ既ニ上述ノ如シ此時ニ當リ日本軍隊ハ東北ニ於テ尚其侵略行為ヲ繼續シ甚シキニ至リテハ最近飛行機ヲ以テ遼寧省城瀋陽占領後遼寧省内ノ文官カ一時弁公署ヲ設ケタル錦州ヲ爆撃セリ此種策戦行為ハ日本政府ニ於テ熟知セラル通連盟理事会ヲシテ規定ノ開会期日ヲ繰上クル決議ヲナサシタリ中国政府ハ日本政府ノ引用セラレタル兩國ノ連盟ニ對スル責任ノ一節ニ對シ満足ノ意ヲ表ス尤モ最近十日以來形勢ヲ愈々重大ナラシムルニ足ル各種行為ニ依リ連盟理事会ノ決議ヲ實現シ能ハサルモノハ凡テ日本側ヨリ出テタルモノナルヲ以テ中国政府ハ其責任ヲ負ハサルコトヲ茲ニ声明ス中国政策ノ道具ト為スニ於テハ之カ為メ不幸ナル結果ヲ生スルトモ兩國政府カ既ニ事件ヲ連盟理事会ニ提出シ且ツ連盟理事会カ既ニ両國ノ遵守スヘキ方針ヲ定メタル際ナルヲ

以テ尚更日本政府ハ完全ナル責任ヲ負フヘキモノトス中国
政府ハ中日両国民民間感情ノ疎隔及両国通商上ノ困難ハ全
ク日本軍隊ノ種々ナル不法行動ノ致セル当然ノ結果ナルコ
トヲ深ク信スルカ故ニ日本政府カ若シ宜ク努力シ其之ヲ致
セル原因ヲ法ヲ設ケテ除去セラルニ於テハ両国ノ関係ヲ
改善シ東亜及世界ノ平和ヲ維持スルニ良好ナル効果アルヘ
シト思考ス

93 昭和6年10月(14)日 在南京上村領事より
(幣原外務大臣宛) (電報)

国民政府外交関係の人事について

南京 本省 10月14日後着

第六五九号

十三日國務會議ハ劉文島ヲ独逸公使ニ任命シ波蘭公使王広
坼ヲ「チエツコスロヴァキア」公使ニ兼任シ張志良ヲ東三
省鹽運使ニ任命方決議セリ

尚政治會議ハ目下当地ニアル羅文幹、劉哲、顧維鈞ノ三名
ヲ特別外交委員会委員ニ推薦セル趣ナリ

公使、北平、奉天、漢口へ転電セリ

在本邦中国留学生約三千名中陸軍士官学校生徒ノ一部ニ退
学騒キ起リ帰国セルモノアリ右ノ外一般学生中ニモ小数ノ
帰国者アルモ是等モ国元ヨリノ勧告、送金杜絶等ノ理由ニ
依ルモノニシテ大多数ノ学生ハ何等ノ「モレスティーショ
ン」ヲ受クルコト無ク平穏裡ニ勉学ヲ続ケ居レリ

又一般在留中国人（学生ヲ合セ約三万人）モ大部分ハ從前
ト異ナル所無ク其ノ業ニ安ンジ居リ帰国者ハ當時ニ比スレ
ハ幾分ノ増加ナルモ僅々數百名ヲ出テ斯帰国セルモノトテ
モ行商人理髮業者（乃至労働者）等ニシテ引続ク不景氣ニ
テ逼塞ノ折柄事件突發ノ報ニ接シ不必要ナル恐怖ニ駆ラレ
タルモノ乃至ハ大中商人側ニ在リテハ彼等力は迄主トシテ
日華間及南洋華僑トノ間ノ取引ニ從事シ居リタル關係上近
時一般ノ不況ニ加へ本国及南洋華僑ノ對日經濟絕交ノ影響
往電合第七四三号ニ関シ

合第九四五号

在本邦中国留学生約三千名中陸軍士官学校生徒ノ一部ニ退
学騒キ起リ帰国セルモノアリ右ノ外一般学生中ニモ小数ノ
帰国者アルモ是等モ国元ヨリノ勧告、送金杜絶等ノ理由ニ
依ルモノニシテ大多数ノ学生ハ何等ノ「モレスティーショ
ン」ヲ受クルコト無ク平穏裡ニ勉学ヲ続ケ居レリ

又一般在留中国人（学生ヲ合セ約三万人）モ大部分ハ從前
ト異ナル所無ク其ノ業ニ安ンジ居リ帰国者ハ當時ニ比スレ
ハ幾分ノ増加ナルモ僅々數百名ヲ出テ斯帰国セルモノトテ
モ行商人理髮業者（乃至労働者）等ニシテ引續ク不景氣ニ
テ逼塞ノ折柄事件突發ノ報ニ接シ不必要ナル恐怖ニ駆ラレ
タルモノ乃至ハ大中商人側ニ在リテハ彼等力は迄主トシテ
日華間及南洋華僑トノ間ノ取引ニ從事シ居リタル關係上近
時一般ノ不況ニ加へ本国及南洋華僑ノ對日經濟絕交ノ影響
往電合第七四三号ニ関シ

94 昭和6年10月14日 在米國出淵大使他宛 (電報)

本邦在留中国人の事変勃発後における状況に
ついて

在本邦中国留学生約三千名中陸軍士官学校生徒ノ一部ニ退
学騒キ起リ帰国セルモノアリ右ノ外一般学生中ニモ小数ノ
帰国者アルモ是等モ国元ヨリノ勧告、送金杜絶等ノ理由ニ
依ルモノニシテ大多数ノ学生ハ何等ノ「モレスティーショ
ン」ヲ受クルコト無ク平穏裡ニ勉学ヲ続ケ居レリ

又一般在留中国人（学生ヲ合セ約三万人）モ大部分ハ從前
ト異ナル所無ク其ノ業ニ安ンジ居リ帰国者ハ當時ニ比スレ
ハ幾分ノ増加ナルモ僅々數百名ヲ出テ斯帰国セルモノトテ
モ行商人理髮業者（乃至労働者）等ニシテ引續ク不景氣ニ
テ逼塞ノ折柄事件突發ノ報ニ接シ不必要ナル恐怖ニ駆ラレ
タルモノ乃至ハ大中商人側ニ在リテハ彼等力は迄主トシテ
日華間及南洋華僑トノ間ノ取引ニ從事シ居リタル關係上近
時一般ノ不況ニ加へ本国及南洋華僑ノ對日經濟絕交ノ影響
往電合第七四三号ニ関シ

合第九四五号

在本邦中国留学生約三千名中陸軍士官学校生徒ノ一部ニ退
学騒キ起リ帰国セルモノアリ右ノ外一般学生中ニモ小数ノ
帰国者アルモ是等モ国元ヨリノ勧告、送金杜絶等ノ理由ニ
依ルモノニシテ大多数ノ学生ハ何等ノ「モレスティーショ
ン」ヲ受クルコト無ク平穏裡ニ勉学ヲ続ケ居レリ

又一般在留中国人（学生ヲ合セ約三万人）モ大部分ハ從前
ト異ナル所無ク其ノ業ニ安ンジ居リ帰国者ハ當時ニ比スレ
ハ幾分ノ増加ナルモ僅々數百名ヲ出テ斯帰国セルモノトテ
モ行商人理髮業者（乃至労働者）等ニシテ引續ク不景氣ニ
テ逼塞ノ折柄事件突發ノ報ニ接シ不必要ナル恐怖ニ駆ラレ
タルモノ乃至ハ大中商人側ニ在リテハ彼等力は迄主トシテ
日華間及南洋華僑トノ間ノ取引ニ從事シ居リタル關係上近
時一般ノ不況ニ加へ本国及南洋華僑ノ對日經濟絕交ノ影響
往電合第七四三号ニ関シ

95 昭和6年10月14日 在ジュネーヴ 沢田連盟事務局長宛 (電報)

排日運動抗議に対する中国側回答への反駁す
べき諸点について

第八八号 (暗)

在華公使宛往電第四三〇号ニ關シ

十三日付支那側公文ノ内容ニ対シテハ貴方ニ於テモ累次ノ
往電等ニ依リ充分反駁ノ材料ヲ有セラル次第ナルカ念ノ
為當方差当リ氣付ノ点左ノ通り

(一)排日運動ハ僅ニ日本貨物ヲ購買セサル点ノミニ限ラレ居
ル處右ハ個人ノ自由ニシテ國家トシテハ之ニ干渉スルヲ得
スト記述セルモ排日運動ノ狀況ニ付テハ往電合第七九五
号、合第八五四号、合第八八一号、合第九一五号及合第九
一六号等ヲ以テ電報ノ通リナリ又如何ナル日本人モ今日迄
不幸ナル事変ニ遭遇セスト記述セルモ之亦累次ノ往電通り
全然事実ニ反ス殊ニ雲南ニ於テ支那官憲カ日本領事宛電報
一切ヲ差押フルカ如キ状況ニ顧ミ領事館員及居留民全部ノ
引揚ヲ行ヒタルカ如キ又重慶、蕪湖等ニ於テ本邦人ニ対ス
ル食料品ノ供給ヲ阻止シ居ルカ如キ又温州居留民カ支那側

事項6 国民政府との交渉

ハ当分南京ヲ去ル事無カルヘシ尤モ国民政府ノ要人ハ日本軍閥ノ行動ヲ非常ニ警戒シ居リ何時奉天同様日本軍ニ南京、上海ヲ占領セラルヤモ知レサルヲ以テ蒋介石ハ一切ノ兵器及軍需品並ニ主力軍隊ヲ河南方面ニ集中スヘク過日來準備セル事ハ外間周知ノ通ナリ（此点ハ蔣介石等力軍器ヲ河南ヘ引揚ノ口実トシテ一般ニ宣伝セシメツツアルモノニテ引揚開始ハ五日ナルニ日本軍艦來滬ノ噂ハ其後ナル事御承知ノ通ナリ）

三、第十九路軍ハ愈近ク九江ヨリ当地ニ移駐シ江西ニハ広東ヨリ共匪討伐軍ヲ派遣スル予定ナリ尤モ最近共匪ノ或部隊ハ此際行懸ヲ捨てテ中央ニ帰順シ日本ト戦フ為其先鋒タラン事ヲ申出タルモノアル位ニテ差当リ中央ニ反抗スル模様無シ云々

尚陳銳ハ其際館員三対シ今回ノ日本軍ノ行動ハ我々日本留学生出身者ヲ窮地ニ陥レ全ク立場ヲ失ハシムルモノナリトテ痛ク興奮セル口調ニテ蔣介石始メ我々ハ飽迄正義ノ為ニ戰フ決心ニテ仮令日本軍カ江蘇、浙江ヲ占領スルトモ中国ハ決シテ亡ヒス若シ中国全土ヲ占領セラレンカ印度迄逃ケテモ日本ニ反抗スヘント語リタル趣ナルカ日本留学生出身者

迫害ノ結果食事ニモ事欠クニ至リ九日台灣ニ向ケ引揚ケタルカ如キ（上海総領事來電）其ノ著例ナリ
(二)奉天、吉林、敦化、新民府、田庄台等カ今尚ホ日本軍占領ノ下ニ在リト記述セルモ我軍付属地外占拠状況ハ往電合第八五〇号等ノ通りニシテ殊ニ敦化、新民府、田庄台ニハ今日ハ最早我軍駐屯ノ事実無シ（敦化ニハ居留民引揚ノ為吉林ヨリ少數部隊派遣セルモ五日居留民全部ヲ取纏メ吉林ニ引揚ク）

米ニ転電セリ
在欧各大使ニ転報アレ

96 昭和6年10月16日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）
莫駐ソ公使とカラハンとの接触の状況について

ハルビン 10月16日後発
本省 10月16日後着
第三四四号（暗）
十五日露字紙「ウォストック」ノ号外ニ依レハ在莫斯科莫徳惠ハ南京政府ノ命ニ依リ「カラハン」ヲ往訪シ満州時局

97 昭和6年10月16日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）
南京・広東両政府の妥協、共産軍の動向等に
関する陳銳の内話について
第六六一号
十四日陳銳ノ館員ニ対スル内話左ノ通

本省 10月16日前着
一、広東トノ妥協モ愈実現スル事トナリ胡漢民ハ十三日中山陵園ニ蔣介石ヲ往訪シ種々話合ヲ為シタル結果本日汽車ニテ陳銘枢同伴上海ニ赴ケリ同地ニアリテ広東側代表ト善後問題ヲ商議スルコトトナルヘシ
二、胡漢民ハ何レ行政院又ハ立法院長トナルヘキモ蔣介石

98 昭和6年10月(22)日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）
上海
本省 10月22日後着
途について
南京・広東両政府の和平會議の内容および前
第一一七四号
往電第一〇九八号往電第一一一四号ニ関シ
一、広東側汪精衛、孫科、李文範、陳友仁等ハ何レモ二十一日着滬シ直ニ和平會議ニ入ル模様ナリ元来廣東側ハ蔣介石ノ完全ナル下野ヲ目標トシ蔣ノ同盟者タル張學良ノタル次第二テ（八月下旬陳中孚カ満州ニ赴キタルモ之カ為ナリ）広東派ハ満州ニ於ケル学良ノ勢力ヲ覆シ之ヲ自派ノ手ニ収ムル為ニハ日本トノ諒解カ必要ナリトノ見地

ニ対スル「ソ」連側態度ヲ質シタルニ「カ」ハ赤軍カ東鉄沿線ニ進出スルカ加キコトハ絶対ニナク又「ソ」連カ日本ト提携シテ中国ニ当ル様ノコトモ亦絶対ナシト声明シタル趣ナリ右眞偽不明ナルモ不取敢露、支、北平、南京、奉天ニ転電シ
吉林、長春、齊齊哈爾、滿州里ニ暗送セリ

事項6 国民政府との交渉

ヨリ孫文ノ所謂大亞細亞主義ヲ標榜シ満州ニテハ經濟的利益ニ付テハ必シモ日本ニ反対スル理由ナシトノロ実ノ下ニ日本トノ諒解ヲ進メ自派ノ勢力ヲ同地ニ樹立セント計画シタリ（陳友仁ノ東京訪問モ全ク右計画ノ発露ト認メラル）今回ノ和平會議ニ當リテモ広東側ハ右ノ方針ニハ変化ナカルヘキモ右ハ今後内政上ノ目的貫徹ノ手段トシテ必要ナキニ至ラハ自然変化ヲ見ルニ至ルヘシ他方蒋介石派ハ今回ノ事件ニ依リ日本ト抗争スルコトヲ表向ニ掲ケル必要ヲ生シ尚満州ノ実権奪回力学良派ニテ為シ難クハ自派ノ手ニテ之ヲ為サントシ種々画策シ居ルモノノ如シ

二、和平會議ノ結果ハ予想甚々困難ナルカ広東派ノ蔣下野ニ対スル態度ハ頗ル強硬ニテ若シ蔣ノ完全ナル下野實現ノ場合ハ中央政府カ広東側ノ優勢トナルコト勿論ナルヘク又蔣ノ下野行ハレサルハ結局広東派中妥協的分子ノミカ政府ニ入り蔣派ノ優勢ニ帰スヘシ此間日本ノ広東派ニ対スル態度ハ相当重要ニシテ広東派ニシテ若シ日本ヲ利用スルコト不可能ナルコトヲ知ラハ或ハ妥協ハ蔣ノ有利ニ促進セラレ其ノ結果全国的ノ排日ニ一致スルヤモ知レ

第三九四号
本省 10月22日後着
ハルビン

信スヘキ情報ニ依レハ二十二日午後当地党部ハ南京中央党部ヨリ広東南京妥協成立ニ関スル電報ヲ受ケタル趣ナルカ其条件ハ政府主席唐紹儀外交部長陳友仁国防軍總司令蔣介石外交方針ハ〔国際連盟ニ依リ満州問題解決ヲ期スルコト〕〔米國ト連絡シテ満州ヲ国際的ニ開放スルコト〕〔蘇連ト急速ニ妥結シテ相当ノ形式ヲ以テ同盟ヲ結ヒ以テ国際連盟ヲ奉制スルコト〕三項ナル趣ナリ
在支公使、北平、奉天、南京、廣東へ転電セリ

100 昭和6年10月(23) 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）
第一七八号

施代表の開戦論と中国国内の政情との関連に
関する観測について

本省 10月23日前着
上海

て

ス乍併広東派ニ有利ナル妥協成立スルモ今後満州ニ於ケル日本ノ態度カ同派ノ思フ様ニナラサルコト判明セハ同様ニ日本反対ノ一致運動ヲ生スヘシト思考セラル和平會議ノ前途ハ尚多難ナル如ク又今後ハ排日運動ニ付充分ノ注意ヲ要スル次第ナリ

三、右ノ如キ形勢ナレハ広東側ニ対シテハ目下ノ處深入リセスシテ適當ノ連絡ヲ取ル位ノ程度以上ニ進ミ得ラレサルヘシ夫レト同時ニ連盟理事会カ満州問題ニ付直接交渉ヲ勧説スル場合ニ於テ民国ノ政局カ纏ルトシテモ右交渉ヲ短期間ニ纏ムコト事實上困難ナルヘシ何レニスルモ我方トシテハ直接交渉ヲナストノ立前ニテ終始一貫進ムト共ニ満州ニ於テハ民国内部ノ政情未タ不安定ナルコトヲ見越シ我方ニ必要ナル措置ヲ講シ行クノ外ナカルヘシ奉天、廣東、南京、北平へ転電シ上海へ転報セリ連盟、在米大使ヘ転電シ連盟ヨリ必要アル各大公使ヘ転電アリタシニ促進セラレ其ノ結果全国的ノ排日ニ一致スルヤモ知レ

99 昭和6年10月(22) 在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

南京・廣東兩政府妥協条件に関する情報について

第八号
貴官發大臣宛電報第一九七号ニ關シ
施肇基カ「ドラモンド」ニ対シ開戦論ヲ以テ云為シ居ルコトハ蔣介石ノ演説ト同様直接ハ連盟ニ対スル懸引ニシテ又間接ニハ國內的ノ宣伝ニ外ナラサル次第ニテ民国側ニ於テ事実開戦ノ不可能ナル状態ニ在ルコトハ貴官御應酬ノ通ト認メラル民国ノ政情ハ最近ノ電報ニテ御推測ノ通ニシテ今後ハ多分混亂ノ状態ヲ重ネ行クモノト見ラル處満州問題カ日本ノ撤兵ノミニ依リテ解決セラルモノト判断スルカ如キハ余リニ実情ト離レタル観察ニテ将来ハ或ハ主要国間ニ於テ民国ヲ如何ニ取扱フヘキヤト言フカ如キコトニ付意見ヲ交換スルノ時機ニ入ルヤモ知レスト考ヘラル位ナリ何等御参考迄
在欧各大公使へ適當ニ転電ヲ請フ
大臣、米、奉天、南京、廣東、北平へ転電セリ

101 昭和6年10月23日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）
蒋介石の汪兆銘等廣東側代表との会見について

ニ次ノ満州事變ハ全ク中國軍憲ノ挑發的行動ニ起因セルコト帝國政府ノ累次宣明セル所ニシテ帝國軍ノ少數部隊カ目下尚滿鉄付屬地外數ヶノ地点ニ駐マルハ帝國臣民ノ生命財產ノ保護ノ為万已ムヲ得サルニ出テタルモノナリ固ヨリ之力為ニ帝國カ紛争解決条件ヲ中國ニ強制スルノ手段トナリ得ヘキモノニ非ス兵力的威圧ヲ以テ中國トノ交渉ニ臨マムトスルカ如キハ毫モ帝國政府ノ予想セサ

電シ、香港へ暗送セリ	天津	青島	濟南	南京へ輸出
公使	北平	奉天	哈爾賓	
リ	昭和6年10月26日			
	政府発表			
満州事変に関する日本政府第二次声明				
満州事変ニ関シ帝国政府ハ十月二十六日左ノ通声明セ				
一、一月二二日皇室御内帑金ニ甚出ニシテノ旨相文附				

支、北平、奉天、上海、青島、濟南、漢口、廣東へ転電セリ
昭和6年10月23日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）
中ソ国交回復に関する莫公使の動静について

第六八一號（暗）

南京 10月23日後発
本省 10月23日後着

消息トシテ本官ニ語ル處ニ依レハ莫徳恵ハ最近国民政府ニ
対シ露支交渉モ順調ニ進展セル此際速ニ本交渉ヲ纏メ露支
國交ノ回復ヲ計ル様考慮ヲ促シ来レル趣ニテ其際同公使ハ
右消息ノ裏ニハ最近喧伝セラル露支提携説ノ動キアルニ
アラスヤト思ハルル旨附言セリ

第六七九号
外務省員ノ談ニ依レハ蔣介石ハ二十二日正午飛行機ニテ上
海ニ赴キ汪兆銘等広東側代表ト會見セルカ同日夜南京ニ於
ケル外交委員会ニ出席スル為蔣ハ即日飛行機ニテ帰京セル

三、帝国政府ハ夙ニ日華關係ノ大局ヲ考察シ其ノ密接複雜ナル政治的並經濟的關係ヲ構成スル各種ノ分子中帝国ノ國民的生存ニ關スル権益ハ絶対ニ之力変改ヲ許ササルノ決意ヲ示シ既ニ各般ノ機会ニ於テ此ノ趣旨ヲ言明セリ不幸ニシテ近時中国ニ於ケル所謂國權回復ノ運動漸次極端ニ奔リ且排日ノ思想ハ諸學校ノ教科書中公然鼓吹セラレテ根底既ニ深ク今ヤ條約又ハ歴史ヲ無視シテ帝国ノ國民的生存ニ關スル権益サヘ著々破壊セムトスルノ傾向歷然タルモノアリ此ノ際帝国政府ニ於テ單ニ中国政府ノ保障ニ倚頼シ軍隊ノ全部満鉄付屬地内帰還ヲ行フカ如キハ事態ヲ更ニ悪化セシメ帝国臣民ノ安全ヲ危険ニ暴露スルモノニシテ多年ノ歴史並中國現下ノ国情ハ明カニ其ノ危險ノ實在ヲ証ス

四、從テ帝国政府ハ在滿帝國臣民ノ安全ヲ確保セム力為ニハ先ツ両國ノ國民的反感及疑惑ヲ除クノ方法ヲ講スルノ外ナキヲ認メ之ニ必要ナル基礎的大綱ヲ中國政府ト会商スルノ用意アル旨十月九日外務大臣ノ在東京中國公使宛公文中ニ言明シ連盟理事会ニモ之ヲ通報セリ帝国政府ハ

第四軍長張發奎ハ其副軍長ト共ニ十九日付ヲ以テ大要左ノ如キ対日宣戰布告要求ノ通電ヲ発セリ
我国ニ禍乱絶エサルノ時今亦倭奴ハ悍然出兵シテ我領土ヲ占領シ東亜ノ和平ヲ破壊セリ朝鮮安南ノ殷鑑遠カラス此仇ニシテ報セスンハ何ヲ以テカ國ヲ建テン全同胞カ一致対日宣戰ヲ主張センコトヲ熱望ス吾人ハ部下軍隊ヲ率ヒテ先鋒トナルヘシ抑々倭奴今次ノ侵略ハ帝国主義ト民族主義トノ撞着タリ圧迫者ノ弱者ニ対スル鬭争ニシテ人類社会治亂ノ係ハル處ナルカ故ニ吾人ハ世界ノ平和ト中国ノ生命維持ノ為死ヲ賭シテ一戦セサルヘカラスニ国民ノ自覺ニ待ツ云

103
昭和6年10月25日 在広東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）
張第四軍長の対日宣戦布告要求について
広東 10月25日前発
本省 10月25日後着

時局拾収ノ途カ一ニ以上ノ見地ニ基クキヤムヲ確信シ
理事会ノ討議ニ当リト終始一貫之ヲ主張セリ其ノ念頭ヤ
ムニベル大綱トシテ帝国政府ノ考慮スル所ハ工相互の侵
略政策及行動ノ否認、〔一〕中國領土保全ノ尊重、〔二〕互ニ
通商ノ自由ヲ妨害シ及國際的憎惡ノ念ヲ煽動スル組織的
運動ノ徹底的取締、〔三〕滿州ノ各地ニ於ケル帝國臣民ノ一
切ノ平和的業務ニ対スル有効ナル保護及〔四〕滿州ニ於ケル
帝國ノ條約上ノ權益尊重ニ関スルキノナリ帝國政府ハ右
各項力全然國際連盟ノ目的及精神ニ合致シ極東平和ノ根
蒂ヲ成スくキ当然ノ原則ナルヲ以テ固リ世界公讐ノ支
持ヲ得キヨメヲ疑ベス連盟理事會ニ於テ帝國代表者カ
之ヲ議題トセサランハ其ノ性質上日華直接交渉ノ問題タ
ルキヤノト認メタルカ為ナリ

五、熟ラ口華両国ノ前途ヲ考フルニ今日ノ急務ハ双方協力
シテ速ニ時局ノ拾収ヲ図リ以テ共存共榮ノ大道ニ歩ラ進
ムルニ在リ帝國政府ハ前頭両国間ニ於ケル平常關係確立
ハ基礎的大綱協定問題並軍隊ノ満鐵付屬地内帰還問題ニ
關シ中国政府ト商議ヲ開始スルノ用意ヲ有スルニ於ト今
尚渝ヘル所ナン

population of Japanese in that region are exposed in life and property. The presence of such a limited number of troops is quite incapable of being represented as a means of dictating to China Japan's terms for the settlement of the present difficulties. Nothing is farther from the thoughts of Japan than to bring armed pressure to bear upon China in the course of these negotiations.

3. The Japanese Government have on various occasions given expression to their firm determination to suffer no abridgment or diminution of the rights and interests of Japan which are vital to her national existence, and which are woven into the complex fabric of her political and economic relations with China. Unfortunately, the so-called "recovery of rights" movements in China have recently attained extravagant developments, while feelings antagonistic to Japan have been openly encouraged in the text books used at various schools in China, and have become deeply seat-

ed in the Chinese mind. In defiance of treaties, and regardless of all history, a vigorous agitation has been carried on in China with the object of undermining the rights and interests of Japan, even the most vital. As things stand at present, the complete withdrawal of Japanese troops to the South Manchuria Railway Zone, under the mere assurance of the Chinese Government, would create an intolerable situation, exposing Japanese subjects to the gravest dangers. The risk of such dangers is clearly evidenced by past experience and by the conditions which actually obtain in China.

4. The Japanese Government are persuaded that in the present situation, the safety of Japanese subjects in Manchuria can hardly be ensured without provision being made to remove the national antipathies and suspicions existing in the mutual relations of the two Powers. With this end in view, they have already expressed, in the Note of the Minister for Foreign Af-

1. On the 22nd of October, the Japanese Representative in the Council of the League of Nations proposed certain amendments to the Resolution then before the Council with regard to the two questions of (1) the withdrawal of the Japanese troops to the Railway Zone and (2) direct negotiations between China and Japan. However, these suggested amendments as well as the Resolution itself fell through, having failed to obtain the unanimous approval of the Council.

2. As has been repeatedly emphasized by the Japanese Government, the whole Manchurian affair was occasioned solely by the violent and provocative attack launched by the Chinese Army on the Railway Zone. Certain small contingents of Japanese soldiers still remaining at a few points outside that Zone are insistently demanded by the danger to which the large

fairs of October 9 to the Chinese Minister at Tokyo, their readiness to enter into negotiations with the Chinese Government on certain basic principles that should regulate the normal interrelationship between the two countries. That Note was communicated at the time to the Council of the League. Convinced that this method of procedure is alone calculated to open out a way to save the situation, the Japanese Government have consistently held to their proposals in that sense throughout the recent discussions at the Council of the League. The basic principles which they have had in mind relate to :

- (1) Mutual repudiation of aggressive policy and conduct.
- (2) Respect for China's territorial integrity.
- (3) Complete suppression of all organized movements interfering with freedom of trade and stirring up international hatred.
- (4) Effective protection throughout Manchuria of all

and unabated to open negotiations with the Chinese Government on the subject of the basic principles above formulated relating to normal relations between Japan and China, and on the subject of the withdrawal of Japanese troops to the South Manchuria Railway Zone.

105 昭和6年10月27日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛 (電報)

洪兆錦・蔡元培連名の対外回向発表

上海 10月27日後発
本省 10月27日後着

第七三〇七号
⁽¹⁾時局情報

一、南京、廣東両代表へ一十六日第一回会議ヲ催ス旨ナリ

ハモ李石曾未着ノ為正當余議トセス談話会ノ形式リテ先
ツ外交問題ニ付英租界伍朝枢宅ニ於テ余商シ其結果汪精
衛蔡元培連名リテ左記要領ヲ公表セリ

(ア)憤激セル國民へ一部ニ國際連盟脫退論ヲ為スヤハトル

ヤ日本ノ行動ハ我領土主權ヲ侵スモノナレハ連盟規約

peaceful pursuits undertaken by Japanese subjects.

(5) Respect for the treaty rights of Japan in Manchuria.

The Japanese Government believe that all these points, being in entire accord with the aims and aspirations of the League of Nations and embodying the natural basis upon which peace in the Far East must depend, will commend themselves to the approval of the public opinion of the world. The refusal by the Japanese representative to lay these points on the table of the Council was due to the consideration that they should, in their nature, properly form the subject of negotiations between the parties directly involved.

5. With the future welfare of both nations in mind, the Japanese Government feel that the urgent need at the present moment is to arrive at a solution of the problem by the co-operation of the two countries, and thus to seek the path of common happiness and prosperity. Their willingness remains unaltered

及不戦条約ニ博ルキノリシト関係各國ノ尊嚴ニモ關係
トリ日本ノ孤立ニ陥ルニロムニ人民ニ知ラシメ連盟ト
共ニ日本ノ横暴ヲ抑压スくン

〔豆〕露西亞トヘ國交回復ヲ主張スルキノアルキ之ハ別問題

ハシテ対日問題ト関連セシムル要ナシ

右ハ国民党一致对外ノ精神ヲ表ハスモノナリ

1) 広東側ノ条件ヲ列記セル廣東代表六名連名ノ11月11日

村蔣介石宛書面發表セラシタルカ其要旨左ノ通

党国諸問題ヲ解決シ一致困難ニ赴ク為協議スルハ斯リ左
ノ各項ヲ要求ス

工先ツ外交上一致行動ニ出シルコム

〔1〕貴方ヨリ代表ヲ上海ニ派シ解決方法ヲ討論シ双方同
意ハ後正式會議ヲ開クコム

〔2〕党国ノ根本問題ハ建国大綱ニ依リ民主政治ヲ完全ニ
スルニアルコトヲ考察セラレタキコム

〔3〕過去ノ紛糾解決ト将来ノ基礎ヲ確立スル為第一、

二、三期中央委員会ヲ招集シテ第四次全國代表大会

ヲ開会スルコム

田国民政府主席ハ獨、仮大統領ノ制ニ倣ヒ軍人ニアウ

サル老練ノ士ヲ以テ之ニ当ツルコト

(内)陸海空軍総司令ノ職ヲ廃シ市別ニ軍事機関ヲ設ケル

コト

(七)広東ニテ決定セル双方ノ通電文案通り會議決定以前

ト雖双方ニ於テ責任ヲ執リ會議ノ決定ニハ完全ニ從

フコト尚居止、方振武ノ自由回復ト郵便電信検査ノ

免除ヲ実行セラレンコトヲ望ム

三、右ニ対スル回答トシテ蔣介石二十四日付書面大要左ノ

通

目前第一ノ急務タル一致对外ハ直ニ事實ニ現ハシ國民ノ期待ニ副フヘク党国根本問題ニ關シテハ内部關係ナレハ誠意ヲ披瀝スルコトニ依リ解決困難ナラサルヘキコト面会ノ節述ヘタル通ナリ張靜江等五名並胡漢民ト協議ノ上至急入京アリタシ云々

北平、奉天、天津、南京、青島、濟南、漢口、福州、廣東へ転電シ支へ転報セリ

廣東ヨリ香港へ転電アリタシ

106 昭和6年10月(27)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

南京

10月27日後着

本省 10月27日後着

第六八四号

二十六日國民政府紀念週ニ於ケル蔣介石ノ演説要領左ノ通

二十六日十三票對一票ニテ理事会ヲ通過セル決議案ハ吾人ヲ充分満足セシムモノニ非サルカ連盟ノ立場ト其努力苦

心ハ認メサルヲ得ス吾人ハ連盟カ右決議案通過ノ決心ニ鑑

ミ確実ニ正義ヲ擁護シ世界平和ノ目的ヲ達シ得ヘキヲ信ス

ルト共ニ「ブリアン」議長以下各国代表ノ努力及米國ノ共

同動作ニ對シ充分ノ敬意ヲ表ス日本今回ノ行動ニ對シ全國

民ハ極度ニ憤慨セルモ謹嚴沈着善ク規律ヲ守リ何等越軌行

動ニ出テサリシハ各國間ノ驚異ト同情トヲ得タリ吾人ハ此

際不屈不撓ノ精神ヲ以テ來月十六日限り連盟カ日本ヲシテ

東三省侵略区域内ノ軍隊ヲ全部撤退スル日ヲ待ツヘク斯ク

テ局面ハ更ニ一步進展スヘシ今回ノ決議カ連盟精神ノ第一

ノ表現ニシテ來月十六日ニハ必ス第二ノ表現アルヘク吾人

ハ奮闘ヲ続ケ決シテ暴力ヲシテ公理ヲ圧倒セシメ又ハ一国

ハ奮闘ヲ續ケ決シテ暴力ヲシテ公理ヲ圧倒セシメ又ハ一国

ノ野心ニ依リ國際平和ヲ破壊セシムモノニ非ス然レ共吾人ハ今回日本軍ノ東北占領カ少數野心家軍人ノ行動ニシテ決シテ日本全國民ノ意思ニ非サルコトヲ充分了解シ居ルヲ

以テ多數日本人ニ対シテハ毫モ敵意ナキノミナラス兩國千余年来ノ歴史的關係及兩國民本来ノ良好ナル友誼ハ東亜ノ

平和的基礎ヲ確立スルモノナルコトヲ信ス吾人ハ日本国民カ少數野心家軍人ヲ抑ヘ期限通り撤兵セシメンコトヲ希望ス云々

尚戴天仇ハ二十六日中央党部紀念週ニ於テ理事会決議案ニ關スル報告ヲ為シタル内日本ハ錦州ヲ爆撃セルノミナラス東北各地占領後無數ノ兵器金錢ヲ土匪ニ供給セルハ最モ恨ムヘク又確報ニ依レハ東京ハ今ヤ完全ニ日本軍閥ノ陰謀下ニアリテ極度ノ恐怖ヲ呈シ居レル旨述ヘタル趣ナリ委細公信

支、北平、奉天へ転電セリ

107 昭和6年10月27日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

國民政府紀念週における蔣主席の演説について

南京 10月27日後着

本省 10月27日後着

連盟理事会の日本軍撤退勸告決議案に伴なう
國民政府の宣言要領について

事項6 国民政府との交渉

撤退シ其他ノ問題ヲ引続キ進行セシメ得以テ両国国民間良好ナル友誼ノ回復ヲ計リ東亜永久平和ノ基礎ヲ鞏固ナラン
メシコトヲ深ク信ス委細公信

支、北平、奉天へ転電セリ

108 昭和6年10月27日 在本邦蔣中国公使より
幣原外務大臣宛

日本軍撤退地域の引継実行のための商議開始について

(訳文)

以書翰啓上致候陳者今般本国政府ヨリ国際連盟十月二十四日ノ決議第五項ニ基キ日本軍隊撤退後ニ於ケル東三省各地方ノ引継ニ関シ国民政府ノ任命スヘキ官吏ハ已ニ決定シ且已ニ撤兵ト撤退区域引継トニ関スル各般ノ事項ノ細目ヲ日本ト商議スルノ準備ヲ了シタルヲ以テ日本政府ニ於テ責任ヲ負フヘキ官吏ヲ任命シテ至急通知シ撤兵引継等ノ事項ノ実行ニ付商議決定方直ニ進行セシムルコトヲ希望ストノ訓令接到候依テ右貴大臣ニ於テ御諒承ノ上措置方御取計相成ルト共ニ何分ノ儀御回答相煩度此段照会得貴意候 敬具

中華民国二十年十月二十七日

109 昭和6年10月29日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)
南京・廣東両政府の上海和平會議について

上海 10月29日後発
本省 10月29日後着

第七四二号(暗)
時局情報

和平會議第二回二十八日午前十時ヨリ十二時四十分迄前日ニ引継キ英租界伍朝枢宅ニ於テ開会李石曾他ノ双方代表ト共ニ出席吳鉄城亦「オブザーバー」トシテ列席ス汪精衛主席ノ下ニ(一)今回會議ノ目的ハ具体方法ノ立案ヲ討論スル為ニシテ最後ノ決定權ハ中央党部ニ在ルコト(二)外交ハ南京政府ヲシテ交渉ニ當ラシムルモ方針及原則ハ會議ニ於テ討論並報告スルコトシ必要ノ場合ノ外外部ニ發表セサルコト(三)南京抗日救国会ヨリ會議參加方申出アリタルニ対シ反対ノ回答ヲ發スルコト(政府要人力抗日会ヲ認メ居ル一事例トシテ注意ヲ要ス)ヲ議決シタル旨公表アリタリ席上廣東側ヨリ党政改革方策ニ付提議アリタルモ外交問題カ先決ヲ要ストテ南京側ヨリ反対アリタルモノノ如ク廣東側ハ往電第七三七号蔣介石宛廣東代表書面中掲記ノ条件ニ付討議セ

ンコトヲ終始支持シ居レルニ対シ中央側ハ煮切ラサル態度ヲ表示シ題目ヲ主トシテ外交問題ニ向ケツツアルモノノ如シ滿州事変解決策トシテ撤兵以前ハ直接交渉セサルコトノ原則ハ双方ノ意見完全ニ一致ヲ見タル由ナリ
公使ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東へ転電セリ
廣東ヨリ香港へ転電アリタシ

110 昭和6年10月29日 在上海田代公使館付武官より
二宮參謀次長宛(電報)

滿州接収および南北妥協と滿州問題の関連について

閲する情報について

10月29日後5時40分発
10月29日後8時45分着

支第六二七号(其一一二)

南京報(二十八日発)

王長春カ楊杰及陳儀等軍部要人ヨリ聞キ込ミタリトテ語ル所ニ依レハ比較的日本ヲ誤解セサル連中ハ現在滿州ニ於ケル兵匪及便衣隊ノ潜行的運動及地方擾乱ハ日本ニ撤兵不可能ノ口実ヲ与フルモノト認メアルノミナラス日本軍カ撤兵

111 昭和6年10月30日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

南京・廣東両政府の上海和平會議の内容について

本省 10月31日前着
上海 10月30日後発

本省 10月31日前着

第七四七号（暗）

和平予備會議ノ進行状況ニ関シ會議ハ予定ニ反シ毎回トモ
厳密ナル秘密会ニシテ局外者ハ全然真相ヲ探知シ得ス纔ニ
會議後双方代表署名ノ下ニ公表セラル「コンミニケ」
ニ依リテ外間ニ伝ヘラル次第ナルカ山田カ廣東側代表ヨ
リ親シク聞込ミタル處ニ依レハ會議ハ昨今全然停頓状態ナ
ル趣ナルカ當館諜報者カ齋セル情報ニ依ルモ左ノ如キ内情
ニ依リ會議ハ殆ト決裂ニ近キ状態ニアリト迄伝ヘラル

一、廣東代表ハ李石曾ノ食言ヲ甚シク不快ニ思ヒ居リ李カ

吳鉄城ヲ勝手ニ其代理タラシメタルヲ非難シ居レリ

二、陳銘枢ノ京滬警備司令就任ハ第十九路軍ノ當地方輸送

配備困難トナリタル為到底十一月一日ニ実施シ得サルヘ
ク此点モ廣東代表ノ予期ニ反ス（江西ニアル第十九路軍

ハ恰モ蔣介石氏直系軍隊ノ為挾マレ居ルカ如キ配置ニア
リテ其後当地方ニ移動シ得サル状態ニアリ趣ナリ）

三、南京側ハ廣東ト日本トノ關係ヲ最初過信シ居リタルコ
ト最近判明スルニ及ヒ又滿州問題ノ責ヲ相互ニ塗付ケ合
ヒツツアルモ廣東ノ介入ニ依リ其解決意外ニ困難トナリ

來リタルヲ感シ居リタル矢先張學良ノ來京ニ依リ學良ト
以書翰啓上致候陳者十月二十七日付貴翰泰字第一一八号ヲ
以テ貴國政府ノ訓令ニ基キ御申越ノ次第閱悉致候然ルニ右
貴翰冒頭ニ國際連盟十月二十四日ノ決議第五項云々ト有之
候處十月二十四日ノ連盟理事会ニ於テ右様ノ決議成立シ居
ラサル次第ニ有之候又貴翰中「日本軍隊撤退後ニ於ケル東
三省各地方ノ引繼ニ關シ国民政府ノ任命スヘキ官吏ハ已ニ
決定シ且ツ已ニ撤兵ト撤退区域引繼トニ關スル各般ノ事項
ノ細目ヲ日本ト商議スルノ準備ヲ了シタルヲ以テ日本政府
ニ於テ責任ヲ負フヘキ官吏ヲ任命シテ至急通知シ撤兵引繼
等ノ事項ノ實行ニ付商議決定方直ニ進行セシムルコトヲ希
望ス」云々ト有之候處右ニ關シテハ十月五日付貴翰泰字第
五一号ニ依リ同様ノ趣旨御申越相成リタルニ対シ同月九日
付拙翰ヲ以テ回答セル次第アルノミナラス帝国政府ハ十月
二十六日声明書ヲ以テ今次滿州事件解決ニ關スル方針ヲ宣
明シ置キタルニ付委細右ニ就キ御承知相成度候要スルニ帝
國政府ハ貴國政府カ前記帝國政府ノ方針ニ贊同セラレ日華
間ニ於ケル平常關係確立ノ基礎の大綱協定問題並軍隊ノ満

結ヒ廣東ニ對シ一擊ヲ加ヘ得ルコトトナリ蔣介石ノ態度
異状ニ強硬トナレリ

尚陳銘枢就任ノ如何ハ和平會議ノ成否ヲ觀測スル一材料
トナラントノコトナリ

廣東ヨリ香港へ転報アリタシ

北平、奉天、青島、天津、濟南、漢口、廣東、福州へ転電
シ、支へ転報セリ

112 昭和6年10月31日 幣原外務大臣より
在上上海重光公使宛（電報）

蔣公使の張群あて電報の影響調査について

本省 10月31日後6時30分発

第四五三号（極秘）

滿州事變（國民政府ノ態度）

極メテ信賴シ得ヘキ情報ニ依レハ今次事件ニ關シ蔣公使ハ
二十九日頃張群ニ対シ専ラ他力ノミニ賴ルニ於テハ前途極
メテ危險ナリト思考スル旨電報セル趣ナリ就テハ右電報ニ
対スル張群等ノ態度内密御探査ノ上回電アリタシ

113 昭和6年10月31日 幣原外務大臣より
在本邦蔣中國公使宛

鉄付屬地内帰還問題ニ關スル両國間商議ノ速ニ開始セラレ
ムコトヲ希望スルモノニ有之候

敬具
ムコトヲ希望スルモノニ有之候
第六〇二号

昭和六年十月三十一日

114 昭和6年11月1日 在北平矢野參事官より
警原外務大臣宛（電報）

東三省接收委員會等に關する顧維鈞の談話に
ついて

北平 11月1日後発
本省 11月2日前着

往電第六〇一号ニ關シ

三十一日顧維鈞ノ當地漢字紙記者ニ対スル談話要領

特殊外交委員會ハ約三十人ニシテ毎日会合シ方針及具体弁
法ヲ決定シ居レルカ支那ハ今次連盟ノ決議ニ基キ在留日本
人ノ安全保障義務ヲ尽シ且接收ノ準備ヲ為スヲ要スルヲ以
テ之ガ商議ノ為蔣主席ハ特ニ張副司令ノ入京ヲ求メタル次
第ナリ東北ノ接收ニ付テハ東省接收委員會ヲ組織シ之ガ責
ニ任セシムルコトナリ之ガ詳細弁法ハ追テ中央ヨリ正式
ニ公布セラルヘシ滿州事件ハ既ニ世界ノ問題トナレルニ付

支那ハ各國ト協力シテ連盟ノ決議ヲ有効ナラシムル様努力
スヘキナリ

支、南京、奉天へ転電セリ

接交渉ニ入ル前提トシテ不取敢接収ノ準備ト排日取締ノ実行ニ着手セル次第ナリ

支、南京、廣東、奉天、天津ニ転電セリ

115 昭和6年11月2日

在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

東三省接收委員会の頼ぶれおよび中国側の準

備状況に関する湯爾和の内話について

北平 11月2日後発
本省 11月2日後着

第六〇四号（暗）

往電第六〇二号ニ閲シ

二日湯爾和カ原田ニ為セル内話

南京政府ハ一日付ヲ以テ顧維鈞ヲ東三省各地接收委員長ニ張作相、張群、吳鉄城、羅文幹、劉哲及自分ノ六人ヲ同委員ニ任命セリ右委員会ハ不日当地ニ設置セラル筈ニテ準備ノ整フヲ待ツテ日本及連盟ニ此旨通知ノコトトナルベシ又政府ハ最近各省ニ対シ排日取締ノ密令ヲ發シ殊ニ張學良ハ右ニ基キ平津方面ノ取締振ニ付特ニ嚴重ナル命令ヲ發セルヲ以テ各地トモ漸次事態ノ改善ヲ見ル筈ニテ支那側ハ直

116 昭和6年11月2日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

東三省接收委員会設立等に関する中央日報の報道について

南京 11月2日後発
本省 11月2日後着

第七〇二号

二日ノ中央日報ハ国民政府ニ於テハ理事会ノ決議ニ從ヒ日本軍撤退区域ノ接收及日本在留民保護方ニ閲シ準備中ノ處昨日正式ニ顧維鈞、張作相、張群、吳鉄城、羅文幹、湯爾和、劉哲ノ七人ヲ接收委員ニ任命シ且顧維鈞ヲ委員長ニ指定スル旨並ニ日本在留民保護弁法ハ既ニ起草済ニテ近ク公布セラル可キ旨報道セリ

在仏大使、在支公使、北平、天津、奉天へ転電セリ

117 昭和6年11月3日

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

宣伝にラジオ放送の利用について

上海 11月3日後発
本省 11月3日後着

第七六五号（暗）

波多博カ菊地代議士ト共ニ二日張群ト腹蔵ナキ意見ノ交換ヲナシタリトテ其会談要旨左ノ通来報アリタリ

一、張ハ和平問題ハ外交及政治ニ付双方既ニ意見一致セリ
外交ハ南京政府ニ一任セラレ対日交渉ハ撤兵後直接交渉ノ原則ニ依ル事トナリ剩ス処党ノ問題ノミトナレルカ南京代表ハ中央ト協議ノ為赴寧シ其帰來後ニ非スシテハ今後ノ見当付カス陳濟棠ノ態度急變ニ付テハ未タ何等聞込ナシト語リ和平會議ノ成功ニ付確信ナキモノノ如カリキ二、波多カ満州問題解決ニ付スル日本朝野ノ決心鞏固ニシテ場合ニ依テハ英米ヲ相手ニ戰争ヲモ辞セサルヘキ旨ヲ告ケ撤兵前ノ直接交渉ヲ懲憲セルニ張ハ右日本ノ強硬ノ態度ヲハ疑ヒ居ルカ如キ口吻ヲ洩シ撤兵前ノ直接交渉ハ連盟ニ付スル手前ヨリスルモ不可能ナリト述ヘタルニ付波多ハ其差支ナキ事ヲ弁シ成行ニ放置スルノ危険ナルヲ力説セルモ張ハ説伏セラルニ至ラス

118 昭和6年11月3日

在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

波多博と張群との満州問題に関する会談につ

上海 11月3日後発

いて

上海 11月3日後発

三、經濟絶交運動ニ付張ハ其取締ニハ目下手カ付ケラレス若シ強テ高圧的ニ出テンカ自分（張）等暗殺セラルルカ

第七〇七号
〔一六文書〕
往電第七〇二号ニ閲シ
国民政府ハ本月一日付政府令ヲ以テ冒頭往電ノ
各地接收事宜委員会委員ニ任命シ顧維鈞ヲ委員ニ
発令シ右ハ三日ノ政府公表ニ掲載セラレタリ
支、北平、奉天、天津、仏ヘ転電セリ

幣原外務大臣より
在英國松平大使他宛（電報）

毎日世界ニ対シ領土的野心ナク軍隊ハ必ス撤退スヘシト声
明シツツアルニ際シ右兵營ハ如何ナル目的ヲ有スルモノナ
リヤ吾人ハ日本カ翻然覺醒シ一國ノ強力ヲ以テ世界ノ公理
ト決闘セサランコトヲ希望ス云々

昭和 6 年 11 月 3 日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

南京
本省
11月3日後發
11月3日後着

国民政府ハ本月一日付政府令ヲ以テ冒頭往電ノ七名ヲ東北各地接收事宜委員会委員ニ任命シ顧維鈞ヲ委員長トスル旨發令シ右ハ三日ノ政府公表ニ掲載セラレタリ
支、北平、奉天、天津、仏へ転電セリ

廣夏便り表洋米街
孫和 三四文筆 築倉 阿友仁 佐朝
枢ニシテ其ノ議事經過ノ模様ヲ見ルニ広東側ハ二十二日
付蔣介石宛書面ヲ以テ「外交上ノ一致行動ニ出ツヘシ」

期中央委員ヲ招集シテ第四次代表大会ヲ開催ス(五)国民政府主席ハ独、仏大統領制ニ倣ヒ軍人ニ非ル老練ノ士ヲ之ニ充ツ(六)陸海空軍總司令ノ職ヲ廢シ別ニ軍事機關ヲ設ク(七)會議ノ決定ニハ完全ニ從フトノ七項ヲ以テ討議ノ基礎

二日国民政府紀念週ニ於ケル戴天仇ノ演説要領左ノ通り

昭和6年11月(3日) 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)
国民政府紀念週における戴天仇の演説要領について

ヲ惧レ心配シ居ル次第ナリトテ頗ル関心ノ態度ヲ示シ対
日宣戦ノ不可能ナル事ハ百モ承知シ居ルモ日本トテモ武
力ノミニ依リ中国ヲ圧服シ得サル事ハ明カナルヘク万一
日本軍カ当方面ニ侵入シ来ルト仮定セハ我等ハ河南ナリ
四川ナリノ奥地ニ引揚ケ持久策ニテ対抗スルヨリ外ナカ
ルヘシ云々ト語レリ

支ヘ転報セリ

北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東
ヘ転電セリ

日本軍ハ東三省占領後我行政機關及各種公私財産ヲ破壊シ同胞ノ故ナクシテ日本兵ニ殺戮セラレタルモノ殊ニ多シ事件發生當時蔣主席ハ南昌ヨリ急遽帰来シ（一）飽迄我領土主權及行政ノ保持ヲ期スルコト

トナサムコトヲ提議セルカ南京側ニ於テハ目前第一ノ急務ハ一致外交ニ当ルコトニシテ国内問題ノ如キハ誠意ヲ披瀝スルコトニヨリ解決困難ナラサルヘシト称シ努メテ蔣ノ下野問題乃至政府ノ人選問題ニ触ルルヲ避ケムトシオルカ如ク為ニ二十六日ヨリ二十九日迄都合四次ノ會議ハ主トシテ外交問題ノ討議ニ費サレタル模様ニシテ二十六日會議ニ於テハ汪精衛、蔡元培連名ヲ以テ国民党一致ノ对外政策トシテ⁽¹⁾連盟ト共ニ日本ノ横暴ヲ抑圧ス⁽²⁾露西亞トノ国交回復ハ対日問題トハ別問題ナリトノ二要綱ヲ公表シ次テ二十八日會議ニ於テハ差当リ外交ハ南京政府ヲシテ交渉ニ当ラシムルモ方針及原則ハ會議ニ於テ討論並報告スルコト（但必要ノ場合ノ外外部ニ発表セス）ヲ決定シ三十日及三十一日ノ會議ニ於テ始メテ廣東側提出ニ係ル中央政治改革案ヲ討議ノ結果⁽³⁾五院制度ノ確立⁽⁴⁾政治系統ト組織ノ單純化ハ政治ノ実際的民生化ノ原則及具体的実行方法ヲ決議通過セル趣ナリ

二、之ヨリ先蒋介石ハ二十二日上海ニ來リ廣東側代表ト会見ノ上即日帰京セルカ其ノ際蒋ハ廣東側ニ対シ過去一切ノ責任ヲ負ヒテ下野スヘキ旨言明シタル趣ナルモ其後漸

寧シ為ニ會議ハ二日間休会トナリ其間早クモ形勢險悪ナルモノアルヲ窺フニ足ル

尚會議今後ノ模様ハ適宜取纏メ追報ス

（英宛電報末尾ニハ「仏ニハ直接電報済ミ」ト付記ノコト）

（編注）本電報は、在英國松平大使のほかに「在米、仏、露各大使、在シンガポール、在マニラ各総領事」に発電された。

122 昭和6年11月4日 在本邦蔣中国公使より
幣原外務大臣宛

日本軍の占領地域撤退実施が懸案解決交渉開始

始の前提となる所以について

泰字第一二九号（訳文）

以書翰啓上致候陳者茲ニ本国政府ヨリ電報ヲ以テ日本政府十月三十一日ノ來照ハ既ニ閱悉シタルカ國際連盟理事会十月二十四日ノ中國東北各地ヲ占領セル日本軍隊ノ十一月十六日以前ニ於ケル完全ナル撤退ヲ要求スル

次態度硬化セル模様ニテ前記ノ如ク會議ニ於テ南京側代表ヲシテ下野問題ニ触ルルヲ避ケシムル一方中央系諸将领乃至党部等ヲ利用シテ蒋介石下野反対及廣東派攻撃ヲ宣伝セシメツツアリ右蔣ノ態度硬化ノ原因トシテ或ハ連盟ノ態度カ支那側ノ有利ニ帰シタル故ナリトシ又ハ英國使「ランプソン」ハ十四日米、仏、独等諸国公使ト前後シテ南京ニ來リ二十七日帰平セリ）尙ホ張學良ハ飛行機ニテ二十九日來京三十日帰平セルカ右ハ蒋介石ノ招致セルモノノ由ニテ蔣ハ學良トノ提携ニ依リ其ノ地位ノ保全ニ資セムトシ居ルモノナルヤニ伝ヘラル一方廣東派内部ニハ陳濟棠（在廣東）等實力派ノ軟論ハアルモ汪精衛等ハ飽迄當初ノ方針遂行ヲ期シ蔣ノ下野ヲ固執シツツアル趣ナルヲ以テ今後蔣ノ態度ニシテ變化ヲ見サル限り會議決裂ノ外ナカルヘシト見ラレツツアリ現ニ三十日広東代表ハ蒋介石ノ背信行為ヲ發ク為蔣ヨリ陳銘樞ヲ通シ廣東派ニ与ヘタル「廣東代表カ朝ニ上海ニ到着スレハタニ下野通電ヲ發スヘシ云々」トノ十月五日付電報ヲ公表シタルカ一方南京派代表張靜江、張繼、陳銘樞等ハ和平

両国間ノ懸案交渉ヲ開始シ且調停委員会或ハ類似ノ永久機関ヲ設立センコトハ切望スル所ナルモ撤兵未完了前ニ於ケル商議ハ当然撤兵及ヒ引継ノ細目ニ限ラルヘキモノナルニ付以上ノ各節ヲ日本政府ニ照会セラレ度尚中国政府ノ本件ニ關スル意見ハ已ニ十月三十一日國際連盟ヘ通知済ナルコトヲモ併セテ日本政府ニ照会セラルヘシ

トノ訓令接到致候間委曲右ニ就キ御承知相煩度此段照会得貴意候

敬具

中華民国二十年十一月四日

123 昭和6年11月5日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

上海和平會議および時局に関する許卓然の談

話について

上海 11月5日後発
本省 11月6日前着

五日許卓然ノ当館員ニ語レル時局談要領左ノ通

一、和平會議ハ目下ノ處九分通破裂ノ外ナシ蔣介石ハ同人ノ下野条件以外ハ大体広東側ノ主張ヲ容ルル積リナリシ

124 昭和6年11月5日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

南京・広東和平會議の経過について

奉天、北平、哈爾濱、天津、漢口、濟南、青島、福州、廣東、南京へ転電シ上海へ転報セリ

二、張學良ノ南下ハ滿州接收ニ關シ自ラ其衝ニ當ラント欲シ蔣ノ同意ヲ求メシモノニテ其結果顧維鈞ヲ主任トスル七人ノ委員任命セラレ南京側ニシテ而モ張學良ニモ因縁ヲ有スルモノト認メラル吳鉄城及張群ノ兩人ヲ加ヘラレシカ張群ハ事前ニ何等ノ相談ヲモ受ケス突然任命發表セラシモノニテ同人ハ本件ニ關シ何等ノ準備モ無キ模様ナルモ七人ノ委員中日本ノ事情三通スルト人物ノ穩健ナル点ニ於テ最モ適任者ト思ハル云々

支へ転報セリ

第七七〇号

上海 11月5日後発
本省 11月5日後着

一、四日午前開会ノ予定ナリシ第六回予備會議ハ正式會議タルニ至ラス双方代表ノ外于右任、朱培德、邵力子等ヲモ加ヘタル相談会トナリ午後四時半ニ至リ双方代表ノミノ會議開カレ四全大会ノ開否カ主ナル議題トナリタル所

南京側ハ同大会ハ延期セス広東側選出代表(其他約四百名ト云ハル)ヲモ加ヘテ南京ニテ開会スルコトヲ主張セ

125 昭和6年11月6日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

南京・広東和平會議の見通しおよび事変処理

に関する意見について

上海 11月6日後着

二、和平會議ニ対シ南京側ハ(一)戒嚴令ニ依ルニアラサレハ

軍憲法人民ヲ逮捕処罰シ得サルコト(二)各級党部カ人民逮捕処罰又ハ人民ノ財産營業ニ干渉シ得サルコト(三)集会ノ自由(四)意見發表ノ自由ヲ骨子トスル人民自由権利保障法案ヲ提案スル所アリタル趣ナリ

三、蔣介石下野通電問題ト和平予備會議昨今ノ重大ナル討議ノ題目ナル処後者ニ対シ(一)南京広東双方カ一致開会ス

第一二三一号(極秘)

一、上海ニ於ケル南北和平會議ハ目下ノ處妥協困難ト認メラル若シ纏リタリトルモ蔣介石カ内外ノ關係ヨリ今日ノ如ク強氣ニ出テ居ル際其結果ハ廣東側ノ實質上ノ屈服ト見テ然ルヘシ将来滿州問題ニ付陳友仁ト交渉シ得ルニ至ル場合ト雖モ往電第一二一〇号会談ニ依リテ判明スルカ如ク陳

ノ考ハ廣東系ノ常トシテ相當現実ヲ離レタル点鮮カラス第
一日民両国間ニ今日ノ不戦条約ノ外ニ更ニ不可侵ノ取極ヲ
有効ニ取結ハントスルカ如キハ滿州カ日露支ノ三国ノ間ニ
介在シテ今日ノ如ク条約上又ハ實際上不安定ナル状况ニア
ル間ハ事実不可能ノコトナルヘク又右ノ如キハ民国側カ不
可侵ノ約束ヲ楯トシテ絶ヘス日本側ノ行動ヲ掣肘スルノ武
器トナルニ過キス民國側ハ此意味ニ於テ今回ノ仲裁条約締
結ノ意思發表ト同様ノ考ヨリ之ヲ歓迎スルモノノ如ク認メ
ラル次ニ滿州ハ中央直属ノ理想的平和境タラシムル考ノ如
ク日本ニ依ル事実上ノ統治ヲ承認スレハ兎モ角彼ノ云フカ
如キ考案ニテ之ヲ行フハ余程民国ノ現状ト懸離レタル様ニ
感セラル

更ニ又民國側カ帝國政府ノ五大綱目ヲ受ケ容レルトシテモ本カ既ニ治安維持ニ重大ノ関心ヲ有スル以上交渉ノ際民國側ト充分實質的ノ意見ノ合致ヲ見ル必要アルヘシ要スルニ最善ノ場合ニ於テモ直接交渉ノ前途ハ略遠ク且又多難ナルヲ思ハシムル次第三付満州ニ於ケル我軍ノ行動及其他我方ニ諸般ノ施設ハ右ノ事態並ニ國際關係上ノ我不安ナル地位

ニ急速ニ我経済界ニ反響シツツアリ我方ハ充分ニ自給策ヲ講スルト共ニ往電第一一七二号ノ如ク海關ノ中央取分ノ差押等ノ報復手段ヲ執リ他日ノ保障トナスコト然ルヘシ（本電ハ三日発ノ筈ナリシモ手違ニテ遅延セリ）

126
昭和6年11月6日

談話について

南京発大臣宛（電報）第七〇二号ニ関シ上海市長張群ノ談
〔一六文書〕

トシテ六日漢字新聞ノ報道中左ノ一節アリ

東北接收委員任命ニ付テハ事前ニ何等与リ聞カサリシ処當

責上輕々ニ一步モ離滯シ能ハサル現況ナルニ付既ニ該委員

辭退方中央ニ電請セリ云々尚張群ハ波多ニ対シ蔣介石及陳

立夫ニ於テ自分（張）カ南京側トシテ対日関係良好ナル故

ノ考ハ廣東系ノ常トシテ相当現実ヲ離レタル点鮮カラス第

(3) ヲ考慮ニ入レテ慎重ニ行ハルヘキハ当然ト認メラル
二、喜井経三以天哉國祭乃地立ハ吉ノ、丁度ヲ受ニ

一 日 月 両 国 間 二 今 日 ハ 不 軍 条 約 ノ 外 ニ 更 ニ 不 可 侵 ハ 取 極 ハ
有 効 ニ 取 結 ハ ン ト スル カ 如 キ ハ 滿 州 カ 日 露 支 ノ 三 国 ノ 間 ニ
介 在 シ テ 今 日 ノ 如 ク 条 約 上 又 ハ 実 際 上 不 安 定 ナ ル 状 況 ニ ア

ル間ハ事実不可能ノコトナルベク又右ノ如キハ民国側カ不
可侵ノ約束ヲ楯トシテ絶ヘス日本側ノ行動ヲ掣肘スルノ武
器トナルニ過キス民國側ハ此意味ニ於テ今回ノ仲裁條約締
結ノ意思発表ト同様ノ考ヨリ之ヲ歓迎スルモノノ如ク認メ

(4) フ考慮ニ入レテ慎重ニ行ハルヘキハ当然ト認メラル
二、事件発生以来我国際的地位ハ甚シク打撃ヲ受ケ非常ニ
不安ナル状態ニアルニ対シ民国側ハ対連盟ノ作戦ヲ進メ凡
ユル手段ヲ以テ日本ヲ孤立ニ陥レ世界輿論ノ圧迫ヲ以テ局
面ヲ自己ニ有利ニ展開セントシ右ハ漸次効果ヲ挙ケツツア
ルハ見遁シ難シ我方トシテハ從来ノ建前ニ何等ノ変更ヲ加
フルコト無キハ勿論ナルカ一方或種ノ部分的撤兵等我方ニ
実質上ニ不利無キ方法ニ依リ事態ノ緩和ヲ計リ世界ニ対ス
ル立場ヲ今少シク改善スルト同時ニ例ヘハ鉄道付属地外ハ
或ハ混合警察ノ如キ何等力比較的ニ付キ難キ方法ニ依リ
実効ヲ収メ余リ非難ヲ受ケシシテ治安ノ維持ヲ確保スルノ
方法モアルヘシ

三、事件ノ根本タル民国側ノ條約否認及反日運動経済絶交ニ対シテハ飽迄強硬ナル態度ヲ以テ之ヲ追究スルコトハ満州問題及民国ノ事態ニ対スル世界ノ理解ヲ進ムル所以ニシテ同時ニ我方ノ立場ヲ強ムルコトナルヘシ若シ将来ノ交渉ニ於テ民国側ト此点ニ付何等カノ約束出来タリトスルモノ事実不可能ナルヘク今回ノ経済絶交ニ依ル打撃ノ如キ現（濟南事件ノ如ク）経済絶交ノ廢止及旧態ノ完全ナル恢復

ヲ以テ右委員ノ中ニ加ヘタルモノト思ハルルモ市政繁忙ニ付引受ケサル考ヘナリト内話シタルコトアル趣ナリ

奉天、北平、南京三転電シ、支ニ転報セリ

127 昭和6年11月(7日) 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

外交部長回答に対する応酬振りおよび経済断交に対する報復手段について

上海 本省 11月7日前着

⁽¹⁾ 第一二三三号（樞秘）

一、外交部長公文ニ對シテハ更ニ我主張ヲ繰返シ回答方御詮議中ト思考スル處右回答ニ於テハ民国側公文ノ要旨ニ

一反駁ヲ加フルト共ニ元來事件ノ根本ハ民国側力常ニ我方

ノ條約上ノ権益殊ニ滿州ニ於テハ我歷史上ノ地位迄モ否認

スルノ政策ヲ採リ右政策遂行ニ故障ヲ生スル場合ニハ之ニ
対応スル為経済絶交ノ手段ニ訴フルノ常套手段ニ依リ居ル

コト在リ即チ民国側ハ外国ノ條約上ノ権益ヲ蹂躪スル実行方法トシテ經濟絶交ノ手段ヲ用ユルモノニシテ右手段ハ十

事項6 国民政府との交渉

- 月九日付我方覚書ニモ述ヘタル通戦争行為ニ等シキ非常手段ナルニ付適当ノ時期迄ニ其完全ナル取締リナキトキハ我方ニ於テモ之ニ対スル報復手段ヲ講シ又ハ(脱)拡張スヘキ旨ヲ詳細明確ニ記載シ我態度ヲ世界ニ示スコト適當ナルヘシト思考ス(之ヲ以テ往電第一一五一号民国側公文ニ対スル回答ヲモ兼ネ得ヘク今日迄ノ處右本筋ノ点ハ充分世界ニ響キ居ラサルノ感アリ繰返シ各方面ヨリ説明ノ要アルヘシ)
- (2)、經濟絶交ニ対スル報復手段トシテハ今回ノ事件ハ相当長期ニ亘ルヘキ点ヲ考慮シ長キ經濟絶交ニ対抗シ中央政府ニ痛手トナリ我ニ於テ継続的ニ使用シ得ヘキ方法タルヘキコトヲ要ストノ見地ヨリ往電第一一七二号海關付加税收入差押ヲ考案セル次第ナリ若シ塩税差押ノ如キモ果シテ右カ地方維持委員会ノ収入ノ為軍ノ手ニ差押ヘ居ル実情ナラハ之ヲ一括シ報復手段トスルモ可ナルヘシ(右塩税差押ニ付我軍ノ事実行ヒ居ルニ拘ラス後ヨリ政府ニ於テ否定シ行クカ如キハ説明トシテモ効果ナカルヘシ)
- 十月九日付覚書ノ如キ我方ノ強硬ノ態度ヲ示シ乍ラ先方ニ於テ改ムル処ナキニ拘ラス何等報復手段ヲ執ラサルハ不合
- 南京上海ニ転報アリタシ
北平奉天ニ転電セリ
- 南京上海ニ転報アリタシ
北平奉天ニ転電セリ
- 129 昭和6年11月9日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)
黄郛來日の新聞報道について
- 第一二三七号
(二八文書)
貴電第四六二号ニ関シ
- 黄郛ハ目下上海滬在中ニテ過日李石曾張靜江等力滯滬中同人ト往来シ居リ現ニ許卓然ハ八日黃ニ面会ノ節最近蔣介石ニ對シ内政上ノ意見ヲ書面ヲ以テ申送リタルコトヲ知リタル旨九日館員ニ話シタル次第モアリ旁御來示ノ如キ事実ナシト存セラル
- 北平、奉天、南京へ転電シ上海へ転報セリ
- 130 昭和6年11月9日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)
日本軍の北満進出に関する張學良の通電について
- 南京上海ニ転報アリタシ
北平奉天ニ転電セリ
- 南京上海ニ転報アリタシ
北平奉天ニ転電セリ
- 128 昭和6年11月8日 在上海重光公使宛(電報)
国民政府元外交部長黄郛來日の新聞報道について
- 本省 11月8日後6時発
第四六二号
北平 11月9日後6時発
滿州事変一件(黄郛渡日ノ件)
第六二三号
本省 11月10日前着
北平 11月9日後6時発
滿州事変ニ關スル六日付張學良ノ通電左ノ通
日本ハ依然強弁ヲ弄シ又曩ニ事件不拡大ノ声明ヲ為セルモ事実ハ全然之ニ反ス十月二十四日以後ノ日軍暴行ヲ摘草スレハ左ノ如シ
- 一、十月三十一日ヨリ十一月一日ニ亘リ日軍鉄甲車一列車兵士ヲ搭載セル二列車通遼ニ至リ县城ヲ砲撃シ二日朝ニ及ヘリ其間多數蒙匪日軍掩護ノ下ニ前進セリ次テ鐵道ヲ修理シテ通遼北端ニ達シ日章旗ヲ掲ケ且停車場付近ニ塹壕ヲ築キ積極進行スルト共ニ南北停車場間連結点ニ地雷ヲ埋没セリ両三日再ヒ南端ヲ砲撃セルカ同日北端ニハ鉄甲車二列車アリ又開魯行鐵道分歧点ヲ破壊セリ右日軍ノ暴行ハ蒙匪ヲ援助シテ内乱ヲ起サシメ将来ノ口実ト為シントセルモノナルハ明ナリ
- 二、日軍ハ張海鵬ヲシテ江省ヲ撓乱セントシテ成功セサリシヲ以テ洮昂線ハ借款關係アルヲ理由トシテ江橋ハ鐵路局ニテ修理スヘキモノナルニ拘ハラス遂ニ江橋ヲ占領シ

修理ヲ強行シ更ニ大興ノ占領ヲ要求セリ其ノ間軍隊ヲ六

列車江橋ニ輸送セルカ四日日軍ハ支那服ニ変装シ土匪ニ

交リテ江ヲ渡リ我軍陣地ヲ攻撃シ五日日軍ノ一部ハ張海

鵬軍ヲ掩護シテ猛烈ナル攻撃ヲ加ヘタリ飛行機五台ハ我

陣地ニ数百ノ爆弾ヲ投下シ又十八門ノ山砲ノ威力強大ニ

シテ我方死傷者夥シキモノアリ六日關東軍司令部代表林

少佐ハ江省主席ヲ張海鵬ニ譲リ維持会ヲ組織センコトヲ

要求シ右実現ノ上ハ攻撃ヲ停止スヘシトテ態度極メテ強

硬ナルモノアリ日軍ハ尚引続キ大部隊ヲ増派中ニテ事態

甚夕急ナルモノアリ目下極力自衛ニ努メ防衛ノ法ヲ講シ

ツツアリ日軍ノ侵略行為ハ此ノ外枚挙ニ暇アラス

公使ヨリ上海へ転報アリ度シ

公使、南京、廣東、天津、奉天、哈爾賓へ転電セリ

131 昭和6年11月10日

在南京上村領事
（幣原外務大臣宛）（電報）

國民政府の東北各地接收委員会組織規程公布

について

南京 11月10日後發
本省 11月11日後着

- 接洽事項ヲ處理ス
- 第六条 治安處ハ軍隊憲兵警察ノ派遣監督及接收地方ノ治安事項ヲ處理ス
- 第七条 交通處ハ鉄道道路電信電話及其他一切ノ交通事項ヲ處理ス
- 第十二条 本委員会ハ必要アル場合以外専門家ヲ招聘シテ専門委員トナシ各種事宜ヲ共助又ハ計画セシムルコトヲ得
- 第十三条 本委員会ハ國際連盟決議案ヲ指定セル各事件ノ進行ニ關シ委員長ヨリ各國政府ノ派遣スル代表ヲ招請シ之ヲ觀察スヘシ
- 各國政府ノ派遣スル代表ニ對シテハ一切ノ便宜ヲ供与スヘシ
- 本委員会ハ隨時接收記録ヲ作製シ各國政府派遣ノ代表ニ交付シ参考ニ供スヘシ
- 第十五条 本委員会ハ必要アル場合各接收区域ニ法トシテ戒嚴ヲ宣布スルコトヲ得
- 第十七条 本規程ハ國民政府ヨリ公布施行ス
- 支、北平、奉天、仏へ転電セリ
- 委細公信

第七二八号

往電第七二七号ニ關シ

國民政府ハ九日付ヲ以テ東北各地接收事宜委員会組織規程ヲ公布セルカ其要領左ノ通

第一条 本委員会ハ國民政府ノ命ヲ受ケ日本軍ニ占領セラレタル東北各地接收ニ關スル細目ヲ商訂シ並ニ各該地ノ接收及善後事宜ヲ弁理ス

第二条 本委員会ハ國民政府ヨリ委員七人ヲ簡派シ之ヲ組織シ且委員一人ヲ指定シテ委員長トナス

委員長ハ本委員会一切ノ事務ヲ綜理ス

第三条 本委員会ニ左ノ各處ヲ置ク

一、政務処

二、外事処

三、治安処

四、交通処

第四条 政務処ハ接收各地ノ民政財政金融實業等ノ事件ヲ處理ス

第五条 外事処ハ各國政府ノ派遣スル代表ト接洽シ撤退區域接收ニ關スル細目ヲ制定シ並ニ前記各事項ニ關スル対外處理ス

132 昭和6年11月10日 在シアトル内山（清）領事
（幣原外務大臣宛）（電報）

嚴駐米代理公使の滿州事變に関する談話について

シアトル 11月10日後發
本省 11月11日後着

第四一号

駐米支那代理公使トシテ赴任ノ途次十日來沙シタル嚴鶴齡ハ新聞記者団ノ奉天時局ニ關スル質問ニ對シテ支那ハ戰意ヲ有セサルモ日本ハ之ヲ有シ居レリ日本軍カ撤兵セサル以上支那ハ平和ノ交渉ニ應スル能ハス又若シ奉天事件ヨリ日支開戦ヲ見ルカ如キ事実アラハ支那ハ先ツ英米二國ノ援助ヲ要スヘク英米ニシテ之ヲ与ヘンハ唯露西亞ノ援助ニ俟ツ可キノミ尤露西亞ノ援ヶヲ藉ルトキハ支那ニ於ケル赤露共產分子ヲ增加スヘキ危險アリ云々ト述ヘタル旨同日各紙上ニ報セラル

米へ転電シ在米各領事（「ホノルル」ヲ含ム）へ暗送セリ

133 昭和6年11月12日 在上海重光公使
（幣原外務大臣宛）（電報）

事項6 國民政府との交渉

支、北平、奉天、仏へ転電セリ

天津事件に関する抗議文外交部に提出について

て

別電 同日重光公使より幣原外相宛第一二六二号

一一月一二日付公文

付記 一一月一二日在南京上村領事より幣原外相宛電報

報第七三一号

右公文外交部に送達済について

上海 11月12日後発
本省 11月12日後着

第一二六一號（暗、大至急）
本官発南京宛電報

第六〇二号

大臣発本使宛電報第四六五号ニ関シ

別電第六〇三号天津事件ニ関スル抗議文貴方ニテ作製ノ上
十二日付ヲ以テ大至急外交部長宛提出セラレタシ右ハ十三
日朝發表スヘシ

本電別電ト共ニ大臣、連盟ヘ転電シ、本電ノミ北平、奉
天、廣東、天津、在仏大使ヘ転電セリ

連盟ヨリ本電ノミ在欧各大使ヘ転電アリタシ

（別電）

第一二六二号（略、大至急）
本使発南京宛電報
第六〇三号

別電

以書翰啓上致候陳者十一月八日天津ニ於ケル貴国行政管下
ニ於テ暴動發生ノ際貴國官憲ニヨリテ同地日本駐屯軍ノ付
近ニ派遣セラレタル貴國軍隊及保安隊ハ妄ニ日本駐屯軍及
日本租界ニ向テ發砲セルカ為既ニ駐屯軍兵二名及婦人一名
ハ射殺セラレ其他ニモ負傷ヲ生シ候貴國政府ハ明治三十五
年（一九〇二年）七月天津還付ニ関スル日清交換公文ニ於
テ外國兵ト貴國兵トノ衝突ヲ避クル為天津駐屯外國軍隊ヲ
去ル二十清里以内ニ貴國軍隊ノ接近シ又ハ駐留スルコトヲ
禁セラルヘキ旨ヲ約束セラレ居ル處今般貴國側ハ其軍警ヲ
日本駐屯軍ノ付近ニ駐派シ天津日本總領事ノ再三ノ注意
ニモ拘ラス今尚撤退セシメサルハ明ニ前記交換公文ノ違反
ナルノミナラス右軍警力妄ニ我方ニ向ヒテ發砲シ死傷者ヲ
モ生セシメタルカ如キハ貴國政府ノ負担セラルヘキ重大ナ

134 昭和6年11月12日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件に関する張學良の通電に対する反駁

について

上海 11月12日後発
本省 11月13日前着

第一二六五号（暗）

天津発閣下宛電報（四一五六文書）
第四九六号ニ關シ

張學良ノ通電ニ對シテハ當方ニ於テ早キニ臨ミテ天津ヨリ
ノ報告ニ基キ一々其事實ニ反スル点ヲ指摘シスル不都合ナ
ル宣伝ヲナシタルコトニ對シ嚴重抗議スル公文ヲ国民政府
ニ提出スルト共ニ貴電第四六五号ノ次第モアルニ付右同様
之ヲ公表スルコトセリ御含ミ置アリ度シ

冒頭天津發大臣宛電報第四九六号ト共ニ南京ニ転電セリ
連盟、北平、奉天、天津ニ転電セリ

第七三一号（暗）
本官発在支公使宛電報第六八八号
貴電第六〇三号ニ關シ
御訓令ノ抗議文ハ十二日午後五時半外交部ニ送達済
外務大臣、北平、奉天ヘ転電セリ

南京 11月12日後発
本省 11月12日後着

135 昭和6年11月12日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

国民政府回答に対する反駁文提出の必要につ

本省 11月13日前着

第一二六六号（暗）

南京発本使宛電報第六八五号ニ関シテハ貴電合第一四一八号ノ趣旨ニ依リ反駁書ノ公文ヲ提出スルコト然ルヘシト存セラル何分ノ儀折返シ御回電相成度シ

仏、奉天、北平、南京ニ転電セリ

136 昭和6年11月12日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件に関する抗議張学良らに対しても申入れ方について

上海 11月12日後發
本省 11月12日後着

第一二六八号（暗）
(三三文書)
本使発上村宛電報第六〇二号ニ関シ

本件ハ當方ヨリ国民政府ニ対シ申入レタル處同時ニ北平及天津ニ於テモ張學良及王樹常其他ニ対シ我方ノ要求通り軍隊ヲ撤退セシムル様同様ノ申入レヲナスコト然ルヘシト思考セラル既ニ御措置済ミノ事トハ存セラルモ為念

天津、北平、奉天、南京、廣東、在米大使、連盟へ転電セ

リ

連盟ヨリ在欧各大使へ転報アリ度シ

在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

国民政府法律顧問ラインバーガーの満州事変

に関する声明発表に対する反響等について

上海 11月12日後發
本省 11月13日前着

第八〇四号
十日華府発「ユー・ピー」ニ依レハ在華府国民政府法律顧問「ラインバーガー」ハ滿州事件ニ關スル声明ヲ發表セル

處其内ニハ若シ連盟カ滿州問題ヲ解決シ得サレハ支那ハ日本ト戰フヘク蔣介石ハ二百万ノ軍隊ヲ有ス自分ハ米国議会ヲ動カシ支那ノ為ニ日支紛争ニ干渉方米国政府ニ請願セントスト述ヘ居レル旨報道セリ又十二日ノ「デイリー・ニュース」及上海「タイムズ」ニ依レハ「ラ」ハ滿州事件ニ関スル在米支那人ノ會合ニ於テ読ミ上ケラルヘキ排日煽動的言辭（日本人及日本ノ武力侵略ニ同情スル外人ト絶交セヨ米国ハ千五百「ブッシュ」ノ小麦ヲ送リ水災民ヲ救助シ

ツツアルニ日本ハ大砲及毒瓦斯ヲ以テ支那人ヲ害セントシツツアリ等）ヲ連ネタル「ラ」ノ「メッセージ」ヲ各方面ニ配布シ來レル由ニテ両紙共之レヲ攻擊シスル宣伝ハ支那側ノ為百害アリテ一利ナキ旨論シ居レリ

公使ニ転報セリ

連盟、北平、奉天、南京ニ転電セリ

連盟ヨリ米ニ転電アリタシ

138 昭和6年11月13日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

滿州問題の解決に関する張群との会談について

上海 11月13日後發
本省 11月14日前着

第一二七六号（暗、極秘）
貴電第四五三号ニ関シ

張群ノ態度ハ不取敢往電第一一〇三号ヲ以テ電報済ナルカ十二日更ニ同氏ト長時間會見セリ

張群ハ今回ノ事件解決ニ對シ何等名案ナク日本側トシテハ結局ハ直（接）交渉出來サレハ連盟ニ聽從スルカ又ハ其制

裁ヲ受クルカノ外ナカルヘク民国側トシテハ面目上態度ヲ變更スルコト能ハサル次第ヲ述ヘ居タルカ本使ハ特ニ日本側ノ態度ヲ民国側ニ徹底セシムル目的ヲ以テ支那側ノ行動特ニ宣伝ト排日手段ハ日本側ノ軍部等ノミナラス之迄民国ニ対シ好感ヲ有シタル自由主義者ノ態度ヲモ極端ニ硬化セシメ更ニ連盟ノ如キ第三者ノ容喙ハ日本人ノ反撃的態度ヲ一層強クセシメ今ヤ我上下ハ如何ナルコトアルモ声明セラレタル方針ヲ枉クルコトナキ決心ヲ固メ居ルニ付此点ハ民國側ニ於テ見誤ラヌ様セラレタシ双方相対ツクナラハ日本（脱？）ノ態度ニ出ツルノ雅量ハ日本人ニアルモ他ヨリノ圧迫ハ飽ク迄之ヲ反撃スルハ日本人ノ特長ニシテ右ハ日本ノ力ヲ以テスレハ為シ得ルコトナリ特ニ深刻ナル經濟絶交ハ民国側ノ用フル戦争手段ニ等シキ非常手段ト解シ日本実業界モ非常ナル激昂ナリ尚國際連盟モ果シテ從来ト同一ノ態度ヲ執ルヤ疑問ナリトノ趣旨ヲ述ヘタル處張群ハ矢張り自己ノ觀察ヲ繰返シ且日本側カ事態ノ拡大ヲ防ガサル点ニ付度々不平ヲ述ヘ上海ニ於テモ日本ノ浪人ト軍部ノ策動ハ實ニ困却スル旨指摘シ居タリ右ニ対シ本使ハ深刻ナル經濟絶交及惡宣伝カ如何ニ日本側ノ悪感ヲ買ヒ事態ヲ悪化シ居

ルヤヲ述へ置キタリ更ニ本使ハ今日ノ状況ニテハ事態ハ險
悪化シテ止マル所ナカルヘク其ノ結果ハ恐ラク民国側ニ取
リ容易ナラヌ不利益ヲ招来スルコトアルヘキ旨ヲ特ニ注意
シ置ケリ次テ張ハ今日ニ於テ表面的ノ直接交渉ハ愚カ自分
等力南京ニ於テ充分意見ヲ吐露スルコトモ出来難キ状態ナ
ルモ兎ニ角双方ニ於テ私的ノ会談ヲ続行シ撤兵カ先トカ後
トカノ面目問題ヲ後廻シトシ日本ハ満州ニ於テ何ヲ欲スル
ヤ等ノ結論ニ付纏メラモノナラ話ヲ纏メソレヨリ双方面目
問題タル手続問題ニ付テ協議シテ行クコト實際的ナルヘキ
旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ「結局右ノ如キ方法ヲ選フノ外ナ
カルヘク而シテ日本ハ今日迄其主張トシテ有ユルモノヲ曝
ケ出シ満州ニ於ケル交渉ノ手始メハ既ニ五大項目トシテ発
表セラレアリ右ハ当然過キル程当然ノ項目ノミナリ」ト説
明セル處張ハ「右五項目中唯條約問題ノミハ困難ナリ自分
ノ考ニ依レハ條約ヲ認ムルトカ認メストカノ問題ヲ斥ケ孫
総理ノ遺訓モアリ日本ニ經濟的ノ利益ヲ根本的ニ新ニ承認
シテ右條約問題ノ妥協ヲ見ル様ニスルノ外ナカルヘシ」ト
ノ趣旨ヲ述ヘ居タリ

尚張群ハ在東京蔣公使ヨリモ自分等ノ意見ヲ質問シ來リ居
（付屬書）
天津事件張學良通電ニ対スル抗議文
号信写送付
天津事件張學良通電ニ対スル抗議文
公信機密第四六二号
上海 11月13日付

ルヤヲ述へ置キタリ更ニ本使ハ今日ノ状況ニテハ事態ハ険
悪化シテ止マレ所ナカルヘク其ノ結果ハ恐ラク民国側ニ取
リ容易ナラヌ不利益ヲ招来スルコトアルヘキ旨ヲ特ニ注意
シ置ケリ次テ張ハ今日ニ於テ表面的ノ直接交渉ハ愚力自分
等カ南京ニ於テ充分意見ヲ吐露スルコトモ出来難キ状態ナ
ルモ兎ニ角双方ニ於テ私的ノ会談ヲ続行シ撤兵カ先トカ後
トカノ面目問題ヲ後廻シトシ日本ハ満州ニ於テ何ヲ欲スル

ルモ実ハ名案ナキ次第ナリト語リ居タリ要スルニ直接交渉
ハ容易ノコトニアラサルモ張群ノ説ノ如キ的会談ヲ続ケ
居ル間ニ適當ノ空気ヲ醸成スル様ニ仕向クルノ外ナカルヘ
シ
北平、奉天、南京、連盟、米ヘ転電シ、上海ヘ転報セリ

昭和 6 年 11 月 13 日 在上海重光公使より

（在東京外務大臣宛）

386

張学良の天津事件通電に対する抗議を外交部
にて提出について

付屬書 同日付重光公使より右南京上木航事列公信機密
第四六二号

付記 公文
一月一四日上村領事より幣原外相宛電報第七

右公文外交部に送達済について
三七号

本省 上海 11月13日付
11月25日着

信機密第四六二號
和六年十一月十三日付南京上村書記官宛機密公第四六二

卷之三

天津事件張學良通電三對スル抗議文

三

公信機密第四六二号

天津事件張學良通電ニ対スル抗議文
本件ニ関シ別紙抗議文總領事館警察官ヲシテ本十三日夜行
列車ニヨリ貴方ニ持參セシムルニ付右至急外交部ニ御提出
アリ度シ右ハ十五日朝刊新聞ニ發表ノ筈

本信写送付先
外務大臣、北平、天津
(別紙)

外第七二号

以書翰居上致候 陳者 国民政府陸海空軍副司令張學良氏
ハ今般天津ニ於ケル貴国行政管下ニ起レル暴動ニ閔シ十一
月九日付ヲ以テ公然通電ヲ発シタル旨新聞紙ニ掲載セラレ
居ル處右ノ中ニハ左ノ通り全然事実ニ反シ又ハ事実ト符合
セサル点乃至事態ヲ正解シ居ラサル点有之候。

前頭通電ニ於テ「八日夜十時半武装便衣隊二千余名日本租界海光寺ニ集合シ十一時頃三隊三分レ日本租界各街

モ亦其ノ後ニ於テモ所謂便衣隊カ日本租界内ニ在リタルカ如キ事實ナシ。

三、続イテ右通電ニハ「日本軍司令官ハ王省長ニ對シ我軍警保安隊ヲ午前六時迄ニ日本租界境界線ヨリ三百米後退方ヲ要求シタルカ王ハ右要求ノ理由如何ヲ詰問中」云々及「王ハ既ニ極力暴徒ノ防禦ニ努メツツアル際事實上後退シ得サル旨ヲ答ヘタルニ拘ラス更ニ威圧的催促ヲ為シ來レリ」トアル處保安隊其ノ他民國軍隊ヲ日本駐屯軍ヨリ二十支里以内ノ地點ニ置カサルヘキコトハ明治三十五年七月天津還付ニ關スル日清交換公文ニ於テ貴國政府ノ約束セラレタル所ナリ。況ニヤ當時貴國軍警ハ日本駐屯軍トノ間僅ニ五十米ノ近距離ニ於テ妄ニ駐屯軍及日本租界ニ向ケ發砲シ其ノ結果駐屯軍沢田二等卒ハ九日午前零時同官本曹長ハ九日午前四時半何レモ射殺セラレ又租界内ニ在リタル日本婦人一名モ太腿ニ貫通銃傷ヲ受ケテ死亡シ其ノ他ニモ負傷者ヲ生セル次第ナルカ、斯ル危險極マリナキ事態ニ於テ右軍司令官ノ要求ハ前記條約上ノ見地ヨリスルモ亦貴我ノ衝突ヲ避ケル實際上ノ見地ヨリスルモ当然且緊要ノコトナルヲ知ルヘシ。同地日本總領事

ニ於テモ右ノ事態ヲ憂慮シ貴國官憲ニ對シ速ニ軍警ヲ撤退セシムヘキコトヲ注意シタル次第ナルカ右ニモ拘ラス數時間ノ長キニ亘リ貴國側ニ於テ何等右我方申出ヲ顧ミサリシノミナラス却テ我ニ向テ發砲スルヲ停止セサリシ事実ハ了解ニ苦シム所ニシテ尚右ノ結果前記ノ通り我方ニ於テ死傷者ヲ出シタルコトニ對シテモ貴國政府ハ其ノ責任ヲ負ハルヘキ次第ナリ。貴國軍警カ日本租界ニ向ケ發砲セルコトニ付テハ天津在住外國人側ニ於テ之ヲ現認シタルモノアルコトヲモ付言ス。（尚本事件後ニ起リシ事態トシテ九月十三日在天津總領事ノ報告ニ依レハ十二日天津貴國官憲ハ同總領事ニ對シ同日夜便衣隊出ツルコトアルモ保安隊ヲシテ銃剣ヲ以テ対抗セシメ發砲ハ絶対禁止セシムヘキ旨ヲ約束シタルニモ拘ラス十三日午前一時頃ヨリ銃声漸次増加シ同五時頃ニハ機関銃迫撃砲スラ混シ砲彈ノ日本駐屯軍兵營及東南城廓等へ落下セルモノ夥シカリシ趣ナリ。（日本軍ハ一發モ之ニ應射シタルコトナシ）右ノ如キ貴國官憲ノ不誠意ナル態度ハ特ニ茲ニ指摘セントス。）

四、更ニ右通電ニ於テ「當時便衣隊ハ漸次擊滅シタルニ依

本軍隊ノ公正ナル態度ヲ傷ケントシ併セテ日本人カ本事件ニ關係シ居ルカ如ク宣伝スルコトニ對シテハ到底之ヲ容認シ得茲ニ嚴重抗議ヲ提出スル次第三有之候。尚本使ハ本件ニ關シ貴國政府ニ於テ張副司令ニ對シ充分戒告ヲ与ヘラレンコトヲ要求致候。

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。敬具

昭和六年十一月十三日

日本帝国特命全権公使 重光 葵
国民政府外交部長代理 李錦綸殿

（付 記）

第七三七号（暗）

本官發支宛電報

第六九四号

南京	11月14日後発
本省	11月14日後着

貴電第五一〇号天津事件抗議文ハ十四日午前転達済

大臣へ転電セリ

帝国政府トシテハ国民政府陸海空軍副司令ノ職ニ在ル張學良氏カ右ノ如キ虚構ノ通電ニ依リ故意ニ日本政府官憲及日良氏カ右ノ如キ虚構ノ通電ニ依リ故意ニ日本政府官憲及日

嫩江事件に關する国民政府外交部來翰について

付屬書

公文

南京 11月13日付

本省 11月21日着

公文

昭和六年十一月十三日付機密公第六二四号重光公使宛公信
写送付
公信機密送第八一六号

昭和六年十一月十三日付機密公第六二四号重光公使宛公信
写送付

件 名

一、嫩江事件ニ関スル外交部長來翰転達ノ件

本件ニ關スル本月十一日付外交部長來翰別紙ノ通轉達ス御
査収相成度

本信写送付先 大臣 北平 奉天

(付屬書)

照 会

大中華民国外交部長

照会事查此次日軍以武力佔領東省各地自國際連合會行政院
決議撤兵弁法後中國政府以為日本政府必將依照決議案立即

撤兵乃數旬以來日本軍隊不獨無撤兵之意抑且繼續擴張其非
下野將政權交與張海鵬接受等語日軍此種舉動其為欲利用叛
徒佔領黑龍江省城以造成與遼吉同樣之局面實已毫無疑義日
本軍隊似此積極侵略行為不獨違反國際公法與國際公約且又
違反國際連合會行政院決議案日本政府之責任愈形重大應請

貴國政府立即制止此項違法行為并迅速履行國際連合會行政
院決議案至於此次日軍在黑龍江省之行動而對於中國政府及
人民所加之損害日本政府自忘如對於其他各地所加之損害同
樣負完全賠償之責任須至照會者

転電

貴國政府立即制止此項違法行為并迅速履行國際連合會行政
院決議案至於此次日軍在黑龍江省之行動而對於中國政府及
人民所加之損害日本政府自忘如對於其他各地所加之損害同
樣負完全賠償之責任須至照會者

右 照 会

大日本國特命駐華全權公使重光

李 錦 紘 代

中華民国二十年十一月十一日

141 昭和6年11月14日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛 (電報)

一月一四日付天津事件に關する外交部抗議

大要について

南京 11月14日後發
本省 11月15日後着

第七三八号 (略)

本官發在支公使宛電報

第六九五号

大臣發貴公使宛電報第四六六号ニ閔シ

十四日午后八時半外交部員ノ齋ラセル十四日付貴公使宛外
交部長代理ノ公文大要左ノ通

十一月八日以來天津ニ於テ多數便服ノ暴徒日本租界ヨリ武
裝ノ上中國政府機關ヲ攻撃シタルニ付中國當局ニ於テハ治
安維持ノ為保安隊及警察ヲシテ必要ノ防禦ヲナサシメタル

カ暴徒ハ任意ニ武器ヲ使用シ日本租界ニモ亦彈丸侵入シ中
至大興站日飛機多架復飛至中東路昂昂溪南之小橋地方沿途
橋甚遠乃日軍一再進迫並誘脅張海鵬叛衆同時猛烈進攻中國
軍隊於是不得不採取正当防衛必要手段茲拠報告日軍已進佔
下野將政權交與張海鵬接受等語日軍此種舉動其為欲利用叛
徒佔領黑龍江省城以造成與遼吉同樣之局面實已毫無疑義日
本軍隊似此積極侵略行為不獨違反國際公法與國際公約且又
違反國際連合會行政院決議案日本政府之責任愈形重大應請

貴國政府立即制止此項違法行為并迅速履行國際連合會行政
院決議案至於此次日軍在黑龍江省之行動而對於中國政府及
人民所加之損害日本政府自忘如對於其他各地所加之損害同
樣負完全賠償之責任須至照會者

事項6 国民政府との交渉

ラス此点ニ関シ若シ事態逼迫シ警察保安隊ノ力量ニテ彈圧シ能ハスト認ムル時ハ中国政府ハ中外人民ノ安全ノ為或ハ軍隊ヲ派遣スルノ必要アルヘク之亦前記交換公文ノ精神ニ合セスト云フヘカラス今次事變ニ際シ中国政府ハ地方治安ノ維持及中外人民ノ保護ノ責任上只警察及保安隊ニノミ命シテ暴徒ヲ防キ居リ數日來地方ノ秩序モ幸ニ維持セラレ居ルニ付中国政府ハ貴国政府ニ対シ速ニ天津日本租界當局ニ命令シ一切ノ暴行ヲ制止セラレントヲ要求スルト共ニ若シ不幸ニシテ上述ノ如キ事件再發センカ其責任ハ完全ニ日本政府ニ於テ負フヘキモノトス

外務大臣、在仏大使、奉天、天津、北平ヘ転電セリ

142 昭和6年11月16日

在上海重光公使より
※幣原外務大臣宛(電報)

田代陸軍武官の帰朝について

上海 11月16日後発

本省 11月17日前着

第一二八六号(極秘)

永井次官、谷亞細亞局長ヘ

當地陸軍武官田代^(統一郎)少將ハ至急帰朝ヲ命セラレ多分閩東軍參

上海 11月16日後発

本省 11月17日前着

第一二八九号(暗)

本使發奉天宛電報

第三二号
有事ノ際民國側ノ日本ニ対スル作戰的計畫トシテ「日本軍ニ対シテ抵抗スルコトハ困難ナレハ戰鬪的ニハ無抵抗主義ヲ執リ他方凡ユル方法ヲ以テ排日貨排日本人ノ運動ヲ行ヒ

世界的ニ各方面ニ於テ日本人ヲ苦ムルト同時ニ日本軍ノ勢力下ニ帰シタル地方ニ於テハ匪賊、便衣隊ヲ使用シ「ソヴイエツト」式「パルティイザン」ノ戰法ニ倣フコト」ニ決定シ居ル旨予テ民國側ヨリ聞キ及ヒ居タルカ滿州各地ニ於ケル最近ノ鉄道事故匪賊跳梁等ハ右ノ事情ト何等關係アルモノトモ看ラルルカ是等ノ事情ヲ考量ニ入レ其ノ狀況ヲ本省、國際連盟及當方等ニ其ノ都度御電報相成タシ

大臣、連盟事務局長、吉林、哈爾賓、長春、遼陽、牛莊、鐵嶺、鄭家屯、安東、間島、北平、天津、南京、廣東ヘ転電セリ

144 昭和6年11月16日

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛

謀長ニ転任ノ模様ナル趣ナリ同少将ハ滿州事件發生以來再三意見ヲ上申シ閩東軍ノ行動ニ掣肘ヲ加フルノ必要ヲ説キタル由ナルカ軍部モ謹嚴ナル人格ヲ有スル同少将ニ依リテ滿州ニ於ケル軍部ノ行動ニ改善ヲ加ヘントスル意向ノ如シ同少将ノ滿州事件ニ關スル意見ハ極メテ理解アルモノニシテ且閩東軍ノ首腦部ノ人事關係其他ノ遣方、外務省ノ機関トノ關係建直シ等ニ於テ鞏固ナル意見ヲ有スル處同少将ハ右意見ニシテ容レラルニ於テハ困難ナル地位ニ就クコトヲモ辞セスト内話シタリ同少将帰東(十七日當地發)ノ上ハ外務省ニモ出頭スヘキニ付以上ノ点内密御含迄

尚田代少將ト林總領事トハ漢口時代ノ知己ニシテ同總領事ニ対シテハ一方ナラヌ敬意ヲ払ヒ居ル模様ナルニ付東京ニテ林總領事ト充分話合ヲ為サシメ置クコト適當ナルヘシト思考ス

143 昭和6年11月16日

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

滿州各地における中國側抵抗方式に関する情

報について

上海 11月16日後発

本省 11月16日付

嫩江事件に關する外交部宛反駁公文について

付屬書 同日付重光公使より在南京上村書記官宛公信機密第四六四号

一一月一六日付重光公使より李外交部長代理宛

公文

本省 11月16日前着
上海 11月16日付
公信機密第四六三号

昭和六年十一月十六日付在南京上村書記官宛機密公第四六四号信写送付

嫩江事件外交部宛反駁公文ニ關スル件

(付屬書)

公信機密第四六四号

11月16日付

嫩江事件外交部宛反駁公文ニ關スル件

本件ニ關スル外交部長宛公文茲ニ別添送付スルニ付同部三転達方可然御取計相成度

本信写送付先 外務大臣 北平 奉天

(別紙)

以書翰啓上致候。陳者、嫩江鉄橋付近ニ於ケル日支両國軍

シ素ニ未成立ノ決議案ヲ援用シテ漫然連盟ノ意思ナルモノヲ仮想シ之カ实行ヲ要請スルカ如キハ連盟ヲ以テ利己的目的ニ利用セントスルモノト謂ハサルヘカラス將又貴翰中「九月三十日理事会決議ハ日本ニ於テ完全ニ接受シタルモノナルニ因リ國際連盟ハ日本政府カ必ス直ニ軍隊ノ撤退ヲ開始シ二週間以内ニ終了ヲ見ムコトヲ確信シ居リタリ」トカ又ハ「理事会ハ十月二十四日前案ヲ反覆シ再ヒ期間ヲ定メ以テ原状恢復ノ目的ヲ達セントシタリ」トカアル處九月三十日決議ハ帝国軍隊ノ撤退ニ付何等期限ヲ付シタルカ如キコト無キ次第ニシテ帝国政府ハ中国政府ハ如何ナル權能ニ依リ國際連盟乃至理事会ノ表明セサル所信又ハ存意ヲ推断スルモノナリヤ諒解ニ苦ム所ナリ

二、帝国政府ハ九月三十日理事会決議カ日支相互ニ事態ノ拡大ヲ避ケ両国協力シテ問題ノ円満解決ヲ計ルヘシトナス我既定ノ方針ニ合スルモノナルコトヲ認メ欣然之ニ参加シタル次第ニシテ右決議ノ遵守ヲ期シ居ルコト勿論ナルカ唯々中国側ニ於テ毫モ該決議ヲ遵守セス殊ニ其ノ第五項及第六項ニ從ヒ事態ノ拡大ヲ防止シ日華間通常關係

ノ恢復ヲ促進セムトスル誠意ニ欠如セルカ為時局ノ好転ヲ來ササルコトヲ甚々遺憾トセサルヲ得ス現ニ中国側ハ満鉄沿線付近ニ於テ兵团若ハ匪賊等ヲ使用シ右沿線地方ヲ攪乱セムトシ居ル証跡顯著ナルモノアリ又黒龍江省軍ハ我軍カ洮昂鉄路局ノ依頼ニ依リ同局ノ嫩江橋梁修理班掩護ノ為派遣セル少數部隊ニ對シ約束ニ反シテ攻撃ヲ加へ我軍ニ於テ一旦之ヲ擊退シタル後モ続々齊々哈爾、昂々溪及其ノ以南ニ部隊ヲ集中シ我軍ニ十數倍スル大兵ヲ以テ盛ニ我軍ニ對シ挑發的態度ニ出テツツアリ將又中國ニ於ケル排日運動ニ付テハ十月十三日付貴翰ニ特ニ「中國政府ハ最モ嚴格ナル方式ヲ以テ連盟理事会ノ決議ヲ遵守シ慎重精密ニ日本人ノ生命財産ヲ保護シ事態ヲ愈重大ナラシムヘキ各種ノ行動ヲ制止シタリ」云々トアルニ拘ラス其ノ後ニ於テモ該運動何等緩和ノ事實ナキノミナラス近來反テ益拡大シ且深刻ヲ加ヘツツアリ中國各地ニ於ケル本邦人ハ或ハ暴行魯威ヲ受ケ或ハ生活必需品ノ供給ヲ断タレ或ハ電信電話、郵便等ニ依ル通信ヲ妨害セラレ或ハ雇傭中國人ノ就業ヲ制压セラレ為ニ其ノ生活及業務危殆ニ瀕スルノミナラス其ノ生命身體サヘ危險ニ曝露セ

ラルルノ実情ニシテ滿州以外ノ中国各地居留邦人カ其ノ原住地ヲ離去シ安全地帯ニ引揚クルノ已ムヲ得サルニ至リシモノ今日迄ニ約千二百人ニ上ル又本邦人ニ對スル所謂經濟絶交ハ近時愈暴威ヲ逞ウシ本邦商品ノ抑留押收、本邦人トノ取引停止、邦商船舶ノ貨物運送乃至荷役ニ対スル妨害、邦商工場ノ使用中国人職工ニ對スル出勤妨害、邦商銀行会社使用中国人買弁等ニ對スル辭職強要等不法行為頻発シ殊ニ或ハ国民政府交通部ヨリ航政局ニ又同政府實業部ヨリ江浙漁業管局ニ排日的命令ヲ發シタル事實、或ハ同政府教育部ニテ排日的規定ヲ含ム学生義勇軍綱領ヲ施行シタル事實其ノ他政府機関ニ於テ排日運動ニ闘争シ居ルコトヲ證明スヘキ事例甚々多ク又抗日会等カ右經濟絶交ヲ強制スル手段トシテ用フル私刑中ニハ該強制ニ從ハサルモノニ所謂売国衣ヲ着セシメテ市内ヲ引廻スカ如キ又ハ之ヲ檻ニ入レテ公衆ノ面前ニ曝スカ如キ文明人ノ殆ント想像スルサヘ不可能ナル殘忍酷薄ナル非人道的暴行ヲ敢テスルモノアリ而モ前記十月十三日付貴翰中ニハ「購買物品撰択ノ自由ハ個人ノ権利」ナルヲ以テ「如何ナル政府モ之ニ干涉スル能ハス」トアル處中國政

三、要スルニ帝国政府ノ所見ニ依レハ今次事件ノ円満ナル解決ヲ遂ケ以テ東亞永遠ノ和局維持ヲ計ラムカ為ニハ中國政府ニ於テ既存条約ノ否認又ハ此等条約ニ基ク權益ノ妨害ヲ計リ剩ヘ右目的達成ノ手段トシテ排外運動ヲ利用スルカ如キ從来ノ外交政策ヨリ脱却スルト共ニ友好關係ニ在ル普通國家間ノ關係ニ於テ政府ノ当然負担スベキ義務ニ覺醒スルコトヲ以テ最大ノ急務トス從テ中國政府ニ

於テ右覺醒ニ到達スルコトナキ以上此ノ際前記十一月四日付貴翰ニ所謂「撤兵及引継ニ関スル細目」ノ如キ未葉ノ問題ニ付両国間ニ商議ヲ行ハントスル全然無意義ニシテ帝国政府ノ到底同意シ得サル所ナリ帝国政府ハ茲ニ改メテ中国政府ニ対シ同政府カ九月三十日理事会決議ヲ誠実ニ遵守スルト共ニ帝国政府ノ十月二十六日声明書乃至十一月六日付理事長回答等ニ於テ表示セル所見ニ賛同シ以テ今次事件ノ円満ナル解決ヲ計リ両国關係ノ正常化ヲ促進セムカ為帝国政府ト協力セムコトヲ提議スルモノナリ

就テハ上述ノ次第貴国政府ニ御報告相成度此段回答申進候就テハ上述ノ次第貴国政府ニ御報告相成度此段回答申進候ノナリ

昭和六年十一月十六日

敬具

146

昭和6年11月17日

幣原外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛（電報）

事変解決のため私的交渉を希望する蔣介石お

よび余日章らの情報について

付記 同件に関する永井外務次官覚書

本省 11月17日前2時発

スルトコロアルモノノ如クニ思考サル
馬伯援等ニ於テハ基督教青年会ノ関係上余日章ノ相手方トシテハ陸奥伯爵適任ナラントナシ居ル由ナリ 永井
(欄外注記)

金井清船津辰一郎ノ両氏太平洋會議後蔣主席ヲ訪ヒタル節主席ハ両国懸案ハ両国間ニ解決シタキ希望ニテ先ツ私的ニ応シ吳ルルモノ日本側ニアルヘキカト問ヒタル趣ナリ
(編注) 本付記の日付は不明であり、署名の「永井」は外務次官の永井松三である。余日章は中国基督教青年会総幹事、太平洋問題調査会中国評議会会长。馬伯援は日本中華基督教青年会総幹事。

147 昭和6年11月18日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
張發奎の馬占山応援に関する動静について

上海 11月18日後發
本省 11月19日前着

第八二八号（略）

和平會議広東代表一行ト共ニ当地ニ来リ其後在滬中ノ張發奎ハ国民革命軍第四軍將卒全体ノ名ニ於テ広東四全大会及非常會議並汪精衛、鄒魯、伍朝枢三代表宛十七日付通電ヲ

第二〇六号

満州事変（支那側ノ態度）

金井清、船津辰一郎ノ両人太平洋會議後蔣主席ヲ訪ヒタル節同主席ハ両国懸案ハ両国間ニ解決シタキ希望ニテ先ツ私的ニ応シ吳ルルモノ日本側ニアルヘキカト問ヒタル趣ナリ又余日章ヨリ水野梅曉ニ對シ此際両国間ニ私的交渉ヲ進ムルコト肝要ナルカ自分ハ近日米國ニ赴ク途次日本ニ立寄り日本側同志ノ人ニ接觸シタク準備ヲ成シ置趣ナリ

在欧各大使ニ転報アリ度
米支ニ転電セリ

付記

馬伯援上海ヨリ帰來余日章ヨリノ伝言トシテ水野梅曉氏ニ語レルトコロ左ノ如シ

「両国交渉開始実現困難ナル今日何等私的交渉ヲ試ムルコト両国接近ノ為裨益アルヘク自分近日米國ニ赴ク途次日本ニ立寄リ日本側同志ノ人ニ接觸シタク準備ヲ成シ置カルレハ仕合ナリ」

右ハ重光公使來電張群ノ話中ニアル私的会談ノ思想ト相通

發シ日本カ強盜的行為ヲ以テ遼寧及吉林ヲ占領セルニ東北軍ハ無抵抗主義ニテ為スナキ際馬占山カ孤軍奮闘シツツアルハ多トスヘシ帝国主義ノ走狗タル軍閥ノ討伐ニ専心セル我等同志ハ帝国主義中最残酷ナル暴日討伐ノ為ニ全軍ヲ率ヒテ馬占山応援ニ赴キ度旨請願シ又別ニ馬占山宛ニ第四軍全軍ヲ広西ヨリ黒龍江ニ出動セシムル様中央（広東）ニ請願中ナルニ付奮闘アリタキ旨電報セル趣ナリ
公使ヘ転報シ、北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東ヘ転電セリ

148 昭和6年11月(18)日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）
蔣介石の下野、南京政府承認取消問題に関する陳友仁との会談について

廣東 11月18日後發
本省 11月18日後着

第六一四号（暗、至急、極秘）
往電第六〇四号ニニ関シ

陳友仁ノ求ニ依リ面談シタル處十四日ノ会見後上海ニ於ケル疲労ノ為全然引籠リ中ナリシカ時局ノ重要ニ鑑ミ孫科等

トモ協議ノ上至急貴官ニ御願シ度議生シタリト前置シ病床中ニテ左ノ通語レリ

一、明十八日四全大会ノ発会式ヲ挙ク今週中ハ中央委員候補者選舉等ノ手続ヲ進ムルニ止メ実質的ノ決議ハ二十三日以後トナル手筈ナルカ其ノ間先ツ右中央委員ニ於テ蒋介石下野ノ意思明白トナルニ非サレハ南京ニ赴カサル旨ヲ闡明シ新ニ討蔣ノ氣運ヲ高言シ又自分ハ二十一日又ハ二十三日（往電第六一六号ノ三注ノ來広期日三依リテ変更スヘシ）満州問題ニ關スル宣言ヲ發表スル（要旨別電第六一五号）答ナリ

二、然ルニ茲ニ重要ナル問題ヲ生シタルハ十四日御話シ申上ケタル通（冒頭往電）日本政府ニ於テモ張学良ヲ除カシニハ先ツ蒋介石ヲ下野セシムルノ必要アリト考ヘラル事当然ナルヘキ処當政府モ此ノ点ニ於テハ全然目的ヲニスル關係上此際日本政府ニ於テ次ニ述フルカ如ク当政府ノ措置振ニ対シ如何ナル態度ヲ執ラルヘキヤ至急承知致シ度キ次第ナリ

三、蔣介石ノ政策ハ内外共ニ失敗シ特ニ財政上甚シキ窮況ニ陥リ此ノ儘ニテモ余命永カラサルカ何シロ蔣個人トシ

テハ其ノ野望ヲ満タサン為國威ノ失墜ヲ顧ミス最後迄現地位ニ恋着セントスルヲ見抜キタルカ故ニ来ルヘキ四全會議ヲシテ列國政府ニ対シ各別ニ南京政府承認取消方ニ関シ「アイデンティク、ノート」ヲ發送方ノ権限ヲ自分ニ付与スヘキ旨決議セシメ右「ノート」中ニ於テ蔣介石ノ代表スル政府ハ最早「ナショナル」ニ非ラス右ノ事實ハ蔣自身カ既ニ「リガリティ」ヲ認メタル當廣東政府ニ於テ之ヲ指摘スル而已ナラス四全會議ノ成立セル中央委員モ同様ノ意思ヲ發表スルニ至リタルカ故ニ南京政府ハ各國力承認ヲ與ヘタル當時ト形勢全ク異ナルニ至リタレハ之ニ對スル承認ノ取消ヲ要求スル旨極メテ強キ口調ヲ以テ陳述シ自然右承認取消後ハ少クトモ當政府ヲ南京ト同一地位ニアル事實上ノ政府トシテ認メラレ度旨ヲ要求シ日本カ此ノ措置ニ賛成シ南京ヘノ承認ヲ取消サルルニ於テハ直ニ往電第六〇四号ノ「ライン」ニテ直接交渉ヲ開始シ度キ心組ナリ

四、依テ予メ右様ノ措置ニ對スル方策ニ關シ日本政府ヨリ何等カノ「インデケーション」ヲ得タキ次第ナリト繰返シ述ヘタルカ故ニ本官ヨリ成程蔣介石自身カ廣東政府ノ

「リガリティ」ヲ認メタルハ重要ナル一新事実ニシテ此点ヨリモ同政府ハ所謂國民政府ニ非スト一応ノ意見ハ建テ得ヘキモ一旦承認シタル國際法上ノ事実ヲ覆スニ足ルヘキヤ否ヤハ大ニ疑問アリ旁日本カ直ニ南京政府ノ承認ヲ取消スカ如キハ實ノ所問題トナラサルヘシト答ヘタルニ陳ハ沈黙ノ上幣原大臣ノ立場ヨリシテ右觀察ハ御尤ナルモ右措置ハ少クトモ日本ノ連盟ニ對スル立場ハ勿論其死活問題トスル満州問題ノ解決ニ極メテ有利ナル地歩ヲ与フヘク又事茲ニ至リタル今日尚一片ノ法理論ニ拘ハルヘキ場合ニモ非サルヘキカ故ニ是非至急右ノ趣旨御伝へ願ヒ度シト再三述ヘタル上更ニ幣原外相ト會見ノ印象ヨリシテ同外相ハ最近成立セリト伝ヘラル満州ニ於ケ

ルイカ様地方政府ニヨモヤ望ヲ懸ケラマシク結局ハ我等ノ主張スル文治案以外ニ永久ニシテ合理的ナル解決策ナカルヘキハ重々御承知ナルヘキニ付自分ハ是非トモ

本政府ニ於テ此際斷然肚ヲ定メ國際法理論等ノ如キ些末ノ点ニ捕ハレサルコト希望ニ堪ヘスト熱心ニ述ヘタルカ

本官ヨリ御申出ハ充分諒解セルモ果シテ本國政府ヨリ的確ノ表示ヲ得ヘキヤ大ニ疑フノ外ナシト答ヘタルニ陳ハ

いて

嫩江事件に関する國民政府外交部の抗議につ

昭和6年11月18日 在南京上村領事より

幣原外務大臣宛（電報）

密送第八三二号
右公文送付について

付属書

一月一九日付上村領事より在上海重光公使宛公信機密公第六三七号

一月一七日付李外交部長代理より重光公使宛來翰

産ト同一視スル謂ハレ無シ

(二) 従テ黒龍江省当局カ一時同鐵道ノ橋梁ヲ中斷シ張海鵬軍ノ北上ヲ防止セルニ対シ日本側ハ之ニ干涉スル権利無ク之

修理權モ完全ニ中国側ニアリ日本ハ容喙ノ余地無シ故ニ

且日本顧問ニ対シ砲擊セリト謂フハ事実ニ非ス十月二十八日本庄ノ代表林義秀ハ我方ニ対シ七日以内ニ橋梁ヲ修理セ

ン事ヲ強要セルカ當時鐵道局自ラ修理スル事ニ議定シ馬主

席ハ滿鉄側ノ橋梁修理及日本軍ノ出動ニ対シ絶対ニ承認シ難キ旨声明セリ然ルニ日本側カ遂ニ軍隊ノ援護ニ依リ滿鉄

ヲシテ修理セシメタルハ明カニ権利無キ橋梁ノ修理ヲ口実ニ張軍進撃ノ援護ヲ実行セルモノナリ

(三) 林ハ我軍ヲ江橋ヨリ十「キロ」撤退方強要セルカ當時我軍ハ大興ニ駐屯シ居リ嫩江橋ヲ去ル十八支里(約十一「キロ」)ノ地点ニ在リ右要求ノ距離外ニアリタリ然ルニ大部隊ノ日本軍カ江橋ヲ越ヘ我軍ヲ攻撃セルハ挑戦ノ意志アリシ事否認スルヲ得ス

(四)(2)十一月四日日本軍ハ大興ノ占領ヲ要求シテ果ササリシ為直ニ大部隊ヲ以テ匪軍ト共ニ猛進セルニ付我軍ハ正当防衛シ事否認スルヲ得ス

第七五〇号(略、至急)
本官發在支公使宛電報
第七二八号
外交部長ヨリ十七日付公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ(十八日早朝接到)

日本軍ノ黒龍江ニ於ケル中國軍隊攻撃ノ件ニ關シ十一月十六日付ヲ以テ御申越ノ次第閱悉セリ茲ニ重ネテ事實ヲ列記スル事左ノ如シ

(一) 洱昂鐵道ハ滿鉄三於テ工事ヲ請負ヒタルモノナルモ滿鉄提出ノ工事費決算ハ中國鐵道局ノ計算ト二百余萬元ノ大差アリタルニ付鐵道局ヨリ逐條質問ヲ為セルモ滿鉄ニ於テ満足ナル回答ヲ与ヘサル為未タ清算セサルモノニシテ中國側カ支払ヲ拒絶セル次第ニ非ス該鐵道ハ右支払上ノ問題アルモ純粹ノ中國鐵道タル事ハ絶対ニ議論ノ余地無ク滿鉄ノ財

ノ手段ヲ講セサルヲ得サリシカ日本軍ハ連日匪賊ヲ集合シ最新式ノ武器及飛行機ヲ利用シテ猛進シ且數十門ノ大砲ヲ以テ攻撃セリ我軍ハ死傷甚タ多ク已ムヲ得ス三間房一帶ニ退却シ日本軍ハ大興占領後尚着々進撃セルカ右積極的侵略行動ニ対シテハ日本政府ハ遼寧吉林兩政府ニ於ケルモノト同様完全ニ其重大責任ヲ負フヘキモノトス

(五) 林ハ十一月六日及八日本庄ヲ代表シ馬主席ニ対シ政權ヲ張海鵬ニ引継カンコトヲ要求シ且時日ヲ限リテ回答ヲ求メタルカ右事実ハ抹殺スルヲ得ス

(六) 十一月十二日本庄ハ最後ノ通牒ヲ以テ馬主席ノ即時辭職並軍隊ヲ省城ヨリ撤退センコトヲ要求セルカ日本軍ノ黒龍江占領ノ野心ハ茲ニ完全ニ暴露セラレタリ目下大部隊ノ日本軍ハ嫩江橋ト湯池間に集中シ我軍ニ対シ猛擊ヲ繼續シツツアリ形勢極度ニ重大トナリ

中国政府ハ重ねテ日本政府ニ對シ即日出先軍事長官ニ急電シ直ニ一切ノ攻撃及橋梁修理行動ヲ停止セシメラレンコトヲ要求ス然ラサレハ中國軍隊ハ自衛手段ヲ執ラサルヲ得ス

斯クテ日本政府ハ既ニ負担セル重大責任ヲ益々重大スルニ至ルヘシ

度

本信写送付先
大臣、北平、奉天、上海

(別紙)

右貴公使ヨリ貴國政府ニ御伝達アリタシ大臣、北平、奉天、在仏大使ヘ転電セリ

(付記)

昭和六年十一月十九日付機密公第六三七号重光公使宛公信寫送付

公信機密送第八三二号

南京 11月19日付
本省 11月27日付

一、嫩江事件ニ關スル外交部長來翰轉達ノ件
(付屬書)

嫩江事件ニ關スル外交部長來翰轉達ノ件
南京 11月19日付

本信写送付先
大臣、北平、奉天、上海

本信写送付先
大臣、北平、奉天、上海

照会

大中華民国外交部長

照會事關於日軍在黑龍江省攻擊中國軍隊一事准十一月十六日

來照業經閱悉茲特再開列事實說明如下

(一) 洮昂鐵路雖由滿鐵包工建築但因滿鐵提出該路工程費決算與中國路局所核計者相差二百余萬元之鉅經中國路局逐項質問而滿鐵未能予以滿意答復所以延未清算並非中國拒絕付款該路縱有賑目輶而其為純粹中國經營之鐵路絕無弁論之余地何得謂可視同滿鐵財產

(二) 洮昂係中國鐵路與滿鐵絕對不相關連既如上述黑龍江省當局暫時中断該路橋梁以防止張海鵬逆軍北犯日方實無權過問其修復之權亦完全操之中國日方無置喙余地故日方強修此項橋梁原屬非法行為而況所稱砲擊日本顧問等一節並非事實十月二十八日本庄代表林義秀竟強行要求我方七日內將橋修竣時業經議定仍由洮昂路局自修馬主席並正式聲明滿鐵修橋及日軍出動根本上不能承認而日方竟以軍隊掩護滿鐵代修是顯以無權弁理之修橋為名實行掩護張部之進攻

(三) 林義秀強行要求我軍由江橋撤退十公里查當時我軍駐守大

興站距嫩江橋十八華里（約十一公里）已在所要求距離以外乃大隊日軍竟越過江橋向我攻擊其有意挑戰实無可掩飾

四十一月四日日軍因要求佔領大興未遂即以大部軍隊攜雜匪衆前來猛攻我軍隊乃不得不採取正當防衛手段而日軍連日集合匪軍利用最新式武器及飛機猛烈進迫並以數十門大砲環攻我軍死傷甚衆不得已退至三間房一帶日軍佔領大興後仍着着進攻似此積極侵略行動日本政府忘如在遼吉兩省之行動完全担负其重大責任

(五) 林義秀於十一月六八等日迭次代表本庄通告馬主席要求將政權讓與張海鵬接受並限時答復事實俱在不容抹煞

(六) 十一月十二日本庄竟用最後通牒要求馬主席即時辭職並將軍隊由省城撤退日軍佔領黑龍江之野心已完全暴露現在大隊日軍集中於嫩江橋與湯池間繼續猛攻我軍情勢之嚴重已達極點

中國政府茲再要求日本政府即日緊急電令當地軍事長官立刻停止一切攻擊及修橋行動否則中國軍隊仍不得不採取必要之自衛手段而日本政府已經擔負之重大責任將愈益加大特此鄭重声明相應照會即希

貴公使查照轉達

貴國政府為荷須至照會者
右 照 會

李錦綸代

上海 11月19日後發
本省 11月19日後着

大日本帝國特命駐華全權公使重光
中華民國二十年十一月十七日

150 昭和6年11月19日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

南京出張の心得について

上海 11月19日前發
本省 11月19日前着

第一三〇〇号（暗）

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

巴里連盟ノ関係モアリ本使ハ南京ニ出張スルコト然ルヘシ
トモ考ヘラル右ニ付何等心得置クヘキコトアラハ至急御電
報ヲ請フ

152 昭和6年11月19日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

蔣介石の太平洋會議代表者招待について

上海 11月19日後發
本省 11月20日前着

第一三一一号（暗）

連盟宛貴電第二〇六号ニ閑シ

太平洋洋會議終了後蔣介石ハ我方新渡戸、前田、高柳、斎藤
ノ外英（「カーテス」外一名）米（「グリーン」外二名）加
（一名）ノ代表ヲ南京ニ招待セルカ我方新渡戸博士等差支
れについて
151 昭和6年11月19日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

嫩江事件に關し国民政府への抗議申入

ノ為金井、船津代ツテ南京ニ赴キタル處蔣介石トハ外國側ト別ニ短時間会談シタルノミニテ其際蔣ヨリ両國問題困難ノ旨ヲ洩シ兩人ヨリ事変ノ原因タル支那側ノ無理解ナル行為ヲ匡正スレハ解決困難ナラサル旨説明シ又金井ヨリ連盟

カ真相ヲ知ラスシテ両国ノ問題ニ立入ルハ不可ナルカ如何ト質シタルニ蔣ハ鮮カラス躊躇ノ後連盟モ各種ノ報告ニ依リ事件ヲ研究シ居ル故必シモ不可ナカルヘシト答ヘタル

タケニテ何等立入りタル話（外國側ニ対シテハ蔣ハ内乱共匪水災日支事件ニ依ル国民政府ノ苦境ヲ演説シ外國代表ヨリ太平洋會議ノ模様ヲ話シ日支代表ノ公正ナル態度ヲ称贊シタル由）ナカリシ趣當時兩人ヨリ報告ヲ受ケタリ更ニ船津ニモ確カメタル処右ノ通ナリ尤蔣介石カ英米等ノ代表ト共ニ特ニ新渡戸博士等ヲ招待シタルハ或ハ時局解決ノ為我方民間有力者ノ了解乃至援助ヲ得ントノ底意ヲ有シタルカ為ナリヤ或ハ單ニ形式的ノ招待ナリシヤ不明ナルモ右招待ハ余日章辺ノ考案ト認メラレ居タルニ付貴電前段ノ次第ハ或ハ余日章辺リノ話ナリトモ認メラル処右至急當方参考迄御回示ヲ請フ

153 昭和6年11月19日 在上海重光公使より
嫩江方面における日中両軍衝突事件に関する
国民政府宛抗議文提出について

付属書 同日付重光公使より李外交部長代理宛公文
付記 一月二〇日在南京上村領事より幣原外相宛電
報第七五八号

右公文外交部に送達済について

機密公第四七五号

本件ニ関スル別紙抗議文至急（二十日中ニ）外交部ニ御提出アリタシ右ハ二十日当地朝刊新聞ニ発表ノ筈

本信写送付先 外務大臣、北平、奉天、上海

（付属書）

外第七七号

以書翰啓上致候。陳者、嫩江鐵橋付近ニ於ケル日支両國軍隊ノ衝突事件ニ閑シテハ曩三十一月十六日付貴部長代理宛書翰ヲ以テ詳細申進シ置キタルニ付委細御承知ノコトト被存ルル處、其ノ後モ馬占山將軍ハ東支鐵道沿線各地ヨリ続続援軍ヲ呼ヒ寄セ数万ノ大軍ヲ昂々溪以南ニ集結シ同方面ニ在ル日本軍ニ対シ包囲ノ姿勢ヲ続ケ強固ナル陣地ニ拠リ

總攻擊ノ機ヲ窺ヒ居タル実情ニ有之候。
元来同地方ノ日本軍ハ当初ヨリ嫩江橋梁修理ヲ掩護スル為派遣セラレタル小部隊ニ過キヌシテ其ノ數モ二千ニ満タス且馬占山軍ト交戦スルカ如キ意図ナカリシ次第ニシテ從同軍トノ衝突ヲ避ケル為十一月十三日馬占山將軍ニ対シ速ニ馬軍ヲ後方ニ撤退スルト共ニ齊々哈爾、昂々溪付近ニ集結セル兵力ハ原駐地ニ帰還シ、馬占山軍ニ依ル洮昂線ノ運行ハ之ヲ洮昂鐵路局ニ復帰セシメ爾後該鐵道ノ運行ヲ妨害セサルヘク、馬占山軍ニシテ右ヲ實行スルニ於テハ日本軍嫩江派遣隊ハ直ニ洮南又ハ鄭家屯以南ニ撤兵スヘキ旨ヲ申入レタル次第ニ有之候。

然ルニ、馬占山將軍ハ一旦右日本側申入レヲ承諾スル旨ヲ回答シ乍ラ時間ノ余裕ヲ得テ其ノ間前記ノ如ク數万ノ大軍ノ集中ヲ了シ諸般ノ戰鬪準備ヲ整ヘタル上十一月十七日俄然日本軍ニ対シ攻擊ニ転シ數千ノ騎兵部隊ヲ先頭ニシ日本軍ノ後方ヲ迂回セシメ之ヲ包围シテ一挙ニ日本軍ノ全滅ヲ圖ル為積極的軍事行動ヲ開始シタリ。之ト同時ニ馬將軍ハ同日前記我方申入レニ対スル承諾ヲ取消シ、逆ニ日本軍ノ撤退ヲ要求スルト共ニ（口）匪賊討伐ノ必要アル場合ハ江省

軍ハ東支南側ニモ進出スヘク又ハ洮昂鐵道ノ保護ハ張海鵬ノ江省進入中止ヲ条件トシテ考慮スヘキ旨ヲ回答スルニ至リタリ。右ハ日本軍ヲ同地方ヨリ撤兵セシメタル上匪賊討伐ヲ理由トシテ更ニ江省軍ヲ洮昂鐵道沿線ニ出動セシメ同地方ノ擾亂ヲ図ラントセルモノニシテ殊ニ日本軍ノ閑知スル所ニ非サル張海鵬軍ノ進出ヲ口実ニ洮昂線ノ運行自由ノ保障ヲ拒絶セルカ如キハ同鐵道ヲモ其ノ兵力下ニ置キ自己ノ策戦上ニ之ヲ利用セントスルニ出テタルモノト認メラレ、全然誠意ヲ欠キタルモノナルコトハ右回答ト同時ニ馬軍ノ攻撃益々熾烈トナリタルコトニ徵スルモ明ナリシ次第ナリ。然レトモ帝国政府ニ於テハ両國軍ノ衝突ヲ避ケ和平的解決ヲ計ルカ為尚一応最後的努力ヲ試ムルコト緊要ト認メ、十一月十八日在哈爾賓帝國總領事ヲシテ東省特別区行政長官張景恵氏ヲ通シ馬占山軍ニシテ前記ノ如ク其ノ攻擊ヲ繼續スルニ於テハ日支両軍ノ衝突ヲ惹起スヘク其ノ結果ハ一二支那側ノ責任ニ帰スヘキコトヲ篤ト説明シ再応馬將軍ノ深甚ナル反省ヲ促サシムルト共ニ日本軍嫩江派遣隊ニ對シテハ其ノ行動ヲ慎ミ戰端ヲ開クカ如キコトナキ様努ムヘキ旨ヲ訓令シタリ。然ルニ此ノ間馬占山將軍カ国民政府

当局、張學良副司令其ノ他全國各方面ヨリ頻々タル激励電報ヲ受ケタルハ我方各方面ノ情報ニ徵シ略明ニシテ馬軍ニ

於テハ之ニ力ヲ得タルモノノ如ク右我方ノ和平解決申入ニ何等耳ヲ藉スコトナク其ノ攻撃ハ時ヲ迫テ益々猛烈トナリ

日本軍將校士卒ノ殺害セラルモノモ多數ニ及ヒ派遣隊ニ對スル重大ナル危險急迫セル為十八日日本軍ニ於テモ遂ニ

之ニ応戰スルヲ余儀ナクセラレタル次第ニ有之候。

右ノ如ク今回ノ戰闘ハ馬占山軍カ一旦和平的ニ撤退スルカ如キ風ヲ裝ヒ乍ラ其ノ間戰闘準備ヲ整ヘ右準備完了スルヤ

突如總攻擊ニ移リ日本軍ヲ全滅セントシ我方ノ平和的解決ニ對スル屢次ノ努力ニ何等耳ヲ傾クルコトナカリシニ起因スルモノニシテ、右ハ不誠意且不信義ナル極端ノ行動ト云

フルノ外ナシ。從テ本件衝突ニ基ク一切ノ責任ハ馬占山軍ノ負フヘキモノニシテ、同時ニ我方再三ノ申入レニモ拘ラ

ス貴國政府ニ於テ最近馬占山將軍ヲ黑龍江省政府主席ニ昇任セシメ乍ラ何等馬占山軍ノ行動ヲ抑制スルコトナカリシ

点ニ於テ貴國政府モ其ノ責任ヲ免レサル儀ニ有之、本使ハ茲ニ右ノ次第ヲ嚴肅ニ声明致候。

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。敬具。

昭和六年十一月十九日

日本帝国特命全權公使 重光 葵

国民政府外交部長代理 李錦綸 殿

(付記)

南京 11月20日前發
本省 11月20日後着

第七五八号（暗）
本官發支宛電報

第七一四号
貴電第六五八号ニ関シ

馬占山事件ノ抗議文ハ二十日午前外交部へ転達済

154 昭和6年11月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

国民党第四次全体会議秘密会における蔣介石の決意表明について

南京 11月20日後着
本省 11月20日後着

第七五七号
往電第七五五号ニ関シ

南京 11月20日後着
本省 11月21日前着

第七六〇号（略）
本官發支宛電報

第七一六号
外交部長二十日付公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ

本月初以来日本政府カ國際公法及國際條約ニ違反シ屢々中國内政ニ干涉シ種々ノ要求ヲ提出シ黒龍江省政府當局ヲシテ政権ヲ引渡サシメント脅迫シ又日本軍ヲシテ嫩江橋北ニアリテ中國軍隊ヲ攻擊セシメタルニ對シ中國政府ハ累次日本政府ニ嚴重抗議スルト共ニ日本政府ノ責任ヲ指摘シ置ケリ然ルニ最近日本政府ハ遂ニ大軍ヲ集中シテ着々進撃シ十

七日正午ヨリ我軍ヲ猛撃シ且飛行機ヲ以テ齊々哈爾ニ爆弾ヲ投下シ伝單ヲ撒布シテ同地攻略ノ決意ヲ示セルカ報告ニ依レハ同市ハ既ニ完全ニ日本軍ニ占拠セラレタル趣ナリ日本軍隊ハ一切ヲ顧ミス遼寧吉林両省ノ重要地ヲ占領後理事會ノ決議案ニ反シ右侵略行動ヲ拡大シ現ニ理事會開会ノ折柄黑龍江省及其他ノ各地ヲ占拠セリ日本政府ハ當然完全ニ右重大責任ヲ負フヘキモノトス中国政府ハ特ニ緊急嚴重抗

155 昭和6年11月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

チチハル占領に関する外交部よりの抗議大要
について

付記 一月二三日付上村領事より幣原外相宛公信機密送第八三五号

右公文送付について

付属書 一月二三日付上村領事より在上海重光公使宛公信機密第六四三号

一一月二〇日付李外交部長代理より重光公使宛公文

事項6 国民政府との交渉

議ヲ提出スルト共ニ一切ノ要求ノ権利ヲ留保ス

右貴公使ヨリ貴国政府ニ御伝達相成度シ

大臣、北平、奉天、仏ニ転電セリ

(付記)

南京 11月23日付
本省 12月3日着

公信機密送第八三五号

昭和六年十一月二十三日付機密公第六四三号重光公使宛公信写送付

件名

一、齊齊哈爾占領ニ関スル外交部長公文転達ノ件

(付属書)

公信機密第六四三号

齊齊哈爾占領ニ関スル外交部長公文転達ノ件

本件ニ關スル本月二十日付外交部長來翰別紙ノ通転達ス御

査取相成度

本信写送付先 大臣 奉天 北平 上海

(別紙)

南京 11月23日付

156

中華民国二十年十一月二十日

昭和6年11月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛

嫩江事件に関する外交部来翰について

付属書 同日付上村領事より在上海重光公使宛公信機密

第六四一号

一一月一八日付李外交部长代理より重光公使宛

公文

南京 11月20日付
本省 11月27日着

公信機密送第八三三号

昭和六年十一月二十日付機密公第六四一号重光公使宛公信
写送付

一、黒龍江省事件ニ關スル外交部長來翰転達ノ件

(付属書)

公信機密第六四一号

黒龍江省事件ニ關スル外交部長來翰転達ノ件

本件ニ關スル本月十八日付外交部長來翰別紙ノ通転達ス御

査取相成度

本信写送付先

大臣、北平、奉天

右照会

照会

大中華民国外交部長

照会事自本月初日本政府違反國際公法与國際公約迭次干

涉中國内政提出種種要求脅迫黑龍江省政府當局讓出政權並

派遣日軍在黑龍江嫩江橋北攻擊中國軍隊迭經中國政府向日

本政府提出嚴重抗議並指明日本政府之責任在案乃近日日本

政府竟調集重兵節節進攻於十七日午刻起猛攻我軍並以飛機

在齊々哈爾拋擲炸彈發散弾單聲明攻取黑龍江省城之堅決意

思茲拠報稱齊齊哈爾已被日軍完全佔據日本軍隊似此不顧一

切於侵佔遼吉兩省重要各地之後復顯然違反國際連合行政

院之決議案積極擴張其侵略行動意於行政院正在開會之時佔

據黑龍江省城及其他各處日本政府自應完全擔負其重大責任

中國政府特此提出緊急嚴重抗議並保留提出一切要求之權相

應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

右

照会

大日本帝国特命駐華全權公使重光

李錦綸代

（別紙）

（別紙）

照会

大中華民国外交部長

照會事頃據黑龍江省政府主席馬占山報稱日本關東軍司令官

本庄繁於十一月十五日上午八時奉日本政府訓令提出三項條

件要求自十一月十五日起十日以内須確定實行並於十一月十

六日正午以前答復等語查本庄司令一再向黑龍江省馬主席為

無理之要求而此次所提条件竟声明係奉日本政府之訓令中國

政府殊為詫異中國政府在中國領土內當然有自由調派其軍隊

之權日本政府何得干涉洮昂路線為中國經營之鐵路關於該路

之運行日本政府何得過問中國政府對於此次黑龍江省事件已

迭向日本政府指明日軍行動之非法與日本政府責任之重大並

又声明如日軍繼續攻擊中國仍當採取必要之自衛手段茲特再

向日本政府聲明如日本軍隊不顧一切因欲強令中國軍隊实行

其所提無理之条件而引起之一切行動日本政府仍應負其完全

責任相應照會

貴公使查照即請転達

貴國政府為荷須至照會者

三、魯北張學良宛ニ二十日付電報ヲ以テ東北辺防ノ重任ニアリ乍ラ多年政治ヲ顧ミス逸樂ニ耽リ遂ニ東三省ヲ失ヘルニ至レル過失ニ対シ潔ク自決シテ罪ヲ國家国民ニ謝セヨ
ト勸告セリ
北平、天津、奉天、南京、廣東へ転電セリ
支へ転報セリ

一、汪精衛、伍朝樞、鄒魯ハ南京蔡元培等宛二十日付書面ヲ以テ施肇基ハ日本ニ対スル撤兵要求ヲ堅持セヌ日支條約ノ解釈問題ヲ論セントシツアリトノ事ナルカ右ハ日本カ其侵略行為ノ非ヲ蔽ヒ世界ノ注意ヲ條約問題ニ転換セントスル術策ニ陥レル大失策ナレハ施代表ニ対シ日支條約問題其他力連盟ニ提出セラレタル場合ハ討論ヲ拒否シ中国代表ハ單ニ日本ノ撤兵問題ヲ討論スル權限アルノミニシテ其他ヲ論議スル能ハサル旨主張セシムル様電命方南京政府ノ考慮ヲ求ムト申送リタリ

第一三二五号（暗、極秘）
十九日ノ第四次全体会議秘密会ニ於ケル蔣介石ノ自ラ北上シ職責上党国ノ為一命ヲ捧クトノ決意表明ハ國際連盟ニ対スル掛引ニ出テタルハ勿論ナルモ彼ノ從来ノ遣方ヨリ見テ又第三者ヲ更ニ深入リセシムル策略ヨリ言フモ或ハ干戈ノ形ヲ以テ之ヲ決行シ日本トノ戦争状態ニ導ク事ナシトセス固ヨリ彼カ内政的地位ハ極メテ不安固ニシテ財政状態ハ殆ト行詰レルヲ以テ日本トノ開戦ノ用意ヲ以テ多数ノ軍票ヲ用意セシメタリト称セラル孰レニスルモ彼ノ軍隊ハ河南方面ニ集中セラレ居ル際寧ロ北方ニ活躍ヲ求ムル事有得ル事

和6年11月21日
在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）
国民党第四次全体会議秘密会における決意表
明後の蔣介石の動向について

在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

大日本帝国特命駐華全權公使重光

李錦綸代

嫩江事件ニ関スル公文送付ノ件
本件ニ關シ別紙公文ヲ外交部ニ御提出相成度ク右ハ十一月
二十三日新聞ニ発表ノ筈
本信写送付先 外務大臣 北平 奉天

（付属書）
嫩江事件ニ関スル公文送付ノ件
七八号信写送付
昭和六年十一月二十一日付在南京上村書記官宛機密公第四
公信機密第四七二号

昭和6年11月21日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛
嫩江事件に関する外交部宛公文について
付属書 同日付重光公使より在南京上村領事宛公信機密
第四七八号
一一月二一日付重光公使より李外交部長代理宛
公文

158 昭和6年11月21日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
汪精衛、伍朝樞、鄒魯等の南京政府、廣東政府
あて申入れについて

ナリ彼トシテ連盟關係モ予定通りニ進行セス滿州問題ニ付
結局責ヲ負フカ又ハ日本ト一戦ヲ交フル決意ヲ示シテ北上
スルカニ二途ヲ選フノ外無ク彼ハ日支ノ關係ヲ廻リテ益々深
ミニ陥ルニ非スヤト思ハル尚我陸軍側ハ張學良ノ盟主蔣介
石ニ対シテモ軍事行動其他ニ依リテ致命傷ヲ与フルコト時
局解決ノ捷徑ナリトノ意見ヲ有シ又海軍三於テモ漸次南京
政府ニ対シ強硬論抬頭シ南京政府即チ日本ノ敵ナリト為ス
政府ニ対シ強硬論抬頭シ南京政府即チ日本ノ敵ナリト為ス

外第七八号

以書翰啓上致候、陳者、嫩江地方ニ於ケル日支両軍ノ衝突事件ニ關シ十一月十八日付貴翰ヲ以テ御申越ノ趣閲悉致候、本件ニ付テハ既三十一年六月付及同十九日付貴部長代理宛書翰ヲ以テ詳細申進シ置キタルニ付右ニ依リ委細御承知相成タルコト存スルモ、更ニ貴方ノ誤解ヲ正ス為左ノ点申進ス

一、貴翰ニ於テ日本軍司令官カ三個条ノ無理ナル要求ヲナセリトアル処、右ハ馬占山將軍カ十一月初以来嫩江橋梁掩護ノ為派遣セラレタル小數ノ日本軍ニ對シ十數倍ノ大軍ヲ集結シ攻撃ノ姿勢ヲ持続シツアリタル為、日本軍側ニ於テ日支両軍ノ衝突防止ノ見地ヨリ馬占山軍ヲ後方ニ撤退シ、同軍カ各地ヨリ集結セル援軍ヲ原駐地ニ帰還シ、洮昂線ノ運行ヲ妨害セサルヘキコトヲ要求シ同時ニ馬軍ニシテ右ヲ実行スルニ於テハ日本軍ハ洮南又ハ鄭家屯以南ニ撤兵スヘキコトヲ申入レタルモノニシテ何等不条理ノ点ナキ次第ナリ

二、貴翰ニ於テ民国政府ハ民国領土内ニ於テ自由ニ軍隊ヲ

移動スル権利アリ、日本政府ハ之ニ干渉シ得ストアル處、嫩江地方ニ於テ日本軍カ馬占山軍ノ撤退方ヲ申入レタルハ前項説明ノ通り馬軍カ少數ノ日本軍ヲ圧迫シタル為メ両軍衝突ノ危険切迫セルニ付、右危険ヲ除去スルコト絶対必要トナリタル結果ニシテ又同時ニ日本軍モ撤兵スヘキコト申入レタル次第ナリ、從ツテ貴國軍隊ノ移動ニ対シ干涉ヲナシタリトスルハ事実ニアラス

三、貴翰ニ於テ洮昂線ハ民国側經營ノ鐵道ニシテ之カ運転ニ関シテハ日本政府ニ於テ容喙シ得ストアル処、洮昂線ハ南滿州鐵道会社ニ於テ千数百万円ノ巨費ヲ投シ貴國側ノ為ニ工事請負ヲナシ建設シタルモノナリ、貴國側ニ於テハ未タ其ノ請負金元利ノ支払ヲ全然為サアルヲ以テ同鐵道ハ事實上南滿州鐵道会社ノ財産ト同一視セラルヘキモノニシテ同会社カ該鐵道ノ財産及運行ノ保全ニ付重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルコトハ曩ニ十一月十六日付書翰ヲ以テ申述ヘ置キタル通ナリ

要之、本事件ハ(1)当初黒龍江軍カ洮昂線嫩江橋梁ヲ破壊セルコト(2)黒龍江省政府ニ於テ洮昂局再三ノ要求ニモ拘ラス

右破損部分ノ修理ヲナサリシコト(3)洮昂局カ已ムヲ得ス

右修理ヲ満鉄ニ依頼シタル處黑龍江軍ハ橋梁修理ノ満鉄社員ニ對シ發砲シテ修理ヲナサシメサリシコト(4)右ノ結果日本軍小部隊カ橋梁修理掩護ノ為派遣セラレタルニ對シ黒龍江軍ハ之ニ攻撃ヲ加ヘタルコト(5)日本側累次ノ和平解決申

入ニ對シ馬占山軍ハ一旦之ヲ承諾スル風ヲ裝ヒ乍ラ其ノ間日本軍派遣隊二十數倍スル大軍ヲ集中シ、準備成ルヤ俄然

攻撃ニ転シ一挙ニ日本軍ノ全滅ヲ図リタルコト等ノ事実ヨリシテ其ノ非ハ一ニ馬占山軍側ニ在ルコト明白ニシテ之カ

全責任ハ同軍側ノ負フヘキモノニ有之候、從テ貴翰ニ於テ本件ニ付テハ日本政府ニ責任アルカ如ク述ヘラレ居ルハ事実ヲ誣フルモノニシテ本使ノ断シテ容認シ得サルトコロニ有之候、尙前記ノ如キ馬占山軍ノ非行ニ對シ貴國政府カ何等之ヲ抑制スルノ措置ヲ執ラレサリシ点ニ於テ、貴國政府モ其ノ責任ヲ免レサルヘキ次第ハ十一月十九日付書翰ニ於

テ申述ヘ置キタル通ニ有之候
右申述旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
昭和六年十一月二十一日

日本帝國特命全權公使 重光 葵 敬具

外交部ヨリ二十一日付公文ヲ以テ大要左ノ通り申越セリ

十一月十九日付貴翰閲悉依テ左ノ通り回答ス

(一)九月三十日及十月二十四日ノ理事会決議ハ日支両国政府

第七六三号

本官發在支公使宛電報

第七一九号

外交部ヨリ二十一日付公文ヲ以テ大要左ノ通り申越セリ

十一月十九日付貴翰閲悉依テ左ノ通り回答ス

南京 11月22日後着
本省 11月22日後着

付記 一月二二日付上村領事より幣原外相宛公信機
付屬書 一月二二日付上村領事より在上海重光公使
宛公信機密第六四四号
右公文送付について
一一月二二日付上村領事より在上海重光公使
宛公信機密第六四四号
一一月二二日付李外交部長代理より重光公使
宛公文

出日本政府重大之責任在案拠最近報告日軍於本月十八及十九日竟已攻陷昂昂溪齊哈爾並先以飛機在齊齊哈爾拋擲炸彈發散伝單宣告攻取黑龍江省城堅決之意顯係違反前項行政院決議案如上述一切武力侵略行動為日本政府之既定方針則日本政府對於國連行政院九月三十日決議案欣然參加殊不可解

二、日本政府不先反省自責而反謂中國人民自然而消極的屬於情感之表示係違反行政院決議案中國政府不能承認中國人民處於日本積極侵略之下憤慨已極但對於日本僑民所取態度亦僅自動偏向於商業關係並無故意加害於生命或財產之事而中國政府除被日軍侵佔之區域外對於日本人民尤盡力予以保護公平之第三者鑑於中國政府與人民確守非戰公約及其他國際公約之信條始終在法律範圍內應付日方之橫暴方以為可異而日本政府未能先自覺悟其種種侵略行為之非計反於日軍侵佔威逼嚴重情形之下強欲中國人民恢復其平常之友誼是誠倒果為因中國政府茲不得不指明於日本政府者即侵佔中國各地之日本軍隊一日不撤原狀一日未復侵略一日不止則中國人民對於日本人民之感情無從恢復是當為日本政府所瞭解者也

第八一八号

本月十七日田中清野両領事カ南京ニ於テ訓練總監部騎兵監汪鎬基ヲ訪問ノ際同人ハ蔣介石ノ日支關係ニ対スル態度極メテ強硬ニシテ其ノ間何ニカ期待スル所アルモノノ如シト述ヘテ其ノ期スル處如何トノ反問ニ対シ露國ト提携シ日本ニ当ラントスルニ非ラスヤト自分(汪)ハ推察スト答ヘタル趣ナルカ更ニ往電第八一四号何成濬ノ談ノ一節ニ目下支那ニ於テハ國民共產両党並立シ國民党ハ辛フシテ共產党ヲ抑制シ居ルモ對外問題等ノ為國民党窮況ニ陥ル時ハ共產党ト連繫シ更ニ露國トモ結合シテ他ニ当ルノ自衛策ヲ講スルニ至ル無キヤヲ保セスト述ヘタル趣ノ處右ハ何レモ當方面支那側要人等ニ於テ連露対日策ヲニスルモノ弗々アル実状ニモ鑑ミ单ニ一片ノ威嚇即席談ト而已モ認メラレス或ハアルヲ語レルモノニ非ラスヤト思料セラルニ付時局柄聞込ミノ儘御参考迄

支ヨリ上海へ転報アリ度シ

支、北平、南京、奉天、廣東、天津、青島、哈爾賓へ転電

三、日本政府在國際公法國連盟約非戰公約及華盛頓九國條約之下又在國連行政院九月三十日之決議案及十月二十四日具有完全道德上力量決議案之下早忘依時完成撤兵實無再加弁論之余地中國政府茲仍請日本政府查照迭次去文及

國連行政院主席十一月一日致日本政府之復文急速改變既往方針与中国業已派定之接收委員商訂撤退及接收細目俾現在侵佔東北各地之軍隊即日尽数撤退而已被破壞之東北和平庶可因此得有転機也相應照會

貴公使查照即希望転達
貴國政府為荷須至照會者
右照會

大日本帝國特命駐華全權公使重光
貴公使查照即希望転達
貴國政府為荷須至照會者
右照會

大日本帝國二十年十一月二十一日
李錦綸代

中華民国二十年十一月二十一日
李錦綸代

161 昭和6年11月23日 在漢口坂根總領事より
幣原外務大臣宛(電報)
国民党の連ソ対日策採用の情報について

162 昭和6年11月23日 在上海重光公使より
幣原外務大臣宛
嫩江事件に関する外交部宛公文について
付屬書 同日付重光公使より在南京上村領事宛公信機密
第四八〇号
第一月二二日付重光公使より李外交部長代理宛
公文
上海 11月23日付
本省 11月29日着

セリ

公信機密第四七三号
昭和六年十一月二十三日付在南京上村書記官宛機密公第四八〇号信写送付
嫩江事件外交部宛公文ニ關スル件
(付屬書)

上海 11月23日付
本省 11月29日着

本件ニ關スル外交部長代理宛公文茲ニ別添送付スルニ付同部へ転達方可然御取計相成度

本件ニ關スル外交部長代理宛公文茲ニ別添送付スルニ付同部へ転達方可然御取計相成度

本信写送付先 外務大臣 北平 奉天 在仏大使

(別紙)

外第七九号

以書翰啓上致候。陳者、嫩江地方ニ於ケル日支両軍ノ衝突事件ニ関連シ十一月二十日付貴翰ヲ以テ御申越ノ趣閲悉致候。右日支両軍ノ衝突カ貴國軍ノ攻撃ニ起因シ其ノ責任全然貴國側ニ在ルコトハ既ニ十一月十六日付、同十九日付及同二十一日付貴部長代理宛書翰ヲ以テ詳細申進シ置キタル通ナルニ付貴方ニ於テモ充分御承知相成リ居ルヘキ儀ト思考スルモ為念更ニ貴翰御申越ノ諸点ニ対シ左ニ委細申進スルニ付右篤ト御諒承相成度候。

一、貴翰ニ於テ「最近日本政府ハ遂ニ大軍ヲ集中シテ着々進撃シ(中略)齊齊哈爾市ハ既ニ完全ニ日本軍ニ占拠セラレタル趣ナリ」トアル処、累次申進ノ通帝国政府ニ於テハ終始日支両軍隊ノ衝突ヲ防止スルカ為凡ユル手段ヲ講シタル次第ニシテ殊ニ日本軍ニ於テハ馬占山軍力齊齊哈爾ニ撤退スレハ日本軍派遣隊モ嫩江地方ヨリ撤兵スヘキコトヲモ申入レ事態ノ緩和ヲ計リタリ。然ルニ馬占山將軍ハ右我方申入ヲ容レス却テ十一月十七日戰鬪準備ヲ

完了シ小数ノ日本軍派遣隊ニ對シ攻撃ヲナシタル為同派遣隊モ自衛上之ニ応戦スルノ余儀ナキニ至リタル次第ナリ、日本軍派遣隊カ齊齊哈爾ニ入りタルハ右馬占山軍ノ軍事的脅威ヲ除ク為ニ外ナラシテ固ヨリ已ムヲ得サリシ結果ナリ。日本軍ニ於テ当初ヨリ計画的ニ齊齊哈爾占領ヲ企図セリトナスハ全然事實ニ非ス。

二、貴翰ニ於テ「日本軍隊ハ一切ヲ顧ミス遼寧吉林兩省ノ主要地ヲ占領後理事会決議案ニ反シ右侵略行動ヲ拡大シ現ニ理事会開会ノ折柄黒龍江省城及各地ヲ占拠セリ」トアル処、帝国政府ニ於テ今次ノ奉天事件ニ對シ事態拡大ヲ防止スルノ方針ヲ持スルコトハ當時夙ニ普ク宣明シタル通ナルカ、右帝国政府ノ方針ハ九月三十日理事会ノ決議ト正シク合致スル所ニシテ其ノ後ニ於テモ右方針ハ何等変更セラレタル所ナシ。今般日本軍派遣隊カ馬占山軍ト衝突シタルハ前項説明ノ通貴方軍隊ニ於テ右連盟理事会ノ決議ニ反シ挑戦的態度ヲトリタル結果ニ外ナラス要之、日本軍派遣隊ヲシテ齊齊哈爾方面ニ到ルヲ余儀ナクセシメタルハ十一月二十一日付書翰末段ノ通全ク馬占山軍ノ攻撃ニ基因スルコト明白ニシテ從テ右ニ基ク一切ノ結果

ニ付テハ馬占山軍側ニ於テ其ノ責任ヲ負フヘキモノニ有之候。貴翰ニ於テ日本軍齊齊哈爾方面進出ニ付日本政府ニ其ノ責任ヲ転嫁セントスルカ如キハ本使ノ容認シ得サル所ニ有之候。尚十一月十九日付書翰ヲ以テ申進シ置キタル通馬占山軍ノ攻撃ヲ抑制セサリシ点ニ於テ貴國政府モ亦其ノ責任ヲ免レ得サルヘキ次第ハ茲ニ繰返シ明瞭ニ致候。

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。敬具。

昭和六年十一月二十二日

日本帝國

特命全権公使 重光 葵

国民政府

外交部長代理 李錦綸殿

(編注) 本公文は、二六日在南京上村書記官により国民政府外交部に転達された。

蔣介石の北上決定は対内策との情報について

163 昭和6年11月24日

在北平矢野參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

北平 11月24日後發
本省 11月25日前着

第六七五号(暗)

時局ニ關シ信スヘキ筋ヨリノ聞込トシテ二十四日黃濬カ原田ニナセル内話

(一)今次蔣ノ北上決定ハ表面日本ニ對スルカ如キモ実ハ対内策ニ出ツ即チ囊(ニ)南北和平會議ニ際シ蔣カ下野ヲ思ヒ止マリタルハ宋子文「ライヒマン」ノ活動ニ基ク連盟ノ援助ヲ期待セルカ為ナル処昨今連盟ノ頼ムヘカラサルコト明カトナルヤ対日強硬態度ヲ示シ国内輿論ニ迎合スル必要アリ又南京政府ノ逼迫セル財政切抜ノ為目下「ラ」ヲ通シ密ニ進行中ノ連盟借款ヲ促進シ且政府発行ノ各種公債ノ市価維持ノ見地ヨリモ蔣トシテ此際大見得ヲ切ルノ要アリ

(二)蔣ハ先ツ鄭州洛陽ニ落着キ次テ來平シ當面ヲ糊塗スヘシ蔣北上ノ結果閻馮韓及吳佩孚等北方軍閥ハ威圧セラレ良ノ地位安固ヲ加フヘク從テ茲當分内亂ノ發生等ハ先ツ有リ得サルヘシ

(三)南京政府ハ陸海空軍總司令部及副司令部ハ軍事機關ナルカ故ニ國內平定ノ今日之カ存続ヲ要セストシ近ク廢止ノ意アリ又蔣ハ最近獨逸公使ト一千万元ノ武器購入契約ヲ

結ヘリト云フ

支ヨリ上海へ転報アリタシ
支、南京、漢口、廣東、青島、濟南、天津、奉天、哈爾
賓へ転電セリ

164 昭和6年11月(24)日 在濟南西田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

四全大会における蔣介石の声明に関する韓山

東省主席の観測について

濟南 本省 11月24日後着

第二六五号

二十三日本官韓ト会見ノ際滿州天津方面ノ消息ヲ聞キタル
ニ付本官ヨリ然ルヘク応答シタル上四全大会ノ席上ニテ声
明セル蔣介石ノ北上云々ニ付問ヒタルニ韓ハ右ニ付テハ未
タ何等公報ナク新聞紙上ニテ承知セルニ止マレルヲ以テ蔣
カ如何ナル考ニテ表明セシヤ又果シテ北上スヘキヤ判明セ
ス私見ナルカ何分滿州事件ハ漸次拡大シ國際連盟ノ形勢モ
今日ノ状態トナレルコトナレハ蔣トシテモ責任上何事カ言
ハサルヘカラサルニ至リ主権侵害ノ反対及自衛権ニ依ル被

占領地ノ回復ヲ云々シタル迄ニテ対日宣戰ノ如キハ到底行
ハレサルヘク万ニ斯カル不祥事ニ至ラハ両国ハ勿論東亜全
局ノ一大不幸ナレハ然ルヘキ時機ニ何トカ直接交渉等ノ方
法ヲ以テ事件ヲ解決ニ向ハシムルコト必要ナリト認メ居レ
リ云々ト述ヘ居タリ

支ヨリ上海、漢口へ転報アリタシ
支、北平、青島、奉天、天津、廣東、南京ニ転電シ芝罘ニ
暗送セリ

165 昭和6年11月(24)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府の対日強硬策に関する齊世英の内話
について

南京 本省 11月24日前着

第七二六号(注)(極秘扱)

二十三日本官他用ニテ齊世英ト会談シタルカ其際齊ハ滿州
事件ニ關シ種々語ル所アリタリ其要点ハ

一、日本軍ノ滿州ニ於ケル独立政府樹立援助説齊齊哈爾占
領ノ当地報道ニ刺戟セラレ最近南京側ノ対日空氣頗ル険

惡ニ向ヒツツアリ四全大会ニ出席セル地方代表中ニハ対
日宣戰ヲ主張スル者相当アリ蔣介石カ果シテ夫レ迄ノ決
意ヲナセルヤ否ヤハ承知セサルカ相当重要ナル決意ヲ有
スルコトハ確言シ得ル所ナリ

二、本件ヲ連盟ニ提出スルコトニ付テハ政府部内ニモ当初
ヨリ反対スル者アリタルカ要スルニ対内政策ヨリ已ムヲ
得サルニ出テタルモノナリ然レ共目下ノ處支那ノ輿論ハ
日本ヨリモ一層鞏固ニ一致團結シ居リ而モ日本軍ノ横暴
カ加ハレハ加ハル程日一日ト團結ヲ強メツツアル次第ニ
テ今トナリテハ仮令連盟カ如何ニ支那ノ主張ヲ抑ヘント
スルモ国民政府ハ此輿論ヲ無視スル事ヲ得ス從テ蔣介石
自身モ実ハ全クノ窮地ニ陥レル次第ニテ此際少シニテモ
弱音ヲ吐ケハ國民ノ為ニ倒サルコトハ必定ナルニ依リ
寧ロ南京政府ノ崩壊ヲ賭シテモ飽迄日本ト争ハントノ決
意ヲナシ居ル次第ナリ

ニ提携シ得ヘシトノ根本觀念ヨリ支那國民ハ一致協力シ
テ日本ノ軍閥打倒ノ為戦フ決意ヲナセルモノナリ之カ為
南京政府ハ倒ルルコトアルヘキモ事態長引ケハ日本ニモ
政變アルヘク輿論ノ分裂ヲモ生スヘシト考ヘ居レリ云々

トテ目下ノ處到底直接交渉ノ余地ナキコトヲ縷々述ヘタ
ルニ依リ本官ヨリモ其誤レル点ニ付テハ一々反駁説明シ
置キタルカ右南京側ノ空氣何等御参考迄

公使ニ転電セリ

(編注) 本文書の電信番号には疑義があるがその儘とした。

166 昭和6年11月24日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

滿州問題に関する顧維鈞の記者会見について

南京 本省 11月24日前着

第七七六号

二十四日ノ新聞ハ顧維鈞カ記者ノ質問ニ對シ(一)九國條約ニ
依レハ同條約ノ規定ヲ適用スヘキ事態發生シタル時ハ關係
國ハ隔意ナキ交渉ヲナス義務アルヲ以テ連盟カ滿州事件ノ
解決ヲナシ得サル時ハ九國條約ニ依ル國際會議招集ノ可能

事項6 国民政府との交渉

性アリ又(二)規約ニ依レハ連盟ヲ脱退スルニハ二ヶ年ノ予告

期間ヲ要スル次第ニ付脱退ハ簡単ニハ行カサル旨答ヘタル

趣報道セリ

支、北平、奉天へ転電セリ

~~~~~

167 昭和6年11月25日

在広東須磨總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

陳友仁の渡日報告書の内容について

広東 11月25日後発  
本省 11月26日後着

第六四一號

(1)二十五日当地英字新聞ニ陳友仁ノ渡日報告書發表セラレタル處右ハ十項ニ分レ長文ナルカ要旨左ノ通

一、自分カ廣東政府外交部部長ニ就任スルヤ中国ノ外交關係ヲ通觀シ一九二六年及二七年ノ漢口時代ノ外交案件ハ不平等條約時代ナリシカ現在ノ問題ハ日華關係殊ニ滿州問題ナルヲ痛感シタル處元來此結論ニ達シタルハ

(2)過去二十年ノ事實ニ顧ミ中国政府ノ不安ヲ來セルハ主トシテ日本ノ為ニシテ殊ニ幣原男ノ代表スル近代日本トハ異ナル軍閥ハ中国カ不安混亂ノ狀態ニ在ルコト即チ日

本ノ利益ナリト看做セルコト及  
(口)南京政府ハ北平政府時代ノ遷延回避ノ古キ政策以外何等実際的ノ対策無ク武力強キ國家力弱キ国ヨリ此種取扱ヲ受クルニ於テハ必スヤ災厄至ルヘキコトヲ看取シタルニ依リ

一、茲ニ於テ日華両國間ノ災厄ヲ除カントスル故孫總理ノ遺訓ニ基キ両國關係ヲ調整スルノ必要ヲ感シタルカ元來

モ歐州ニ於ケル独仏間ノ關係ノ如シト断シタルカ国民政府カ此政策ハ實行シ得ヘキモノナルヲ觀テ予ヲ日本ニ派遣シタリ自分ニ對スル國父ノ訓令ハ極秘ノ覺書ニ認メラレ要スルニ幣原男トノ間ニ孫總理ノ遺訓ニ基ク永久和平達成ノ為内談ヲ遂クヘク又日本ハ滿州ヲ併合スルノ意思ナキヲ確メ所謂經濟利益及特殊利益ナル仮面ノ下ニ併合ヲ敢テセントスルカ如キコトナカラシメ又前記ノ所謂利益ハ北滿州ヲ含マサルモノナルヲ明カニシ又日本トノ如何ナル協定ト雖モ國民ノ同意（national assent）ヲ得ルニ非サレハ西原借款ノ場合ニ於ケル段祺瑞ノ安福派政府ト同様ノ運命トナルヘキカ故ニ結局國民政府ハ日本ト

難ナレハ事態ノ緩和ヲ俟ツノ外ナシ  
公使ヨリ上海ヘ転報アリタシ  
公使、北平、奉天、南京ニ転電シ香港ヘ転報セリ

168 昭和6年11月25日 在南京上村領事より

幣原外務大臣宛（電報）

日本軍の錦州攻撃に対する外交部長よりの抗議大要について

付記 一一月二六日付上村領事より幣原外相宛公信機  
付属書 密送第八五四号  
右公文送付について

一一月二六日付上村領事より在上海重光公使

宛公信機密公第六五三号

一一月二五日付李外交部長代理より重光公使

三、自分ノ渡日ハ既ニ万宝山事件及鮮内ニ於ケル鮮人暴行事件ノ際ニハ既ニ決定セラレ居リ當時恰モ日本ニ対シ国民ハ激昂ノ最中ナリシモ四全會議ニ間ニ合フ様政策決定ノ要アリシカ故ニ密ニ渡日セルモ不幸日本到着前新聞ニ報道セラルルニ至レリ

四、東京ニ於テ幣原男ト意見ヲ交換シタルカ其ノ内容ハ九月二十五日發表ノ同男宛電報ニ述ヘタル通ナリトテ往電

第四五六号ノ趣旨ヲ繰返シ居レリ

五、結局自分ノ渡日ハ日本ノ滿州問題ニ関スル政策ニ關シ

「Information」ヲ得ントスルニアリテ幣原男若クハ其ノ

他日本当局ト何等ノ交渉ニ入りタルコト無ク從テ自分ノ

渡日目的ナリトシテ伝ヘラレタル諸報道ハ南京ノ放チタ

ル虚伝ナリ

六、滿州ノ憂フヘキ現状並ニ日本ニ対スル国民感情ノ激成

二鑑ミ現在ハ総理ノ遺訓ニ依ル政策ヲ施スコト極メテ困

外交部長ヨリ二十五日付公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ

第七三七号

本官發支宛電報

事項6 国民政府との交渉

最近ノ報告ニ依レハ日本軍ハ連日奉天西南一帯ニ集中シ錦州及其他各地ノ攻撃準備ヲ為シ同時ニ日本側ニ於テハ中国

ハ錦州ニ大軍ヲ増派シ形勢重大ニシテ日本軍ヲ襲撃セント

スル模様ナル旨宣伝シツツアル趣ノ處本月二十二日既ニ日本軍

ノ此種行動ハ黒龍江及其他各地攻撃ノ手段ト同様ニシテ日本

政府カ各其侵略計画ヲ着々実行シツツアルハ世ヲ挙ケテ

慨然タラシム此處ニ錦州新民一帯ニ若シ事故発生スル時ハ

日本政府ハ重大ナル責任ヲ負フヘキモノナル事ヲ特ニ声明

ス

右貴公使ヨリ貴国政府ニ御伝達相成タシ

大臣、北平、奉天、仏へ転電セリ

(付記)

南京 11月26日付

公信機密送第八五四号

昭和六年十一月二十六日付機密公第六五三号重光公使宛公

信写送付

件名

一、錦州新民攻撃ニ関スル外交部長來翰転達ノ件

右照会

貴國政府為荷須至照會者

(別紙) 本信写送付先 大臣、北平、奉天

照会

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大日本帝国特命駐華全權公使重光  
李錦綸代  
中華民国二十年十一月二十五日

昭和6年11月25日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍の黒龍江省における軍事行動に対する

外交部長よりの抗議大要について

付記

一月二六日付上村領事より幣原外相宛公信機

右公文送付について

付属書

一月二六日付上村領事より在上海重光公使

宛公信機密公第六五五号

一月二五日付李外交部長代理より重光公使

宛公文

南京 11月25日後発

本省 11月26日前着

第七八二号(略)

本官発支宛電報

第七一〇号

外交部長ヨリ二十五日付公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ

(三)十一月三日朝日本軍ノ一部ハ江橋ヲ越ヘテ中國軍隊ヲ攻

(付属書)

南京 11月26日付

公信機密公第六五三号

錦州新民攻撃ニ関スル外交部長來翰別紙ノ通転達

本件ニ關スル本月二十五日付外交部長來翰別紙ノ通転達

ス御査収相成度

本信写送付先

大臣、北平、奉天

照会

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

州新民一帶如有事故發生日本政府應負重大之責任相應照會

貴公使查照即希転達

貴國政府為荷須至照會者

大中華民国外交部長

照会事近拠報告日軍連日集中瀋陽西南一帯準備攻撃錦州及

其他各處同時日方宣伝中國在錦州加派重軍形勢嚴重有襲擊

日軍模様等語本月二十二日已發生日軍協助匪徒攻擊新民之

事查日軍此種行動与進攻黒龍江及其他各處之手段相同日本

政府似此節々進逼實行其侵略計画舉世駭然茲特鄭重声明錦

## 事項6 国民政府との交渉

擊シ四日大興停車場ノ占領ヲ要求シ交渉マラサルヤ馬賊ト共ニ我方ヲ攻撃シ飛行機ヨリ爆弾ヲ投下シ五日張海鵬ヲ使嗾シテ大興ヲ攻撃セシメタリ

(4) 六日林ハ省当局ニ対シ主席ノ地位ヲ張海鵬ニ引渡スニ於

テハ日本軍ハ攻撃ヲ中止スヘシト要求シ之ヲ果ササルヤ增派セル日本軍一千余人ハ賊軍三千余人ト共ニ最新式武器ヲ以テ我ヲ猛撃シ七台ノ飛行機ハ到ル處ニ投弾シ數十門ノ大砲ヲ以テ攻撃シ我軍民ノ死傷甚タ多シ

(5) 八日林ハ馬主席ニ対シ日本軍ノ齊々哈爾侵入ヲ避ケントセハ速ニ誠意ヲ披瀝シ夜ノ十二時迄ニ回答スヘシト正式ニ通告シ且戰禍ヲ免ルル唯一ノ便法トシテ馬主席ノ即時

下野及政権ヲ張海鵬ニ引繼カンコトヲ申入レタリ

(6) 十二日林ハ本庄ヲ代表シ馬主席ニ対シ(1)馬ノ即時下野(2)黒軍ノ齊々哈爾ヨリ撤退(3)日本軍ノ一部ハ昂々溪ニ進出スルコトヲ要求シ同夜十二時迄ニ之カ回答ヲ求メタリ同時ニ日本軍ハ歩兵、騎兵、砲兵及飛行機ヲ以テ三間房ヨリ十余里先ノ湯池、烏林諾一帶ノ騎兵ヲ猛撃シ我軍民ノ死傷頗ル多シ林ハ本庄カ齊々哈爾占領ノ決意アルコトヲ述ヘタリ

(7)十五日本庄ハ政府ノ訓令ヲ奉シ馬主席ニ対シ(1)馬軍ノ齊々哈爾以北撤退(2)将来馬軍ノ東支線以南出動ノ制限(3)洮昂線ハ同鐵道局員運行シ馬軍ハ之ヲ妨害シ得サルコトヲ要求シ十日以内ニ之カ実行ヲ求メ其ノ実行後日本軍ハ適宜撤退スヘシトテ十六日午前中ニ回答方要求セリ又同日本庄代表白屋ハ黒軍ノ即時齊々哈爾以北撤退ノ要求書ヲ提出セルニ付省当局ハ日支双方同時ニ撤退方回答セルカ彼ハ承知セス且口頭ヲ以テ即時独立ヲ宣布シ中央政府ヨリ離脱シ維持会ヲ設置セシコトヲ要求シ若シ之ニ応セサレハ日本軍ハ引続キ攻撃スヘシト述ベタリ

(8)十六日日本軍ハ大部隊ノ兵力並多数ノ「タンク」車十余台ノ飛行機重砲八門ヲ以テ昼夜猛撃シ十八日我カ全線ニ亘リ總攻擊ヲ行ヒ飛行機一台ハ省城ニ爆弾ヲ投下シ且伝單ヲ撒布シ十九日晚齊々哈爾ヲ占領セリ

(9)二報告ニ依レハ日本軍ハ黒龍江占領後強姦殺人ノ限リヲ尽シ一面引続キ馬軍ヲ追撃シ飛行機ヲ林甸ニ派シ投弾シ人民ノ被害甚タ多シ右ハ國際公法上ノ原則、連盟規約、九國條約理事会ノ決議案及日本政府累次ノ声明ニ違反シ遼寧吉林兩省ニ於ケル行動ト其轍ヲニシ其程度ハ殊ニ甚タシク

日本政府ハ自ラ其責任ヲ拡大セントスルモノナルコト最早疑ナシ

前述ノ各項ハ世ヲ挙テ皆知リ居ル処ニシテ中国政府ニ於テ一々説明スル迄モナク日本政府亦其事實ナルコトヲ知ルヘシ

シ然ルニ日本政府ハ累次ノ照会ニ於テ是非ヲ顛倒シ最初ハ洮昂鉄道ハ満鉄ノ財産ト同一視スヘキモノニシテ橋梁ノ修理ハ正当ナル行為ナリト云ヒ次キニハ馬軍ハ日本軍ヲ圧迫セルニ付日本軍ハ已ムヲ得ス之カ排除ノ必要アリト称シ最後ニハ中国政府ハ馬主席ノ日本軍ニ対スル抵抗ヲ制止セサ

リシニ付其責ニ任スヘシト述ヘ居レリ又日本軍ノ十一月十

八日ノ行動ハ已ムヲ得サル應戰ナリト称ス日本政府カ此種議論ノ誤レルコトヲ熟知シツツ尚且是ヲ為ス所以ハ虛偽ノ事実ヲ以テ世界ヲ偽瞞シ其侵略行動ヲ蔽ハントスルニ外ナラス而カモ世界ノ公理ハ尚存シ明白ナル是非ハ克ク弁別ス

馬主席ハ外國軍隊ノ違法及侵略行動ニ対シテハ盜賊ノ掠奪行為ニ對スルト同様全力ヲ以テ之ヲ排除スル責任アリ今回馬主席カ部下ヲ指揮シテ日本軍ニ抵抗セルハ當然ノ事ト認ム又中國政府ハ中國官吏ノ賞罰ヲ自ラ行フ権限ヲ有スル処

日本政府カ遂ニ外交文書ヲ以テ批評ヲ加フルハ以テノ外ナ

公信機密送第八五五号  
昭和六年十一月二十六日付機密公第六五四号重光公使宛公信写送付

(付記)  
件名  
一、黒龍江事件ニ關スル外交部長來翰轉達ノ件  
(付屬書)

南京 11月26日付  
本省 12月3日着

## 黒龍江事件ニ関スル外交部長來翰転達ノ件

本件ニ關スル本月二十五日付外交部長來翰別紙ノ通転達  
ス御查收相成度

本信写送付先 大臣、北平、奉天

(別 紙)

### 照 会

大中華民国外交部長

為

照会事關於日軍在黒龍江省之作戰行動迭經本国政府嚴重抗議並指明日本政府重大之責任在案茲准外字第七七及七八号來照業經閱悉洮昂係中國鐵路其修理該路之權完全操之中國日方無權過問此次日軍要求修復無權修理之嫩江橋而復派遣大批軍隊由嫩江橋而大興由大興而湯池而昂昂溪終而至於龍江節節進攻愈演愈烈茲將日軍在黑龍江之橫暴行動挾其最為重要者重述如下

(一)十月二十四日日人商塚須本兩名代表閏東軍司令官向馬主席声称張海鵬必須到省江橋亟應修復由閏東軍司令部代表林義秀向黑龍江省當局要求七日內務將江橋修復否則日方派兵掩護滿鉄修理當經議定仍由洮昂路局自修

(二)十一月二日林義秀忽声称日方對於江橋不問黑省能修与否

義秀更聲言本庄決意非超中東線佔領黑垣不可

(三)十五日本庄以奉日本政府訓令向馬主席提出要求(1)馬軍向齊齊哈爾以北撤退此次因時局調集齊齊哈爾昂昂溪付近各部

隊歸還原防地(2)馬軍將來完全限制出動東鐵路線以南(3)洮昂

綫由該鐵路局運行馬軍無論如何不得妨害其運行如受妨害時日本必立刻实行有効手段以上条件十日内必須实行實行後日軍酌量撤退並限十六日前答復云云同日本庄又派代表白屋提出要求書限黑省軍隊即時撤退齊齊哈爾以北經該省當局復以中日兩方同時撤退彼不接受且口頭要求求即宣佈獨立脫離中央政府設立維持會如不認可日軍仍然攻擊等語

(四)十六日日軍於國連開會之際加派大部兵力並唐克車多輛飛機十余架重炮八門昼夜猛攻十八日向我全線總攻擊以重炮飛猛烈壓迫另有飛機一架到省垣擲彈並散放伝單謂作戰目的必欲攻進齊齊哈爾等語現齊齊哈爾已於十九日晚日軍侵入

現在拋報日軍佔據龍江後殺殘暴萬狀一面仍繼續進逼馬主席軍隊並以飛機分往林甸等縣投擲炸弹傷害人民甚多日本政府似此令其軍隊在黑龍江省侵犯中國內政攻擊中國軍隊佔據城市轟居民頑係違反

用國際公法公認之原則

日軍決掩護滿鉄派工往修並通告馬主席要求將軍隊由橋梁撤退十公里當時中國軍隊原駐大興站距江橋十八華里已在要求距離以外

(三)十一月三日早日軍一部越過江橋進攻中國軍隊四日向我要佔領大興站經交涉無効日軍遂摻雜胡匪向我攻擊並以飛機向我軍駐地投擲炸弹五日日軍復脅同叛逆張海鵬軍攻我大興四六日閏東軍司令部代表林義秀向黑龍江省當局要求將主席與張海鵬日軍停止攻擊要求未遂乃以新增日軍一千余人合匪軍三千余人利用最新武器向我猛攻飛機七架到處轟炸數十門大炮環攻尤烈我軍及人民死傷甚多

(五)八日閏東軍司令部代表林義秀正式通告稱馬主席如願避免日軍之入齊齊哈爾應速自行披誠限是夜十二時以前答復又通告馬主席稱避免戰禍之唯一弁法即立時下野將政權交與張海鵬接受

(六)十二日林義秀代表本庄又向馬主席提出下列之要求(1)馬主席即時下野(2)黑龍江省軍由齊齊哈爾撤退(3)日軍之一部為洮昂綫安全保証起見慮向昂昂溪車站出進限是夜十二時以前答復云云而同時日軍復以步騎砲連合隊及飛機向我三間房駐軍地前十余里之湯池烏林諾一帶之騎兵猛攻我軍民傷亡頗衆林

(2)国際連合会盟約  
丙 一九二二年華盛頓九国條約  
(丁)国際連合会行政院決議案  
(戊)日本政府迭次自為之莊嚴声明

日本此種違法違約失信之舉動与在遼吉兩省之行動如同一轍其程度且尤甚之日本政府自願擴大其責任已屬毫無疑義上述各節本屬舉世皆知無待中國政府一一為之說明即日本政府亦忘知其為事實乃日本政府迭次來文顛倒是非始則謂洮昂鐵路可視同滿鉄之財產派兵保護修理橋梁為正当之舉繼則稱馬主席所部軍隊向日軍压迫日軍不得已而為必要排除終則竟稱中國政府未曾制止馬主席之抵禦日軍應負責任等語而又謂日軍於十一月十八日始不得已而應戰一若以前日軍從未有積極進攻之事而十八日之大舉攻擊結果佔據省城龍江係屬不得之應戰行動日本政府明知此種論調之謬妄不確而必故意為之者無非欲以虛偽之事實欺騙世界掩飾其侵略行動殊不知世界公理尚存當能弁明顯然之是非也

黑龍江省政府主席馬占山守土有責對於外國軍隊之違法及侵略行動猶如對於盜匪之劫掠行為有以全力排除之責任此次馬主席指揮其所部軍隊抵抗日軍中國政府認為係屬當然之事中

事項6 国民政府との交渉

国政府對於中國官吏升遷獎懲自有權衡日本政府竟以外交牒文加以評斷殊出常理之外而日本政府一再命令並容許其閩東軍司令官本庄繁及其代表林義秀在中國領土內為種種違法違約之舉中國政府正須要求嚴懲本庄繁林義秀及凡日本政府伝發命令或意於制止之官吏也

中國政府目下急迫之要求仍在日本將佔據黑龍江遼寧及吉林及各地之軍隊立刻全部撤退相應照會

貴公使查照即希轉達

貴國政府為荷須至照會者

右 照 会

大日本帝国特命駐華全權公使重光

李 錦 編 代

中國民国二十年十一月二十五日

170 昭和6年11月26日

在濟南西田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

万福麟等の南下に関する韓主席の内話について

濟南 11月26日後発  
本省 11月27日後着

本側ハ前ニスヘシト云ヘリ) 天津ニ於テモ更ニ事件發生ヲ予感スル次第ナルカ自分トシテハ錦州又ハ平津方面ノ事件如何ニ發展スルトモ唯山東治安維持ニ終始シ中日間ノ紛擾ヲ避ケ事件ノ拡大ヲ防止シ成ルヘク早目ニ満州問題ノ適當ナル解決ニ資シ度キ考ナリ

三、日本側ノ窮極ノ意図如何ハ承知スルトコロナキモ若シ然ラスシテ戰禍山東又ハ長江ニ及ハンカ邦交破裂トナリ

中國側ハ致方ナク戰ヘル丈ヶ戰ヒテ破レハ奥地ニ引揚ケルノ外ナキモ斯クテハ持久戦トナリ中日兩国民ノ悪感ハ愈永久トナリ東亜滅亡ノ危機ヲ來スヘク此点ハ日本識者ニ於テモ夙ニ考慮セラルル處ナランモ自分ハ衷心ヨリスカル大不幸ノ惹起セサルコトヲ切望ス云々 御参考迄

公使ヨリ上海、漢口へ転報アリタン

ニ暗送セリ

171 昭和6年11月26日

在濟南西田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

万福麟らの南京行きに関する情報について

濟南 11月26日後発

第五八六号

國政府對於中國官吏升遷獎懲自有權衡日本政府竟以外交牒文加以評斷殊出常理之外而日本政府一再命令並容許其閩東軍司令官本庄繁及其代表林義秀在中國領土內為種種違法違約之舉中國政府正須要求嚴懲本庄繁林義秀及凡日本政府伝發命令或意於制止之官吏也

張學良代表万福麟ハ鮑文樾(東北系ニテ中央ノ參謀次長)ト共ニ昨二十五日当地通過南下シ韓主席モ右両名ト津浦駅ニテ会談セルカ二十六日韓ノ私談トシテ本官ニ内話セル処ニ依レバ

一、万、鮑両名今回ノ赴京ハ要スルニ東北最近ノ状況報告ト蔣介石ノ北上問題打合ノ為ナリト述ヘタル上最近錦州方面相當切迫セル模様ナル處張學良ニ対スル中国ノ一般輿論ハ東三省ヲ殆ド無抵抗ノ形ニテ明渡シタルノミナラス馬占山ニ対シテモ充分ナル援助ヲ与ヘ得サリシヨリ頗ル不評判ナリ自己ノ立場ナキト連盟モ余リ賴ミニナラス結果直接交渉等ニ依リ大綱決定セサル限り日本ノ撤兵等モ期待シ得ス

二、他方遼河方面ヲ始メトシ其他各所ノ土匪等ノ出没ニ依リ中日双方トモ其使嗾ナルヲ猜疑シ合ヒ小衝突続出シ紛擾煩マサルヨリ張トシテハ兎ニ角勝敗ハ別問題トシ国内関係上日本軍ト一戦ヲ交ヘサルヲ得サル状態ニアレハ早晚錦州方面ニ於テ中日何レヨリカ攻撃開始ヲ免レサルヘシト考ヘラル而モ錦州方面ニ於ケル衝突前後(恐ラク日)

本省 11月27日後着

第二七〇号(暗)

往電第二六九号ニ関シ

昨二十五日万福麟、鮑文樾等当地通過ノ際鉄路側カ一行ヨリ得タル消息ナリトテ當館諜報者カ聞込ミタル處ニ依レハ右二代表ハ蔣介石ト会见ノ上最近ノ東北状況ヲ報告シ四全大会ニ於テ決定セル遷都並ニ蔣ノ北上問題打合ヲ為シ結果如何ニ依リテ蔣ハ急速北上シ対日戰闘準備ヲ為スト共ニ韓ニ対シテハ直ニ青島ヲ接收セシメ対日防備ヲ命スヘシト右聞込ノ儘

支ヨリ上海、漢口へ転報アリタン  
前電ノ通転電暗送ス

172 昭和6年11月(26)日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

國際連盟の調査團派遣に対する顧外交部長の

談話について

南京

本省 11月26日後着

二十六日ノ各新聞ハ顧維鈞ノ談話トシテ大要左ノ如キ記事

ヲ掲載セリ

連盟ノ調査委員派遣案ニ関シテハ日本ヲシテ最短期間ニ撤兵セシムル保証ナキニ付我方ハ飽迄承諾シ難シ形勢重大ナ

ル東北ノ真相ヲ調査スルコトハ素ヨリ希望スル所ナルモ日本軍ノ占領ヲ容認スルコトハ連盟カ日本ノ侵略行為ヲ認メ

ルコトトナルノミナラス延イテ撤兵ヲ遷延シ東北ニ於ケル日本ノ地位ヲ鞏固ナラシメ且極東平和ノ危険ヲ継続スルコトトナル九月三十日及十月二十四日頃日本カ東北ノ一部分ヲ占領セル際期限付撤兵ノ必要ヲ認メタル連盟ハ今ヤ殆ト

東北ノ全部ヲ占領セル日本ニ対シ最短期間内ニ撤兵セシムル理由充分アリ日本ノ行動ハ理由ヲ問ハス予告ヲ与ヘス事

実上ノ戦争ヲ為スモノニシテ武力ニ訴ヘサル義務ニ違反ス

連盟ハ規約ノ尊厳及連盟自体ニ存在ヲ維持スル為何故ニ第

十六条ノ制裁ヲ加ヘサルヤ一定期間内ニ撤兵ヲ完了セシムルコトハ問題解決ノ第一要件ナリ米国ハ連盟ト同一立場ニ

在リ其ニ遠大ナル計画ヲ立テ平和ノ障碍ヲ除キ國際條約ヲ維持スベキナリ

尚顧維鈞ハ二十六日国民政府ニ於テ就任宣誓式ヲ行フ筈

支、北平、奉天へ転電セリ

173 昭和6年11月26日 在  
幣原外務大臣より  
別電 一月二七日幣原外相より沢田連盟事務局長他宛(電報)

中國軍の閨内撤退についての顧維鈞提議に關する英米仏三国大使の申出について

右顧維鈞の提議について

合第一七一五号(暗、至急)

顧維鈞ノ三国公使ニ対スル談話ニ対シ在本邦

三国大使申入ニ関スル件

〔一〕十六日仏國大使來訪二十四日南京ニ於テ英米仏三国公使夫々顧維鈞ノ求メニ依リ同人ト会見ノ際顧ヨリ日本軍ノ錦州襲撃目前ニ迫レル報道アルコトヲ告ケ之ニ関シ別

電合第一七一六号ノ如キ提議アリタル趣ナリト別電ノ趣旨ヲ口頭ニテ述ヘタル後「ブリアン」ヨリ自分(マル

テル)ニ対シ本件ニ関スル本大臣ノ意見ヲ求ムヘキ旨訓

令アリタリト申出テタリ仍テ本大臣ハ右ハ重大問題ナルニ付閨僚ト協議ノ上至急御返事スヘシト答ヘ置キタリ

〔二〕尚同日英國大使ト邂逅セル際本大臣ハ二十五日貴大使來

談ノ次第(本大臣発在支公使宛電報第四七八号)ハ前記仏國大使ノ申出ニ該當スルモノト思ハル處貴大使ノ前日ノ談話ニハ別電合第一七一六号後段我方ニ於テ英米仏ニ対シ「ガランティー」ヲ与フルノ点無カリシカ右ハ如何ナル理由ニ基クヤト尋ネタルニ英國大使ハ自分ノ受取リタル電報中ニハ「ガランティー」ノコトニ付言及シアリタルモ意味不明瞭ナリシソ以テ申上ケサリン次第ナリト答ヘタリ

(三)米国大使ハ未タ本国政府ヨリ何等訓令無カリシム語ノリ本電及別電宛先 連盟 米 支 北平 奉天 広東 別電ト共ニ連盟ヨリ在欧各大使へ転電アリ度 別電ト共ニ支ヨリ南京へ転電アリ度

(編注) 本件に關しては事項八にも關連文書が収載されん。

Le Japon garantirait à la France, à l'Angleterre et aux Etats-Unis que ses troupes ne pénétreraient pas dans cette zone où l'administration chinoise continuerait de fonctionner, police comprise.

174 昭和6年11月27日 在上海重光公使より  
※幣原外務大臣宛(電報)

天津事件解決に關し尽力方願望に關する

本省 11月27日發 上海 11月27日後發

合第一七一六号(暗、至急)

顧維鈞ノ三国公使ニ対スル談話ニ關シ在本邦

三国大使申入ノ件

第一三四三号(暗)

本官發天津宛電報

第二五号

貴電第五一九号ニ閲シ

当方ニ於テハ事件ノ責任カ民國側ニ在ル事ヲ明カニスルト

同時ニ事態ヲ一般ニ周知セシメ我方ノ立場ヲ強ムル目的ヲ  
以テ機宜ニ応シ国民政府ニ公文ヲ提出シ且之ヲ公表スルノ  
手段ヲ執リ來レル次第ナルカ之ニ依リ事件解決ヲ望ミ得サ  
ル事勿論ナレハ貴方ニテ事件ノ実際的解決ニ努力セラル  
事ト致シタシ尚貴電末段ノ趣旨ハ南京宛往電第七七七号ニ  
依リ外交部ニ申入レ置キタルニ付此上トモ充分御尽力相成  
タシ

大臣、北平へ転電セリ

175 昭和6年11月27日 愛原外務大臣より  
在パリ渉田連盟事務局長他宛（電報）

顧維鈞の錦州中立地域設置提議ニ關し在京

大使ニに対する回答手続ヒハシト

別電 同日愛原外相より渉田連盟事務局長他宛合第1

七三〇号

フランス大使に対する回答文

合第1七三一九号（暗、大至急）

本電及別電宛先 連盟、米、支、北平、奉天、廣東、  
別電ト共ニ連盟ヨリ在欧各大使へ轉電アリ度  
支ヨリ南京へ轉報アリ度

（別電）

合第1七三〇号

The Japanese Government share with the French  
Government the earnest hope that hostilities between  
the Japanese and Chinese forces may be averted in  
the region of Chinchow. Accordingly, should China  
withdraw her troops entirely from Chinchow and the

neighbourhood to Shanhakwan and places west there-  
of, and maintain only the administration (including the  
police) of the district from Chinchow to Shanghai-

kwan, the Japanese Government are ready to under-  
take in principle that the Japanese troops will not  
penetrate into the zone thus evacuated by the Chinese  
troops, unless in the unlooked-for event of some seri-  
ous emergency arising to jeopardize the security of  
the lives and property of Japanese subjects in North

China and the safety of the Japanese garrisons station-  
ed there. The Japanese Government are prepared to  
cause the competent Japanese authorities at any time  
to discuss locally with the Chinese authorities of the  
district the exact definition of the zone above referred  
to, and the details relating to the execution of this  
arrangement.

至急執行方止ハシト

上海 11月28日後発  
本省 11月28日後着

第一三〇四七号（暗、大至急）

本使発南京宛電報第七九四四号

大臣発本使宛電報合第1七四三号ニ閲シ

本使便船ノ都合惡シク月曜日正午貴地着ノ予定ナルカ本件  
ハ急ヲ要スルヲ以テ至急本使ニ代リ大臣訓令ノ次第ヲ執行  
セハシタシ

大臣、北平へ転電セリ

177 昭和6年11月28日 在広東須磨總領事代理より  
愛原外務大臣宛（電報）

広東政府外交部の「瀋州問題声明書」發表

ハシト

別電 同日須磨總領事代理より愛原外相宛第六五七号  
右溝州問題声明書

176 昭和6年11月28日 在上海重光公使  
（電報）

愛原外務大臣宛（電報）

錦州方面中立地域設置案に關する大臣詔令

顧維鈞ノ三国公使ニ対スル談話ニ閲シ

三国大使申入ノ件

往電合（〔セイ〕文書）第一七一五号ニ閲シ

二十七日仏国大使ノ來訪ヲ求メ別電合第一七三〇号ノ趣旨  
ヲ口頭ニテ説述ノ上「テキスト」ヲ手交シ且右「テキス  
ト」中 competent Japanese authorities にてアルハ領  
事ニ將校ヲ随伴セシムル希ナル旨ヲ述ヘタル處同大使ハ滿  
足ノ意ヲ表シタル上右ハ早速本国政府ニ通報スベシトテ辞  
去セリ

本電及別電宛先 連盟、米、支、北平、奉天、廣東、

別電ト共ニ連盟ヨリ在欧各大使へ轉電アリ度

第六五六号（暗）

事項6 国民政府との交渉

往電第六一四号ニ閑シ

二十七日当地「デーリー・サン」紙主筆「ケントウエル」ハ本官ヲ來訪シ二十五日香港ニ於テ陳友仁ト會見シタルニ陳ハ數日中ニハ帰広スル筈ナルカ予テ本官ト約束セシ満州問題声明書（往電第六一五号）ハ愈広東諸新聞紙ニ於テ發表スルコトトナリタル旨（二十八日當地諸新聞紙ニ一齊ニアリタル旨語レリ右不取敢支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、奉天、天津、南京ニ転電セリ  
香港ニ暗送セリ

（別電）

広東 11月28日後發  
本省 11月28日後着

第六五七号

（別電）

一、廣東政府外交部ハ此重大ナル時機ニ際シ歴史的重大問題解決ノ為南京政府ノ執リタル外交政策ニハ到底同意シ難ク殊ニ日本軍ノ満州侵入ニ対シ何等抵抗セス直ニ此災

厄ヲ起シタル学良ノ責任ヲスラ間ハス連盟ニ盲従的ニ縋ルカ如キハ當外交部ノ断シテ反対セシ所ナリ革命ノ途上ニ在リ外國帝国主義ト闘ヒテ平等ヲ回復シ完全独立国家タラントシツツアル中国ヲシテ事實上連盟ノ保護下ニ立タシムルハ愚策ニシテ小国同様ニ取扱ハルヲ拒否スル國家ノ威儀ニ関ス依テ當外交部ハ連盟ハ其發達ノ現状ニ於テ國際正義ト平和ノ機關トシテ不完全ナル実状ニ鑑ミ連盟ニ期待シ得ヘキ援助ノ範囲及性質ニ閑シ冷静ニ考慮セン事ヲ祈ル

二、當外交部カ國民ノ為満州問題ヲ解決セントスル案ハ左ノ如シ

今次満州ニ於ケル災厄ヲ惹起シ中國ノ屈辱ヲ招來セル責任者タル軍閥官僚ノ權力回復ヲ許サス満州ノ領土及統治權ヲ擁護スルノミナラス其中国ノ外廓ニ在ル半獨立ノ封建的狀態ニ在ルヲ改革シ完全ナル中國領土「インテグラル、パート」トシ其地方政府ヲシテ中央政府ノ權力下ニアリ其命令ヲ遵奉セシムルニアリ之カ為ニハ從來ト同様地方政府カ満州ヲ半獨立國トシテ統治シ平時ハ中央政府ノ權力ヲ拒ミ或ハ侮辱シ事件ヲ続出シテ危機ヲ孕ム毎ニ

全國民ヲ困惑セシメ失敗ヲ重ネタルカ如キ旧来ノ制度ヲ廃止スルヲ要シ之ニ代ユルニ純然タル文官統治ヲ以テシ

其首脳者ニハ從來奉天派ニ關係無カリシ人物ニシテ個人又ハ一派ノ利益ニ非スシテ全國民ノ利益ノ為ニ公正且妥當ニ滿州ヲ統治スル者ト信賴シ得ヘキ者ヲ充ツヘシ

三、滿州ノ根本的解決ハ至難ノ業ナランモ近代國家觀念ニ立脚シ滿州及其資源ヲ從來ノ如ク私慾ノ為ニ非ス中国全般ノ繁榮ノ為ニノミ使用シ中國ノ致命的危機ヲ救フヘキ良策ヲ遂行スルニ足ル人物ヲ以テ組織セラルル国民政府ニ取リテハ決シテ不可能ノ事ニ非ス

本電ノ通転電転報セリ

178 昭和6年11月28日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍による減遼寧省政府主席ら要人の拘留  
に対する外交部の抗議について

南京 11月28日後發  
本省 11月29日前着

奉天ヨリ吉林、遼陽ヘ転電アリタシ

大臣、奉天、北平ヘ転電セリ

179 昭和6年11月28日 整原外務大臣より  
（電報）  
錦州方面中立地域設置案を顧維鈞・張學良へ  
申入れについて

第七九五号  
本官發在支公使宛電報

支那側へ非公式申入ノ件

往電合第一七二九号仏國大使ニ対スル回答ノ趣旨ヲ顧維鈞

ニ対シ（北平ニテハ張學良ヘ）非公式ニ伝達ノ上此ノ際体

面トカ理屈トカニ拘泥セス大局上ノ見地ヨリシテ錦州ハ勿

論京津地方ノ事態ヲ一挙ニ和平裡ニ收拾スル為メ一日モ速

ニ我方ノ対案ニ賛成シ之カ實行上必要ノ措置ヲ執ランコト

ヲ求メラレ度尚其ノ際本大臣發北平宛電報第一〇七号ノ趣

旨ヲモ加味シ我方ニ於テハ右北平宛往電ノ通衝突防止ニ付

凡有ル努力ヲ為シ居ル次第ナルニ拘ラス此ノ機ニ及ンテ支

那側ニテ誠意ヲ示ササルニ於テハ其ノ結果ハ支那側カ錦州

撤兵問題ヲ持チ出ササリシニ比シ一層不良ナルヘク即チ支

那側ニ於テ我軍ヲ翻弄シタル形トナリ極メテ面倒ナル事態

ヲ招來スルノ虞アル次第ヲ篤ト御説示相成結果回電アリ度

本電宛先

在支公使、北平

連盟、米、奉天、廣東、南京へ転電シ連盟ヲシテ在欧各

大使ヘ転電セシメタリ

180 昭和6年11月29日 在北平矢野參事官より

幣原外務大臣宛（電報）

錦州方面中立地域設置案に關し張學良に申入  
れならばに天津事件に關する同人の談話につ  
いて

北平 11月29日前着 本省 11月29日前着

貴電第一〇七号及貴電合第一七四三号ニ関シ

二十八日午後十時学良ヲ往訪シ

一、錦州方面ノ所謂中立地帶設定問題ニ關シ我方ノ仏國大

使ニ対スル回答ノ内容ヲ非公式ニ伝達シ貴電合第一七四三

号ノ御趣旨ヲ篤ト申入レタル處学良ハ熱心ニ傾聴シ左ノ通

答ヘタリ

本件ニ付テハ南京政府ヨリ未夕何等正式ノ訓令ニ接セス唯

顧維鈞ヨリ支那側ノ申出ノミニ非公式ニ通報ニ接シ居ル次第

ナルカ唯今御説明ノ御趣旨ハ原則トシテ自分ニ於テ何等異

議無シ唯之ヲ実行スル場合ニ於テ例へハ軍隊ヲ全然同方面

ヨリ撤退シタリトセハ其區域内ニ於テ益々猖獗ヲ極ムヘキ

馬賊等ノ討伐ヲ如何ニスルヤ右ハ警察官ノミニテハ不充分

ニテ何等カ武力ヲ要スヘク或ハ歩兵ヲ退キ騎兵等ノ一部ヲ

残ストカ又ハ山海關ニ引揚ケタル軍隊カ必要ニ応シ出動ス  
ル等ノ弁法ヲ講スルノ要ナキカ又錦州以東ニテハ日本軍ハ  
如何ナル姿勢ヲ取ラルヤ自分トシテハ治安維持以外日本  
側ニ対シ絶対ニ敵対ノ意思無キハ責任ヲ以テ確言シ得ル所  
ナリ何レニシテモ貴意ハ篤ト了解セルニ付御申出ノ次第ハ  
南京政府ニ照会スルト共ニ実地調査ノ為直二人ヲ錦州ニ派  
遣スル等迅速ノ措置ヲ執ルヘシ

二、天津事件ニ付テハ貴電第一〇七号ノ御趣旨ニ依リ往電

第六九二号湯爾和ニ対スルト同様我方ノ意ノ存スル所ヲ明  
カニシ速ニ射撃ノ絶対的中止ト二十支里以外ヘノ軍隊撤退  
方委細申入レ要スルニ天津問題カ此儘悪化スルカ如キ事ア  
ラハ錦州問題ニ關スル前述ノ措置モ水泡ニ期スヘシト述ヘ  
タルニ学良ハ全然同感ノ意ヲ表シ自分ハ誠心誠意事態悪化  
ノ防止ニ努力シ居リ現ニ本日モ王樹常ニ種種嚴密ノ訓令ヲ  
与ヘ貴官昨夜ノ御申出ニ対シテハ支那側発砲ノ有無ニ付密  
ニ何副官処副處長ヲ又日本側トノ連絡ノ為本日周龍光ヲ派  
シ更ニ明日王樹幹ヲ事端防止ノ為自分ノ代理トシテ簡派ノ  
答ナリト云ヘリ

三、学良ハ更ニ司令官要求ノ五項ニ言及シ自分ハ誠意ヲ以

テ回答セル積リナルニ司令官ハ右回答ニ満足セラレサルヤ  
ニテ大イニ当惑シ居ル次第ナリ自分ハ司令官ノ意思ヲ尊重  
シ本日周龍光ヲ天津ニ派スルニ當リ保安隊ハ三百「メート  
ル」退却セシムルモ可ナル旨日本側ニ申入レシムル事トセ  
ルニ司令官ハ右ハ明日ノ事トスヘシトテ之ニ応セラレサリ  
シ由ナルカ自分ノ最モ恐ルハ本夜ナルニ付何故右誠意ヲ  
受ケラレサルヤ了解ニ苦ム所ナリト云ヘリ（本項部外極  
秘）

四、終リニ本官ハ今回日本政府ハ非常ノ好意ヲ以テ錦州天  
津両問題ヲ一併解決シ将来當方面ニ問題ヲ起ササル事ニ決  
意シ種種措置シ居ル次第ニ付貴下トシテモ此際体面トカ理  
窟トカニ拘泥セス日本政府ノ意ヲ体シ速ニ適宜ノ措置ヲ講  
セラレタシト再言セル處学良ハ其間ノ事情ハ良ク承知シ居  
リ殊ニ幣原大臣ノ御決心ト御好意ハ大ニ多トスル所ナリト  
述ヘ昨日ニ比シ頗ル満足氣ニ見受ケラレタリ

連盟ヨリ在歐州各大使ヘ転電アリタシ  
支、連盟、天津、奉天、廣東、南京へ転電セリ

181 昭和6年11月29日 在濟南西田總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

万福麟の動静について

濟南 11月29日後発

本省 11月29日後着

第二七五号（暗）  
〔七〇文書〕

往電第二六九号ニ関シ

万福麟ハ昨二十八日当地着韓ト商議旁一泊シ今朝來済セル  
葛委員長及東北側駐済代表彭士彬等ト会談ノ上本日午前北  
上セリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ  
支北平青島天津南京へ転電セリ

182 昭和6年11月(29)日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

錦州方面中立地域設置案に関する大臣訓令の

次第執行方について

第七九七号（暗、至急）  
本官發在支公使宛電報  
第七五五号

南京 11月29日後着  
本省 11月29日後着

貴電第七九四号ト共ニ大臣へ転電セリ  
吳モ注意アリタキ旨特ニ釘ヲ刺シ置キタリ  
右不敢敢

第七九七号（暗、至急）

本官發在支公使宛電報

北平へ転電セリ

183 昭和6年11月29日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件に関する外交部よりの抗議大要につ  
いて

付 記 一二月一日付上村領事より幣原外相宛公信機密  
送第八六六号  
付属書 一二月一日付上村領事より在上海重光公使宛  
公信機密第六五九号  
一一月二八日付李外交部長代理より重光公使  
宛公文

南京 11月29日後発  
本省 11月30日後着

第七九九号

本官發支宛電報

第七五六号

外交部長ヨリ二十八日付公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ  
(二十九日午後接到)

天津地方長官ノ報告ニ依レハ「本月二十六日夜八時頃海光

貴電第七九四号ニ関シ

早速顧維鈞ニ会見ヲ申込タル處顧ハ「ウイーク、エンド」  
ニテ郊外ノ山ニ赴キ休養中ナルニ付御話ハ徐謨ニ御伝ヘア  
リタキ旨申越セリ依テ二十九日本官徐謨ト会見シ大臣發貴

公使宛電報告第一七四三号大臣御訓令ノ次第篤ト申入タル  
処徐ハ委細諒解セルニ付御話ノ次第ハ早速顧代理部長ニ伝  
達ノ上何分ノ御返答為スヘキ旨答ヘタリ

尚本二十九日ノ当地新聞中ニハ日本政府カ錦州ノ支那軍隊  
ノ撤退ヲ要求セリトノ記事掲ケタルモノアルニ依リ右徐謨  
トノ会見ノ際本官ハ元來錦州ノ支那軍隊撤退案ハ顧部長ノ  
提議ニ係ル次第ナル處此ノ期ニ及ヒテ支那側ニ依リテ誠意

ヲ示ササルニ於テハ其結果ハ支那側ニ於テ我軍ヲ翻弄シタ  
ル形トナリ極メテ面倒ナル事態ヲ招来スル恨レアル次第ヲ  
篤ト説明スルト共ニ況シテ支那側カ自ラ提案シツツ新聞等  
ニハ日本ノ強要ナリト書キ立ツルカ如キ事アラハ日本トシ  
テハ到底之ヲ黙過シ得ス最惡ノ事態トナルヘキニ付此点吳  
吳モ注意アリタキ旨特ニ釘ヲ刺シ置キタリ

貴電第七九四号ト共ニ大臣へ転電セリ  
寺日本兵營付近ニ便衣暴徒數十人現ハレ我ニ向ツテ進撃シ  
九時頃一区六署内ノ屋上ニモ便衣暴徒アリテ襲撃セリ依テ  
中国警察ハ正当防衛ノ手段ヲトリ且日本領事館及日本軍部  
ニ通知セル處日本側ハ流弾力兵營内ニ落下スルコトヲ口実  
トシ突然華街ニ向ツテ発砲スルコト四十余發閘口方面ノ日  
本軍ノ進撃甚々猛烈ニシテ交渉ノ結果十二時ニ至リ漸ク緩  
和セラレタルカ二十七日午前一時頃暴徒ト日本軍トハ又モ  
ヤ攻撃ヲ繼續シ五時頃懷慶里方面ニ於ケル攻撃甚シク六時  
半南関下ニ於テ機関銃ヲ發射セリ中國警察官ニ於テ射殺セ  
ラレタルモノ四名負傷者二十余名アリ九時頃日本軍ハ我警  
察ニ二区六署ノ退去ヲ迫リ目下ノ形勢極メテ緊張シ居ル」  
趣ナリ查スルニ前回日本租界カ我暴徒ヲ協助シ中國管轄区  
域ヲ攻撃セル件ニ關シテハ中國政府ハ屢次嚴重抗議シ置キ  
タル處今又前記ノ事件發生シ且日本側ノ發射セル砲弾ハ四  
十余發ノ多キニ及ヒ同時ニ機関銃ヲ以テ猛射セリ而カモ暴  
徒出現ノ場所ハ日本租界ニ接近又ハ隣接ス日本政府ハ斯ノ  
如キ重大ナル局面ノ發生ニ對シ重大責任ヲ負ハルヘキモノ  
トス中国政府ハ茲ニ重ねテ嚴重抗議スルト共ニ租界當局及  
駐屯軍ニ対シ中國管轄内ニ向ツテ絶対銃砲ヲ發射シ得サル

事項6 国民政府との交渉

旨並ニ再ヒ暴徒カ租界ヲ利用シ中国警察隊又ハ行政機關ヲ

襲撃スルコトヲ放任シ得サル旨日本政府ヨリ転飭セラレ

コトヲ要求シ同時ニ正当要求提出ノ権利ヲ留保ス

大臣、北平、奉天、天津へ転電セリ

(付記)

南京 12月1日付  
本省 12月11日着

公信機密送第八六六号

昭和六年十二月一日付機密公第六五九号重光公使宛公信写  
送付

件名

一、天津事件ニ関スル外交部長來翰転達ノ件

(付属書)

南京 12月1日付

公信機密第六五九号

天津事件ニ関スル外交部長來翰転達ノ件

本件ニ關スル本月二十八日付外交部長來翰別紙ノ通転達  
ス御査収相成度

本信写送付先 大臣、北平、奉天、天津、上海

並不得再任暴徒利用租界襲撃中国警察隊或行政機關中國政  
府同時保留提出正当要求之權相應照請貴公使查照弁理為荷  
須至照会者

右 照 会

大日本帝国特命駐華全權公使重光

李錦綸代

184 昭和6年11月30日

在上海重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

錦州中立地域設置案に関する顧維鈞との会談

について

別電 同日重光公使より幣原外相宛第一三五五号

右会談内容について

上海 11月30日後発  
本省 12月1日前着

南京 11月30日後発  
本省 12月1日前着

(別電)

第一三五五号(暗)

<sup>(1)</sup>三十日顧維鈞ニ面会同氏新任ニ対スル挨拶ヲ交換シタル後  
時局ニ關シ大要左ノ通應答セリ

一、先双方ヨリ重大ナル両國ノ關係ニ対スル挨拶ヲ交換シタル後  
主張シタルカ其際本使ハ日本側ノ意向ハ之レ迄全部發表  
セラレ居ル通リニテ且我政府ハ今後新タル衝突ヲ見サ  
ル為最善ノ努力ヲ尽シタキ意向ヲ以テ貴下カ当地ニ於ケ  
ル英米仏三公使ヲ通シ日本政府ニナサレタル錦州ヨリ山  
海關ニ亘リ中立地帶ヲ設定セントスル提案ヲ受諾シ右ニ  
関スル細目ヲ貴我地方官憲ヲシテ処理セシムルタメ既ニ  
必要ナル訓令ヲ發スルコトトセリ右ノ趣旨ハ不敢敷昨二  
十九日上村ヲシテ亞細亞司長ヲ通シ貴下ニ通報セシ通り  
ナリ

ト述ヘタリ

(別紙)

大中華民国外交部長 照会

為

光寺日本軍當付近発現便衣暴徒數十人向我進攻九時許一区

六所界内房上亦有便衣暴徒襲擊中國警察即採正当防禦並通

知日本領事及日軍部而日方依然藉口流彈落於日軍營笑向中

國管轄境內發砲前後計四十餘響開口方面日軍進攻甚猛經交

涉直至十二時始見緩和而二十七日晨一時許暴徒與日軍又復

繼續攻擊五時許懷慶里地方擲彈筒射擊与砲甚猛六時半南閑

下頭竟有用機關槍向我放射者八時許日軍在東南城廓用機關

槍掃射此次中國警察已經查明被砲擊斃者四名傷者二十余名

九時許日軍迫我警察退出二區六所現在情勢仍極緊張等語查

前此天津日本租界方面協助暴徒攻擊中國管轄區域經中國政

府迭次嚴重抗議在案今復有上項情事發生且日方發出之砲彈

計有四十余發之多同時又用機關槍掃射而暴徒發現之地均與

日本租界接近或毗連日本政府對於天津發生如此嚴重之局勢

自應負重大責任茲特再為嚴重抗議心請日本政府転飭天津

日本租界當局与日本駐軍絕對不得向中國管轄境內開發槍砲

顧ハ之ニ対シ

右自分ノ提案云々ニ付テハ稍行違アリ説明ヲ要ス元来時局ニ付テハ利害関係ヲ有スル各國ノ意向ヲ常ニ徵スルノ必要ヲ認メ二十四日夕当地ニ於テ英米仏ノ公使ニ対シ自己ハ既ニ回答ニ接セルモ他ノ二ヶ国ヨリハ今日迄回答ニ接セス然ル処右ト行違ニ施肇基ヨリノ報告ニ依レハ連盟ニ於テ右ヲ取り上クル事トナリ理事会ハ二十七日右中立地帶設立ヲ決議スルト共ニ右地帶ニ中立國軍隊ヲ入ルル趣旨ヲ以テ先中立國「オブザーバー」ヲ派遣シ貴我双方ヲ以テ右「オブザーバー」ト連絡シテ一切ヲ處理スルコトトナリタリ民國側ハ右決定ヲ受諾シ日本側モ之ニ同意セラレン事ヲ希望シ居ル次第ナリ

トノ趣旨ヲ答ヘタリ  
二、依テ本使ハ  
貴下ノ中立地帶設置ノ提案ハ東京ニ於テ主トシテ仏國大使ヲ通シテ極メテ具体的ニナサレタルモノニシテ右ノ如キ行違アリタリトハ甚タ了解ニ苦シム所ナルカソレハ兎

ニ角幣原大臣ハ此困難ナル局面ニ対シ何等カ展開ノ端緒ヲ得度ク又日支ノ大局ニ鑑ミ且人道上ノ見地ニ立チ此上新ナル衝突ヲ見サルコトヲ希望シ尚又右ノ提案カ民國政府ニ重キヲナスノミナラス張副司令ノ信任ヲ担ハレ居ル貴下ヨリナサレタル次第ナルヲ以テ之ヲ受諾スルコトシタル次第ナリ錦州付近ニ於テ又危險極リナキ天津付近ニ於テ日本側カ新ナル衝突ヲ防止スル為執リタル手段ニ援助ヲ与ヘラルコトハ両國關係ニ善處スル方法トシテ最モ手近キ當面唯一ノ手段ト思考ス張副司令ニ於テモ中央政府ニ於テ異議ナキニ於テハ右日本側ノ提案ニ異存ナキハ北平矢野ノ報告ニ依リテモ明瞭ナリ  
ト述へ更ニ進テ

茲ニ連盟理事会ノ提案ニ付テ我方立場ヲ説明セシニ二十七日理事会ニ於テ決議アリタリト云ハルルモ右ハ全会一致ヲ要シ日本理事ノ參加ナクシテ理事会トシテ何等行動シ得サルハ御存知ノ通ナリ又右提案中中立國軍隊ヲ中立地帶ニ駐在セシムルカ如キハ自分ノ承知セサル所ナリ日本側ハ今回ノ出来事ハ極メテ重大ニシテ複雜ナルハ勿論ナルモ畢竟東洋ニ於ケル兄弟喧譁ニ過キス日支ノ關係ヲ

處理スルハ日支ノ間ニ於テナスヘク之ヲ他人ニ委セ又ハ他人ヲシテ仲介セシムルハ其必要モナク且右ハ支那側ニ對シテモ不利益ニシテ即チ東洋ノ為ニ決シテ喜フヘキ所ニアラスト確信シ居レリ此主義上ノ点ヨリシテ右提案ナルモノニ付テモ第三者ノ介入セル部分ニハ日本ハ贊意ヲ表スルコト能ハス然シ前述ノ通新ナル衝突防止ニ貢獻スヘキ中立地帶ノ設定ニハ異存ナク右カ貴下ヨリノ提案トシテ既ニ東京ニ現ハレタルニ付幣原大臣ハ幾多ノ困難ヲ排シテ之ヲ受諾セル次第ナリ

右細目ノ点ニ付テハ貴我地方官憲ニ於テ決定スルニ大ナル困難ナカルヘシ  
三、顧維鈞ハ之ニ対シ更ニ前記ノ自己ノ立場ヲ繰返シタル上日本側ハ既ニ他國ノ「オブザーバー」ヲ多數容認シ居ル次第ニ非スヤ

トノコトナリシニ付本使ハ  
全ク其ノ通ニシテ我方ハ如何ナル第三者ニ対シテモ秘密ニスヘキ行動無ク從テ他國カ視察員ヲ派遣スルハ寧ロ之ヲ歓迎スルモノナルモ我軍ノ行動ヲ監視スルカ如キ軍事

ト述ヘタリ  
四、顧ハ昨今ノ報道ニ依レハ日本軍隊ハ理事会ノ提議等ニシテカ続々後退シツツアルニアラスヤ

ト述ヘタルニ付

本使ハ

日本軍隊ハ治安維持ノ状況ヲ見テ自發的ニ後退スルモノ

ニシテ理事会又ハ如何ナル第三者ノ意向ニモ其行動ハ左

右セラレス錦州方面ニ不安アリ又ハ挑発アル場合ハ何時

更ニ兩軍ノ間ニ衝突スルヤモ知レス右ノ点ハ誤解ナキ様

ニセラレ度シ

ト説明セリ

五、顧維鈞ハ御趣旨ハ了解セルニ付右ハ政府ノ議ニ上スコ

トトスヘシト述ヘタリ

去ルニ臨ミ顧ハ本日ノ会談ノ内容ハ相互ニ發表セス今日

ハ單ニ「カーテン、コール」ノ建前ニ願度シト切望セリ

本使ハ之ニ対シ本使ノ説明セル日本政府ノ意向ハ既ニ發

表済ニシテ本使ノ言説ハ何等新ナルモノニアラス然シ右

談話カ本日貴我ノ間ニ交換セラレタル事實ハ發表セサル

コトニ異議ナシト答ヘ置ケリ察スルニ顧維鈞ハ中立地帶

ノ設定カ彼ヨリ出テタリトノ点ニ付新聞紙上ニ喧シキモノ

ノアルニ対シ氣ヲ惱メルモノノ如シ從テ右ハ新聞ニハ公

表セサルコトニ願度シ

185 昭和6年12月1日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛

## 第二次天津事件に關する外交部宛抗議文送付

について

一月二七日付重光公使より李外交部長代理宛

付屬書 同日付上村領事より在上海重光公使宛公信機密

第六六二号

公文

南京 12月1日付

本省 12月11日着

公信機密送第八七〇号

昭和六年十二月一日付機密公第六六二号重光公使宛公信寫

送付

件名

一、第二次天津事件ニ關スル抗議文送付ノ件

(付屬書)

公信機密第六六二号

第二次天津事件ニ關スル抗議文送付ノ件

南京 12月1日付

本省 12月11日着

公信機密第六六二号

第二次天津事件ニ關スル抗議文送付ノ件

南京 12月1日付

本省 12月11日着

本件ニ閑シ十一月二十七日発貴電ヲ以テ御訓令ノ外交部宛

公文ハ二十八日同部ニ転達シ置キタル處右公文写茲ニ送付

ス 本信写送付先 大臣、北平、奉天、廣東

(別紙)

以書翰致啓上候、陳者、在天津日本總領事ノ報告ニ依レハ

本月二十六日午後八時過天津貴國軍警ハ突然同地日本兵營

及租界ニ向ツテ砲擊ヲ開始シ日本側ノ發砲停止要求ヲモ顧

ス依然攻撃ヲ繼續セル為日本駐屯軍モ租界及居留民ノ保護

ノ為同日午後九時四十五分之ニ応射スルヲ余儀ナクセラレ

タルカ貴國側ハ二十七日午後ニ至ルモ未タ砲擊ヲ停止セサ

ル趣ニ有之候

今本事件ノ経過ヲ左ニ略述スレハ

一、民国側天津官憲ニ於テハ前回ノ事件ノ後始末ニ閑スル

約束全部ヲ履行セサルニ拘ラス日本駐屯軍ハ北支和平ノ

為其ノ兵力ヲ撤収シ十一月二十六日午後三時付屬義勇隊

ヲモ解散シタルヲ以テ日本側ノ警備手薄トナリタル処

二、同日午後八時天津華街ハ一斉ニ消燈セラレ

三、同日午後八時二十五分民国側軍警ハ先ツ照彈ヲ日本

租界ノ上空ニ放チタル上大砲重輕機関銃ヲ以テ日本兵營

事項 6 国民政府との交渉

- ラルルト共ニ本事件ノ平和的解決ヲ計ル目的ヲ以テ貴國當該地方官憲ヲシテ速ニ我方出先官憲ノ申出ニ応シテ之ト協議ヲ行ハシメラルコト事件拡大ヲ防止スル為極メテ緊要ト認メラルニ付本使ハ茲ニ貴國政府ニ於テ右ニ関シ至急適切有効ノ措置ヲ執ラレンコトヲ希望致シ候右申進旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具 昭和六年十一月二十七日
- 日本特命全權公使 重 光 葵  
国民政府外交部長代理 李 錦 紘 殿  
在南京重光公使 在南京重光公使より  
整原外務大臣宛 (電報)
- 顧維鈞の三国公使あての中立地域設置申入れの趣旨について
- 南京 12月2日 発  
本省 12月3日前着
- 第一三六五号 (暗)
- 貴電合第一七三〇号顧維鈞ノ提案ナルモノハ顧カ錦州付近ノ切迫シタル事態ヲ救ハシカ為二十四日英米仏公使ニ対シ不取敢各本国政府ノ意向ヲ確カムル為日本カ三国ニ対シテ
- 第一三六六号 (至急、極秘)  
(<sup>一八四文書</sup>)  
往電第一三五五号ニ關シ  
顧維鈞二日本使ヲ答訪シタル際右往電中立地帶ニ閑スル本使申入レニ付テハ明三日外交委員会ニ於テ相談ノ上直ニ御返事致スコトトスヘシトノ挨拶ナリシニ付此機会ニ更ニ我方ノ趣旨ヲ力説シ置ク方然ルヘシト考ヘ  
我々ノ会談ニ付テハ新聞紙等ニ依リ種々惡宣伝アル模様ナルモ幣原外相ノ真意ハ三十日詳細説明ノ通新ナル衝突ヲ避け日支間将来ノ光明ヲ得ル為貴下ノ提案ト信セラレタルモノヲ其儘承認セル次第ニシテ既ニ我軍隊ハ錦州付近ニ向ヒタルモノハ全部引揚ケタリ右誠意ノ表示ハ支那側ニ対シテ為サレタル意義深キ「ガランティ」ニシテ第三者タル他国ニ対シテ為サルルヨリハ遙ニ強キモノナリ右ハ掛引等ノ為ニ為サレタルモノニ非ス偏ニ前記ノ精神ニ出テタルモノニ付支那側モ同様ノ誠意ヲ示シ速ニ問題ノ地点ヨリ軍隊引揚ノ舉ニ出テ日本側ニ答ヘラル様切望ニ堪ヘス右ハ明日ノ會議ニ於テ充分ニ貴下ヨリ力説セラル様致度シ  
ト申出テ更ニ本提案受諾ニ閑スル日本政府ノ努力及右カ失
- 保証スルヲ条件トシテ (provided) 軍隊ヲ引揚クヘシトノ形式ヲ以テ持出シタルモノニシテ (米國公使ノ説明モ右ノ通ナリ) 目的ハ連盟若ハ他国ヲ引入レ日本軍進出ヲ阻止スルニ在リシハ言フヲ俟タサルモ日本政府ノ意向ヲ聴クコトハ否認セサル迄モ特ニ三国公使ニ対シテ註文シタルニアラサルハ事實ナルカ如シ何レニシテモ張學良カ二十八日矢野ニ対シテ軍隊引揚ニ異存ナキコトヲ言明シタルコトナシト宣伝シ居ル際顧ハ右中立地帯設置及支那軍隊引揚ノ提議ヲ顧ヨリ出シタリトセラルハ余程不利益ト感シ居ルモノノ如シ又日本側ト直接交渉ヲ開クニ至ルモノト宣伝セラルルコトモ甚タシク氣ニシ居ルモノノ如ク本使ニ対スル答訪モ夜ニ入りテ為サレタリ  
連盟、米、北平、天津、廣東へ転電セリ  
奉天及哈爾賓へ転電ヲ請フ
- 南京 12月2日後発  
在南京重光公使より  
整原外務大臣宛 (電報)
- 中立地域設置問題に關し日本軍撤兵の意義を  
顧外交部長代理に説明について
- 南京 12月2日後発  
在漢口坂根總領事より  
整原外務大臣宛 (電報)
- 187 昭和6年12月2日  
連盟、米、北平、天津、廣東へ転電セリ  
奉天、哈爾賓へ転電アリタシ  
連盟、米、北平、天津、廣東へ転電セリ
- 188 昭和6年12月3日  
源泉の談話について  
四全大会における蔣介石の声明等に関する徐  
第八四〇号  
本省 12月3日後着  
漢口
- 188 昭和6年12月3日  
在漢口坂根總領事より  
整原外務大臣宛 (電報)
- 四全大会ヲ了シ二十八日南京ヨリ帰漢セシ徐源泉カ三十日夜久闊ヲ叙スル為往訪セル田中ニ対シ語レル事項中注意ニ値スヘキモノ左通
- 一、從來当方面治安維持ニ付テハ何成瀬、夏斗寅ヲ始メ自分(徐)ニ於テ出来得ル限り努力シ來リ殊ニ滿州事變ニ端ヲ發セル排日運動ノ如キ单ニ両國關係ヨリ言フモ之ヲ取締ルヘキハ當然ト思料シ居ルハ勿論一面斯ル運動ノ為一度治安ニ亀裂ヲ生スルニ於テハ土地柄有ユル機會ヲ窺

ヒ居ル共産党一派ノ忽チ乗スル所トナリ単ナル地方的動乱タルニ止マラス其累ハ支那全般ヨリ更ニ日本其他ノ各國ニ及ホスモノナルニ鑑ミ各地ニ率先シテ之カ取締ヲ厳ニシ今日ニ於テハ他地方ニ比シテ平静ヲ持続シ居ルハ恐ラク御承知ノ通ニシテ残ル問題タル経済絶交運動ニ付テモ何成績ヲ主トシ之カ緩和ニ折角腐心中ニテ近ク相当効果ヲ示スモノト期待シ居ルニ付日本側ニ於テモ是非右ノ実情ヲ諒知セラレ自分始メ当地方各官憲ト緊密ナル連絡ヲ取り治安維持ヲ完ウセラレンコトヲ懇望スル次第ナリ一、満州問題ニ関シ今日トナリテハ双方ニ各主張アルヘキモ日本側カ領土的野心無ク單ニ經濟的發展ヲ企図シ居タル從来ノ態度ニ対シテ執レル支那側ノ態度必シシモ當ヲ得居タルモノトハ認メラレス茲ニ双方妥協ノ途自ラ存スルモノト思料セラルニ付両国当局ノ間ニ速ニ虚心坦懐至急解決ノ途ヲ講セラレンコトヲ希望シ居レリ三、四全大会ニ於テ蔣介石ハ対日強硬意見ヲ表示セシ趣ヲ指摘シ果シテ蔣ハ積極的対日開戦ノ意図アルモノナリヤト田中ヨリ試問セル處蔣ノ右意見ナルモノハ全ク国内反対派乃至諸団体等ニ対スル対内的懸引ノ為表示セシニ過

(2)

談話モ单ナル御世辞トノミハ見ラレサルヲ以テ聞込ノ儘御参考迄  
支、北平、南京、奉天、廣東、濟南、天津へ転電セリ

昭和6年12月3日 在広東須磨總領事代理宛  
幣原外務大臣宛(電報)

陳友仁の統一政府実現後における事変処理方針に関する談話について

付記 幣原外相より須磨總領事代理宛訓電案

(2)

第六七九号(暗、極秘)

二日陳友仁ハ顧維鈞カ外交部長代理ニ任命セラレ其ノ後直ニ重光公使ト会見ヲ遂ケタル旨ノ新聞報道ヲ引用シ日本ハ南京トノ間ニ満州問題ニ関シ詰合ヲ開始スル手筈ナリヤト心配氣ニ尋ねタルニ付政府ヨリ右様ノ報道ニハ接シ居ラスト輕ク答へ一体統一政府実現後顧ノ地位ハ如何ニナルヘキヤト問ヘルニ左ノ通語レリ

一、顧ハ自分等ノ得タル情報ニ依レハ自身ハ就任ヲ欲セサリシモ岳父並妻ノ勧ニ依リ応諾シタル趣ニテ何レ自分ニ

ヒ居ル共産党一派ノ忽チ乗スル所トナリ単ナル地方的動乱タルニ止マラス其累ハ支那全般ヨリ更ニ日本其他ノ各國ニ及ホスモノナルニ鑑ミ各地ニ率先シテ之カ取締ヲ厳ニシ今日ニ於テハ他地方ニ比シテ平静ヲ持続シ居ルハ恐ラク御承知ノ通ニシテ残ル問題タル経済絶交運動ニ付テモ何成績ヲ主トシ之カ緩和ニ折角腐心中ニテ近ク相当効果ヲ示スモノト期待シ居ルニ付日本側ニ於テモ是非右ノ実情ヲ諒知セラレ自分始メ当地方各官憲ト緊密ナル連絡ヲ取り治安維持ヲ完ウセラレンコトヲ懇望スル次第ナリ一、満州問題ニ関シ今日トナリテハ双方ニ各主張アルヘキモ日本側カ領土的野心無ク單ニ經濟的發展ヲ企図シ居タル從来ノ態度ニ対シテ執レル支那側ノ態度必シシモ當ヲ得居タルモノトハ認メラレス茲ニ双方妥協ノ途自ラ存スルモノト思料セラルニ付両国当局ノ間ニ速ニ虚心坦懐至急解決ノ途ヲ講セラレンコトヲ希望シ居レリ三、四全大会ニ於テ蔣介石ハ対日強硬意見ヲ表示セシ趣ヲ指摘シ果シテ蔣ハ積極的対日開戦ノ意図アルモノナリヤト田中ヨリ試問セル處蔣ノ右意見ナルモノハ全ク国内反対派乃至諸団体等ニ対スル対内的懸引ノ為表示セシニ過

(2)

談話モ单ナル御世辞トノミハ見ラレサルヲ以テ聞込ノ儘御参考迄  
支、北平、南京、奉天、廣東、濟南、天津へ転電セリ

昭和6年12月3日 在広東須磨總領事代理宛  
幣原外務大臣宛(電報)

陳友仁の統一政府実現後における事変処理方針に関する談話について

付記 幣原外相より須磨總領事代理宛訓電案

(2)

第六七九号(暗、極秘)

二日陳友仁ハ顧維鈞カ外交部長代理ニ任命セラレ其ノ後直ニ重光公使ト会見ヲ遂ケタル旨ノ新聞報道ヲ引用シ日本ハ南京トノ間ニ満州問題ニ関シ詰合ヲ開始スル手筈ナリヤト心配氣ニ尋ねタルニ付政府ヨリ右様ノ報道ニハ接シ居ラスト輕ク答へ一体統一政府実現後顧ノ地位ハ如何ニナルヘキヤト問ヘルニ左ノ通語レリ

一、顧ハ自分等ノ得タル情報ニ依レハ自身ハ就任ヲ欲セサリシモ岳父並妻ノ勧ニ依リ応諾シタル趣ニテ何レ自分ニ

キス事実蔣ハ平和的ニ両国問題ヲ妥結セントスル内意ナルカ如ク其北上問題ニ付テモ世上取沙汰スル如ク対日作戦ノ為等ニアラス单ニ北方ニ散在セル各派並反動分子ニ對スル政策ヲ講スル為短時日ノ予定ヲ以テ一度平津地方ニ赴クコトアルヘキニ過キスト思料セラル將又河南人ノ如キニ付テハ今日何等決定セル所アルヲ聞カスト答へ四、日本カ单二期スル所ハ両国国民ノ接近ニ依ル經濟的伸張ニアルハ今日支那ニ於テモ既ニ予見者ノ良ク諒解シ居ル筈ナル處其間支那ニハ両国国民ノ離間ヲ以テ能事トスルカ如キ党部ナルモノ存在シ政府以上ノ實際權力ヲ以テ自ラ排日排貨運動ヲ国民ニ強制シ居ルハ甚々遺憾ナリト田中力率直ニ述ヘタルニ対シ今日党部ノ行動ニ對シテハ支那朝野ニ於テモ既ニ反対ノ声高ク四全大会ノ際ニモ党部ノ組織及權限等ニ対シ相當調整ヲ加フルコトニ内定セルヲ以テ早晚之カ実現ヲ見ルヘシト答ヘタル趣ナリ

徐ハ元來何成績ト共ニ当地ニ於テハ湖北出身ノ有力者ニ數ヘラレ一方本邦側トモ好シテ往復シツツアリ今回時局ニ対シテモ邦人側ニ向ツテ常ニ眞面目ナル意見ヲ吐露シ居ルコト本官ニ於テモ既ニ承知シ居ル次第ニテ前記同人

ル考ナリ

右ニ付テハ上海ニテ更ニ汪トモ合議ノ要アルモ大体此「ライン」ニハ変更無カルヘキ故ニ幣原大臣ニ対シ自分ト速急下交渉ニ入ルヘキ旨重光公使ニ訓令方伝言アリ度シ  
支、北平、南京、奉天、香港へ転電セリ

(付記)

第 号 極秘  
(一四八文書)  
貴電第六一四号ニ閑シ

対広東政策

一、今日ノ事態カ列国ヨリ南京政府ニ承認ヲ与ヘタル當時トハ余程異ルモノアルハ事實ナルモ左レハトテ此ノ際直チニ右承認ヲ覆スニ足ル丈ケニ進ミ居ルモノトモ認メ難ク又我方廣東側ニ対スル態度ハ其後モ何等変更ナキモ左レハトテ直ニ之ヲ事實上ノ政府トシテ承認スル丈ケノ事態ニハ立至リ居ラサルコト貴見ノ通リニシテ旁々此ノ際我方カ行キ過キタル措置ニ出ツルハ列国側ヲシテ我方カ支那ノ内政ニ干渉スルモノナルヤノ疑惑ヲ起サシム延イテハ滿州問題ノ處理上ニモ障碍トナルヘキ虞アリト存ス尤モ陳友仁意見ノ如ク廣東側カ列国ニ対シ冒頭貴電三前

二、次ニ南京政府カ現在ノ如キ不誠意ナル態度ヲ繼續スル限り我方トシテ同政府トノ間ニ滿州問題ニ閑スル直接交渉ヲナスノ意向ナキコト勿論ナリ(貴電第六七九号冒頭参照)然レ共目下ノ事態ニ於テ右直接交渉ニ閑シ廣東側ニ対シ何等「コンミット」シ得サルコト申ス迄モナキト同時ニ将来廣東側カ政権ヲ掌握スルコトアルヘキニ顧ミ陳友仁其他要人ヲシテ出来得ル限り「コンミット」セシメ置クコト得策ト認ムルニ付今後陳等ヨリ貴電第六〇四号ノ如キ話アル場合ニハ貴官一個ノ私見トシテ支那側ニ於テ我方五大綱目ヲ端的ニ承認スルニ非レハ到底我國論ヲ納得セシメ難カルヘク殊ニ所謂二十一ヶ条問題ヲ彌縫的ニ取扱フコトハ今日トナリテハ我國論ノ許ササル所ナルヘキ旨夫トナク正シ先方ノ応酬振隨時電報アリ度

三、武器供給問題ニ閑シテハ今日ハ今夏同問題発生シタル當時ニ比スレハ事態余程變化シタル次第ニ若シ廣東側ニテ右供給ヲ受ケ度強キ希望アルニ於テハ前回トハ別個トノ考慮ヲナスノ余地アリト存ス尤モ最近ニ於ケル陳濟棠ノ態度ニモ顧ミ右供給ノ結果却テ同人ノ野望ヲ刺戟スル等廣東側ノ結束ヲ弱メ延イテハ蔣介石ノ廣東離間策ニ利用セラルル如キコトアリテハ面白カラサルニ付右供給ニ付テハ廣東政局ノ成行等ヲ充分ニ見定ムルコトヲ要スヘク旁々本件ハ差当リ貴官限リノ含ニ止メラレ度就テハ敍上ノ趣旨御含ノ上差当リ陳友仁ニ対シテハ別電

第 号ノ通り返事シ置カレ度

別電ト共ニ支、南京、北平、奉天、連、米ニ転電シ連盟ヲシテ在欧各大使ニ転電セシメタリ

貴電第六〇四号及貴電第六一四号連盟及在欧米各大使ニ転電スミ

対広東政策

別電

廣東側カ「アイデンチック、ノート」ヲ發送スルヤ否ヤハ廣東側ノ自由ニ決定シ得ヘキ所ニシテ我方トシテ可否ヲ云

支第九九三号(其一、二)(秘)

顧維鈞カ連盟ニ対シ中立地域設定案連盟提出の意図に關する情報について

190 昭和6年12月3日 在上海田代公使館付武官より  
顧維鈞の中立地域設定案連盟提出の意図に關

12月3日後着

廣東派方面ヨリノ情報ニ依レハ顧力今次該提案ヲ為セル第一ノ目的ハ張学良ノ地位ヲ維持セントスルニ在リ、第二ノ目的ハ中立区域設定ニ日本カ賛成セハ次ニ米国ヲ動カシテ

東三省ヲ各國機会均等ノ地域ナラシメ更ニ支那人ヲ委員長トナシ列國ノ委員ノ參加セル一委員会ヲ組織シ該委員会ヲシテ東三省ノ治安維持ニ任セシメ以テ日本ノ勢力ヲ制肘セントスルニ在リ而シテ本委員会設定ノ提案ハ連盟調査団ノ

調査終了ヲ俟テ提議セラル可シ提案ニ關シテハ支那側軍隊ハ一切東三省ニハ駐屯セシメサルコトヲ条件トスル筈ナリト

以上顧維鈞ト英米殊ニ米国トノ從来ヨリノ關係ニ鑑ミ相当注意ヲ要スルモノト認メラルニ付参考迄

北平、天津、濟南、奉天スミ

191 昭和6年12月3日 輅原外務大臣より  
在南京重光公使宛（電報）

南京當局との中立地域設置問題交渉打切りに

ついて

本省 12月3日後發

第四八八号（暗、大至急極秘）

貴電（一八七文書）第一三六六号ニ關シ顧維鈞ニ於テ錦州問題ノ責任ヲ取リ得サルコトハ大体想像ニ難カラサルノミナラス現南京政府ニ對スル内地ノ反感ハ相當大ナル一方（二日東京日日南京特電ハ貴官ト顧ト直接交渉開始ノ如キ報道ヲ為シ居レリ）滿州ノ現状ハ我方トシテ未タ同政府ト何等眞面目ノ話合ヲ為シ得サル状況ニ在ルハ支那現政況ヲ考量スルモ疾ト御諒知ノ所ナルニ付テハ此ノ際貴官ハ一応錦州問題ニ關シ南京當局ノ反省ヲ促サレタル上上海ニ引揚ケラレ往電合第一八二八号矢野学良交渉ノ成行ヲ見送クルコト致度連盟、米、北平、天津、奉天、廣東へ轉電シ連盟ヲシテ在歐各大使へ轉電セシメタリ

南京へ轉報アリ度

192 昭和6年12月4日 輅原外務大臣より  
在南京重光公使（電報）

連盟理事会の終了後南京より上海に帰還につ

南京 12月4日後發  
本省 12月4日後着

南京 12月4日後發  
本省 12月4日後着

いて

第一三四四号（暗、至急）

談について

今回ノ南京來訪ニ依リ中立地帶設置問題ノ處理ハ勿論ノコト顧維鈞トノ往復ニ依リ外部ニ對シ幾分ニテモ連盟其他ニ

於ケル我方空氣ノ改善ニ資シタシト考ヘタル次第ナルカ他方直接交渉ナルモノハ今日ノ事態ニ於テハ我方ヨリ急ク必要モ無ク且又支那側ニ於テハ廣東政府トノ關係ハ勿論張學良ノ地位動搖等ノ形勢ニ鑑ミ仮令先方ニ於テ之ヲ欲スルトスルモ今日直ニ之ニ忘スルハ我方準備ノ都合モアリ一考ヲ要スト考ヘラルニ付テハ連盟理事会終了後ハ成ルヘク早目ニ一旦南京ヲ引揚ケル意向ニテ他ノ各國公使モ恐ラク大體同様ノ行動ニ出ツル模様ナリ本使ニ於テ何等心得置クヘキ事項アラハ早目ニ御電訓ヲ請フ

奉天へ転電アリタシ

連盟、米、北平、天津、廣東へ転電セリ

（編注）本文書の電信番号は第一三七一號と推定されるがそ  
の儘とした。

193 昭和6年12月4日 在南京重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

錦州中立地域設置問題に関する顧維鈞との会

本問題ニ付貴公使ト直接交渉ヲ為シツツアリトノ新聞情報ニ基キ上海方面ヨリ統々激烈ナル反対陳情ニ接シ政府及外交部ハ困却ノ立場ニアリ（右ノ為我々ノ意見交換ニ惡影響ヲ及ホスコトアリテハ不可ナレハ貴公使ノ承認ヲ得テ右ニ関スル報道ヲ否認シ度シトノコトナリシニ付本使ハ我々ノ会合ハ時局一般ノ意見ノ交換ヲ為シ居ルモノニテ特別ノ問題ノ交渉ヲ目的トスルモノニ非ストノ趣旨

右ノ如キ御説明ハ忌憚ナク云ヘバ益ナキモノト思ハル中立國視察員ノ報告ハ貴下ノ述ヘラレタルカ如キモノモ連盟ニ提出セラレタルコトヲ承知シ居ルモ他ノ視察員ハ右ト異ル報告ヲナスヤモ知レス何レニスルモ第三國人ノ報告ニ付何等ノ効力ヲ認ムルハ日本側カ初メヨリ拒絶シ居ル處ナリ然ルニ錦州ニアル支那軍隊カ馬賊又ハ便衣隊活動ノ策源トナリ其策動スル「バルチザン」式戰法カ何レ

本使ハ之ニ対シ

トノ趣旨ヲ述ヘタルニ付

此ノ点ハ安心セラレ然ルヘシ

事態ヲ悪化セシメサテントスル趣旨ハ之亦支那側カ同様重キヲ置ク処ナリ支那側カ錦州付近軍隊ニ対シ決シテ日本軍隊進撃ノ行動及計画ヲ為サシメ居ラサル（ハ）中立國「オブザーバー」ノ等シク認ムル所ナリ從テ支那軍隊ニ關スル限り新衝突ノ原因トナルヘキモノ存セサルニ付

二、右ニ対シ顧維鈞ハ

シテハ言スサハヘカラズ右ノ貝田側ニ越旨ニシニサハ  
ヘシ

意ヲ含マセタリ) 然ルニ中立地設定案ハ連盟ニ於テモ審議サレ連盟ニ於テ表示セラレタル貴公使御説明ノ通ノ日本側ノ意向ニ付テハ報告ニ接シ居ルカ民國側ニ於テハ直ニ之ニ賛成スルヲ得サル事態ニアリ

本便ノ之ニ文

前回説明ノ趣旨ヲ繰返シ尚右提案ハ直接日本政府ニ為サレタル趣旨ニ非ストスルモ事実ハ東京ニ於テ貴下ノ案トシテ幣原大臣ニ示サレタルモノナルカ幣原大臣ハ熟考ノ結果他ノ閣僚トモ相談ノ上多大ノ困難ヲ排除シ此提案ヲ受諾スルコトニ決定シタルモノナリ右決定ノ趣旨ハ両国(2)

本軍ハ錦州軍隊ニ付非常ナル危険ヲ感シ居レリ貴下カ錦州軍隊ニ関シ此席上ニ於テ与ヘラルル説明カ過去ニ於テ支那軍隊ニ付実現セラレ居タランニハ今日ノ如キ事変ハ起リ得サリシ次第ナリ何レニスルモ我々今日ノ問題ハ日支両軍ノ新衝突ヲ防ク為錦州山海關ノ地帯ヲ中立トスルヤ否ヤノ問題ニシテ日本軍ハ既ニ衝突区域ヨリ引揚ケタル次第ナレハ本使ハ民国側ニ於テモ同様右地帯ヨリ其軍隊ヲ撤退シ同様ノ誠意ヲ披瀝サレンコトヲ要求スルモノナリ日本軍ノ撤退ハ時期接迫ノ際民国側撤兵ヲ見越シ貴下ノ提案承認ノ意思ヨリ行ハレタルモノナレハ若シ此ノ計画失敗ノ曉ニハ如何ナル反動力我国論及軍部ニ起ルカハ予想シ難キモノアリ日本軍部ハ全ク欺カレタリトノ感ヲ受クヘシ

ト線返シ事態云明カニシ置ケリ

三、右ニ対シ顧ハ幣原大臣ハ中立地帶ノ提案ヲ新ニ日本政

間ニ於ケル困難ナル事態ヲ更ニ悪化セシムル新衝突ヲ防  
カントスルニアリ而モ一刻モ猶予スルヲ得サル事態ニ直  
面シタルニ付民国側ノ誠意ヲ信シテ直ニ軍隊ノ後退ヲ命  
スルノ手続ヲ取レル次第ナリ日本軍隊ノ後退ハ民国側ニ  
対スル何ヨリノ保障ニテ右ハ第三国ニ対シ与ヘラルル如  
何ナル保障ヨリモ有効ナリト確信スルモノナリ本使ハ今  
日民国カ日本ニ対シ同一ノ誠意及保障ヲ示サルルコト即  
チ錦州ヨリ山海關ニ亘リ設置セラルル中立地帶ヨリ支那  
兵ヲ撤退サルヘキコトヲ要求スルモノナリ換言スレハ日  
本政府ノ趣旨ハ新規ノ衝突ヲ避ケ全局転回ノ端緒ヲ見出  
サントノ意思ヨリ右中立地帶ノ設定ニ重キヲ置クモノニ  
テ而モ之ニ対シ必要ナル保障ハ既ニ軍隊ノ後退ニ依リ示  
サレ更ニ又細目ノ協定ニ依リ直接ニ民国側ニ与ヘラルヘ

等出没シ警察力ノミニテハ不足ナル場合ニハ如何ナルコトトナルヘキヤ又中立地帯以外ノ満州ニ於テモ行政権ハ支那側ニアル建前ナルカ之ニ対シテハ支那側ト如何ニ協議セラル御考ナルカ等ノ質問ヲ持出シタルニ付本使ハ中立地帯ニ於ケル支那軍撤兵後ノコトハ要スルニ細目ニテ出先官憲ニ依リ適切ニ処理スルコト容易ナルヘク中立地帯設定ノ趣旨ハ双方カ之ニ侵入セストノ約束ヲ為スモノニテ日本側モ主義上之ニ異存ナシ支那軍撤退ノ対償トシテ日本軍ノ付属地帰還ヲ要求セラルトセハ右ハ全然問題外ニシテ我々審議ノ範囲ヲ超越スルモノナリ尤モ日本軍ハ既ニ殆ト大部分付属地ニ集結セル有様ニテ必要次可カラサル以上出動セサル方針ナルモ馬賊ノ討伐又ハ支那軍ノ挑発アル場合ハ出動セサルヲ得ス中立地帯以外ノ満州行政ニ関シテハ無論支那側ニ責任アル建前ナルモ如何ニセン右ハ今日尚混沌タル有様ニテ日本政府ハ先ツ今日我々ノ議題タル中立地帯設定ニ依リ漸次空氣ヲ改善シ満州全般ノ問題ノ処理ニ付貴国トノ交渉ニ着手セント考へ居レリ

中立地帯ノ設定ハ總テノ問題ノ第一歩ナルコトヲ充分了

四、顧ハ之ニ対シ日本政府ノ御意向ハ充分判明シタルニ付置其他ニ付日支間ニ直接交渉ヲ開始セリトノ印象ヲ外部ニ与フルコトヲ恐レ居ルト共ニ（二日学生ノ多數外交部ニ押シ掛ケタリ）本問題ニ関連シ何等カ日本軍ノ撤退又ハ其行動ニ関シ本使ヨリ言質ヲ取付ケント試ミタリ又彼ハ中立地帯ノ設定ニ依リ満州ノ他ノ部分カ自然日本ノ支配下ニ陥ルコトヲ惧レ満州ノ行政権ニ付テモ議論ニ触レ顧自ラ接收委員会ノ委員長トシテ満州接收ニ関スル問題ニモ触レンントスルノ気配モ見受ケラレタリ本使ハ常ニ中立地帯ノ設定カ全局ノ問題ノ好転ニ大ナル貢献アルヘキヲ仄カス以外中立地帯設置以外ノ問題ニ言及スルコトヲ避ケタル次第ナリ

奉天へ転電アリ度シ、連盟、米、北平へ転電セリ

## 194 昭和6年12月4日

在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

上海抗日救国会の錦州中立地域問題直接交渉  
に対する反対通電について

上海 12月4日後発  
本省 12月4日後着

公平ノ解決ヲ求ム

〔三〕右原則ニ反スルモノハ全國民衆ト共ニ死ヲ誓ツテ反対ス云々ト電報シ又上海市商会ハ同日付顧維鈞宛ヲ以テ大要ニ解決スルヲ得タル次第ナルニ付今次ノ満州事變ニ付テモ一ニ國際正義ニ依ル解決ヲ待ツヘキナリ然ルニ最近直接交渉開始ノ徵候顯著ナルモノアル處事ハ民族ノ存亡ニ関スルヲ以テ初志貫徹ニ努力アリタシト打電シタル由尚右両通電ノ要旨ハ施肇基ニモ電報セラレタル趣ナリ

在支公使ヘ転報セリ

北平、奉天、天津、青島へ転電セリ  
濟南、漢口、福州、南京へ暗送セリ

## 195 昭和6年12月4日

在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

何成濬ほか中国側要人の時局に関する意見について

漢口 12月4日後発  
本省 12月5日後着

〔一〕日本カ撤兵シ原状回復ヲ為ス迄ハ談判ヲ開カス  
ニ対シ何等話ヲ持掛けサリシトセハ何故ニ南京ニ滯在シテ  
政府ノ回訓ヲ待ツ要アランヤ右外交部及中央社ノ発表ヲ彼此対照セハ人ヲシテ頗ル疑惑ノ念ヲ生セシムモノアリ本  
会ハ執行委員会ヲ開キ討議ノ結果

〔二〕対日直接交渉反対ノ主張ヲ貫徹シ友邦ノ協賛ヲ得テ合理

(四)錦州ヲ進撃セズストノ日本ノ声明大果シテ調意ニテ且錦州付近ヨリ撤退セル軍隊ヲ鐵道付屬地外ニ出テシメサルニ於テハ自ラ衝突發生ノ可能性ナシ支那側ハ錦州軍隊ヲシテ日本軍ニ向ヒ進出セシムル意志絶対ニナシ  
(五)理事会ハ当初ヨリ日本軍撤退問題ヲ受理セルカ今若シ日本側ニ対シ譲歩シ支那軍隊ヲ支那領土ヨリ撤退方要求センカ支那全土ハ喫驚スヘシ  
〔六〕日本側提案ハ東北全部ヲ支配スル下地ヲ造ラントスルニ過キスシテ弊害甚タシ

(一) 日本カ連盟ニ対シ錦州中立地帯設置方要求セル提案ハ支那ハ受諾スル事能ハス

(二) 錦州問題ハ十一月二十六日ノ理事会ニ於テ中立国視察員ニ双方軍隊ノ衝突防止方付託セルコトニ依リ解決セルモ

ノト認ム

(三) 支那ハ三国公使ニ対シ何等ノ提案ヲナセル事ナシ何トナレハ各該国政府ハ保障問題ニ対シ賛成セサルニ依ル

支、北平、南京、奉天、廣東、濟南、天津、青島ニ転電セ  
リ

昭和6年12月(5)日 在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

上海における顧維鈞批判について

本省 上海

12月5日後着

第八八一號(略)

往電第八七五號ニ閔シ

其ノ後共當地ノ各大學學生抗日會旧区党部外交後援會及鄒

本四日何成濬ハ病氣ヲ冒シ我力当地海軍駐在武官送迎ノ為  
主要日支人多數ヲ招待シ近來珍ラシキ宴会ヲ催セル處其際  
本官ハ何ヲ始メ支那側要人夫々時局ニ関スル意見ヲ問ヒ試  
ミタルニ何レモ日支両国ハ直接交渉ニ依リ速ニ時局転換ヲ  
計ル外ナシトスルニ一致シ居ルヲ觀取セリ尚何ハ往電第八  
四五号武漢行營改組ノ件ニ關シ湖北綏靖主任ノ辭令接到次  
第行營ヲ撤去スルコトトナリ居リ右辭令ハ近ク到着ノ筈ナ  
ルモ綏靖主任ノ事務ノ内容ハ行營主任ト殆ト變ル處無シト

魯等ハ直接交渉及中立地帯設置並ニ天津共同管理案反対ノ通電又ハ意見ヲ發表シ五日ノ中華新報ハ社説ニ於テ顧維鈞ニ告クト題シ此ノ際軟化シ日本ニ屈服スルカ如キハ我国民ノ万承服シ能ハサル所ナルニ付施肇基ニ對シ撤兵セサレハ何等ノ談判ニモ応セストノ原主張固持方急電スヘシト論セリ尚外交部ハ顧維鈞カ二日重光公使ヲ往訪セルハ答礼ニ過キスシテ何等交渉ノ事実無シト發表セルニ對シ新聞報ハ南京某要人ノ談トシテ外交部長就任ニ対スル各国公使ヘノ答札ハ從來外交部員ヲシテ名刺ヲ返サシメ居タルニ過キス顧維鈞力單ナル答札ニ自ラ出掛けタリトセハ失態タルヲ免レ  
スト報シ居レリ

196  
昭和6年12月5日  
在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
上海における顧維鈞批判について

197  
昭和6年12月(5)日  
在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

第八八一號（略）

其ノ後共当地ノ各大学学生抗日会旧区党部外交後援会及鄒

本省南京  
12月5日後着

(九) 中立地帯設置問題ニ対シ輿論ハ激昂シ民衆及政府ハ支那葉ノ問題ヲ作ラントスルニアリ  
(八) 日本カ錦州問題ヲ提出シタル底意ハ撤兵問題ニ対スル枝リ然ラサレハ支那ハ自衛方法ヲ執ラサルヲ得ヌ  
(七) 支那側ハ中央政治會議ノ決議ニ従ヒ中立地帯設置方法ニ対シ絶対ニ同意スルコト能ハス若シ日本側カ錦州ヲ攻撃スル場合ハ理事会ハ有効ナル方法ヲ以テ之ヲ制スヘキナ

軍隊が関内ニ撤退スルニトニ反対ス錦州ハ現在東北ニ於ケル最後ノ堡壘ナリ

98 昭和6年12月5日) 在南京上村領事より

# 錦州中立地域問題に関する国民政府文官長の 談話について

五日ノ各新聞ハ錦州問題三閔シ国民政府文官長談話トシテ  
大要左ノ通掲載セリ

事項6 国民政府との交渉

錦州ハ日本軍ノ奉天占領後遼寧全省ノ合法的行政機關ノ所在地トシテ重大ナル意義ヲ有ス日本カ錦州攻撃ニ全力ヲ集中セントスルハ之カ為ナリ中央ハ本件ニ関シ(一)理事会及中立国団体力切実ニ保障ノ責ヲ負ハサルニ於テハ支那ハ錦州中立地帯設置弁法ヲ絶対ニ受諾セス(二)錦省政府ハ之ヲ完全ニ維持シ如何ナルコトアルモ撤退セス(三)錦州カ攻撃ヲ受クルコトアラハ支那軍ハ飢乏正当防衛ノ手段ヲ執ルコトノ三項ヲ決定セリ委細郵報  
支へ転報シ北平、上海、奉天ニ転電セリ

199 昭和6年12月5日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

錦州問題経過に関する顧維鈞の談話について

|    |         |
|----|---------|
| 南京 | 12月5日後発 |
| 本省 | 12月6日前着 |

第八一六号(略)  
<sup>(1)</sup>五日新聞報道ニ依レハ顧維鈞ハ四日記者団トノ会見ニ於テ大要左ノ如ク述ヘタル趣ナリ  
 錦州問題ニ關シ外觀種々ノ伝聞及消息アルモ多クハ真相ト符合セス本問題ハ十日前ニ發生セルモノナルカ當時日本軍

ハ積極的ニ錦州ニ向ヒ前進シ形勢頗ル重大ナリシヲ以テ支那政府ハ一面實力自衛ノ準備ヲ為スト共ニ他面外交手段ニ依リ日本軍ノ進撃ヲ阻止セントシ施代表ヲシテ理事会ニ對シ日本軍ノ錦州ニ於ケル軍事行動至急制止方緊急提示セシメタリ同時ニ支那ニ於テハ三重要國ノ公使ニ對シ居中調停者ノ地位ニ在リテ日本軍カ此上前進セサル様保障センコトヲ希望シ若シ日本カ該三国ニ對シ確實ニ満足ナル保障ヲ与ヘ日本軍ヲシテ錦州ニ攻撃セシメサルニ於テハ支那軍隊モ又具体的弁法ヲ考量スヘキ旨ヲ告ケ且右ハ全ク各外國政府ノ意向ヲ聽カントスルモノニシテ若シ保障シ得ルニ於テハ支那側ハ其旨回答ニ接シタル後改メテ提議スヘキ旨声明シ置ケリ目下右三国中一国ハ前記保障ヲ為シ得サル旨表示セルカ其他ノ二国ハ未タ明確ナル表示ナシ各根本条件未タ成立セサルヲ以テ其他ノ一切ハ提議スルニ至ラス十一月二十六日理事会ハ施代表ノ提議ニ基キ各中立國ヨリ視察員ヲ錦州ニ派遣シ衝突回避ノ方法ヲ研究セシムルコトヲ決議シ支那政府ハ之ヲ受諾スルト同時ニ地方軍事長官ニ對シ「オブザーバー」ト必要ナル連絡方訓令セルヲ以テ支那トシテハ錦州問題ハ連盟ニ於テ既ニ解決ノ便法ヲ有スルモノト認ム

尤モ日本側ハ連盟ニ對シ未タ同意ヲ表シ居ラス支那カ錦州ニ軍隊ヲ集中又ハ増員セル事實ナク日本軍トノ衝突ヲ避ケントシ居ル誠意ハ「オブザーバー」隨時ノ報告ニ依リ明ナルカ東京及在巴里日本代表側ハ複雜ナル空氣ヲ作り中立地帯ノ設置ヲ要求シ且日本軍ハ既ニ鉄道付屬地内ニ撤退セリト声明セリ元來錦州ハ付屬地ヲ隔タル三、四百支里ノ地点ニ在リ若シ日本軍ニシテ全部撤退センカ日支軍隊ハ自ラ衝突スルコトナカルヘク日本軍ニシテ進撃セサル以上支那軍モ挑戦スルコトナカルヘシ故ニ支那ハ日本ノ提出セル要求ニ對シ今以テ拒絕シ商議ニ応セス之錦州問題ノ経過及目下ノ実情ナリ云々

尚新聞ハ四日午前仏蘭西公使ハ政府ノ訓令ニ依リ顧維鈞ヲ往訪錦州問題ニ關スル日本ノ提案ヲ受諾スルヤ否ヤ尋ネタル處顧ハ支那政府ハ支那軍隊ヲ自國領土ヨリ撤退セシメントスルカ如キ案ハ絶対ニ受諾スルヲ得スト答ヘタル旨報道シ居レリ  
支へ転報シ北平、上海、奉天へ転電セリ

200 昭和6年12月5日 在上海田代公使館付武官より  
二宮參謀次長宛(電報)

南京政府の錦州中立地域問題その他に関する  
支第七号(其一~三)(秘)  
 南京政府ハ一昨三日以来連盟及日本ニ向シテ強硬ナル態度ヲ表示センカ為次ノ如キ宣伝ヲ開始セリ  
 一、文官長ノ名ヲ以テ各機關紙ヲ通シ錦州北方ハ絶対ニ中立地帯タラシメス錦省政府ハ如何ナル事情ノ下ニモ撤退セス錦州カ攻撃ヲ受ケタル場合ハ正当防衛ニ出ツル如キ旨高調スルト共ニ日本人ノ天津擾乱ニ對シテハ中央ハ次ノ協調ヲ決定セリトテ錦省政府ノ安全ヲ保証センカ為ニ最善ノ努力ヲ為スヘク正当防衛ニ從事シアリト發表セリ

二、顧維鈞ハ連盟ノ新決議案ヲ批評シ日本ハ連盟決議当日ヨリ二週間以内ニ撤兵スヘク日本ノ撤兵ハ中立國ノ監視ヲ要ストノ支那ノ主張ハ毫モ放棄セス新決議ニ對シテハ當然修正ヲ要求スヘキ旨主張シ尚錦州付近中立地帯設定問題ニ關シ寧ロ日本側ヨリ切り出セルモノニシテ支那ト

シテハ彼カ攻撃セサレハ支那ヨリ進ンテ攻撃セスト言ヒタルニ過キスト逃ケ更ニ外交部ハ去四日施肇基代表ニ致

セル錦州問題ニ閲スル訓令九箇条ノ内容ヲ大々的ニ發表シ右ノ訓令ノ目的ハ一二日本ノ提案ヲ拒絶スルニ在リト

テ只管南京政府ノ日本ニ対スル態度カ極メテ强硬ナルコトヲ粉飾シアリ

之ヲ要スルニ山田ノ電報ニシテ真ナリトセハ蔣介石ハ下野ヲ決心セルモノト認メサルヘカラス果シテ然ラハ彼並彼ヲ囲繞スル南京派ハ一時中央ノ政権ヲ廣東派ニ譲リ対

日交渉ノ難関ノ一切ヲ挙ケテ其責任ニ帰セシメ彼等一派ハ依然対日強硬ヲ主張シテ廣東派ノ失敗ニ乘シ捲土重来

再ヒ中央ノ政権ヲ把握セント企図シ急ニ强硬ナル態度ニ

出テ始メタルモノナルヘキモ勢ノ赴ク所或自暴自棄的態

度ニ出ツルコト無シトセス張学良並蔣介石ノ態度ハ今後特ニ注意ヲ要スルモノト認メラル

参考迄ニ

北平、天津、濟南、奉天スミ

201 昭和6年12月(6日) 在南京重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

202 昭和6年12月6日 在南京重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

錦州方面中立地域設置問題に関する新聞記者  
との会談について

別電 一二月七日着重光公使より幣原外相宛第一三八六号

右会談内容について

南京 12月6日後発  
本省 12月7日前着

南京 12月6日後発  
本省 12月7日前着

第一三八四号(暗)  
往電第一三七二号ニ閲シ

本省 南京  
12月6日後着

中立地域設置問題に関する仏國公使の顧維鈞  
に対する勧説について

南京

12月6日後着

七日本使南京出発ニ際シ新聞記者団ニ対シ錦州地方中立問題ニ關シ別電第一三八六号ノ通り談話シ置ケリ  
別電ト共ニ連盟、米、北平、奉天へ転電シ、上海、南京へ転報セリ、連盟ヨリ在欧各大使へ転報アリタシ  
(別電)

南京  
本省 12月7日前着

南京  
本省 12月7日前着

根源ニ及フトキハ勢ヒ錦州付近ノ支那軍ト衝突ヲ免レサルヘシ

二、顧維鈞新外交部長ハ其ノ錦州付近ノ日支両軍隊ノ衝突ノ形勢ヲ顧慮シ二十四日南京ニ於テ米英仏三国公使ニ對シ日本側ニテ異存無キニ於テハ錦州ヨリ山海關ニ至ル地域ヲ中立地帶トシ日支両軍ヲ此ノ地ニ入ラシメス且現ニ滯在スル錦州付近ノ支那軍隊ヲ全部閨内ニ撤退スヘク尚右ニ対スル保障ヲ当事国ヨリ右三國ニ為スヘキコトノ考案ヲ提出シタリ右顧維鈞ノ提案ハ二十六日東京ニ於テ日本外務大臣ニ提出セラレタリ

三、日本政府ハ熟考ノ結果日支ノ困難ナル現在ノ事態ニ善処スル為ニハ事件突発以来日本政府ノ決定方針ニシテ連盟理事会ノ勧説ニ係ル主義タル事態ヲ局限シテ出来得ル丈ヶ悪化セサルコトカ喫緊唯一ノ方法ナルコトヲ思ヒ多大ノ困難ヲ排シ茲ニ其ノ中立地帶ノ設定ノ提案ヲ受諾スルコトニ決定シ其ノ趣旨ヲ以テ翌二十七日之ニ対スル回答ヲ發セリ之ト同時ニ事態ノ急迫ヲ救フ為我軍部ニ於テハ支那側ノ軍隊撤退ノ誠意ヲ信シ馬賊討伐進行中ナルニモ拘ラス多大ノ犠牲ヲ忍ヒ軍隊ヲ後退セシメテ支那軍隊ノト言フヘシ若シ日本軍ニシテ土匪ノ討伐ヲ徹底シ其ノ

トノ衝突ヲ避クル為全力ヲ尽セリ

四、今回自分カ南京滯在中顧外交部長ト面会シタルカ両三

回ノ機会ニ於テ繰返シ力説セルハ現在ノ日支両國ノ困難

ヲ脱スル為ノ急所ニシテ唯一ノ方法ハ日支両軍ノ新衝突

ヲ防止スル為双方ニ於テ全力ヲ尽ス事ニ在リトナス点ナ

リ両軍ニ於テ何時新ニ衝突ヲ見ルヤ予測ヲ許ササル今日

前記中立地帯設置考案ヲ実現スルハ極メテ重要ナル事ニ

シテ日本政府カ既ニ受諾セル以上支那側ニ於テモ同様ノ

誠意ヲ示サレタキ旨勧説シタル所以ナリ

五、然ルニ外交部長ハ日本軍隊カ一時馬賊ノ討伐ヲ延期シ

テ引揚ケタルヲ見既ニ其計画実現ノ必要無キニ至レリト

感シタルカ又ハ其提案ハ單ニ米英仏ノ三国又ハ國際連盟

ヲ更ニ中立地帯ノ問題ニ引入レ事態ヲ益々複雑化シテ日

本ヲ牽制シ得ト考ヘタルカ又ハ学生運動等種々内部ノ困

難ニ出テタルカ之ヲ明カニシ得サルモ今日ニ於テハ顧維

鈞氏ハ其最初ノ提案ノ趣旨実現ニ冷淡ナルカ如シ自分ハ

其事実ニ非サルヲ希望シテ已マス自分ハ顧維鈞氏ニ対シ

若シ其レ同氏ノ提案ニシテ日本側ニ於テ多大ノ困難ヲ冒

シテ受諾セル今日民國側ニ於テ実現セサルニ於テハ事態

六日ノ新聞ハ外交部ヨリノ消息トシテ大要左ノ通報道セリ

施肇基ハ四日外交部ニ対シ在巴里華僑代表ヨリ(一)理事会出

席ヲ停止スルコト(二)連盟ヲ脱退スルコトノ二項ヲ要求セラ

レタルニ付政府ノ訓令アラハ其ノ通取計フヘキ旨答ヘ置キ

タルカ自分ハ凡庸ニシテ衆望ニ副ヒ難キニ付辞職ヲ許可セ

ラレ別ニ有能ノ士ヲ任命アリタキ旨電報越セリ依テ外交部  
ハ直ニ蔣主席ノ指令ヲ仰キタル處主席ハ五日施ニ対シ一切  
ノ責任ハ政府ニ於テ負フ可キニ付華僑ノ非難ハ意ニ介セス  
益々努力アリタキ旨回電セル趣ナリ又外交部長顧維鈞ハ就

任後毎朝六時ニ起床シ夜ノ二時三時頃就眠スル状態ニテ勞

苦ニ堪ヘ難シト為シ五日夜蔣主席ニ対シ辞職ヲ申出タル處

主席ハ懇々慰留セルカ顧ハ六日ヨリ外交部ニ出勤セサルヘ

シトノ說アリ云々

#### 事項6 国民政府との交渉

尚新聞ハ公使館方面ノ消息トシテ重光公使ハ來京後二回顧

ヲ局限シ新ナル衝突ヲ避ケ全局ニ善処セントスルノ趣旨

ハ葬ラルルノミナラス既ニ再三衝突ヲ見タル満州ニ於ケ

ル日支両軍ニ及ホス反動作用ハ甚タシク憂慮セラル旨

指摘シタリ

203 昭和6年12月6日

在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京における重光・顧会談に関する新聞報道

について

上海 12月6日後発  
本省 12月6日後着

第八八二号

六日ノ当地各漢字紙ハ外国公使館方面ヨリノ消息トシテ重

光公使ハ南京ニ於テ顧外交部長ト二回ノ会見後南京滯在中

ノ英米仏三公使ニ対シ顧外交部長ノ態度強硬ニシテ毫モ譲

歩セス時局益々急迫シ收拾ノ途ナキ旨語リタル旨ノ五日南

京発電報ヲ掲載シ居レリ

公使ヘ転報シ、北平、奉天、南京ヘ転電セリ

204 昭和6年12月6日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

六日ノ新聞ハ外交部ヨリノ消息トシテ大要左ノ通報道セリ

施肇基ハ四日外交部ニ対シ在巴里華僑代表ヨリ(一)理事会出

席ヲ停止スルコト(二)連盟ヲ脱退スルコトノ二項ヲ要求セラ

レタルニ付政府ノ訓令アラハ其ノ通取計フヘキ旨答ヘ置キ

タルカ自分ハ凡庸ニシテ衆望ニ副ヒ難キニ付辞職ヲ許可セ

ラレ別ニ有能ノ士ヲ任命アリタキ旨電報越セリ依テ外交部

ハ直ニ蔣主席ノ指令ヲ仰キタル處主席ハ五日施ニ対シ一切

ノ責任ハ政府ニ於テ負フ可キニ付華僑ノ非難ハ意ニ介セス

益々努力アリタキ旨回電セル趣ナリ又外交部長顧維鈞

ト顧維鈞トノ感情ハ相当疎隔ヲ生シタルカ如シ殊ニ顧維鈞

トシテハ今後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

トシテハ其の後ノ外交上非常ニ不利ノ立場ニ陥リタル模様ニ

ノ舞ヲ恐レアルカ今回ノ事ハ顧ノ就任早々ノ失敗トシテ不信ノ声相当高シトノコトナリ

北平、天津、濟南、奉天スミ

206

昭和6年12月6日

幣原外務大臣より  
在英國松平大使他宛（電報）

**最近の中国政局に関する情報について**

本省 12月6日後発

合第一八六一号（暗）

**最近支那政情ニ関スル件**

「支那情報」

往電合第一四〇一号ニ関シ

一、和平會議ノ決定ニ從ヒ南京側ニ於テハ十一月九日ヨリ十一日迄ノ中央臨時全体会議ニ引続キ十二日ヨリ第四次全國代表大會ヲ開催シ二十三日閉会セルカ右會議ニ於テハ例ニ依リ帝国主義打倒及國民革命完成ヲ高唱シ党務政務改革、財政整理、軍費節約等諸決議ヲ通過セルニ止マリ平凡裡ニ終リタリ

二、然ルニ廣東側ニ於テハ十八日其ノ全國代表大會開会セラルヤ劈頭ヨリ反蔣介石反張學良ノ氣勢ヲ示シ二十三

日會議ニ於テ「蔣カ下野セサル限り第四期中央執監委員ハ北上セス〔即、蔣、張ノ党籍ヲ永久ニ解除ス等上海和平予備會議ノ決定ヲ否認スルノ決議ヲナスニ至レル処元來広東政府ニテハ汪精衛等改組派、孫科等右派ノ連合ニ依ル文治派（李宗仁等広西系實力派ト提携ス）ト陳濟棠一派ノ実力派（廣東系右派古應芬之ヲ指導セルカ古ハ十月二十八日死去セリ）ト对立シ居リタルカ過般和平予備會議ニ際シ文治派領袖赴滬セルニ乘シ陳濟棠等ノ策動アリシ模様ニテ（和平予備會議後汪精衛カ上海ニ居残リシハ之カ為ナルヤニ伝ヘラル）前記四全大会決議ノ如キモ右策動ノ結果專ラ文治派虐メトシテ行ハレタルモノノ如ク孫科、陳友仁ハ二十四日香港ニ去レリ尤モ其後胡漢民、伍朝枢兩人ハ上海ヨリ帰広シ（二十九日）タルカ其ノ間胡等元老連ノ斡旋アリテ孫、陳等モ帰広シ結局今次廣東側内紛ハ改組派ノ追ヒ出シヲ以テ一先兆ヲ付クルニ非スヤト觀測セラレツツアリ

三、一方最近瀕リニ蔣介石ノ北上説伝ヘラレツツアル處

（右北上ハ對廣東關係ノミナラス対日關係、對張學良關係等ニモ重大ナル影響アルヘキヲ以テ特ニ注意ヲ要ス）

奉天ヨリ吉林へ転電アリタシ

該風説ハ蔣カ人氣取リノ必要上十九日南京四全大会ニ於

テ自ラ北上シテ党国ノ為ニ力ヲ致スヘント声明シタルコ

ト及最近京滬地方学生團カ大挙南京ニ押シ掛け蔣ノ即時

北上及対日宣戰ヲ要請シヲルコト等ヨリ出テタル臆測ナ

ルカ如ク差当リ右北上ノ實現性アルヘキヤ疑問ナリ尚北方ニ於テハ最近馮、閻、韓等ノ連繫ニヨル張學良打倒ノ氣運漸ヤク具体化セムトシツツアルヤニ伝ヘラルモ其ノ真偽未タ確ナラス

（英宛電報末尾ニハ「仏ニハ直接電報済ミ」ト付記ノコト）

（編注） 本電報は、在英國松平大使のほか「在米、仏、露各大使、在シンガポール、マニラ各總領事」に發電された。

208 昭和6年12月8日

在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

**錦州問題、天津問題等南京政府の外交方針に  
関する新聞報道について**

第八九一号（略）  
上海 12月8日後発  
本省 12月8日後着

八日當地各漢字紙ノ報道ニ依レハ南京政府ニ於テハ錦州、天津及直接交渉等ノ諸問題ニ對スル人民ノ誤解ヲ解ク為七日付ヲ以テ中央ニ於テ決定セル外交方針ヲ上海市党部宛電報シ来リタル趣ナル處右ハ

（一）錦州問題ニ關シテハ（イ）連盟其他ノ中立國團体カ確実ナル保障ヲ為スニ非サレハ中國政府ハ絶対ニ緩衝地帶設置弁法ヲ受諾セス（ロ）錦州省政府ハ飽迄之ヲ維持シ如何ナル状況ノ下ニ於テモ決シテ撤退セス（ハ）錦州カ攻撃ヲ受クル場合ハ中國軍ハ正当防衛トシテ極力抵抗スルコト又

（二）天津問題ニ關シテハ（イ）河北省政府ノ安全ヲ保障スル為最善ノ努力ヲ為シ正当防衛ニ從事シ（ロ）日本租界接壤ノ二百

本使七日当地發便船ニテ出發八日着滬ノ予定  
連盟局長、在支各總領事へ転電セリ

207 昭和6年12月7日 在南京重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

**南京より上海に帰還について**

南京 12月7日後発  
本省 12月7日後着

本使七日当地發便船ニテ出發八日着滬ノ予定  
連盟局長、在支各總領事へ転電セリ

事項6 国民政府との交渉

米内ノ地方ニ対シテハ中国政府ハ地方ノ平和及安寧ヲ保

持シ且秩序擾乱ノ責任所在ヲ明瞭ニスル為本問題解決迄  
ノ中間期間中連盟理事会及各中立國ニ於テ干渉ノ責ニ任

スルコトニ同意スルモ此場合連盟又ハ中立各國ハ確実ニ  
天津ノ安寧秩序維持ノ責ヲ負フコトヲ条件トスルニ夫々

決定シ居リ尚

(三)世上伝ヘラルル中国軍ノ山海關以内ノ撤退説天津ニ国際

委員會設置説及直接交渉開始説ノ如キハ全然事實ニ非サ  
ルニ付一般民衆ノ誤解解除ニ努メラレンコトヲ望ムト云

フニアル由

北平、奉天、青島、濟南、漢口、天津、廣東、福州、南京

ヘ転電セリ

209 昭和6年12月8日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中立問題交渉経緯に関する顧維鈞の電報につ  
いて

南京 12月8日後発  
本省 12月8日後着

治安ノ維持ニ協助セン事ヲ希望セルカ各國ハ火中ニ投ス  
ル事ヲ恐レ未タ話合ハ目鼻付カス

(三)重光公使ハ二回外交部ヲ訪ネ日本軍ノ撤退ヲ説明シ我軍  
ノ錦州撤退ヲ希望セルカ余ハ之ヲ拒絶セルト共ニ我方ノ  
見解ト立場ヲ説明シ且右談話ハ交渉ノ性質ニアラサル事

ヲ言明セル處同公使モ之ニ同意シ其ノ來訪ハ單ニ日本側  
ノ立場ヲ説明セルモノナリト述ヘタリ要スルニ支那ハ未

タ日本ト絶交シ居ラサルヲ以テ日本公使ノ外交部來訪ヲ  
阻止スル訳ニ行カス來訪セル以上其發言ヲ阻止スル能ハ

ス既ニ發言シ日本側ノ主張ト見解ヲ説明スルニ於テハ余  
モ亦我方ノ所見ト觀察ヲ説明セサルヲ得ス從テ此種ノ談  
話カ交渉ニアラサル事ハ極メテ明白ナリ云々

支、連盟、北平、奉天、廣東ヘ転電セリ

210 昭和6年12月9日 在上海重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

上海帰着遅延について

上海 12月9日後発  
本省 12月9日後着

第八二二号(略)

八日ノ中央日報ハ顧維鈞ヨリ在上海ノ友人ニ宛テ回答セル  
電報ナルモノヲ發表セルカ其大意左ノ通

(一)錦州ハ東北全体ノ存亡ニ關係アルヲ以テ我国ハ一面實力  
ノ保全ヲ期シツツアリ先月二十日頃日本軍錦州ニ迫リタ  
ル際施肇基ヨリ連盟ニ対シ緊急処置ヲ要求セシムルト同

時ニ当地ニ於テハ英米仏公使ニ対シ日本軍ヲ此前上進セ  
シメサル様保障方交渉セルカ右ハ日本軍ヲ牽制セントス  
ル苦心ニ外ナラス今ヤ日本軍ハ既ニ退キ日本モ連盟ニ於

テ我軍隊ヲ後退シ支那ノ一切ノ行政機關及地方秩序維持  
ノ警察ハ從来通職務ヲ執ラン事ヲ要求セルカ我方ハ本国

軍隊ノ撤退ヲ承認セス目下ノ争点ハ此点ニアリ日本ノ所謂  
錦州中立地帶問題ハ双方ノ軍隊撤退問題ナル處我方ハ

錦州ヨリ未タ一步モ撤退セスシテ日本軍ハ鐵道付屬地外  
ニ後退シタルヲ以テ形勢稍緩和セルカ國民カ此事情ヲ解  
セサルハ遺憾ナリ

(二)天津地方當局及紳商ハ前後一二回ニ亘ル日本軍ノ暴動ニ  
對シ各國官民カ日本租界付近數百米ノ区域ニ於テ臨時ニ  
事務局長、在米大使ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

211 昭和6年12月9日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中立問題に関する重光公使の記者会見談に對  
する外交部の反駁について

南京 本省 12月9日後着

第八二六号

<sup>(1)</sup>支公使發閣下宛電報第一三八六号ニ関シ

外交部側ハ重光公使カ離京ニ際シ新聞記者ニ対シ為セル談  
話ヲ以テ甚々奇怪トシ居レリ同公使談話中ノ重要ナル各点  
ハ全然事實ニ反ス同公使ノ所謂錦州省政府ハ馬賊及便衣隊  
ヲ指嗾シ日本軍及日本ノ利益ヲ侵害シ並ニ種々ノ陰謀ヲ試  
ミツツアリトノ一節ハ絶対ニ確実ナラズ元來錦州支那官憲

事項6 国民政府との交渉

ハ形勢ヲ重大ナラシメザルコトニ終始努力シ居リ此ノ点ハ現ニ錦州ニ在ル中立各國「オブザーヴァー」ノ報告ニ依ルニ明カニシテ世人ハ重光公使ノ無稽ノ言ガ事実ニ反スル事ヲ知悉ス

錦州中立地帶設置問題ニ関シテハ顧部長ハ決シテ日本公使

ノ称スルガ如ク英米仏三国公使ニ対シ提議シタル事ナシ顧部長ハ十一月三十日及十二月三日ノ二回日本公使ト会見シ支那側ニ本件提議ヲ為セル事無キヲ明言シ同公使モ充分其真相ヲ諒解セル処ナルカ今般同公使ヨリ談話ヲ発表セルニ付我方モ本件真相ヲ述べ注意ヲ促ス要アリ

顧氏ハ十一月二十四日晚英米仏公使ト会談ノ際日本軍力統々錦州ニ迫リ形勢急迫シ居ルニ付日支両国軍隊ヲ錦州付近ニ於テ衝突セシメザル様何等方法ヲ講ズル要アルコトヲ告げ双方撤兵ノコトニ関シ談及セルガ其要点ハ日本ヲシテ三國ニ対シ錦州区域ニ進兵セサルコトヲ保障セシメ該区域ニ於ケル一切ノ行政ハ支那ノ管理ニ帰シ支那警察モ從前通り職務ヲ執行スルコトニ在リ且ツ本件保障ハ該三國ガ満足スルモノナルコトヲ要シ所謂「中立区」ナル三字ニハ絶対ニ言及シタルコトナシ殊ニ顧部長ハ談話ノ際顧氏カ三公使ヲ

事会ニ対シ負担セル義務ノ実行ニ過キサレハナリ若シ日本ニシテ自ラ撤兵セルノ故ヲ以テ我国ニ東北殘留ノ軍隊ヲ撤兵セントヲ要求シ交換条件タラシメントスルカ如キハ如何ニスルモ我国ノ諒解シ得サル処ナリ云々  
支、連盟、北平、奉天ニ転電セリ

212 昭和6年12月10日 在ホノルル岩手（嘉雄）総領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

新任駐米中国公使顏惠慶のホノルルにおける

新聞記者への談話について

第三四号（略）  
ホノルル 12月10日後発  
本省 12月11日後着

213 昭和6年12月15日 在南京上村領事より  
大養外務大臣宛（電報）

蔣主席辞職の通電要旨について

往電第八四三号ニ関シ  
南京 12月15日後発  
本省 12月16日前着

ヲ得タルハ感謝ニ堪ヘズ余ハ國際連盟ガ本事件ノ公正ナル解決ニ至ルベキコトヲ確信ス吾人支那国民ハ公正ナル解決ヲ目指シテ奮闘ノ決心ヲ有ス  
云々ト語レル由ナリ  
米、桑港ニ転電セリ

蔣介石ハ十五日付ヲ以テ本兼各職辭職ノ通電ヲ發セルカ其要旨ハ三年以来政府主席トシテ努力セルモ屢内憂外患ニ遭遇シタルニ付全体同志ノ團結後引責辞職スル考ニテ第四次全國代表大會ニ於テモ其方針ニテ進ミタルカ在廣東ノ同志ハ今尚約束ヲ履行セス胡漢民等ハ余カ下野シ兵權ヲ放レタル後來京スヘキ旨通電シ和平統一ヨリモ先ニ余ヲ下野セシメントセリトテ其立場ノ困難ナル次第ヲ説明シタル後國事

往訪セルハ各本国政府ノ意見ヲ聞カントスルニアル旨ヲ説明セリ然ルニ三国トモ支那ニ對シ日本カ必ス錦州ニ進撃セサルコトヲ保障スルコトヲ欲セサリシヲ以テ支那側モ未タ何等ノ提議ヲ為サススクノ如キ事実ハ支那側ノミナラス連盟方面ニ於テモ知悉スル処ナリ

顧部長カ外交部ニ於テ二度日本公使ト会見セル際前記ノ事実ヲ詳細説明セル處同公使ハ其事實ノ真相ヲ諒解セリト称セリ蓋シ本件ノ要点ハ三国ノ保障ニアル處其保障ニシテ実現シ難キ以上本件ハ最早ヤ問題トナラス本件カ如何ニシテ幣原外相ニ提出セラレタルヤハ支那側ニ於テ知ル處ナク同意セル事勿論ナシ我国ヨリ提議スルコトナク在東京仏蘭西大使館ヨリ幣原外相ニ提議セルコトヲ以テ何ソ我国ノ提議ナリト称スルコトヲ得ンヤ若シ日本カ支那側ニ於テ双方撤兵ノ建議ヲ為セリト思考シ撤兵セルモノナレハ日本側ニ相當誤解アルヲ免カレス而シテ此ノ種誤解ハ唯日本ニ於テ責任ヲ負フヘキノミ

九月三十日連盟決（議）ニ從ヒ日本ハ滿鉄付属地内ニ撤兵スル旨声明セルカ若シ日本カ衷心ヨリ形勢ノ悪化ヲ避ケントスルモノナラハ今回ノ錦州付近ヨリノ撤兵ハ從来屢々理

多端ナル此ノ際先ツ團結統一ヲ実現スルニアラサレハ對外的勝利ヲ期スル策ナキヲ思ヒ本兼各職ヲ辞シ有能ノ人士ト代リタシト述ヘタルモノナリ

尚主席代理林森及行政院長代理陳銘枢モ十五日付ヲ以テ第四期第一次全体会議招集セラレ政府カ正式ニ改造セラル迄施政ノ代行ハ現状ヲ維持スヘキ旨就任ノ通電ヲ發セリ

冒頭往電ノ通り転電セリ

冒頭往電ノ通り転電セリ

214 昭和6年12月18日 在南京上村領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

孫科の記者会見における満州問題に関する談話について

往電第八五五号二閲シ

第八五八号（略）

往電第八五五号二閲シ

孫科等ハ十七日着京後間モナク中山陵ニ参詣シタル後蔣介石トモ会見セル模様ナルカ孫科ハ新聞記者ニ対し目下ノ外交問題ニ関スル方針ハ屢声明セル通リナルカ今回ノ入京ニ依リ東三省問題ノ事態モ一層明瞭トナルヘク統一政府成立ニ至ルヘシ

二、而シテ此形勢ヲ挽回セントセハ先ツ広東政府カ成立以來主張シ来リタル東亜全局ノ和平達成ヲ目標トシテ故孫文ノ依嘱ニ立返リ大亞細亞主義ノ実現ヲ期セサルヘカラス即チ廣東政府カ陳友仁ヲ渡日セシムル等種々ノ連結ニ依リテ努力シ来リタルコトカ恰モ今回滿州問題ノ勃発ニ依リ急速実行ヲ迫ラルノ事態トナリタルノ経緯ヲ通觀シ兩國ハ小異ヲ棄テ大同ニ就ク見地ヨリ一方中国側ハ日本権益擁護ノ自衛的措置ハ勿論延イテハ人口過多ヨリ來ル日本ノ必然的經濟上ノ膨脹等ヲ諒解シツツ而モ他面日本側ハ最近特ニ熾烈ヲ極メ来リタル中国人ノ政治殊ニ國家主權ニ關スル意義ヲ無下ニ没却セサル趣旨ニテ急速解決ノ途ヲ見出スノ外ナシ

後ハ革命外交ニ依リ東三省ノ領土主權ヲ回復シ唯已ムヲ得サル場合ハ新政府ハ最大ノ決心ヲ下シ決シテ国民ノ期待ニ反カサルヘシ東三省ヲ失ヘル直接責任當局ハ其責ヲ負ヒ国民ノ公判ヲ受ケサルヘカラスト語リ居レリ

公使、北平、奉天、天津、漢口、濟南、廣東ニ転電セリ

215 昭和6年12月19日 在廣東須磨領事代理より  
犬養外務大臣宛（電報）

時局解決方法に関する胡漢民の大養首相あて  
所見について

第七二二号（暗、至急極秘）

十八日胡漢民ハ本官ニ対シ特ニ自分ノ畏敬スル犬養大臣ニ對シ忌憚ナキ所見ヲ述ヘテ其同情アル御考慮ヲ煩ハシ度キ次第ナリトテ二時間ニ亘リ熱心ニ語リタルカ其要領左ノ通タル通り（往電第七〇四号）日本側カ計画的ニ之ヲ企テタル仕業ニモ非サルヘキカ何シロ何国ヲ問ハス軍人ニハ一種特異ノ心理状態アル處特ニ日本軍人ハ一旦抜ケル刀

三、依テ細目殊ニ日本カ從来主張シ来リタル二十一箇条問題等ノ如ク中国ノ国民的感情ヲ飽ク迄刺戟スルカ如キ法律問題ハ此際之ヲ避クルコトトシ専ラ日支国交ノ打開策ヲ見出サントスル大所高所ニ立ツヘキモノナル處自分ハ今ノ所政府ノ一員ニハ非サルモ党部ノ中央委員トシテ此際特ニ申上ケタキハ二十數年来国境ノ差別ヲ脱シテ頭山翁等ヲ率ヒ謂ハハ国民党ノ老同志トシテ自分等ヲ鞭撻シ來リ自然自分等モ最モ畏敬シ来リタル犬養大臣ノ出馬ヲ見茲ニ始メテ孫文ノ遺志ニ依リ日華關係ノ基調ヲ調整シ得ル日本政府ヲ得タルハ本問題解決ニ一道ノ光明ヲ与フルモノトシテ自分等老同志ノ特ニ欣幸ニ堪ヘサル所ナリ

四、就テハ両國トモ輿論ハ彌力上ニ激成セラレ殊ニ中国学生ノ憤激頂点ニ達シタル難局ニ直面セル以上両国当事者ハ偏ニ虚心坦懐東亜和局ノ大本ニ着眼シ大筋ヲ辿リテ本問題ヲ解決スルノ雅量ヲ示スヘク之カ為ニハ何ヲ措措キ兩国民心ノ緩和ヲ計ルコト最肝心ナレハ此際両国當局ニ於テ日本側ハ中國ニ特ニ理解アル政友会内閣ヲ得ルニ至リ他面中國ニ於テモ日本ノ死活問題タル滿蒙權益ニ対し無理解ナリシ南京政府倒レ孫文ノ本旨ニ帰ラントスル広

事項6 国民政府との交渉

東派ヲ中心トシテ統一政府形成セラレ恰モ双方トモ心機一転ノ場合ナルヲ高調シ此間ノ機運ヲ利用シテ日本ハ自發的ニ撤兵シ中國ハ上記ノ日本滿蒙權益ニ対シ特ニ無理解ナリシ張學良及其ノ一党ハ全然之ヲ驅逐シ且今後モ此種軍閥跋扈ノ余地無カラシム様ノ仕組トスヘシ即チ予テ貴官ニ対シ汪、孫、陳等ヨリ申出テタル所謂滿蒙文治案ニ依リテ孫文ノ東三省模範政府ヲ實現セシムヘキコト問題解決ノ要点ニシテ自分ハ日本側ニ於テモ断然諸種ノ障礙ヲ排シ此方途ニ進マルコト切望ニ堪ヘス

五、之ヲ要スルニ自分ハ對日問題ノ関スル限り從來廣東政府要人カ貴官ニ披瀝シ來リタル意見ト大体同様ノ見解ヲ執ルモノナルカ（往電第七〇一号）前述ノ如キ大筋ノ解決ヲ遂クル為ニハ一々外交機関等ヲ通シ難キ事情モアルヘク且ハ民衆ノ動搖輿論ノ激成等機微ナル關係モアレハ万事ヲ極メテ秘密且迅速ニ處理スルヲ要スルカ故ニ中国側ヨリ先ツ二、三代表ヲ大義大臣ノ許ニ簡派スルコト大体交渉ノ端緒トシテ最大切ナリ依テ自分ハ孫科ニ宛テ此趣旨ヲ詳述シ至急右様取計方ヲ懇懃スル書翰ヲ認メアレハ之ヲ十八日夜「エンプレス、オヴ、ロシア」ニテ北上

「デング」、「ヒューズ」ニ依ル九国條約ノ解決ハ何レモ満州ヲ支那領土ノ一部トシテ保存セントスルニアリタリ滿州ノ時局ハ表面上ハ一ノ支那問題ノ如ク見ユルモ實際上ハ最重要性ヲ有スル國際問題ニシテ将来ニ於ケル世界ノ大局ハ懸ツテ本問題ノ解決如何ニアリ軍備縮少世界平和ノ確保等ノ重要問題ニ対スル吾人ノ不斷ノ努力カ成功スルヤ否ヤハ本問題ノ解決如何ニ依リ決セラルル事尠カラサルヘシ滿州問題ハ不戰條約ト九国條約ノ価値ト効力ニ關係スル問題ニシテ殊ニ其ノ第一條ニ於テ支那ノ主權ト獨立ノ尊重ヲ規定スル九国條約カ果シテ神聖不可侵ノモノナリヤ否ヤヲ検スル重大ナル試金石ナリ

原文郵送ス  
支 北平、奉天、廣東ニ転電セリ

217 昭和6年12月24日 犬養外務大臣より  
在廣東須磨總領事代理宛（電報）

犬養首相の胡漢民に対する伝言について

別 電

同日犬養外相より須磨總領事代理宛第六四号  
右伝言内容について

本省 12月24日後10時発

ノ陳中孚ニ託送シ右ノ点特ニ至急実現致シタキ所存ナリ六、以上ノ卑見ニ關スル犬養大臣ノ御意見ヲ承り得ハ幸甚ナリ  
支、北平、奉天、南京へ転電シ香港へ暗送セリ

テ貴官ニ対シ汪、孫、陳等ヨリ申出テタル所謂滿蒙文治案ニ依リテ孫文ノ東三省模範政府ヲ實現セシムヘキコト問題解決ノ要点ニシテ自分ハ日本側ニ於テモ断然諸種ノ障碍ヲ排シ此方途ニ進マルコト切望ニ堪ヘス

216 昭和6年12月22日 在南京上村領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

満州問題と九国條約との関係に関する顧維鈞

発表の声明書要領について

南京 12月22日後発  
本省 12月22日後着

第八六六号（略）

二十二日路透通信員張ノ談ニ依レハ顧維鈞ハ滿州問題ト九国條約トノ関係ニ關シ二十日路透經由大要左ノ如キ声明書ヲ發表セル趣ナリ

滿州ハ将来ノ國際政局ヲトスル「バロメイター」ニシテ面積、人口、鐵道ヨリ見ルモ極メテ重要ナル地位ヲ有スルヲ以テ日本ノ滿州占領ハ世界ノ勢力均衡ト太平洋沿岸主要國相互的地位ヲ覆シ世界ノ平和ヲ危殆ニ瀕セシムヘシ「ジョンヘイ」、「ルーズベルト」、「ウイルソン」ノ政策及「ハーリー」

第六三号 晴、極秘

犬養總理ノ胡漢民ニ対スル伝言  
〔二五文書〕  
貴電第七二一號ニ閱シ

所謂統一政府ノ前途尚逆睹シ難キモノアルノミナラス廣東側政権把握ノ後果シテ充分ニ我方ノ要望ニ応スヘキヤ疑ハシク仮リニ我方ニ満足ナル約束ヲナストスルモ之カ實行ハ支那ノ現状ニテハ容易ノコトニアラサルヘシ何レノ途現下日支兩國ノ政治狀態ニ顧ミ公式ニモ非公式ニモ此際直ニ兩國間ニ今次事件ニ關スル話合ヲ行フコトハ種々考量ヲ要スルモノアリト思考ス尤モ廣東派ノ支那政界ニ於ケル地位並本大臣ノ孫文等ニ対スル從來ノ情誼モアリ胡漢民ノ申出ニ對シテハ相當裕トリアル應酬ヲナシ置クコト可然ト存スルニ付別電第六四号ノ趣旨ヲ本大臣ノ胡ニ対スル個人的伝言トシテ可然転達セラレタシ  
別電ト共ニ香港ニ暗送アリ度

別電  
（別電）

本省 12月24日後10時発

犬養総理ノ胡漢民ニ対スル伝言

一、故孫總理ノ高弟タル胡漢民氏カ滿州問題ノ日本ニ対スル死活ノ問題タルヲ認識シ日本ノ立場ヲ尊重シツツ東亞全局ノ和平達成ノ見地ヨリ同問題ノ公正ナル解決ヲ計ラムコトヲ期セラルハ孫氏ノ老友タル自分ノ深ク欣快トスル所ナリ

二、今次事件ハ孫總理ノ遺囑ヲ無視セル輩ノ排日的不法行為ニ対スル日本国民ノ鬱積セル公憤カ一時ニ爆發ヲ見タルモノニシテ今ヤ我国ハ上下一致シテ該事件ノ満足ナル解決ヲ遂ケスンハ已マサル強固ナル決意ヲ有スルモノナルカ自分ハ中國ニ其約束ヲ責任ヲ以テ実行シ得ル強固ナル統一政府成立シ我方トノ間ニ誠意ヲ以テ交渉ヲ行ハントスルニ於テハ我國民ヲ誘導シ大局的立場ヨリ両国間ノ根本問題ニ付協議ヲ遂ケ度所存ナリ

三、就テハ此際胡漢民氏等ハ一意強固ナル中央政府ノ樹立ニ精進シ孫總理ノ大亞細亞主義ニ違背スル輩ノ徹底的排除ニ努ムル一方昂奮セル中國民心ノ鎮静ヲ計リ以テ徐ロニ前記日支交渉ヲ健実ナル礎地ノ上ニ開始シ得ル事態ヲ誘致スルコト肝要ナルヘシ之ニ反シ右充分ノ準備出来上

ラサル間ニ早急ニ交渉ニ着手スルカ如キハ決シテ本件交渉ノ成功ヲ期シ得ヘキ所以ニ非サルノミナラス右中國民心ノ現状ニ鑑ミ必スヤ其ノ激烈ナル反抗ニ会ヒ反対派ノ為メニ利用セラレテ廣東側ニ依ル政権確保ノ前途ニ意外ノ障碍ヲ來スナキヤヲ虞ル

尚本件交渉ヲ秘密ニ行フカ如キハ事ノ重大ニシテ國民的関心事タルニ顧ミ極メテ困難ナルヘク從テ中國側代表者ヲ自分ノ許ニ簡派スルコトモ必ス世間ニ露顕スルモノト

予期スルヲ要スルヲ以テ其ノ派遣ノ時期宜シキヲ得サレハ両國輿論ヲ刺戟シ事態ノ紛糾ヲ増スニ至ラサルヤニ懸念セラレ少ク共今日ハ未タ其時期ニ非ルヘシト思考セラル

218 昭和6年12月(26)日 在上海村井總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

孫科新政府の外交方針に関する発表について

第九四三号  
二十五日ノ「チャイナ、プレス」ハ二十四日南京発路透ト  
本省 12月26日後着

第八八〇号  
往電第八七七号ニ関シ  
南京 12月26日後発  
本省 12月27日後着

シテ國民政府「スポークスマン」ハ二十四日朝ノ「インタービュウ」ニ於テ從來中國ハ連盟ノ日支問題解決ニ全幅ノ信賴ヲ置キ來レル處新政府ハ今後其外交方針特ニ日支問題ニ対スル政策ヲ根本的ニ変更セムコトヲ企図シツツアリ又新政府ハ蘇連邦トノ提携ヲ希望シ居ラス錦州守備軍ハ飽迄日本軍ノ攻撃ニ抵抗スヘク其成否ハ兎モ角中國軍隊ノ氣概ト國民ノ感情トハ今後如何ナル無抵抗政策ノ提議ヲモ容認セサル可シ又巷間伝ヘラル北支ノ政變ハ既ニ溫釀シツツアリ某首領ハ近ク其政權ヲ失フニ至ル可ク其配下ニ多數ノ軍隊ヲ有シ居ル關係上北支方面ニ戰乱勃發スル事アルヘク只日本カ此ノ機会ニ天津北平地方ニ出兵スル事アルヘキヲ恐ル又上海南京方面ニ於テ伝ヘラル陳友仁カ新外交部長ニ就任スヘシトノ說ハ單ニ風説ニ過キス云々ト語リタル趣報道シ居レリ何等御参考迄

公使ヘ転報シ北平、天津、哈爾賓、奉天、南京ヘ転電セリ

~~~~~

219 昭和6年12月26日 在南京上村領事より
犬養外務大臣宛(電報)

中國新政府成立に関する孫科と南京側との軌

ラサル間ニ早急ニ交渉ニ着手スルカ如キハ決シテ本件交渉ノ成功ヲ期シ得ヘキ所以ニ非サルノミナラス右中國民心ノ現状ニ鑑ミ必スヤ其ノ激烈ナル反抗ニ会ヒ反対派ノ為メニ利用セラレテ廣東側ニ依ル政権確保ノ前途ニ意外ノ障碍ヲ來スナキヤヲ虞ル

尚本件交渉ヲ秘密ニ行フカ如キハ事ノ重大ニシテ國民的關心事タルニ顧ミ極メテ困難ナルヘク從テ中國側代表者ヲ自分ノ許ニ簡派スルコトモ必ス世間ニ露顕スルモノト

予期スルヲ要スルヲ以テ其ノ派遣ノ時期宜シキヲ得サレハ両國輿論ヲ刺戟シ事態ノ紛糾ヲ増スニ至ラサルヤニ懸念セラレ少ク共今日ハ未タ其時期ニ非ルヘシト思考セラル

ニハ経歴及手腕ノ点ニ於テ孫科ハ到底責任内閣ノ首班タル行政院長ノ器ニ非スト為シ精々宋子文同様財政部長トシテ行政院副部長ヲ兼任セシムルニ止ム可シトノ空氣次第濃厚トナリツツアル趣ナルカ他方陳銘枢ハ本二十六日孫科連戻シノ為上海ニ赴ケル趣ナリ

廣東ヨリ冒頭往電ト共ニ香港へ転報アリタシ

冒頭往電ノ通転電セリ

220 昭和6年12月27日 政府発表

満州事変に関する日本政府第三次声明

満州事変ニ関シ帝国政府ハ十二月二十七日左ノ通声明

セリ

一、満蒙ニ於ケル治安ノ維持ハ帝国政府ノ恒ニ最重要視スル所ニシテ政府ニ於テハ從来各般ノ機会ニ同地方ノ康寧ヲ保持シ且之を重闇争乱ノ巷ト化スルヲ防カムカ為百方適法ノ手段ヲ講シ來レリ治安ノ保持アリテ始メテ同地方ハ内外人安住ノ地タルヲ得ヘク又秩序ナキ所門戸開放、機会均等モ結局空名ニ終ルヘシ因ラスモ今次事件ハ帝国ニ対シ滿蒙ニ於ケル新ナル責任ヲ加ヘ而シテ其ノ活動ノ

範囲ハ更ニ広汎ナルヲ致セリ即チ支那側ノ不当ナル攻撃ニ対シ必要ノ自衛手段ヲ執リタル結果帝国ハ広大ナル地城ニ亘リテ公私ノ安寧ヲ維持シ住民ノ権益ヲ保護スルノ義務ヲ負フノ已ムヲ得サルニ至レリ當時支那地方官憲ハ法律秩序保持ノ為何等協力ノ機会ヲ求メス一齊ニ逃亡又ハ辭職セリ斯カル状況ノ下ニ無辜ノ地方民ノ災害ヲ出来得ル限り鮮少ナラシムハ明カニ帝国ノ責務ニシテ之ニ反シ我方ニ於テ右等良民ヲ無政府状態ノ渦中ニ委スルカ如キハ正ニ前記責務ノ懈怠タルヘシ是レ我軍カ多大ノ犠牲ヲ忍ヒ支那官憲ノ機能ヲ失ヘル地方ニ於テ人命財産ノ安全ヲ保持センカ為全力ヲ尽シ來リタル所以ニシテ畢竟我軍ハ事態自然ノ推移ニヨリテ其ノ欲スルト否トニ拘ラス右ノ如キ責務ヲ負フルニ至レルモノナリ

二、右ノ如ク今次事件ノ發生ニ依リ既存諸機關ノ破壊ヲ見タルニ止ラス滿蒙地方ニ於ケル馬賊其ノ他不逞分子ハ自然其ノ跳梁ヲ増スニ至リタルモ我軍ノ所在スル方面ニ於テハ其ノ威力ニ依リ漸次治安ノ恢復ニ向ヒツツアリタリ然ル三十一月上旬前後ヨリ鐵道付屬地接壤地方殊ニ滿鉄本線西方ニ於ケル此等不逞分子ノ跳梁俄ニ顯著トナリ來

レタルカ十二月上旬ノ調査ニ依レハ三万ヲ超過シ且最近ニ於テハ数百乃至数千ノ員數ト機関銃、迫撃砲等ノ裝備ヲ有シ今ヤ正規軍トノ區別殆ト困難ナル状態ニアリ偶々以テ其ノ背後ニ之ヲ補給シ之ヲ指導スル錦州軍憲ノ存スルコト疑ナキヲ知ルヘシ又在奉天日本總領事館ノ調査ニ依レハ鐵道付屬地接壤地方馬賊兵匪出没數ハ十一月一日以降十日間二七八件、十一日以降十日間三四一件、二十一日以降十日間四三八件、十二月一日以降十日間四七二件、合計一五二九件ノ多キニ上レリ

綏上馬賊等不逞分子ノ跳梁ニ對シ我軍ニ於テ必要ノ討伐ニ配置シ居ルコト確実ナリ而シテ右事態カ滿鉄沿線其ノ他數地ニ分散駐屯セル我在滿部隊ニ対スル不斷ノ脅威タルハ何人モ首肯シ得ヘク殊ニ北寧線ヲ利用スルニ於テハ打虎山奉天間及溝帮子河北間ハ僅々三、四時間内ニ到着シ得ヘキ近距離ニアルノ事實ハ該脅威ノ甚タ大ナルヲ示スモノナリ

一方前記馬賊等ハ近時錦州軍多數將卒ノ改編セラレタルモノヲ含ミ其ノ活動ノ規模急速ニ増大シ居リ現ニ溝帮子線西方ニ於ケル馬賊ハ十一月上旬約一万三千ト算定セラ

三、然ルニ偶々十一月二十四日顧外交部長ヨリ在支主要列國公使ニ對シ支那側ハ日支両軍ノ衝突ヲ避ケル為支那軍ノ山海關以西撤退ヲ實行スルノ用意アル旨ヲ告ケタリ仍テ帝国政府ハ同月二十六日正式ニ右趣旨ノ提議ニ接スル

ヤ主義上之ヲ受諾スルト共ニ在支帝国公使及在北平帝国代表者ニ対シ夫々顧外交部長及張學良氏トノ間ニ本件ニ關シ詰合ヲ行ハムコトヲ訓令セリ同公使ハ十一月三十日乃至十二月三日數次ニ亘リ顧外交部長ト詰合ヲ行ヒタルカ同部長ハ中途ヨリ前記申出ヲ翻シテ右詰合ニ応セサルノ態度ヲ示シ又在北平帝国代表者ハ十二月四日以来張學良氏ト直接又ハ其ノ側近者ヲ介シ詰合ヲ重ネタルカ同月七日ニ至リ張學良氏ヨリ其ノ自發的措置トシテ錦州方面支那軍ノ撤退ヲ行フヘキ旨ヲ開示シ來リ且爾來幾度トナク右約束ノ急速実行方ヲ確言セルモ何等撤兵ノ事實ナク却テ同方面ノ兵備ヲ嚴ニシ居ル實情ナリ

四、錦州地方撤兵問題ニ關スル交渉開始セラレタル以来既ニ約一個月ニ及ヘルモ支那側ノ不誠意ナル態度ニ依リ何等ノ効果ヲ挙ケ得ヘキ前途ノ見据付カサル間ニ前記ノ如ク賊團ノ活躍益猖獗ヲ極メ來リ遂ニハ南満州ニ於ケル全般的治安ノ根底的破綻ヲ招来スルノ虞アル事態ヲ現出セルニ依リ最近我軍ハ一斉ニ出動シテ從来ヨリ比較的大規模ノ賊團討伐ニ着手スルノ已ムヲ得サルニ至レル處我軍ニ於テ賊團討伐ノ徹底ヲ期セムカ為ニハ其ノ根拠地タル

制シ其ノ間政府ニ於テ凡ロル手段ヲ尽シ右討伐實行ノ際惹起スルロトアルヘキ日支両軍ノ衝突ヲ予防スルニ努メタル誠心誠意ト隱忍自重ニハ全ク前記諸條約及決議ニ基ク義務ニ忠実ナラムトスル精神ニ出テタルモノナルコト必スヤ世界輿論ノ認識ヲ得キト信ス

STATEMENT OF THE JAPANESE GOVERNMENT CONCERNING THE MANCHURIAN AFFAIRS, DEC.

27, 1931.

1. The maintenance of peace and order in Manchuria is a matter to which the Government of Japan have always attached the utmost importance. They have on various occasions taken every lawful step in order to secure it, and to prevent Manchuria from becoming the battle-ground of militarist factions. Only if peace and order prevail, can the country be safe either for the Chinese or for the foreigner: in the absence of peace and order it is futile to speak of the Open Door or of equal opportunity for the economic

遼西方面ニ進出セサルヲ得サルコト前述ノ事情ニ徵シ明カナリ固ヨリ我軍ハ九月三十日及十二月十日理事会決議ノ趣旨ニ反シ好ソテ支那正規兵ニ対シ攻撃ヲ加フルカ如キ主動的措置ニ出テ居ルモノニアラサルコト勿論ナルモ他面匪賊等ノ討伐ニ至リテハ滿蒙現下ノ特殊状況ニ顧ミ日本軍ニ於テ引続キ之ヲ行ハサルヲ得サル所ニシテ右ハ十二月十日理事会決議採択ノ際我代表ニ於テ明確ニ保留セル所ナリ然ルニ此ノ際支那軍憲ニシテ表面非攻撃的態度ヲ裝ハントスルモ前記ノ如ク裏面ニ於テ我軍及我居留民ヲ目標トスル匪賊操縱等ノ挑発的行動ニ出テ且右匪賊中ニ錦州軍ノ將卒多數混入シテ正規軍トノ區別困難ナル以上我軍ニ於テ自衛上必要ト認ムル適當ノ措置ニ出ツル場合其ノ結果生スルコトアルヘキ一切ノ責任ハ前記諸般ノ經緯ニ鑑ミ凡テ支那側ニ於テ負担スヘキモノナリ

五、帝国政府ハ連盟規約、不戦条約其ノ他各種条約及今次事件ニ關スル理事会兩度ノ決議ヲ忠実ニ遵守セムコトヲ期スルモノニシテ錦州軍憲ノ組織的治安攪乱ニ對スル日本國民ノ憤激甚シキモノアリタルニ拘ラス一個月ノ永キニ亘リ帝国軍ニ於テ該方面ニ對スル匪賊討伐ノ自由ヲ抑

activities of all nations. But the events of September last have, in spite of her wishes, created a new responsibility and a wider sphere of action for Japan. Attacked by Chinese violence, her acts of necessary self-protection resulted, to her considerable embarrassment, in her having to assume the duty of maintaining public order and private rights throughout a wide area. The local authorities might have been expected to co-operate in upholding law and order. But, in fact, they almost unanimously fled or resigned. It was Japan's clear duty to render her steps of self-defense as little disturbing as possible to the peaceable inhabitants of the region. It would have been a breach of that duty to have left the population a prey to anarchy—deprived of all the apparatus of civilized life. Therefore, the Japanese military have, at considerable sacrifice, expended much time and energy in securing the safety of persons and property in the districts where the native authorities had become in-

effective. This is a responsibility which was thrust upon them by events, and one which they had as little desire to assume as to evade.

2. But further than that, not only did the existing

machinery of justice and civilized existence break down, but the criminal activities of the bandits who infest the country were naturally stimulated. The prestige and efficiency of the Japanese troops were for some time sufficient to keep them in check, and to maintain order wherever they were stationed. Since

the beginning of November, however, a sudden increase in the activities of the bandits has been noted in the vicinity of the South Manchuria Railway Zone, and especially to the west of the Main Line,—and it has been established to demonstration, by the examination of arrested individuals, by documents which have been seized, and from other sources of information, that their depredations are being carried on through the systematic intrigues of the Chinchow military

authorities.

Reports have, indeed, been made by certain of the foreign military observers suggesting that they found no evidence of any preparations being made by the Chinese for an attack. But as a matter of fact the military authorities at Chinchow are maintaining large forces at various points, west of Takushan, on the Peiping-Mukden Railway and in the adjacent territory. Reconnaissances conducted by the Japanese army have

not only definitely confirmed the assurance that these forces are engaged in making preparations for war, but have also revealed the fact that their outposts are stationed along a line connecting Tienchuantai, Tai-an, Peichipao, and other points on the right bank of the River Liao, well advanced from Chinchow. It will readily be admitted that such a situation in itself constitutes a constant menace to the Japanese contingents dispersed along the South Manchuria Railway and elsewhere, but the danger is even greater

than it seems at first sight, if the further fact is taken into consideration that the Peiping-Mukden Railway places the cities of Mukden, Yinkao and Hopei within a short journey of three or four hours from Takushan and Kuopantsu (which are bases of the Chinese forces).

The bandit forces, (which include a large number of officers and men discharged from the Chinese army), are daily gaining strength. For instance, the number of bandits on the western flank of the main line of the South Manchuria Railway was estimated early in November at 1,300, whereas investigations conducted in early December revealed the fact that they numbered over 30,000. Moreover, they are banded together in large groups comprising several hundreds, or even thousands, each equipped with machine guns and trench mortars; so that they can no longer be distinguished from regular troops. This points unmistakably to the existence of a state of things in which the so-called bandits are directed and provided with arms by the

Chinchow military authorities. According to the statistics compiled in the Japanese Consulate-General at Mukden, the cases of bandit-raid in the vicinity of the Railway Zone numbered 278 during the first ten days of November, 341 during the second ten days, 438 during the final ten days of the month, and 472 during the first ten days of December, thus reaching the astounding total of 1,529 in forty days. It is the usual strategy of these bandit-troops, when attacked by our men, to fly westward, or to take refuge on the right bank of the River Liao; where our army, anxious to avoid any collision with the Chinese Regulars, has made it a point to refrain from further pursuit.

3. On the 24th November, the Foreign Minister of China made an intimation to the Ministers at Nanking of the principal Powers to the effect that the Chinese Government, in order to avoid any collision between Chinese and Japanese forces, were pre-

pared to withdraw their troops to points within the Great Wall. Upon a proposal to that effect being officially made on the 26th, this Government signified their readiness to accept it in principle,—at the same time instructing the Japanese Minister at Shanghai, and the Legation at Peiping, to open conversations on the matter with the Chinese Foreign Minister and with Marshal Chang Hsueh-liang respectively.

The Japanese Minister in China had several conferences accordingly with the Chinese Foreign Minister between 30th November and 3rd December. In the midst of these conversations, the latter withdrew the overture, and declined further negotiation. Marshal Chang Hsueh-liang, with whom our representative at Peiping carried on negotiations from the 4th December onwards, either directly or through the Marshal's subordinates, expressed on the 7th his willingness to call in his Chinchow forces as a spontaneous move of withdrawal; and he has since given repeated assurances

to advance to the points west of the River Liao where the bandits have their base. Certainly, the Japanese forces, in deference to the Resolutions of the League Council adopted on 30th September and 10th December, are not in the field against the Regular Chinese forces; but in the present abnormal conditions prevailing in Manchuria, the necessities of the case compel them to continue their operations against lawless elements. This is a point on which the Representative of Japan at the recent session of the Council of the League held on the 10th December made a definite declaration. So long as the Chinchow military authorities, while simulating an unaggressive attitude, continue to instigate and manipulate the movements of bandit organizations against the Japanese army as well as Japanese and other peaceable inhabitants, and so long as the officers and men of the Chinchow army mingle in large numbers with these bandit groups and so render it impossible to distinguish the latter from

as to the speedy execution of his promise. In point of fact, however, there is no sign of any such withdrawal. On the contrary, the defenses of Chinchow have since been strengthened.

4. Accordingly, at the present moment, now almost a month subsequent to the initiation of these negotiations for the withdrawal of the Chinchow troops, there appears no prospect of obtaining any tangible result, owing entirely to the want of good faith on the Chinese side. At the same time, the increased activity, above described, on the part of marauding bands, threatens to bring about a complete destruction of all peace and security throughout the whole extent of South Manchuria. In these circumstances, the Japanese forces have now begun a general movement with a view to a campaign against the bandits on a more extensive scale than hitherto. It is obvious, from what has been said above, that the Japanese army, if it is to achieve anything like adequate success, will have

Regular troops, so long must the responsibility for the consequences of any action which may be entailed upon the Japanese Army in self-defence rest entirely with the Chinese.

5. During the course of the past month, in spite of the indignation aroused throughout the country by the behaviours of the Chinchow military authorities, and in accordance with the constant desire of the Japanese Government to abide scrupulously by the resolutions of the League Council, the operations of the Army against the bandits have been restrained within comparatively narrow limits, and the Government have done everything in their power to devise means for forestalling a collision between the forces of the two countries in the course of an eventual anti-bandit campaign. The Japanese Government are confident that their prolonged forbearance and their desire strictly to adhere to the stipulations of international engagements will not fail to command recognition by the

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

昭和6年12月27日 在上海重光公使より

犬養外務大臣宛(電報)

221 昭和6年12月27日 在上海重光公使より
犬養外務大臣宛(電報)
国民政府の排日行動に關し連盟に反駁の必要について

第一四一七号(暗)

上海 12月27日後発
本省 12月27日後着

錦州ニ対スル軍事行動ニ關シ国民政府ハ二十六日國際連盟ニ對シ電報ヲ以テ巴里連盟理事会ノ決議ニ從ヒテ軍事行動ヲ停止セシムル為日本ニ圧迫ヲ加フル事ヲ要求セリトノ事ナリ錦州ニ於ケル支那軍隊及政府カ巴里決議ニ反シテ挑戦的策源タルノ状態ハ勿論支那ハ長江筋ヲ中心トシテ殆ト全国ニ亘リテ排日運動經濟戦争ノ手段ヲ取り居リ其遣口ハ深刻トナルトモ国民政府ハ何等緩和スルノ手段ヲ取ラス右ハ事態ヲ悪化セシムルノ危険甚多ク巴里決議ニ全然反スルモノトシテ我方ヨリ反駁スル事然ルヘキカ

連盟事務局長、在米大使、南京、奉天、北平へ転電セリ

第七三七号
(三一七文書)
貴電第六三号ニ関シ

本省 12月27日後着
廣東 12月27日後着

222 昭和6年12月(27)日 在広東須磨總領事代理より
唐紹儀の満州問題處理方針について

公使、北平、奉天、南京ニ転電シ、香港ニ暗送セリ
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

昭和6年12月27日

犬養外務大臣宛(電報)

御訓令ノ趣胡漢民ニ伝達ノ為二十五日赴香ノ途次唐紹儀(松井中將ノ求ニ依リ香港ニテ意見ノ為離広)ト同車シタル處唐ハ余人ヲ避ケ約三時間ニ亘リ本官ト懇談シタルカ其満州事件ニ關シ御参考迄トナルヘキ点左ノ通

一、自分ハ三月在滬中偶然張學良(顧維鈞同席)ト会談シタル際学良ハ沈痛ナル面持ニテ実ハ日本ハ満州ニ対シ常ニ匕首ヲ擬スルノ策ニ出テ困り果テタリト零シタルニ對シ自分ハ果シテ然ラハ其ノ匕首ニ堪ヘ得ル組織ヲ満州ニ實現スル事コソ大切ナリト應酬シ置キタルカ其際既ニ此ノ分ニテハ早晚事ノアルヘキヲ恐レタルカ不幸此ノ懸念的中シ取返シノ付カサル不祥事ヲ見タルカ此ノ機会ニ於テ兎角排日ヲ得意トシ事毎ニ理不尽ナル態度ヲ執ル学良ノ如キ軍閥者流ヲ永劫ニ葬リ去ル事ヲ得ハ禍ヲ転シテ福

ト為シ得ヘシト存ス

二、自分ハ日本ノ満州ニ対スル犠牲殊ニ二大戦役ヲ賭シ且莫大ナル投資ヲ為シ満州ヲ内外人安住ノ地タラシムルト同時ニ他ニ例無キ物資ノ開発ヲ着々実現セシメタル点ハ中國官民モ公平ニ認ムル要アリト信シ常ニ内外友人ニ対シ日本ノ此ノ特別地位ハ飽迄之ヲ認ムル事独リ日本ノ為而已ナラス中国延テハ東亜全局ノ寧福ヲ來ス所以ナリト説シ來リタルカ実ハ此ノ程度ノ信念ヨリ広東側諸同士ヲ説キ陳友仁等ヨリ貴官ニ御伝ヘシタル所謂満州文治案ヲ案出シタル訳ニテ自分ハ飽迄同案ニ依リテノミ満州問題ハ解決セラルヘシト確信スルカ故ニ先般來諸方面ヨリ新中央政府主席ニ就任方勧説アリタルモ故鄉中山県ノ模範行政事務カ何物ヨリモ自分ノ処理ヲ要求ストノ理由ニテ固辞シ來レルモ廣東側諸同士ノ勧誘モアリ事甚タ重要ナレハ満州文治案実現ノ曉トモナラハ老後ト雖一肌脱キ度キ所存ナリ(所謂満州文治案ノ高級委員ニハ唐力擬セラレ居ル経過ヲ本官ニ於テ承知ナルヲ前提トシテ語レル次第ナリ)

三、自分ハ常ニ諸種ノ国際會議ノ効果ヲ疑ヒ來リタルカ特

公使、北平、奉天、南京ニ転電シ、香港ニ暗送セリ
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

223 昭和6年12月27日 在広東須磨總領事代理より
犬養外務大臣宛(電報)

犬養首相の伝言に対する胡漢民の反応について

広東 12月27日前発
本省 12月27日後着

第七三九号（暗、極秘）

二十六日胡漢民ヲ往訪シ貴電第六四号ノ趣旨ヲ伝達シタル
處胡ハ終始傾聴シ更ニ当方ノ控迄ニ持參セル右要領ヲ認メ
タル紙片ヲ拝見致シタシト述ヘタルニ付之ヲ示シタル處再
三熟読シタル上右日本文ヲ自ラ中國文ニ翻訳覩味シ左ノ通
述ヘタリ

一、犬養總理ノ御趣旨ハ充分諒解シ感佩ノ念ニ堪ヘス自分
モ全然同意見ニテ殊ニ本件交渉ヲ誠意誘導スルニ當リ先
ツ以テ両国友好關係ノ素地ヲ作ルコト肝要ナルハ最モ痛
感シ居ル所ナルカ故ニ自分ニ於テモ爾今中國ノ対日空氣
緩和ニ專念シタキ所存ナリ

二、事重要ニシテ秘密折衝ハ不可能ナルノミナラス却テ悪
影響ヲモ來スヘキハ自分モ同感ニ堪ヘサルヲ以テ陳中孚
山田等ニ對シテハ此ノ趣旨ヲ更ニ申含メ渡日スルモセサ
ルモ其ノ意ニ任セルコトトシ只渡日スル場合ト雖單ニ意
志疏通ノ為尽力スヘク公式ニモ非公式ニモ交渉ニ入ルカ
如キコトナキ様早速孫科ヲ通シ申送ルヘシ蔣介石ハ其ノ

ニモ痛快ヲ隱シ得サルヤノ風ニ見受ケラレタリ
公使、北平、奉天、南京へ転電シ香港へ暗送セリ

224 昭和6年12月29日 在上海重光公使より
犬養外務大臣宛（電報）

錦州問題に関する張公権との会談について

上海 12月29日後發
本省 12月29日後着

第一四一八号（暗）

二十八日張公権ヨリ會見ヲ求メ錦州問題心配ニ堪ヘス若シ
衝突セハ其波及スル所予想ヲ許ササルニ付船津氏意見ノ如
ク（張ハ船津氏ト連絡シ居タリ同氏ハ二十八日発上京）速
ニ撤兵スル様北平李石曾電報シ置キタルカ本日ノ返電ニ
依レハ東北軍ハ撤兵ニ異存ナキモ例ヘハ時日ヲ延シテ面目
ヲ保ツ様ニ願ヒ度シトノ事ニテ又軍隊撤退後ト雖省政府ノ
撤退ハ困難ナル模様ナリ就テハ何トカ方法ヲ講スル様致シ
度シトノ事ナリシヲ以テ本使ハ之ニ對シ明日当地ニテ発表
セラルヘキ日本政府ノ声明書ノ趣旨ヲ以テ詳細ニ説明シタ
ル後此ノ際ハ錦州撤退ノ如キハ些事ニ過キス本使ノ最モ憂
フル處ハ事件カ滿州以外ニ波及スルノ虞アル事之ナリ支那

常套手段タル陰謀的欺瞞政策ノ為今次事件ヲ釀シタル訳
合ナルニモ鑑ミ自分ニ於テモ極力秘密交渉等ハ避ケタキ
心組ナリシカ故ニ只場合ニ依リテハ陳山田等ヲシテ總理
ニ敬意ヲ表セシム程度ニ止メシムヘシ

三、總理ノ御趣旨ヲ体シ堅固ナル統一政府ヲ一日モ早ク自
分等ノ手ニテ実現スル様此ノ上トモ一段ノ努力ヲ致シ度
キ所存ナルカ一方中國々民対日憤懣今ヤ絶頂ニ達シ居ル
際ナルニ鑑ミ日本政府ニ於カレテモ此ノ上事態ヲ重大化
セシメラルルコトナク殊ニ伝ヘラルルカ如キ錦州攻撃等
ノ不祥事ヲ見サル様總理ノ内政上重要ナル觀測ヲ以テ兔
角尖銳化ノ傾キアル軍部ヲ断然大局上ノ見地ヨリ牽制相
成東亞和平ノ達成ニ努メラルルコト切望ニ堪ヘス

四、要スルニ總理ノ御趣旨一一満足ニ堪ヘサルカ特ニ學良
ト軍閥ハ一切之ヲ排除シ近世の政策ノ實現ヲ期シツツア
ル我々廣東同志ノ熱意ヲ深ク認識セラレ今次事件ノ解決
ニ關シテハ専ラ自分等ヲ目標トセラレ居ル存意ヲ窺ヒ得
テ欣快ニ堪ヘス自分等モ之ニテ益々鞭撻セラルル次第ナ
リ云々

結局談時余ニ及ヒタルカ胡ハ終始欣然トシテ応待シ如何

225 昭和6年12月29日 在南京上村領事より
犬養外務大臣宛（電報）

国民政府の对外諸政策に関する伍前駐米公使
の談話について

ニ約一ヶ月ヲ要スヘク依テ差当リ国難會議ヲ開クコト
支、北平、奉天へ転電セリ

第八八六号

南京 12月29日後着
本省

二十九日ノ中央日報ハ伍朝枢ノ談トシテ大要左ノ通り報道
セリ

(一)曩ニ政府ハ明年元日ヨリ領事裁判権ヲ取消ス旨宣布シタ
ルカ之ニ伴フ法廷ノ改革監獄ノ建築等予定ノ計画未タ実
現セサルハ甚々遺憾ナリ政府ハ二三日中ニ本件ニ関シ対
外声明ヲ発スル筈ナルカ今後我国政治カ漸次軌道ニ入ラ
ンカ領事裁判権ノ撤廃ハ決シテ難事ニ非ス

(二)錦州問題ニ關シテハ外交委員会ニ於テ連日慎重対策ヲ討
議シ居レルカ二十八日ノ全体会議ニ於テモ詳細検討シ大
綱ヲ決定スヘシ

(三)連盟視察団ハ一ヶ月位ノ間ニ來支スル予定ナルカ我国ハ
決シテ該視察団ニノミ頼リ居ル訳ニ非ス政府トシテハ自
ラ政策ヲ有ス

(四)四匪ノ侵略ニ対シ挙国憤慨シ救国会議ヲ開キ民衆団体ノ
代表ト政府ト共同ノ責ヲ負フコトトナリタルカラ右會議ノ
召集ニハ地方ニ於ケル代表選挙手続煩雜ナルヲ以テ準備

告セシ所ナルカ菅野カ汪派同士トノ問答中ニモ明カニ之ヲ
訴ヘ錦州攻撃緩和ヲ哀願セシ由ナルカ一方外人側消息ニ依
レハ支那側ハ錦州攻撃ハ支那政府ニ対スル致命傷ナリト称
シ今後学生及民衆運動ノ暴動等ノ外動乱状態ヲ現出スルコ
トアリトセハ夫ハ日本ノ錦州攻撃ニ原因シ其責日本ニ在リ
ト宣伝シアリト尚新政府ハ米国系人物ヲ用ヒ米國ト款ヲ通
シ財政及外交ノ危機ヲ救濟セントスル空氣ハ濃厚ナリト
支第三〇五号(秘)

南京報(二十九日発)
錦州陥落カ支那ノ現状破壊ニ相当ノ効果アルコトハ屢々報
227 昭和6年12月30日 在上海田代公使館付武官より
二宮參謀次長宛(電報)
日本軍の錦州占領と中国政情の推移に関する
観察について
12月30日後発
12月31日前着
転電セリ

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州へ
奉天ヨリ吉林、哈爾賓へ転電アリタシ
国民政府ハ二十九日付ヲ以テ大要左ノ通布告セリ
察スルニ外国人訴訟管轄実施ノ件ニ關シテハ五月四日管轄
在華外国人実施条例十九条ヲ公布シ民国二十一年一月一日
ヨリ施行スルコトニ定メ居リタル処各地ノ天災変故ニ依リ
各般ノ準備未タ其緒ニ就カサルヲ以テ本件条例ノ実施ハ一
時延期ス尙引続キ主管機關ヲシテ速ニ準備ヲ完成セシメ期
ヲ定メテ実施シ以テ法権ヲ重ンスルコトトス

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州へ
奉天ヨリ吉林、哈爾賓へ転電アリタシ
国民政府ハ二十九日付ヲ以テ大要左ノ通布告セリ
察スルニ外国人訴訟管轄実施ノ件ニ關シテハ五月四日管轄
在華外国人実施条例十九条ヲ公布シ民国二十一年一月一日
ヨリ施行スルコトニ定メ居リタル処各地ノ天災変故ニ依リ
各般ノ準備未タ其緒ニ就カサルヲ以テ本件条例ノ実施ハ一
時延期ス専引続キ主管機關ヲシテ速ニ準備ヲ完成セシメ期
ヲ定メテ実施シ以テ法権ヲ重ンスルコトトス

支、北平、奉天、天津、濟南スミ
南京 12月30日後着
本省

支、北平、奉天、天津、濟南スミ
南京 12月30日後着
本省

支、北平、奉天、天津、濟南スミ
南京 12月30日後着
本省